

研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

第1章 研究抄録関係

1. 病院における研究（課題別研究費）

<研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

<研究者氏名>

所属部 放射線診断・IVR部

研究者氏名 稲葉吉隆

共同研究者 山浦秀和、佐藤洋造、小野田 結、加藤弥菜、
村田慎一、長谷川貴章、今井勇伍、木村佳奈子、
出嶋育朗

【目的】

食道癌術後縫合不全や食道穿孔に伴う縦隔への消化管外漏出による縦隔膿瘍は致死的となり得るため可及的対応が要求される。IVR的な対応としては、経皮的ドレナージがまず検討されるが、解剖学的に縦隔膿瘍は経皮的アプローチが困難な場合も少なからず経験される。食道縦隔瘻を伴う縦隔膿瘍では、その瘻孔を介してのドレナージも可能であり、経皮的穿刺が危ぶまれる場合でも安全にアプローチし得るものとなる。

今回は、食道縦隔瘻を伴う縦隔膿瘍の症例に対する瘻孔を介した経鼻経食道ドレナージの実行性と有効性を後方視的に検証した。

【方法】

対象症例

当院において1999年から2017年に、食道縦隔瘻を伴う縦隔膿瘍に対して瘻孔を介して経鼻経食道ドレナージを実施した16例を評価した。原疾患は全例が胸部食道癌であり、縦隔膿瘍形成の誘因は、術後吻合不全が11例、化学療法中の腫瘍穿孔が3例、内視鏡的切除後狭窄へのバルーン拡張による穿孔が1例、縦隔リンパ節転移の壊死に伴う食道穿通が1例であった。全例、食道縦隔瘻を伴っており、その瘻孔を介して、食道側からのドレナージが試みられた。

ドレナージ手技

CTにより縦隔膿瘍が認められ、縫合不全や穿孔・穿通が示唆される場合に食道造影を行い、縦隔への漏出と瘻孔の存在を確認する。経鼻的に6.5Fシーキングカテーテルを挿入し、瘻孔を同定し、膿瘍腔へと誘導する。0.035インチ・ガイドワイヤーを膿瘍腔に挿入し、ガイドワイヤーに沿わせてドレナージを留置する。状況により、食道（再建胃管）の減圧のためのドレナージも留置する。その後、適宜ドレナージ造影を行い、膿瘍腔の変化を確認しつつ、ドレナージの交換や位置調整、ドレナージ径の変更を行う。そして、膿瘍腔の縮小・消失を確認してドレナージを抜去する。膿瘍腔の完全消失が得られていない場合は、フィブリン糊を充填してから抜去することを考慮した。

評価項目

16例での、瘻孔を介して膿瘍腔にドレナージを留置できたことの技術的成功率と合併症、臨床的成功率を検討した。

【結果】

16例全例で目的とするドレナージ留置が達成でき、技術的成功率は100%(16/16)であった。使用ドレナージ径は、6 - 15Fr(中央値10Fr)であった。同時に食道または胃の減圧チューブを留置したものは7例であった。手技ならびに縦隔膿瘍治療に関連した合併症は認められなかった。但し、縦隔リンパ節転移の壊死に伴う食道穿通の1例が、肺炎増悪による呼吸不全で30日以内死亡となっていた。

ドレナージ後の経過は、この瘻孔を介した経鼻経食道ドレナージにより縦隔膿瘍が寛解し、ドレナージ抜去ができたものが13例であり、臨床的成功率は81%(13/16)であった。なお、抜去の際に、フィブリン糊を充填したものが5例であった。いずれも縦隔膿瘍の再燃は認めていない。残りの3例の内、2例でドレナージ不良と判断され、1例で外科的ドレナージが実施され、別の1例では経皮的ドレナージが追加された。この2例はいずれも縦隔膿瘍の寛解が得られている。1例では肺炎死亡のドレナージ抜去に至らなかった。臨床的成功13例での、経鼻経食道縦隔ドレナージの留置期間は5-82日(中央値15日)であった。この内、フィブリン糊使用5例での、ドレナージ留置期間は7-29日(中央値7日)であった。

【考察】

食道縦隔瘻を伴う縦隔膿瘍に対する瘻孔を介した経鼻経食道ドレナージは、技術的成功率は100%で、手技に伴う合併症は認めなかった。既に生じた経路を利用したドレナージ留置法であり、臨床的成功率も80%を超えており、安全で有効な方法と考えられる。

但し、経鼻経路のため、ドレナージ径には制約があり、また、瘻孔からの挿入のため、挿入経路には制約が生じ、膿瘍腔全体を効率的にドレナージすることが困難となる場合も予測される。実際、2例ではドレナージ不良と判断され、別法によるドレナージに切り替えられていた。ドレナージ効率が十分でない場合は、ドレナージ留置期間が長くなることも予測されるが、今回は別法との比較ではないためその評価はできない。ドレナージ抜去時にフィブリン糊を充填した症例ではドレナージ留置期間が短く、感染が鎮静化し、膿瘍腔が縮小している場合は、フィブリン糊を充填することで、ドレナージ抜去を早期にできる可能性が示唆されたが、その判断は主観的となるため、総合的判断が必要となる。

以上より、まずは、本法が可能なら、この安全な方法でアプローチして、効果不良の場合には別法を検討するという戦略でいいと思われる。

<研究課題2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based on the treatment sensitivity and the relapse risk

<研究者氏名>

所属部 乳腺科部

研究者氏名 岩田広治

共同研究者 澤木正孝、服部正也、吉村章代、石黒淳子

【1年間の総括】

この1年間で乳癌の術後薬物療法に関して、標準治療を変えるような重要な報告がいくつかされ、乳がん術後患者の予後はさらに改善の方向であると共に、無用な抗がん剤を省く、de-escalationの方向も進展をみせている。

1：術後内分泌療法

報告：閉経前乳癌に対してはTAMの5年投与、リスクの高い方や年齢の若い方（40歳以下）にはLH-RHa+TAMの併用が標準治療として定着し、カンファレンスでも議論になることは少ない。5年から10年の長期投与についても、リンパ節転移陽性など再発リスクの高い方へは積極的に長期投与を推奨している状況である。閉経後乳癌に対してはAI剤の5年から10年投与が標準治療であり、2018年にNEJMにER陽性乳癌の長期フォローによる晩期再発リスクが予想以上に高いことが明確になった。術後20年の遠隔再発リスクはT1N0で13%、T2N4-9では41%にまで上昇する。残念ながら、この遠隔再発をAI剤の長期投与では制御できないこと、TAMの長期投与で減少効果はあるが、有害事象の増加（子宮内膜癌など）も気になるところである。長期投与による有害事象の増加とのリスクベネフィットバランスを考慮した選択が必要である。

2：術後化学療法に関する研究

報告：“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんにおける化学療法の適応を判断するOncotypeDXの使用が徐々に増加してきた。2018年ASCOでOncotypeDXでRSが11～25までの中間リスクの方を対象に、内分泌療法に化学療法を加えることの妥当性を検証するランダム化比較試験の結果が報告された。結果は化学療法を省く非劣性が統計学的にも示された。これをもってER陽性リンパ節転移陰性の方の8割では化学療法を省くことが可能になったと報道各社が大々的に報道をした。現在OncotypeDXに保険適応はなく、自費では40万程度費用がかかる。代替えとなる検証されたリスク評価ツールがなく、早期の保険承認が望まれる。High risk患者に対して術前化学療法を施行後non pCRであった方へのゼロダ投与が、既に標準治療と位置付けられるにいたっている。G-CSF併用によるdose-dense therapyが日本の中でもハイリスクの方への標準治療となりつつある。当院で導入するか議論をしたが、有害事象とのバランスが悪く、現時点では標準治療としての導入は見合わせている。

3：術後分子標的治療に関する研究

報告：術後Trastuzumab 1年投与が標準治療であることに変わりはない。併用する化学療法のレジメンは、再発リスクのあまり高くない方には、weekly Paclitaxel+Trastuzumabレジメンが積極的に導入された。アドリアマイシンを省くことによる長期心毒性の回避が重要な観点である。2017年に大規模な世界共同試験の結果が報告され、Taxan + Trastuzumabに、pertuzumabを併用することの有用性が証明された。しかし、統計学的な有意差はあるものの、その上乘せ効果は臨床的に意味のあるものか議論のあるところであり、2018年秋に承認の見込みであるが、再発リスクの高い方（特にER陰性の方）に併用して使うことが一般的になると予想される。

4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験（NEOS study：PIは岩田）の長期予後の結果を2017年SABCSで発表した。さらにOncotypeDXによる効果予測の可能性を検証したTransNEOS試験の結果も併せてSABCSで報告を行い、現在論文化しているところである。術前ホルモン療法を行うことで、術後化学療法の必要性をかなり予測できることが示されてきた。術前化学療法を施行する患者の選択も、概ね確立された感があり、手術前にpCRの判断が正確にできるかどうか今後の課題である。JCOGではHER2陽性乳癌に対して、術前化学療法（抗HER2療法併用）でcCR例に対する非切除+放射線療法の検証的試験を計画している。

<研究課題3>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

<研究者氏名>

所属部 臨床検査部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 所 喜朗、柴田典子、亀井慶子、尾関順子、長谷川かおり、吉野 聡、藤田奈史、村上裕美、野中綾子

【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学検査部門では、血液ガス測定装置が更新されたことに伴い、新規測定項目に関しては精度管理物質を用いて測定真度の検定を行った。以前より測定されていた項目に関しては、同時再現性の検証を行い、現有機器との相関も検討した。いずれも良好な結果が得られ、問題なく導入が可能となった。Lactate、MetHbなど過去に臨床側から要望のあった項目を測定できるようになった。また、分注機が更新され、処理能力が上がり分注スピードが速くなったため、生化学や免疫血清検査

の結果報告時間が短縮された。機器の更新の結果、より臨床側の要望に沿った検査結果を提供可能となった。

血液検査部門では、末梢血幹細胞移植のための CD34 陽性細胞数測定に関して研究を行った。当院で実施している細胞数と CD34 陽性細胞数を別の機械で測定するデュアルプラットフォーム法（従来法）と、キットを用いた細胞数と CD34 陽性細胞数を同時に測定するシングルプラットフォーム法とを比較検討した。その結果、シングルプラットフォーム法は従来法に比べて当日の幹細胞採取（アフレーシス）前の報告までに時間がかかること、キットの期限が短く試薬コストが高いことが明らかとなり、臨床医と相談の上、CD34 陽性細胞数測定を別の機械で測定する従来法を継続することとした。また従来法で外部精度管理（サーベイ）に参加し、良好な結果を得ている。生理検査部門では、心電図検査の内部精度管理について検討した。

【対象と方法】

日本光電製 ECG-2550、ECG-1450 を使用し、毎日始業時に記録している模擬波形発生装置による精度管理心電図の PR 時間、QRS 幅、QT 時間、QRS 軸、RV5、SV1 の計測値 2 ヶ月分のデータを対象とした。分散分析法により機器間、および技師間の差を解析した。【結果と考察】 機器間で RV5、SV1 に有意差を認めたと、平均値の誤差は 0.4 ～ 0.6% であった。心電計の JIS (IEC) 規格では記録精度として 1mV の入力に対して 5% 以内（製品企画は 2% 以内）の誤差で記録することが求められている。今回の誤差が非常にわずかであること、また機器の差は平均値・標準偏差などで検討するものではなく、機器ごとに入力された信号に対する正確性で比較するものであることから機器の精度に差はないと判断した。技師間ではすべての項目で有意な差はなかった。使用している機器の精度が担保されていること、どの技師が行っても精度に差がないことが確認できた。

病理検査部門では、H E 染色後から病理医に提出するまでの工程の検討・改善を行った。これは、平成 29 年度に他施設との病理検査手順相互間チェックの試みによる結果を受け行った検討で、従来の手順ではその日に出来上がる染色済み標本を、顕微鏡で 1 枚 1 枚確認してきた。これは出来上がった標本の技術的担保を主な目的として、伝統的に行ってきたが、1 日あたり 300 枚前後の標本すべてを確認することから、多大な時間とマンパワーを要してきた。しかし他施設では、標本作製に用いる機器の精度向上もあり、目視で標本整理をしながら確認することで技術的担保ができることが分かった。そこで顕微鏡で確認する作業を省き、診断の過程で目視により見つけ出せなかった技術的過誤を病理医の協力のもと見つけるよう手順の変更を行った。その結果マンパワーをこれまでは 1.5 人必要としていたが 0.5 人の仕事量に削減することができ、技術的過誤も顕微鏡で確認を行ってきた時と同等の状態を維持している。細胞診検査部門では、検査件数数の多い胸水について乳癌と悪性中皮腫を対象に細胞学的検討を行った。胸水には様々な腫瘍が浸潤し、その存在は患者の予後予測因子として重要である。しかし液状検体のため組織学的検査が難しく、細胞診検体において腫瘍細胞の出現様式や細胞異型を指標に組織型の推定も含めた良悪性診断を行う必要がある。今回の検討では、従来報

告されているような典型的な細胞像を示す症例の頻度は高くなく、細胞形態での診断に苦慮する症例が散見された。そのような症例については、セルブロックを用いた免疫染色も含め総合的にアプローチしていく必要があると考えられた。検討内容を日常の細胞診断業務に取り入れていく。

細菌検査部門では耐性菌（MRSA と第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌）の分離状況についての検討を行った。幸い当センターでは、昨今、話題となっている CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）の検出はほぼない。しかし、耐性菌の検出状況を知ることは、院内感染対策に対する関心を高めるための一助となる。

耐性菌の分離状況の検討には JANIS（院内感染対策サーベイランス）の年報を活用し、2014 年から 2016 年までの期間を対象とした。集計対象医療機関全体での 2014 年から 2016 年までの S. aureus の検出数に対する MRSA の割合は 48.8%、47.9%、46.8% となっており、当センターでの割合は 48.5%、42.7%、35.3% となっている。また、同様に E. coli に対する第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌の割合は全体で 8.7%、15.6%、16.6% となっており、当センターでは 20.2%、27.3%、27.6% となっている。この結果より、当センターの S. aureus の検出数に対する MRSA の割合は、全体と比較して同等もしくはやや低い水準となっているが、E. coli に対する第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌の割合は高い水準となっている。一般的に第 3 世代セファロスポリン耐性大腸菌による感染のリスクファクターとして、長期入院とカテーテル留置、抗菌薬の投与歴などがあげられる。当センターでもがん専門病院という特徴から、これらの要因が関与していると考えられる。今後、耐性菌による院内感染等の事例が生じないよう ICT と協力し、院内の感染対策に関する意識を高めるとともに、感染対策の一層の充実を図っていきたい。

遺伝子検査部門では主に分子標的薬の効果予測としての遺伝子検査を行っており、その検査方法や、測定項目は年々変化している。臨床検査部での ISO15189 取得に伴い、遺伝子検査室でもマニュアル等の整備、各種サーベイにも参加するなど外部精度管理が可能となった。また、内部精度管理として毎月の陽性率の推移を確認し、陽性コントロールの確認を検査ごとに確認できるシステムを作った。

平成 29 年度に新たに追加した検査方法として、脂肪肉腫での MDM2 遺伝子の DISH 検査がある。これまで MDM2 遺伝子は、FISH 法を用いて蛍光シグナルを確認する方法で検査をしていたが、当院の HER2 検査で実施する DISH 法で簡便に実施できる試薬を検討し、導入に至った。DISH 法は FISH 法と比較して、全工程を全自動で行えることや、明視野での観察が可能ことから、より医師による確認が行いやすくなったことが利点として挙げられる。遺伝子検査分野は新しい検査項目が増えているため、当検査室でもそれに対応出来るよう今後も新しい検査法の検討・導入を行っていく。

<研究課題 4>

骨軟部悪性腫瘍におけるゲムシタビンとドセタキセル併用療法についての検討

Gemcitabine and Docetaxel therapy for bone and soft tissue sarcoma

<研究者氏名>

所属部 整形外科部

研究代表者 筑紫 聡

共同研究者 吉田雅博、小澤英史、鈴木周一郎

【目的】

軟部肉腫の化学療法において、doxorubicin と Ifosfamide は標準的治療薬として有効性と有害事象は多数の報告があるが、Gemcitabine と Docetaxel 併用療法（以下 GD 療法）に関する報告は少ない。今回、骨軟部悪性腫瘍の GD 療法における有効性と有害事象について検討したので報告する。

【方法】

2005 年～2015 年に当院および関連病院で GD 療法を行った骨軟部悪性腫瘍 27 例につき検討した。内訳は男性 11 例、女性 16 例、平均年齢 50 歳（15-76 歳）で、経過観察期間は 5-123 ヶ月であった。GD 療法は day1、day8 で投与して 3～4 週のサイクルで 1 クールとし、平均 5.3 クール（1～13 クール）施行した。病理組織像、有効性、無増悪生存期間、有害事象（血液毒性、非血液毒性）、転帰について調査した。

【結果】

病理組織型は平滑筋肉腫 8 例、骨肉腫 3 例、粘液型脂肪肉腫、骨外性 Ewing 肉腫、未分化多型肉腫、血管肉腫各 2 例、その他 8 例であった。有効性は CR1 例、PR1 例、SD13 例、PD12 例であり、無増悪生存期間は平均 7.7 ヶ月（3～12 ヶ月）であった。Grade3 以上の有害事象は好中球減少が 14 例（52%）、血小板減少が 5 例（19%）、貧血が 5 例（19%）、皮疹、下肢浮腫、間質性肺炎が各 1 例（11%）であった。転帰は NED3 例、AWD15 例、DOD9 例であった。

【考察】

自験例での骨軟部悪性腫瘍に対する GD 療法の無増悪生存期間は 7.7 ヶ月で諸家の報告である 6.2～12.1 ヶ月と同様の有効性であった。有害事象に関しては好中球減少が 52%と高頻度であったが、最近では G-CSF の予防的投与で好中球減少の頻度は低下している。Grade3 以上の非血液毒性は皮疹、下肢浮腫、間質性肺炎の各 1 例であったが、休薬で対応が可能であった。GD 療法は有害事象の頻度が低く、比較的使用しやすいレジメンと考えられた。

<研究課題 5>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Development of Molecular Testing for Cancer Diagnosis

<研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 佐々木英一、村上善子、羽根田正隆、加藤省一、真砂勝泰、藤田史郎

【目的】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じっているなどの問題点も多い。そこで、これらの点を踏まえ、来年度から導入の予定されている MSI 陽性腫瘍に対するペムプロリズマブ治療を見据えて MSI 検査が院内検査として施行可能であるか検討した。

【方法】

MSI 検査は、家族性腫瘍であるリンチ症候群の遺伝子検査として知られているが、少なからずの腫瘍においても見出すことができる基本的遺伝子異常である。この MSI 検査は、繰り返し配列の異常を検出することにより、ミスマッチ修復異常を検出する表現型同定検査である。ミスマッチ修復遺伝子蛋白の発現異常を有する 10 例を対象に、MMR-proficient 腫瘍 4 例をコントロールとして、腫瘍部分より抽出した DNA を用いて NR-21, BAT-26, BAT-25, NR-24, MONO-27, Penta C, Penta D の繰り返し配列増幅し、Genetic Analyzer により増幅産物の修了を計測した。従来の MSI 検査では腫瘍部と正常部との比較により、表現型を評価していたが、quasi-monomorphic variation range (QMVR) を用いて、腫瘍部のみ解析のみで同定可能かを検討した。

【結果】

10 例中 9 例で、QMVR の検定により MSI-high と判定することができた。一例については MMR 蛋白の発現は部分的であり、BRAF 変異陽性の大腸癌であることから、メチレーションによる MMR 遺伝子の不活化が想定された。検討には手術検体を用いたが、生検組織を想定し、DNA 量を変化させて極微量であっても検出可能であることを確認したほか、腫瘍細胞含有率を変化させて検出限界を決定した。

【考察】

QMVR 検定により、腫瘍部抽出 DNA のみで MSI 検査が可能であることがわかった。また、生検組織のような微量な検体であっても、腫瘍細胞含有率も低い場合においても一定の基準も設定することができた。これらの条件を用いて、実践的な検査法としてこの MSI 検査を実臨床に組み入れていきたい。

<研究課題6>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用
Clinical application of IMRT using Helical Tomotherapy

<研究者氏名>

所 属 部 放射線治療部
研究者氏名 古平 毅
共同研究者 立花弘之、田中 寛、小出雄太郎

【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy社 TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィーを実施してきた。

2006/6より頭頸部癌のIMRTを実施してきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象は2002年以降2015年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者132名で年齢は中央値54.5歳(11-76)、男性：女性 = 98:34という内訳だった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は60月、5年粗生存率、無増悪生存率、局所制御率、無遠隔転移制御率は75.2%、64.2%、79.9%、86.9%であった。G2以上の唾液腺障害は1/2年で22/27%であった。治療成績は良好でありかつ従来法で得られなかった唾液腺機能温存が達成でき本治療法の有益性が確認できた。

【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

2. 研究所における研究（人当研究費）

疫学・予防部

< 研究課題 > 1-1

（主題） がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究

（副題） 地域がん登録データを用いた結腸がん原発部位別の生命予後の分析

< 研究者氏名 >

中川弘子、堀芽久美¹⁾、松田智大¹⁾、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

2016年の大腸がん死亡数は50,099人であり、がん部位別で第2位の死亡数を占めるがんである。大腸がんは原発巣の部位により、発生の機序及びがん化に関わるメカニズムが異なる。欧米において、大腸の原発部位による生存率の相違が報告されているものの、日本人においては、大腸原発部位に焦点を当て生存率を検討した研究は未だに少ない。そこで我々は地域がん登録資料を用い、日本人の結腸がん部位別における5年net生存率を明らかにすることを目的とした。

全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ)へ提出された、21府県(宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、神奈川、福井、山梨、愛知、滋賀、大阪、広島、長崎、千葉、新潟、鳥取、島根、岡山、愛媛、熊本)の地域がん登録資料より、2006年から2008年に診断された結腸がん症例についてnet生存率を算出した。統計解析にはStata 14.1(StataCorp, College Station, TX, USA)を用いた。結腸がん原発部位は、右側結腸(ICD-10th, C18.0-18.4)、左側結腸(C18.5-18.7)に分け解析を行った。

対象となった62,350症例について、結腸がんの5年net生存率は72.1%(95%CI, 71.7%-72.6%)であった。全症例中、32,005人(51.4%)は右側結腸がん、30,34人(48.6%)は左側結腸がん罹患していた。部位別5年net生存率は、左側結腸がん74.0%(95%CI, 73.4%-74.7%)、右側結腸がん70.4%(95%CI, 69.7%-71.0%)であった。年齢、性別、進行度で補正した上で、左側結腸がんと比較した、右側結腸がんのExcess Hazard Ratioは1.20(95%CI, 1.16-1.25)であった。

我々の研究より、右側結腸がんの5年net生存率は左側結腸がんと比べ有意に低いことが示された。大腸部位は生命予後に重要な役割を持つことを示唆した。大腸の部位による生命予後の違いについては、遺伝子異常の種類の違いによる悪性度の違いや化学療法の薬剤感受性が異なることによる治療成績の違いが考えられ、今後はメカニズムの解明が望まれる。

¹⁾ 国立がん研究センターがん情報対策センター

< 研究課題 > 1-2

（主題） がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録の資料を活用した、がんの流行と転帰の分析研究

（副題） 愛知県がん登録資料に基づくがん患者生存率の医療圏間格差

— Funnel Plot法を用いた5年相対生存率の評価—

< 研究者氏名 >

山口通代¹⁾、中川弘子、伊藤秀美

【目的・概要・進捗状況】

がん医療の均てん化を進めるためには、がん患者生存率の医療圏間格差を正確に把握し、地域のがんの実態に即したがん対策を実施する必要がある。

本研究では、診断時年齢(以下、「年齢」という。)及び臨床進行度分布(以下、「進行度」という。)を調整因子とし、Funnel Plot法を用いて5年相対生存率の医療圏間格差を評価した。

愛知県がん登録で、2005-09年に診断された症例119,598例のうち、胃がん19,414例、大腸がん20,429例、肺がん16,646例、乳がん(女)11,660例を対象として、各医療圏のポワソン回帰モデルを用いた相対生存率から、診断から5年以内の過剰死亡ハザード(EH: Excess hazard of death)を推計した。過剰死亡ハザードは、①調整なし、②年齢調整、③進行度調整、④年齢・進行度調整の4モデルにより推計し、各医療圏の過剰死亡ハザードを、Funnel Plotを用いて散布図を描画して比較した。

過剰死亡ハザードのばらつきを視覚的に評価するため、愛知県の平均過剰死亡ハザードを基準値とし、その95%及び99.8%信頼区間を描き、信頼区間から逸脱した医療圏の同定を行った。

部位別、性別でみた各医療圏の過剰死亡ハザード(以下、「EH」という。)のFunnel Plotについて観察したところ、胃がん(男)、大腸がん(女)、肺がん(男、女)及び乳がん(女)については、「年齢・進行度調整」することによりEHが信頼区間内に入る医療圏が認められたことから、該当する医療圏においては、早期診断の遅れが生存率に影響している可能性が考えられた。また、胃がん(女)、乳がん(女)については、「年齢・進行度調整」後、EHが信頼区間上限を上回った医療圏が認められたことから、該当する医療圏においては、がん治療に起因する生存率の低下が起きている可能性が示唆された。

このように、年齢及び進行度を調整因子とした、Funnel Plot法を用いた生存率の評価は、人口規模を考慮した上で、地域の生存率の正確な評価が可能となり、がん対策の効果的な実施に活用できると考えられた。

【今後の方向】

今後も、2013年12月より開始されている「全国がん登録」の仕組みで収集される精度の高いデータを継続的に活用し、愛知県のがん医療の均てん化の評価、がん検診精度管理評価等に積極的に活用していきたい。

¹⁾ 研修生

分子腫瘍学部

<研究課題> 1-1

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) SmgGDS のノックダウンは Rheb-mTORC1 シグナル伝達経路を抑制し、胸膜中皮腫細胞の増殖を停止させる

<研究者氏名>

佐藤龍洋、向井智美、三城恵美¹⁾、服部成介²⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

胸膜中皮腫はアスベスト曝露を主な原因とする希少がんで、既存の抗がん剤に抵抗を示し、極めて予後が悪いことが知られている。アスベスト曝露から中皮腫発症までの潜伏期間は約40年と長く、今後も患者の増加が予想されていることから、新規抗中皮腫治療薬の開発が急務である。近年、がん関連因子 mTOR キナーゼの胸膜中皮腫における高活性化が報告され、胸膜中皮腫発症や悪性化との関連が示唆されている。

Ras family small GTPase の1つである Rheb はさまざまな細胞種の増殖促進や成長、がん化に関与するタンパク質である。Rheb の活性化は mTOR キナーゼ複合体 1 (mTORC1) の活性化によるタンパク質翻訳の促進や、ピリミジンヌクレオチド合成の律速酵素 CAD の活性化による DNA 複製のビルディングブロックの貯蓄増加により細胞増殖を促進する。Rheb はリソソームやゴルジ体に局在しており、エフェクターである mTORC1、CAD は Rheb が活性化した際に Rheb の局在部位へとリクルートされることで活性化され、機能する。このように、Rheb を介したシグナル伝達においてはタンパク質の細胞内局在制御が重要な役割を果たすが、Rheb 自身の局在制御機構についてはほとんど知られていない。私たちは Rheb の新規結合タンパク質として SmgGDS を同定し、これが Rheb の局在を制御する可能性を明らかにしてきた。また、SmgGDS のノックダウンは Rheb の局在を変化させ、mTORC1 の活性化を阻害することから、がん細胞の増殖抑制に有効である可能性が示唆された。そこで我々は胸膜中皮腫に着目し、SmgGDS の抑制が胸膜中皮腫細胞の増殖を抑制するか検討した。

mTORC1 活性化の要因となりうる Rheb- mTORC1 シグナル伝達経路関連遺伝子を TCGA データベースから抽出し、中皮腫におけるこれらの発現量を解析した。mTORC1 活性化に関与する Rheb, Rheb-like 1(RhebL1), raptor, PIK3CA の mRNA 発現上昇、および mTORC1 不活性化に関与する PTEN の mRNA 発現低下が中皮腫サンプルの約4割で観察され、mTORC1 活性化の一因となっている可能性が示唆された。また、Rheb 遺伝子を正常不死化中皮細胞株 MeT-5A に導入し、Rheb の高発現が中皮細胞に及ぼす影響を解析したところ、Rheb の高発現による mTORC1 の活性化を確認するとともに、導入細胞における増殖促進、足場非依存性増殖能の獲得を観察した。次に、この細胞に SmgGDS に対する shRNA を発現するレンチウイルスを感染させ、SmgGDS ノックダウン細胞を作製した結果、この細胞はコントロール細胞と比較して

増殖が有意に低下した。当研究部で患者より樹立した中皮腫細胞株のうち、PTEN 発現欠損により Rheb-mTORC1 シグナル伝達経路が活性化した株2種を用いた実験においても、同様に SmgGDS のノックダウンによる細胞増殖の抑制が見られた。これらの結果から、SmgGDS は Rheb-mTORC1 経路が高活性化した胸膜中皮腫細胞に対する治療標的となる可能性が示唆された。

【今後の方向】

SmgGDS のノックダウンが胸膜中皮腫の治療標的となるか、さらに詳細な検討を行う必要がある。細胞増殖の促進や足場非依存性増殖能の獲得について検討した後、マウスの胸腔に中皮腫細胞株を移植した中皮腫モデルマウスを作製し、SmgGDS をノックダウンした細胞とコントロール細胞での腫瘍形成能の違いを明らかにしていく。

¹⁾ 分子病態学部、²⁾ 北里大学薬学部・生化学

<研究課題> 1-2

(主題) 悪性中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) 悪性中皮腫における O-GlcNAc 修飾を介した腫瘍進展メカニズムの解明

<研究者氏名>

向井智美、佐藤龍洋、三城恵美¹⁾、青木正博²⁾、藪田紀一³⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

近年、種々のがんにおいて、翻訳後修飾のひとつである O-GlcNAc (O 結合型 β -N-アセチルグルコサミン) 化が亢進することが報告されており、診断マーカーや治療標的としての可能性が注目されつつある。O-GlcNAc 化は、グルコース (Glc) から生合成された糖供与体 (UDP-GlcNAc) が、O-GlcNAc 転移酵素 (OGT) によって標的タンパクに付化される酵素反応である。標的タンパクは細胞質タンパクや核タンパクなど様々で、O-GlcNAc 化によって、タンパク質間相互作用やタンパク安定性が変化し、がん化の促進に寄与するといわれている。しかし、がん進展と関連した標的タンパクの O-GlcNAc 化の生理的な意義や、その修飾メカニズムの研究は乏しく、O-GlcNAc 化を標的とした治療を行う上で明らかにすべき課題が多い。

今回、悪性中皮腫における O-GlcNAc 化について検討を行った。興味深いことに、LATS2 が欠損している悪性中皮腫細胞株では、種々のタンパク質の O-GlcNAc 化が不死化中皮細胞よりも亢進していることが明らかとなった。さらに、O-GlcNAc 化阻害剤や OGT のノックダウンによって、これらの細胞増殖が抑制されることを確認した。次に、不死化中皮細胞と比較して LATS2 欠損悪性中皮腫細胞株で O-GlcNAc 化が亢進している標的タンパクを質量分析により解析したところ、複数の標的候補を同定した。特に、核膜孔複合体構成タンパクのひとつである NUP214 は、LATS2 欠損悪性中皮腫細胞株における

O-GlcNAc 化が顕著であった。NUP214 は核外輸送に関与するとされているため、O-GlcNAc 化の亢進によって様々な分子の核内外の局在に影響を与え、その結果腫瘍進展を引き起こす可能性が高い。

一方で、LATS2 の欠損によって NUP214 の O-GlcNAc 化が亢進するメカニズムについても同時に検討している。その結果、OGT の結合因子のひとつである BAP1 と LATS2 が結合することを見出した。さらに、免疫沈降実験の結果、LATS2 は OGT と競合し、OGT/BAP1 複合体の形成を阻害することを明らかにした。

【今後の方向】

本研究の結果より、LATS2 が欠損した悪性中皮腫細胞では、OGT/BAP1 複合体の形成が容易になり、標的タンパクである NUP214 の O-GlcNAc 化が亢進されると考えられる。さらに、O-GlcNAc 化された NUP214 は種々のタンパクの核内外の局在に影響を与えることで腫瘍進展を引き起こすと可能性が高い。今後は、NUP214 の O-GlcNAc 化によって核内外の物質輸送形態や核膜孔複合体形成にどのような影響を与えるか、また、それが腫瘍進展にどのように関わるかを詳細に検討する。

- 1) 分子病態学部 リサーチレジデント、2) 分子病態学部、
3) 大阪大学微生物病研究所 発癌制御研究分野

<研究課題> 2

- (主題) 細胞特性に基づくがんの新規診断法・治療法の開発研究
(副題) Hippo シグナル伝達系異常による転写コアクチベーター TAZ の活性化はサイトカイン遺伝子の発現を誘導し、中皮細胞の悪性形質転換を促進する。

<研究者氏名>

松下明弘、佐藤龍洋、向井智美、藤下晃章¹⁾、三城恵美¹⁾、奥田真帆、青木正博¹⁾、長谷川好規²⁾、関戸好孝

【目的・概要・進捗状況】

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A, NF2, BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子変異は稀である。NF2 遺伝子産物(転写産物は Merlin と呼ばれる)は細胞内の増殖抑制性の Hippo シグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターである YAP の活性を抑制する。悪性中皮腫細胞は NF2 や Hippo シグナル伝達系の構成因子をコードする LATS2 遺伝子等の変異により約 70% の症例で YAP が恒常的に活性化していることを当部は明らかにしてきた。

YAP にはホモログである TAZ が知られているが、悪性

中皮腫細胞における役割は明らかではない。今年度、悪性中皮腫における TAZ の機能的役割を明らかにするために当部で樹立した悪性中皮腫細胞株を用いて解析を行った。最初に、細胞株パネルを用い、ウエスタンブロット法にて発現解析を行った。解析した多くの悪性中皮腫細胞株において、TAZ の発現および脱リン酸化(活性化)状態が確認された。不死化中皮細胞株に TAZ の恒常的活性化型変異体(TAZ-S89A)を導入したところ、細胞増殖、運動・浸潤能、ヌードマウスへの造腫瘍能の増強が確認された。一方、悪性中皮腫細胞株で活性化している TAZ を RNA 干渉法にてノックダウンしたところ、これらの形質はいずれも阻害された。次にマイクロアレイ解析により、TAZ の活性化型変異体によって発現誘導される遺伝子群を網羅的に検討した。その結果、サイトカインをコードする遺伝子群の発現が強く誘導されていることが明らかになった。その中で IL-1beta 遺伝子に着目したところ、TAZ は IL-1beta 遺伝子のプロモーター領域に結合し、遺伝子発現を直接亢進させることが明らかになった。さらに、IL-1beta のノックダウンおよび IL-1beta 阻害剤を用いた検討では、TAZ が活性化した悪性中皮腫細胞株の細胞増殖や造腫瘍能を強く抑制することが確認された。

【今後の方向】

本研究の結果から NF2-Hippo シグナル伝達系が不活性化している悪性中皮腫細胞において TAZ が活性化し、その結果、サイトカイン、特に IL-1beta の発現亢進が悪性中皮腫の増殖、悪性形質の獲得に大きく貢献していることが明らかとなった。TAZ の恒常的活性化が認められる悪性中皮腫に対して、今後、IL-1beta に対する阻害薬は、新たな治療戦略のモダリティとなりうる可能性が強く示唆されたため、今後さらに研究を継続して治療法の応用について検討を深める必要性が極めて高いことが示唆された。

- 1) 分子病態学部、2) 名古屋大学大学院医学系研究科、呼吸器内科

遺伝子医療研究部

<研究課題> 1-1

- (主題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用
(副題) 乳がんに関する遺伝子多型を用いたリスク予測法の意義を評価する無作為化比較試験

<研究者氏名>

鶴飼知嵩¹⁾、春日井由美子、伊藤秀美、岩田広治、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

遺伝子多型が乳がんのリスクと関連する報告が積み重なって来たが、実際にそれをどう予防に应用到するかに関しては確立されていない。我々は、昨年度乳がんのリスク予測モデルを、

当センターで実施してきた病院疫学データ、鹿児島大学・国立がん研究センターのデータを用いて開発した。本研究では、乳腺科受診において乳がんが無いと診断された患者を対象に、22個の遺伝子多型の情報と疫学情報の組み合わせを用いたリスク予測情報（介入群）と疫学情報のみを用いたリスク予測情報（対照群）を無作為割付試験として開始した。プライマリーエンドポイントは、介入後6ヶ月時点での、乳がん予防行動の変化とし、予定症例数は200名とした。6ヶ月後、3年後、6年後の一次・二次予防行動に関してフォローアップを行っている。

【今後の方向】

遺伝子情報を用いたリスクフィードバックが、実際に予防行動に与える影響は未知である。本研究は、乳がんを対象に、これまでの疫学的な知見を用いた予防の可能性を評価する点が挑戦的である。来年度には対象者のリクルート並びにプライマリーエンドポイントである6ヶ月調査が終了する予定である。乳がんを皮切りに他がん種に拡げる可能性を考える上でも重要な研究である。

¹⁾ 研修生

<研究課題> 1-2

- (主 題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用
- (副 題) 次世代シーケンサーを用いた遺伝性乳がん関連遺伝子異常の頻度並びにリスクへの寄与の大きさの検討

<研究者氏名>

春日井由美子、伊藤秀美、井本逸勢¹⁾、岩田広治、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

乳がんの5～10%はBRCA1/2などの生殖細胞系の遺伝子変異に基づく家族性の乳がんであるとされるが、実際に散发性の乳がんの中で、家族性乳がんの占める割合がどの程度であるのかに関する検討は本邦では為されていない。またBRCA1/2などの変異が、非がん者の集団ではどの程度の頻度があるかに関しても殆ど明らかにされていない。よって、BRCA1/2のがんリスクに対する相対危険度に関する情報も本邦では欠損している。我々は、愛知県がんセンターにて実施された大規模疫学研究であるHERPACC内での乳がん症例対照研究の対象者に対し、次世代シーケンサーに基づくBRCA1、BRCA2、TP53、PTEN、STK11、PALB2、CHEK2、CDH1、ATM 遺伝子生殖細胞系遺伝子変異を検討する研究を行った。対象候補者に対し、文書郵送によるオプトアウト形式の参加同意を行い、不同意の表明が無かった症例629名、対照1150名を対象にシーケンスを実施した。対照者にはBRCA1/2の病的変異を持つものは認められなかった(95%信頼区間:0～0.32%)が、症例には5名(0.8%、95%信頼区間:0.26%～1.8%)の病的変異を持つものが

認められた。本結果はこれまで5～10%とは明らかに異なるものであった。また病的変異を持つ非がん者も非常に少ないことが想定された。現在最終解析結果の集計を行っている。

【今後の方向】

今回の結果では、家族性乳がんの非がん集団における頻度は非常に少なかった。現在の検討対象者数では、統計学的な誤差がまだ残るため、対象者数を積み重ねる必要がある。本検討は乳がんのみを対象としているが、他臓器における家族性腫瘍を視野に入れ、大規模な検討を行う必要がある。

¹⁾ 徳島大学

<研究課題> 1-3

- (主 題) がん罹患リスク・予後を決める遺伝子と環境要因の組合せの解明、並びに予防・医療への応用
- (副 題) 喫煙の唾液腺癌リスクに関する影響を検討する研究

<研究者氏名>

澤部 倫、尾瀬 功、伊藤秀美、谷田部 恭、長谷川泰久、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

頭頸部癌の中でも唾液腺癌は、その症例数が少ない事からも、生活習慣との関連の検討が国際的にも行われてこなかった。我々は、唾液腺癌に関する症例対照研究を行い、喫煙が唾液腺癌のリスク要因である事を明らかにした。また、この関連が粘表皮癌以外の組織型での関連であり、粘表皮癌ではリスクとは関連を示さないことを明らかにした。この結果は、組織型によって発がん過程が異なる事を示唆するものであった。

【今後の方向】

組織型により発癌プロセスが異なる事は、生物学的な視点からは妥当なものであると考えられてきたが、実際に疫学研究レベルで、その組織型による差を検討する研究は数が限られている。当センターでは、豊富な臨床情報

¹⁾ 研修生、²⁾ 国立がん研究センター

<研究課題> 2

- (主 題) 造血器細胞の分化、増殖に関与する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究
- (副 題) コーヒー、緑茶摂取と造血器腫瘍の関連に関する検討

<研究者氏名>

鶴飼知嵩¹⁾、澤田典枝²⁾、井上真奈美²⁾、津金昌一郎²⁾、松尾恵太郎

【目的・概要・進捗状況】

本邦において、造血器腫瘍罹患に関するリスク要因の検討は十分に為されていない。近年、コーヒーや緑茶などの日常的に摂取される飲料とがんリスクとの検討が報告されているが、造血器腫瘍との関連は殆ど報告されていない。本研究では、国立がん研究センターが実施している大規模コホート研究である多目的コホート研究データを用い、コーヒー・緑茶摂取と、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群のリスクとの関連を検討した。悪性リンパ腫・多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病に関しては、コーヒー・緑茶の何れもリスクとの関連を示さなかった。一方で、骨髄異形成症候群では、男性においてコーヒー摂取による予防的な関連が認められた。しかしながら、コーヒー摂取と交絡が想定される喫煙による層別化解析を実施したところ、認められた関連は喫煙の残交絡である可能性が示唆された。コーヒーに関しては、他集団を用いた更なる検討が必要である。

【今後の方向】

緑茶、コーヒー摂取は一部のがん種においてリスクと負の相関な関連を示していることから、予防的な効果が期待されている。しかしながら、本研究の結果は造血器腫瘍においてはその効果は無い、あるいはあっても限定的である可能性が示された。造血器腫瘍の罹患率は増加傾向にあり、その予防法に関する知見の積み重ねは、重要である。今後も他の重要曝露要因に関する知見の積み重ねを行う予定である。

1) 研修生、2) 国立がん研究センター

腫瘍免疫学部

<研究課題> 1

- (主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索
- (副題) オートファジーによって提示されるエピトープ特異的 CTL による抗腫瘍効果の検討

<研究者氏名>

岡村文子、赤塚美樹¹⁾、葛島清隆

【目的・概要・進捗状況】

がん免疫療法ではがん細胞を攻撃するエフェクターである細胞傷害性 T リンパ球 (CTL) が認識する抗原の情報が治療に重要な役割を果たす。最近になって免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療において、がんが保有する変異抗原 (neoantigen) に由来するエピトープ (neoepitope) を認識する CTL ががんの治療に有効であることが明らかになってきた。しかしながら、保有する変異抗原全てが CTL の標的エピトープとして抗原提示される訳ではないため、変異抗原が少ないがんでは、免疫チェックポイント阻害剤による治療効果が低いことが今後の課題となっている。

我々は K-ras 変異遺伝子を有し、恒常的にオートファジーが亢進している膵臓癌細胞株において、ピューロマイシン感受性

アミノペプチダーゼがオートファジーを介して MHC クラス I 上に抗原提示されていることを見出している。一般的にはオートファジーによる MHC クラス I 分子への抗原提示はされないため、K-ras 変異遺伝子を有するがん細胞であることから身につけた高活性オートファジーによってのみエピトープが提示されている。一方、正常細胞では抗原提示装置として高活性オートファジーが備わっていないため抗原提示されない。このことから、正常細胞では抗原提示されず、がん細胞でのみ抗原提示される neoepitope 様であると考えている。

本エピトープ特異的 CTL クローンによる抗腫瘍効果を検討するために、超免疫不全 NSG マウスにヒト膵臓癌細胞株を移植して、養子免疫療法により治療することができるかどうかを検討した。まず膵臓癌細胞株と CTL クローンを先に混ぜた状態で癌細胞株のマウスにおける増殖を検討した。移入したマウスのうち、腫瘍のみ投与したマウスは移入後 60 日程度で死亡したが、CTL クローンと先まぜして移入したマウスは全例生存していた。次に治療モデルの検討を行った。ヒト膵臓癌細胞株を皮下移植後に CTL クローンを投与したところ、穏やかな腫瘍の増殖抑制効果が見られた。しかしながら、治療効果は弱いためより効果の強い免疫療法が必要であると考えられた。そのため、T 細胞受容体 (TCR) 遺伝子をクローニングして、TCR 移入 T 細胞による治療を行う準備をしているところである。

【今後の方向】

膵臓癌は予後不良で、新たな治療法の開発が期待されている。TCR 移入 T 細胞による治療など、今後より効率のよい治療法を検討していきたいと考えている。

1) 客員研究員、藤田保健衛生大学・血液内科

<研究課題> 2

- (主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究
- (副題) ヒトテロメレイス特異的高親和性 T 細胞受容体の取得と解析

<研究者氏名>

太田里永子、岡村文子、赤塚美樹¹⁾、葛島清隆

【目的・概要・進捗状況】

がん抗原に特異的な T 細胞から単離した抗原受容体遺伝子 (TCR) を、レトロウイルスベクターなどを用いて患者の T リンパ球に導入することが可能である。このようにして作製した CTL を用いるがん免疫療法は有望な治療法の一つであり、これまでも様々な抗原を標的として開発が行われて来た。臨床的に最も成功している TCR は、HLA-A*02:01 拘束性 NY-ESO1 特異的 TCR α 鎖の相補性決定領域 (CDR) 3 の 2 個のアミノ酸を変異して親和性を増強したものである。また、gp100 特異的 TCR を抗 CD3 (scFv) に融合させたりコンビナント蛋白の臨床試験も 2017 年に海外で開始され、一定の効果が報告されている。この場合には、TCR の親和性を野生型

の100万倍程度増強する必要がある。ヒト TCR の親和性を *in vitro* で増強する最も効果的な方法はファージディスプレイ法であるが、報告はほぼ一つのグループ（英国）からに限られているのが現状である。免疫治療のこれからの展開を鑑みるに、効率の良い TCR 親和性成熟（affinity maturation）システムを確立することは重要であると考えられる。昨年度に確立した 293T 細胞を用いた新規の TCR ディスプレイ法の樹立を用いて、本年度は HLA-A24 拘束性にヒトテロメレイス由来のペプチドを認識する TCR の親和性改良を行った。

【方法と結果】

293T 細胞を用いた新規の TCR ディスプレイ法では、CD3 遺伝子を導入した 293T 細胞表面に、任意の一つの CDR 領域にランダムな変異を導入した TCR ライブラリーを表出させ、HLA/ペプチド-テトラマーで染色する。これにより、CD8 非依存的にテトラマーに結合する集団の出現をフローサイトメーターで解析とソーティング（回収）をする。hTERT 特異的 TCR について 16 種類のライブラリーを作製し、スクリーニングをした結果、β鎖 CDR1 および 2 ライブラリーの中に、CD8 非依存的にテトラマーに結合する TCR の集団があることが判明した。さらにフローサイトメーターを用いたソーティングにより、多数の高親和性クローンを得た。レトロウイルスを用いてヒト T 細胞株に TCR 遺伝子導入した実験では、高親和性クローンは野生型に比べて 1,000 分の 1 濃度の抗原ペプチドを認識した。新たに確立したヒト培養細胞を用いた TCR 親和性成熟システムは、有用な方法と考えられた。

【今後の方向】

今後の方針は、以下の 2 方向である。1) NY-ESO1 蛋白などのがん抗原に対する特異的 TCR をこのシステムに供し、高い親和性を有する TCR を取得する、2) 得られた高親和性 TCR の遺伝子を、レトロウイルスベクターを用いてヒト末梢血 T リンパ球に導入し、がん細胞に対する傷害性および正常細胞に対する交差反応性を解析し、将来の TCR 遺伝子導入 T 細胞療法の使用に耐えうる高品質の TCR を選択する。

¹⁾ 客員研究員、藤田保健衛生大学・血液内科

感染腫瘍学部

<研究課題> 1-1

（主題） がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

（副題） 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

<研究者氏名>

山内友恵、渡邊理沙代、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナー

ゼ c-Src は、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においても src 遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞には Src の恒常性を維持し、不要な Src シグナルの伝播を阻止する巧妙な分子メカニズムがあり、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるが、その詳細は未だ明らかとなっていない。昨年までに、がんにおける異常な Src シグナルが、非受容体型チロシンキナーゼ Fer により中継される新たなメカニズムを見出し、Fer の制御機構の破綻とがん進展との関わりを解明するために Fer に結合する分子のプロテオミクス解析を行ない、見出された 9 種の分子について Fer との結合を確認することにより、4 種の Fer 制御因子候補を同定した。そこで今年度は、大腸がん細胞など Src-Fer シグナルが活性化している細胞において、同定した Fer 制御因子候補の発現をノックダウンし、増殖能や浸潤能などのがん形質に対する作用を解析したところ、これらの分子はがん形質促進的な機能を示し、Fer の下流でがんシグナルを伝播する新規基質であることが示唆された。

【今後の方向】

がん形質発現に関わる Fer 制御因子候補の役割を詳細に解析する。さらに Fer のがん治療標的としての可能性を明らかにするため、Fer のリン酸化抗体を用いて様々な癌種における Fer 活性化を調べ、Fer が寄与するがん種を解析する。

<研究課題> 1-2

（主題） がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

（副題） microRNA によるシグナル分子の発現制御とがん進展

<研究者氏名>

小根山千歳、渡邊理沙代、宮田真美子

【目的・概要・進捗状況】

Src 等によるがんシグナルの伝達やその制御機構については、主にリン酸化及びタンパク質間相互作用の側面から捉えられてきたが、我々はそれら直接的なシグナル伝達経路の陰に、複数の microRNA(miRNA) が協調してシグナル分子の発現を制御する、いわば隠れたネットワークが存在することを示してきた。今年度は、がん化初期に見られる Src 活性化に伴う miRNA の役割を解明するため、これまでに作製した Src 発現誘導モデル細胞を用いて miRNA の発現プロファイルの解析を行なった。その結果 Src 活性化初期に発現減少する miRNA を見出し、この miRNA の発現を保持すると Src によるがん形質が見られなくなることを見出した。この miRNA は Src の発現が高いことが知られる大腸がん細胞において顕著に低下していることを見出し、大腸がん細胞にこの miRNA を導入すると足場非依存的増殖能が抑制されると共に、ストレスファイバー及び細胞接着斑の形成が阻害され接着能や浸潤能が抑制された。詳細な解析の結果、当該 miRNA は Src 自身およびその基質など Src シグナルの伝播に関わる因子の発現を同時に抑

制することにより、がん形質発現を制御していることが示唆された。すなわち、がんの初期における当該 miRNA の発現低下が Src シグナルの亢進を促し、がん悪性化に寄与していると考えられる。これまでの一連の研究と合わせて考えると、Src シグナル経路では関連するタンパク質が複数の miRNA によって同時に制御され細胞の恒常性の維持に寄与していると考えられるが、がんではその仕組みが破綻し、むしろ複数の機構が miRNA を介して連携しがん進展を加速していると考えられる。

【今後の方向】

がん進展過程における Src シグナルネットワークを明らかにするため、これまでに同定した Src 関連 miRNA 群の発現変動を誘導した際の遺伝子発現プロファイルの相関を明らかにし、miRNA を介した Src シグナルネットワークの破綻とがん進展メカニズムを明らかにする。

<研究課題> 2-1

- (主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明
(副題) エクソソームの形成制御とがん進展

<研究者氏名>

疋田智也、宮田眞美子、渡邊理沙代、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 30-100 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。しかし、エクソソームの形成や分泌の分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。昨年度までにエクソソーム形成・分泌促進機構への Src の関与を明らかにするため、Src がん化モデル細胞系から分泌されるエクソソームを解析し、Src 活性化によりその粒子数が顕著に増加することを見出した。そこで今年度は、Src がん化細胞から分泌されるエクソソームに内包される分子についてプロテオーム解析を行い、エクソソーム形成・分泌に関与する候補分子を同定した。中でもエクソソームマーカーとしても知られる Alix について解析したところ、Alix は Src との結合を介して機能が亢進し、その結果エクソソームの分泌に繋がることを見出した。

【今後の方向】

他の候補分子についても Src によるエクソソーム形成・放出促進における役割やがん形質におけるエクソソーム放出の意義を明らかにするため、Src がん化モデル細胞に候補分子の発現を変化させた細胞を樹立し、分泌されるエクソソーム量及び内包される分子群の変化、及びエクソソームを放出した Src がん化細胞のがん形質について解析する。

<研究課題> 2-2

- (主題) 細胞間コミュニケーションを介したがん進展メカニズムの解明
(副題) エクソソームの miRNA 内包制御とがん進展

<研究者氏名>

内藤陽子、小根山千歳

【目的・概要・進捗状況】

エクソソームは、内部にタンパク質や RNA 分子を含む直径 30-100 nm 程度の膜小胞で、細胞から能動的に分泌され、不要物の排出に関わる他、体内を循環して他の細胞に取り込まれることで、細胞間コミュニケーションを担うと考えられている。がん細胞においては、エクソソーム形成・放出が亢進していることが知られており、細胞増殖性だけでなく、ニッチ形成を介して転移やその臓器指向性にも関与するなど多様な機能が明らかとなりつつある。それらの機能に重要とされているのが、エクソソームに内包されている miRNA である。エクソソームに内包される miRNA のプロファイルはがん種によって異なることから、がん診断への応用研究が進んでいるが、しかしそもそも、なぜ特定の miRNA がエクソソームに内包されているか、選択的な miRNA の積み込みに関する分子機構に関してはほとんど明らかとなっていない。今年度は、Src がん化モデル細胞系から分泌されるエクソソーム内の miRNA について次世代シーケンズ解析を行い、Src 活性化によりエクソソームに内包される miRNA のプロファイルが異なることを見出した。

【今後の方向】

Src 活性化により選択的に積み込まれる miRNA の分子機構を明らかにするため、これらの miRNA に結合するエクソソーム内分子を探索する。分子同定後は、Src がん化モデル細胞に候補分子の発現を変化させた細胞を樹立し、内包される miRNA 群の変化、及びエクソソームを介した他細胞へのがん形質誘導について解析する。

分子病態学部

<研究課題> 1-1

- (主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明
(副題) 腸管腫瘍形成における JNK/mTORC1 経路の活性化機構

<研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APC がん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc 遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス（以下 Apc 変異マウス）では、腸上皮細胞の Apc 遺伝子座でのヘテロ接合性の消

失 (LOH) による APC の機能欠損の結果、Wnt 経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々は、*Apc* 変異マウスの腸管ポリープの成長には Wnt 経路の活性化に加えて、mechanistic target of rapamycin complex 1 (mTORC1) 経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1 の活性化はその構成因子である Raptor が JNK によってリン酸化されて引き起こされることなどを報告してきた。その後、我々はこれまでに、JNK の活性化を引き起こす因子の一つとして IL-1 β を見出し、マウス腸管組織由来オルガノイド培養とヒト大腸がん細胞株を用いた解析から、IL-1 β による JNK の活性化は *Apc* に変異が生じた細胞においてより引き起こされることを明らかにした。また、IL-1 β シグナル伝達経路の主要なアダプター因子である MyD88 の機能を腸管上皮特異的に欠損させたところ、*Apc* 変異マウスにおける腸管ポリープ形成数が減少し、JNK の活性化が减弱していた。そして、このポリープ数の減少は、細胞増殖の減少とアポトーシスの増加によることを示唆する結果を得た。一方、MyD88 の機能欠損によるアポトーシスは、腫瘍上皮細胞では誘導されるが、正常上皮細胞では誘導されず、MyD88 の機能欠損が *Apc* に変異を持つ細胞のみを死滅させる、合成致死を誘導する可能性が示唆された。この MyD88 の機能抑制による *Apc* 変異細胞合成致死の分子機序を明らかにするため、NF- κ B 経路に着目し解析を行った。その結果、NF- κ B 経路関連因子が正常上皮細胞に比べ腫瘍上皮細胞において活性化していることを見出した。

【今後の方向】

MyD88 の機能欠損による *Apc* 変異細胞の合成致死誘導に NF- κ B 経路が関与するのか検討するとともに、他の関連因子をマイクロアレイ解析やプロテオーム解析により探索し、この合成致死の分子機序を明らかにしていきたい。また、*Apc* に変異をもつ腫瘍上皮細胞を標的とした治療戦略に MyD88 が寄与できるかについても検討していきたい。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 1-2

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) 腸管腫瘍の悪性化における mTORC1 経路の役割

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

家族性大腸腺腫症のマウスモデルである *Apc* 変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらに *Smad4* 遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つ *cis-Apc/Smad4* マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤は everolimus および mTORC1、mTORC2 の両方を阻害する mTOR キナーゼ阻害薬 AZD8055 でも抑制できないことを見出しており、その原因ががん細胞自身の mTOR 阻害薬に対

するフィードバック経路による EGFR 経路の活性化と浸潤部がん細胞周囲の線維芽細胞様の間質細胞では mTOR 阻害薬によるフィードバック経路として MEK/ERK 経路の活性化が引き起こされることでサイトカイン・ケモカインの発現誘導し、浸潤しているがん細胞に対して mTOR 阻害薬に抵抗性を与えていることを明らかにした。さらに mTOR 阻害薬抵抗性獲得機構の解明に向けたトランスクリプトーム解析から酸化的リン酸化など代謝経路が変動していることが明らかとなった。mTOR 阻害薬抵抗性腺がんにおける代謝産物の変動をメタボローム解析により検証した。解糖系や酸化的リン酸化経路の代謝産物量はコントロールの腺がん mTOR 阻害薬抵抗性大腸がん大きな差は認められなかった。一方、特定のアミノ酸が mTOR 投与により増大しており、特にヒスタミン量は腸管正常部と比較して、腺がん増大していた。さらに mTOR 投与によって増加が認められた。プロテオーム解析により mTOR 阻害薬抵抗性腺がんではヒスタミン代謝関連酵素群が減少していたことを見出しており、ヒスタミンのがん組織での蓄積と関与が示唆された。

【今後の方向】

mTOR 経路阻害抵抗性大腸がんにおけるヒスタミンの役割を解明するため、ヒスタミン阻害薬と mTOR 阻害薬とを併用することで腺がん形成に対する評価を検証していく。また大腸がん組織におけるヒスタミン含有細胞の同定を目指す。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 1-3

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、武藤 誠¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

KRAS 遺伝子の変異は大腸がんを含む多くのがんで確認されている。*KRAS* に変異のあるがんの治療標的として *KRAS* の下流の一つである MEK/ERK 経路に着目し、*KRAS* 変異大腸がんモデルマウスにおける MEK/ERK 経路の役割・MEK 阻害薬の効果を検証することを最終目標としている。これまでに *Apc* 変異マウスのポリープ形成を MEK 阻害薬 trametinib の投与により抑制できることを明らかにした。現在、悪性度が高く *KRAS* に変異のない大腸がんにおける MEK/ERK 経路およびその上流の EGFR 経路の役割を検証している。浸潤性大腸がんモデルマウスである *cis-Apc/Smad4* マウスに trametinib または EGFR 阻害薬 erlotinib を投与したが、どちらの経路を阻害しても腺がん形成及び浸潤を抑制することはなかった。このことから *KRAS* に変異のない大腸がんの治療には MEK 阻害薬単独投与では困難であることが示された。

一方、trametinib と erlotinib の併用投与により、腺がん形成および浸潤が抑制された。*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんにおける EGFR の活性化は上皮細胞で、MEK/ERK 経路の活性化は線維芽細胞などの間質細胞と一部の上皮でそれぞれ確認されており、EGFR 経路および MEK/ERK 経路は腺がん組織において相互に作用し、腫瘍形成を促進していることが示唆された。

【今後の方向】

大腸がんマウスモデル (*cis-Apc/Smad4* マウス) の腸管腺がん形成が EGFR 阻害薬と MEK 阻害薬の併用により抑制されるメカニズムについて検証を行う。特に MEK/ERK 経路活性化は間質細胞で認められることから、間質由来の成分、特にサイトカイン・ケモカイン等の変化について確認する予定である。

¹⁾ 京大・国際高等教育院

<研究課題> 2-1

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副 題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* の機能解析

<研究者氏名>

佐久間圭一郎、佐々木英一¹⁾、木村賢哉²⁾、清水泰博²⁾、谷田部恭¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

本年度は、我々が新規に同定した大腸がん転移抑制遺伝子 *HNRNPLL* の機能解析を継続した。

①大腸がん細胞の増殖において *HNRNPLL* が果たす役割の解明

ヒト大腸がん細胞株 SW480 に *HNRNPLL* を強制発現し細胞周期を調べたところ、S/G2/M 期の細胞の増加を認めた。RNA シーケンシングとパスウェイ解析によって、*HNRNPLL* の強制発現によって DNA 複製関連遺伝子群の発現増加を認めた。中でも、ラギング鎖合成に関与するとされる *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* は SW480 と HT29 で mRNA・タンパクの両レベルにおいて再現性ある増加を認めた。RNA 免疫沈降法により、これら 3 つの遺伝子の pre-mRNA および mRNA への *HNRNPLL* の結合を認めた。*HNRNPLL* の強制発現は転写阻害剤処理下でのこれらの mRNA の経時的発現量減少を抑制したことから、*HNRNPLL* はこれらの mRNA との結合を介してその分解を抑制することが示唆された。さらに、大腸がんの臨床検体を用いた検証で、*PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の発現量と *HNRNPLL* の発現量は個々のがん細胞レベルで正の相関を示した。以上の成果を *Cancer Science* 誌に投稿した。

②大腸がん細胞の上皮間葉転換 (EMT) に伴う *HNRNPLL* の発現低下機序の解明

HNRNPLL の発現は EMT に伴って mRNA レベルで低下す

ることを前年度報告した (*Gut*, Epub, 2017)。この結果を受け、平成 29 年度は *HNRNPLL* の転写調節機構の解明に取り組んだ。5'-RACE 法によって HT29 細胞における *HNRNPLL* の転写開始点を同定し、レポーターコンストラクトを作成した。現在、ルシフェラーゼアッセイ、ChIP assay を駆使して転写因子の同定を進めている。

【今後の方向】

HNRNPLL は転移を抑制する一方で細胞増殖を促進することが明らかとなったことから、*HNRNPLL* 自体を治療標的と捉えることは困難である。今後は、今年度の研究を継続すると同時に、*HNRNPLL* によってスプライシング制御を受ける *CD44* 以外の遺伝子の同定を進めたい。これらを通して、*HNRNPLL* の上流・下流の中に治療標的分子を見出したい。

¹⁾ 遺伝子病理診断部、²⁾ 消化器外科部

<研究課題> 2-2

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索
(副 題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

<研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。我々は安定的に転移する大腸がんマウスモデルが作出することで、転移のメカニズムの解明及び、転移を標的とした治療法の確立を目指している。我々は、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBac トランスポゾンを用いたスクリーニングを開始しており、これまでにヒト大腸がんを高頻度に変異や欠失が確認されている *Ctnnb1*、*Kras*、*p53*、*Smad4* 遺伝子をタモキシフェン依存的に改変できるマウス (*Villin-creER^{T2};Ctnnb^{+/loxEx3}, Kras^{LSL-G12V}, p53^{fllox/fllox}, Smad4^{fllox/fllox}*; KPS マウス) とトランスポゾンマウスを掛け合わせたマウスの作出に成功している (VBAPKPS)。現在、これらのマウスにおける転移の有無について解析したところ、VBAPKPS マウスではおよそ 40% 以上の個体で転移が認められたのに対し、トランスポゾンのないマウス (VBKPS) では 30% であった。これらの結果からトランスポゾンの導入により転移が促進されている可能性が示唆された。またオルガノイド培養した VBAPKPS の大腸がん細胞を野生型マウスに同所移植を行い、肝臓や胚に転移することも確認した。

【今後の方向】

VBAPKPS マウスの大腸がん原発巣、肝転移巣を回収し、トランスポゾン共通挿入部位 CISs (Common Integration Sites)

の同定に向けた準備を進め、腸腺がんの転移を促進させる遺伝子の同定を試みる。

<研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

<研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一¹⁾、谷田部 恭¹⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

ヘッジホッグ (Hh) シグナル構成分子である PTCH1 や SMO の遺伝子変異による Hh シグナルの異常な活性化は基底細胞がんや髄芽腫の原因として知られている。一方、これらの変異に依存しない Hh シグナルの活性化も肺がん、膵がん、大腸がん、前立腺がんなどで報告されている。これらの活性化には Hh シグナルの上流制御因子である一次線毛が関与する可能性が考えられるが、一次線毛-Hh 経路のがんの病態生理における役割、特に転移における役割はほとんど解明されていない。

前年度までに、ヒト肺腺がん細胞株の A549 と PC-14 は TGF- β 処理下で一次線毛を発現することを見出した。TGF- β による Hh シグナルの活性化の有無を調べるため、PC-14 の TGF- β 処理群と非処理群の DNA マイクロアレイ解析をおこなったところ、GLI1、JUP、SNAI1 などの Hh 標的遺伝子の発現が TGF- β によって増加することを見出した。一方、肺腺がん臨床検体の免疫染色で、Hh シグナルの活性化を示唆する核内 GLI1 陽性の像を示すがん細胞の存在を確認した。

【今後の方向】

TGF- β による Hh シグナルの活性化と一次線毛発現の関係を検討する。さらに、肺腺がん細胞の一次線毛発現制御分子を同定し、EMT との関連についても検討する。

¹⁾ 遺伝子病理診断部

<研究課題> 3

(主題) がん悪液質の病態生理的解明と治療戦略の基盤構築

(副題) マウスモデルを用いた網羅的解析

<研究者氏名>

小島 康、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義¹⁾、武藤 誠²⁾、青木正博

【目的・概要・進捗状況】

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者の Performance Status (PS)、Quality of Life (QOL) を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病

態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。

我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、悪液質マウスモデルの解析に取り組んでいる。現在、主に 2 種類の悪液質モデルマウスを用いている。1 つは、*cis-Apc/Smad4* 変異マウスで、14 週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。もう 1 つは、ヒトメラノーマ SEKI 細胞をヌードマウスに移植する悪液質モデルで、移植後 2~3 週間で著名な骨格筋萎縮、脂肪組織萎縮を伴う高度な悪液質を発症する。

前年度までに、我々は、上記の 2 種類の悪液質モデルマウスを、キャピラリー質量分析法 (CE-MS) によって解析して、肝臓、骨格筋に関して悪液質に特徴的な代謝プロファイルが存在することを確認した。平成 29 年度は、その代謝プロファイル発生メカニズムに関して、定量的プロテオミクスを用いて探索して、有望なタンパク質レベルの変化を特定した。また前年度までに、我々は、2 種類の悪液質モデルマウス血漿のプロテインアレイから悪液質発症に関連する可能性がある、有望な炎症関連因子を同定した。平成 29 年度は、臨床検体を用いた検討を開始した。

【今後の方向】

定量的プロテオミクスによって明らかになったタンパク質変化に関して、その発症メカニズムをより詳細に解析する。また悪液質関連炎症因子に関しては、臨床検体の解析を推進して、またその発現上昇機構に関して動物モデルを用いた解析を開始する。

¹⁾ 慶應大・先端生命科学研究所、²⁾ 京大・国際高等教育院

腫瘍医化学部

<研究課題> 1

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード

(副題) Chk 1 のシグナル伝達経路を標的とした新たな治療戦略

<研究者氏名>

後藤英仁、谷川順美、中井由希子¹⁾、鐘巻将人²⁾、藤田雅俊³⁾、稲垣昌樹⁴⁾

【目的・概要・進捗状況】

細胞の遺伝情報である DNA は、外来性 (電離放射線、紫外線、DNA 障害性薬物など) および内因性 (フリーラジカル、細胞内代謝産物など) の要因によって、絶え間なく、損傷されている。DNA 障害を受けた細胞は、細胞周期の進行を停止させること (細胞周期チェックポイント) で、DNA 修復に必要な時間を生み出している。また、修復機能を上回る DNA 損傷や欠損の場合は、細胞周期の進行を半永久的に停止したり (細胞老化)、細胞死 (アポトーシス) を導いたりして、障害細胞を増殖細胞集団から排除する。

このような DNA 障害チェックポイントは、ATM-Chk 2-p53 経路と ATR-Chk 1-Cdc25A 経路の大きく二つのシグナル伝達経路によって制御されている。ATM-Chk 2-p53 経路は、多くのがんにおいて（遺伝子変異や欠失などによって）障害されていることが知られている。そのため、抗がん剤や放射線治療等で DNA 障害を引き起こした後、Chk 1 阻害剤を併用することで細胞死をがん特異的に引き起こすことが期待され、多くの薬剤が臨床試験に入っている。

我々の研究グループは、これまでに、Chk 1 が、ATR 以外のキナーゼからもリン酸化修飾を受けて機能変化していることが明らかにしてきた。そのなかで、Chk 1 が DNA 障害チェックポイント応答だけでなく、外的な DNA 損傷が引き起こされていない環境においても機能していることも明らかにしてきた。また、詳細は不明であるが、外的な DNA 損傷がない状態においてもがん細胞のほうが正常細胞よりも Chk 1 活性が高いことが数々のグループから報告されている。このことは、Chk 1 阻害剤が単剤でも抗がん治療に用いることを示唆しており、近年ではこの方向で薬剤開発がされつつある。

しかしながら、外的な DNA 損傷がない状態における Chk 1 の機能はほとんどわかっていないのが現状といえる。その一つの要因として、RNA 干渉法などの手法では特定の細胞周期でのみ Chk 1 を阻害できないため、出てきた表現型がどの細胞周期における Chk 1 阻害による影響かを検討できないことがあげられる。

我々は、CRISPR/Cas 9 を用いて CHEK1 遺伝子座に特定の遺伝子を挿入することで、内在性の Chk 1 が薬剤依存性に分解される HCT116（大腸がん）細胞株（CHEK1 mAID/mAID）を樹立することに成功した。親株の HCT116 細胞（CHEK1 WT/WT）と比較して、外的 DNA 損傷刺激に対するチェックポイント応答に（内在性の Chk 1 を分解していない条件下では）大きな差異を認めなかった。CHEK1 mAID/mAID 細胞では、オーキシンの付加後 15-30 分という比較的短いタイミングで効率的な Chk 1 の分解が誘導された。CHEK1 WT/WT 細胞ではオーキシン添加によって細胞増殖にほとんど変化認められなかったのにもかかわらず、CHEK1 mAID/mAID 細胞ではオーキシン添加後 2-3 日目より細胞増殖が低下し、その後、細胞死（アポトーシス）が誘導されることが判明した。

以上の結果は、がん細胞において、外的 DNA 損傷がない状態においても Chk 1 が細胞の生存に関与していること、Chk 1 阻害剤が単剤で十分にがん細胞に細胞死を誘導できることを示唆している。

【今後の方向】

最近、CHEK1 mAID/mAID 細胞にオーキシンを添加すると、比較的早い時期に Cdc25A の分解が抑制され、Cdc25A のタンパク質量が増加してくることが判明した。このことは、外的 DNA 損傷がない時期においても、1) Cdc25A をリン酸化し、分解へと誘導していること、2) Cdc25A の分解により、細胞周期進行エンジンであるサイクリン依存性キナーゼ（Cdk）が異常に活性化していること、3) この異常活性化により、細胞死が誘導させている可能性がある。この仮説が正しいかを検証

するため、現在、Cdk の活性を負に制御する Cdc25A または p53 を Chk 1 とともにオーキシン依存的に分解できるようにしたら、Chk 1 の分解による細胞死が減弱するのかを検証中である。また、CHEK1 mAID/mAID 細胞を用いて、Chk 1 の新規基質を探索し、この中に新たな抗がん治療の分子標的になるようなものはないかを検証している。

1) 中央実験室、2) 国立遺伝研、3) 九大・薬、4) 三重大・分子生理

<研究課題> 2

（主題）正常に上皮組織が階層化する新機構とがん化の相關解明

<研究者氏名>

猪子誠人、林 裕子、曾我倫久人¹⁾、小倉友二¹⁾、谷田部 恭²⁾、加納英明³⁾

【目的・概要・進捗状況】

生体内の細胞を体外で培養することは一般的に難易度が高い。それ故に生体内の上皮組織構造を保ったまま培養する試みは未だ開発途上にある。これらは臨床検体の活用を狭める壁となっている。最近、上皮幹細胞の無限増殖培養が、特殊な線維芽細胞が出す未知の因子と ROCK inhibitor によるアポトーシス阻害で可能になった (Richard Schlegel ら)。報告者もこれに類似の方法で前立腺上皮幹細胞を得ることができた。さらに報告者はこの幹細胞を過密培養させることで世界初の前立腺の 2 層分化誘導法を確立し、検体を生体にもっとも近い状態で培養できるシステムを整えた。すなわち正常前立腺が示す、基底幹細胞層と上層分化上皮層の 2 層構造を再現できるのである。本研究の主目的は、この報告者が新規開発した生体内にもっとも近い培養法で前立腺がん検体を培養し、さまざまな段階にあるがんの特性評価を生きのまま分子レベルで達成することである。これにより得た分子指標を総括し、今後増える前立腺がんへの個別対応化の礎を創る。

本年度は高・中・低分化型腺がんに相当する Gleason score 6・7・8 以上の病理診断とこれに由来する培養細胞の基礎データを集めるため、以下のことを行う。

(1) 新規前立腺腫瘍患者 100-200 名に対し、泌尿器科部で通常行う診断前生検に加え、研究用にがん部を 2 検体追加採取する。この病理診断と紐付された検体の培養細胞化を腫瘍医化学部で行う。必要に応じて混入した正常細胞を除去し、がん幹細胞を単離する。

(2) 本法で培養した、生体内にもっとも近い状態でのがん細胞の特性を、詳細な免疫染色やウエスタンブロット、遺伝子解析で評価する。すなわち種々の上皮特性（細胞間接着、細胞極性、一次線毛）や圧迫に付随する細胞収縮や逸脱を表す分子マーカー（リン酸化ミオシン等）および遺伝子変異として評価し、正常分化状態との差を見出す。

本研究の結果、正常幹細胞の 2 階層分化からは、ミオシン重鎖リン酸化・デスモソーム・微小管被膜にみられる新規分子の

積極的な分化関与を見出した。同時にいくつかのがん症例の由来する幹細胞からも、これまでにない異常分子指標を見出した。病理診断上「単層+癒合型」は頻度の高い中悪性度のがんである。この検体から培養したクローン細胞は同様の組織構築異常を示した。さらに正常分化で見出した分子指標の重要性を支持するように、本がん症例では中心体での間期微小管形成能（形成中心ともいう）が減弱していた。同時にデスモソームマーカー（デスモプラキン）も減少していた。Ezrinの細胞内蓄積は輸送障害の示唆を与える。またウエスタンブロッティングでは p53, p21, p27, Rb など DNA 障害チェックポイントが消失する一方で p16 が増加するといった、いびつな細胞周期チェックポイントを呈した。

このように、細胞構造や細胞周期の病的老化が個人の症例に由来する生きた幹細胞で特定されたのは初めての発見である。今後は症例数を増やしつつ、異常分子指標を病状の程度に応じて層別化し、またそれらを生きた細胞で遺伝子操作することで生物学的に実証確認をとる。これにより、これまで化学固定された検体では見逃してきたと考えられるがん診断・治療に役立つ標的分子の取得を目指し、将来的な個別化・層別化医療開発のシーズとする。また、本培養法を用いて、次世代フォトニクスによる診断応用の基盤技術を筑波大と開発中である。

1) 中央病院泌尿器科部、²⁾ 中央病院遺伝子病理診断部、³⁾ 筑波大 数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻

3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

<研究課題1>

悪性中皮腫の原因遺伝子の同定と臨床応用
Identification of genes responsible for the development and progression of mesothelioma and their clinical application

<研究者氏名>

所属部 分子腫瘍学部
研究者氏名 関戸好孝
共同研究者 樋田豊明、堀尾芳嗣、谷田部 恭、水野鉄也、
坂尾幸則

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

悪性中皮腫のゲノム異常の本体を明らかにするために、愛知県がんセンターで樹立された悪性中皮腫細胞株および兵庫医科大学で集積された悪性中皮腫検体を用いて網羅的ゲノム・エピゲノム解析を進めている。昨年度までの解析の結果は、悪性中皮腫は、1) CDKN2A、NF2、BAP1、TP53、SETD2、SETDB1といった腫瘍抑制遺伝子の変異・欠失がドミナントな腫瘍であること、2) 他の固形腫瘍と比べ、遺伝子変異数は比較的少ないこと、3) 活性型のがん遺伝子変異（ドライバー変異）は稀であること、4) 染色体全般に広範囲に欠失が見られること、5) 遺伝子変異は、組織型（上皮型、二相型、肉腫型）によって頻度の違いが認められること、等であった。

現在までに公表されている欧米人の悪性中皮腫の網羅的ゲノム解析情報と今回、明らかとなった日本人悪性中皮腫のゲノム解析情報の比較検討を行った。欧米人での腫瘍抑制遺伝子の変異の特徴、全体の遺伝子変異数、染色体の欠失などは、日本人のゲノム解析データとほぼ一致していた。一方、臨床的な意義付けとして、病理組織学的検査によって分類された組織型よりも、遺伝子発現プロファイルによって分類した方が患者の予後をより明確に区別できるか否かについて検討を行った。上皮型マーカーとしてはMSLN, CDH1 遺伝子等、肉腫型マーカー（上皮間葉転換マーカー）としてはVIM, CDH2 遺伝子等の発現レベルによって腫瘍を再分類して解析した。その結果、特に、病理組織型で上皮型と分類された悪性腫瘍を有する患者の中で、肉腫型マーカーの遺伝子発現を呈する腫瘍においては予後が有意に不良であることが明らかとなった。日本人患者と欧米人患者において、共に同じ結果が認められた。

以上の結果より、悪性中皮腫は、特徴的な活性型ドライバー変異を有せず、その意味では悪性中皮腫の遺伝子変異の検討を行うことは、分子標的治療の選択を行う意義は低いものの、遺伝子発現プロファイルにより患者の予後予測をより正確に予測できる点において有用性があることが示唆された。本研究成果を基軸に新たな治療戦略の構築に向けた取組みが重要であることが強く示唆された。

<研究課題2>

頭頸部癌症例対照研究

A case-control study for head neck cancer focusing on salivary gland.

<研究者氏名>

所属部 疫学・予防部
研究者氏名 伊藤秀美
共同研究者 松尾恵太郎、澤部 倫、長谷川泰久

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

頭頸部癌全般において、喫煙習慣は罹患リスクを上昇させる因子であるが、その唾液腺癌における意義に関しては国際的に結論が出ていない。我々は愛知県がんセンターにて実施された病院疫学研究のデータを用い、81名の唾液腺癌患者と、性・年齢を適合させた810名の疫学調査データを用い、①喫煙の唾液腺癌リスクへの影響、②唾液腺癌の詳細病理分類別の喫煙のリスクへの影響を検討する症例対照研究を実施した。喫煙は全唾液腺癌のリスクと正の相関関連が認められた。非喫煙者に対する重度喫煙者のオッズ比は3.45（95%信頼区間：1.58-7.51, $p=0.001$ ）であった。詳細な病理分類別の評価では、粘表皮癌のみにおいて統計学的に有意な関連が認められた。粘表皮癌以外の癌では非喫煙者に対する重度喫煙者のオッズ比は5.15（95%信頼区間：2.06-12.87, $p<0.001$ ）である一方、粘表皮癌では喫煙は有意な関連を示さなかった。喫煙との関連に関して粘表皮癌とそれ以外の癌との異質性の検定は $p=0.051$ であった。本研究の結果は、唾液腺癌リスクに対する喫煙の寄与が組織型別に異なる事を示すものであった。

<研究課題3>

遺伝子多型を含めた乳がんリスク予測モデリング
Risk prediction models for breast cancer considering impacts of single nucleotide polymorphisms.

<研究者氏名>

所属部 遺伝子医療研究部
研究者氏名 松尾恵太郎
共同研究者 伊藤秀美、岩田広治、岩崎 基、郡山千早、
春日井由美子、鵜飼知嵩

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

乳がんは多因子疾患であり、生活習慣を含む環境要因と遺伝的要因の組み合わせによりリスクが決まると考えられる。近年数多くの全ゲノム関連解析研究が報告され、乳がんリスクと関連する遺伝子座が多数報告されている。これらの情報をリスク予測に反映させる検討を行った。愛知県がんセンター、国立がん研究センター、鹿児島大学が実施した3つの症例対照研究をプールした症例対照研究を実施した。各々の研究で実施された質問票調査のハーモナイズを行った。また各々の症例・対照から収集したDNAを用い、既存の全ゲノム関連解析にて報告さ

れた 116 遺伝子多型を測定し、それらの中から 22 遺伝子多型を選び、予測モデルに利用した。最終的な予測モデルは、①遺伝子多型のみ、②環境要因のみ、③遺伝子多型、環境要因の組み合わせの三パターンで検討したところ、ROC 解析による AUC は、① 0.625、② 0.680、③ 0.715 であった。これらの結果より、乳がんリスクは、遺伝子多型と環境要因の組み合わせによる検討が最も精度が高いことが示された。今後本予測モデルを用い、リスクフィードバックによる行動変容の有無を検討する等、実用化に向けた検討を行う基礎データが得られた。

<研究課題 4>

がんに結合する高親和性 T 細胞受容体の樹立

<研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫学部

研究者氏名 太田里永子

共同研究者 葛島清隆、岡村文子、樋田豊明

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

目的：腫瘍免疫学部では、病院呼吸器内科と共同研究で HLA-A24 拘束性にヒトテロメライス (hTERT) 由来のペプチドを認識する細胞傷害性 T リンパ球 (cytotoxic T lymphocyte, CTL) クローン (K3-1) を樹立した。K3-1 は、HLA-24 を有する肺がん患者のがん性胸水中の肺がん細胞を傷害することができる。本年度は、この K3-1 から抗原受容体遺伝子 (TCR) を単離して、将来の TCR 導入 T 細胞療法に使用できるような高性能 (高親和性) の TCR に改変することを目的とした。

背景：がん抗原に特異的な T 細胞から単離した抗原受容体遺伝子 (TCR) を、レトロウイルスベクターなどを用いて患者の T リンパ球に導入することが可能である。このようにして作製した CTL を用いるがん免疫療法は、TCR 導入 T 細胞療法と呼ばれ有望な治療法の一つであり、これまでも様々な抗原を標的として開発が行われて来た。しかしながら、野生型 (CTL から取ったそのままのという意味) の TCR を使用した場合、TCR 導入 T 細胞療法はあまり臨床効果が出ないことが知られている。実際、臨床的に最も成功している TCR は、HLA-A2 拘束性 NY-ESO1 特異的 TCR α 鎖の相補性決定領域 (CDR) 3 のアミノ酸を変異させ親和性を増強したものである。ヒト TCR の親和性を *in vitro* で増強する最も効果的な方法はファージディスプレイ法であるが、昨年度に行った我々の検討では、ファージディスプレイ法では K3-1 から単離した TCR の親和性を増強することができなかった。この原因として K3-1 の TCR 蛋白はファージ表面に十分に表出されていないことが考えられた。そこで今年度は、独自に開発した 293T 細胞を用いた新規の TCR ディスプレイ法を用いて、K3-1 の TCR の親和性改良を行った。

進捗状況および結果：この TCR ディスプレイ法では、CD3 遺伝子を導入した 293T 細胞表面に、任意の一つの CDR 領域にランダムな変異を導入した TCR ライブラリーを表出させ、HLA/ペプチド-テトラマーで染色する。これにより、CD8 非依存的にテトラマーに結合する集団の出現をフローサイト

メーターで解析とソーティング (回収) をする。hTERT 特異的 TCR について 16 種類のライブラリーを作製し、スクリーニングをした結果、 β 鎖 CDR1 および 2 ライブラリーの中に、CD8 非依存的にテトラマーに結合する TCR の集団があることが判明した。さらにフローサイトメーターを用いたソーティングにより、多数の高親和性クローンを得た。レトロウイルスを用いてヒト T 細胞株に TCR 遺伝子導入した実験では、高親和性クローンは野生型に比べて 1,000 分の 1 濃度の抗原ペプチドを認識した。

考察：今回取得した TCR は、野生型に比べて親和性が 1000 倍以上増強されており、将来の TCR 導入 T 細胞療法に使用する TCR として有力な候補であると考えられた。しかしながら、親和性を増強した TCR を用いた TCR 導入 T 細胞療法の臨床試験では、予期せぬ交差反応性によって正常臓器を傷害した例が報告されている。今回取得した改変 TCR についても、臨床試験に入る前に正常細胞への交差反応性を十分に検討する必要がある。

<研究課題 5>

前立腺癌におけるホルモン治療に対する耐性獲得機序の解析
Mechanisms underlying acquisition of resistance for androgen deprivation therapy in prostate cancers

<研究者氏名>

所属部 感染腫瘍学部

研究者氏名 小根山千歳

共同研究者 泌尿器科 曾我倫久人

【目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等】

前立腺がんは、アンドロゲン感受性を有する腫瘍であり、抗アンドロゲン治療が実施される。実際は、Gonadotropin releasing hormone (GnRH) を使用した内科的去勢に追加して抗アンドロゲン剤 (bicalutamide もしくは flutamide) が併用されてきた。最近、作用機序が異なる GnRH antagonist、アンドロゲン受容体に親和性が高い enzalutamide、副腎性アンドロゲン産生抑制剤である abiraterone が使用可能になり、治療選択肢が増えたものの、適切な治療順序は明確でない。そこで、それぞれの薬剤の感受性を維持できれば、最終的に長期的な抗アンドロゲン治療が有効となると考え研究を行った。

まず、細胞培養時のテストステロン濃度を低い濃度から高い濃度まで 4 段階に調節した状態で細胞株を樹立することとした。具体的には、アンドロゲン感受性株である LNCaP 細胞を用いて、チャコール処理にてアンドロゲンを除去した血清をベースにアンドロゲン濃度を人為的に調節した。アンドロゲン濃度は、合成テストステロンを添加することにより、去勢前のアンドロゲン濃度を基準として 1/10、1/25、1/100 濃度となるように培養液を調製した。それぞれの条件下で LNCaP 細胞を何代にもわたり継代し、選別された前立腺癌株の樹立を目指した。今後は、テストステロン濃度別に樹立した前立腺癌株について、テストステロン濃度とがん形質との関わりを解明するた

め、細胞増殖能及び細胞運動能や浸潤能などについて評価を行う予定である。

第 10 回 NAGOYA グローバルリトリート, 大府, 2 月 16 日, 2018.

<研究課題 6>

大腸がん転移抑制遺伝子の同定およびその機能解析
Identification and functional analysis of colon cancer metastasis suppressor genes

<研究者氏名>

所属部 分子病態学部
研究代表者 佐久間圭一郎
共同研究者 佐々木英一、木村賢哉、清水泰博、
谷田部 恭、青木正博

【目的】

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関与するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、低転移性マウス大腸がん細胞株 CMT93 と shRNA ライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニング法を確立し、新規大腸がん転移抑制遺伝子として pre-mRNA スプライシングファクターをコードする *Hnrnp11* を同定した。ヒトにも *Hnrnp11* のオルソログ *HNRNPLL* が存在する。本研究課題では、*HNRNPLL* の機能および発現制御機構の解明をおこなう。

【研究成果】

平成 29 年度は、*HNRNPLL* の DNA 複製における役割を検討した。大腸がん細胞株 SW480 に *HNRNPLL* を強制発現すると、ノックダウンした場合に比べて、細胞周期が S/G2/M 期にある細胞の増加を認めた。両細胞の mRNA 発現量を RNA シーケンシングで網羅的に比較したところ、*HNRNPLL* 強制発現細胞では DNA 複製因子である *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の mRNA とタンパクの発現上昇を認めた。*HNRNPLL* はこれらの遺伝子の pre-mRNA および mRNA に結合し、転写阻害剤 actinomycin D による mRNA 減少を有意に抑制した。以上の結果から、*HNRNPLL* は *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の mRNA を安定化することでこれらの発現を増加させ、細胞周期の進行を促進することが示された。さらに、臨床検体において *HNRNPLL* と *PCNA*、*RFC3*、*FEN1* の発現量の正の相関を認め、*HNRNPLL* が *in vivo* においても細胞増殖を正に制御する可能性が示唆された。以上の成果を *Cancer Science* 誌に投稿した。

【成果発表】

1. 佐久間圭一郎、青木正博：Phenotypic roles of *HNRNPLL* in epithelial-to-mesenchymal and mesenchymal-to-epithelial transitions of colon cancer cells. 第 76 回日本癌学会学術総会, 横浜, 9 月 30 日, 2017.
2. 佐久間圭一郎、青木正博：HNRNPLL is a novel colon cancer metastasis suppressor that regulates alternative splicing of *CD44* during epithelial-mesenchymal transition.

4. プロジェクト研究（共同研究費）

<研究課題1>

組織構造を有した新規培養系による、前立腺がん検体の新評価

A new assessment of prostate cancers through a novel culture system presenting intact tissue architecture

<研究者氏名>

所属部 腫瘍医化学部

研究者氏名 猪子誠人

共同研究者 林 裕子、曾我倫久人、小倉友二、

谷田部 恭

【目的】

生体内の細胞を体外で培養することは一般的に難易度が高い。それ故に生体内の上皮組織構造を保ったまま培養する試みは未だ開発途上にある。これらは臨床検体の活用を狭める壁となっている。

最近、上皮幹細胞の無限増殖培養が、特殊な線維芽細胞が出す未知の因子と ROCK inhibitor によるアポトーシス阻害で可能になった (Richard Schlegel ら)。報告者もこれに類似の方法で前立腺上皮幹細胞を得ることができた。さらに報告者はこの幹細胞を過密培養させることで世界初の前立腺の2層分化誘導法を確立し、検体を生体にもっとも近い状態で培養できるシステムを整えた。すなわち正常前立腺が示す、基底幹細胞層と上層分化上皮層の2層構造を再現できるのである。

本研究では、この報告者が新規開発した生体内にもっとも近い培養法で前立腺がん検体を培養し、さまざまな段階にあるがんの特性評価を生きたまま分子レベルで達成することを主目的とする。これにより得た分子指標を総括し、今後増える前立腺がんへの個別対応化の礎を創る。

【方法】

高・中・低分化型腺がんに対応する Gleason score 6・7・8 以上の病理診断とこれに由来する培養細胞の基礎データを集めるため、以下のことを行う。

(1) 新規前立腺腫瘍患者 100-200 名に対し、泌尿器科部で通常行う診断前生検に加え、研究用にごん部を2検体追加採取する。この病理診断と紐付された検体の培養細胞化を腫瘍医化学部で行う。必要に応じて混入した正常細胞を除去し、がん幹細胞を単離する。

(2) 本法で培養した、生体内にもっとも近い状態でのがん細胞の特性を、詳細な免疫染色やウエスタンブロット、遺伝子解析で評価する。すなわち種々の上皮特性（細胞間接着、細胞極性、一次線毛）や圧迫に付随する細胞収縮や逸脱を表す分子マーカー（リン酸化ミオシン等）および遺伝子変異として評価し、正常分化状態との差を見出す。

【結果】

正常幹細胞の2階層分化過程を詳細に観察することにより、

ミオシン重鎖リン酸化・デスモソーム・微小管被膜にみられる新規分子の積極的な分化関与を見出した。

いくつかのがん症例の由来する幹細胞からも、これまでにない異常分子指標を見出した。病理診断上「単層+癒合型」は頻度の高い中悪性度のがんである。この検体から培養したクローン細胞は同様の組織構築異常を示した。さらに正常分化で見出した分子指標の重要性を支持するように、本がん症例では中心体での間期微小管形成能（形成中心ともいう）が減弱していた。同時にデスモソームマーカー（デスモプラキリン）も減少していた。Ezrin の細胞内蓄積は輸送障害の示唆を与える。またウエスタンブロットングでは p53, p21, p27, Rb など DNA 障害チェックポイントが消失する一方で p16 が増加するといった、いびつな細胞周期チェックポイントを呈した。

【考察】

このように、細胞構造や細胞周期の病的老化が個人の症例に由来する生きた幹細胞で特定されたのは初めての発見である。今後は症例数を増やしつつ、異常分子指標を病状の程度に応じて層別化し、またそれらを生きた細胞で遺伝子操作することで生物学的に実証確認をとる。これにより、これまで化学固定された検体では見逃してきたと考えられるがん診断・治療に役立つ標的分子の取得を目指し、将来的な個別化・層別化医療開発のシーズとする。

<研究課題2>

TAZ 活性化による中皮細胞がん化の分子機構の解明

Molecular mechanism of mesothelial cell transformation by TAZ activation

<研究者氏名>

所属部 分子腫瘍学部

研究者氏名 佐藤龍洋

共同研究者 向井智美、松下明弘、奥田真帆、水野鉄也、

関戸好孝

【目的】

胸膜中皮腫はアスベスト曝露を主な原因とする中皮細胞由来のがんであるが、既存の抗がん剤に抵抗を示し、発見時にはすでに外科的切除が困難なケースが多いことなどから、極めて予後が悪い。また、アスベスト曝露から中皮腫発症までの潜伏期間は約 40 年と長く、今後も患者の増加が予想されている。そのため、新規抗中皮腫治療薬の開発が急務であるが、他のがん種と異なり中皮腫ではがん抑制遺伝子の変異が主であり、ドライバー遺伝子の変異が稀であることなどから、新たな治療標的因子の同定が必要とされる。分子腫瘍学部では、これまでに患者から多数の中皮腫細胞株を樹立してこれらを解析し、Hippo シグナル伝達経路の不活性化が中皮腫発症に関連する可能性を示唆してきた。さらに近年、Hippo シグナル伝達経路が

不活性化された中皮腫細胞株を解析したところ、転写活性化因子 TAZ の活性化と、それによる中皮細胞がん化の関連性を示唆するデータを得た。そこで本研究では、TAZ 活性化による中皮細胞がん化の分子機構を解析してこれを明らかにし、これらの研究成果から新たな中皮腫治療のターゲットの同定に寄与することを目的とする。

【方法】

私たちが樹立した正常不死化中皮細胞株 HOMC-D4 に活性化 TAZ 変異体 (TAZ S89A) を導入した細胞を 2 日間培養し、培地中に含まれるインターロイキン 1 β 量を ELISA 法により測定した。次にリコンビナントのインターロイキン 1 β を最終濃度 10 ng/mL になるように培養液に添加して細胞を培養し、細胞数の継時的変化の測定、および細胞運動アッセイ、細胞浸潤アッセイを行ってインターロイキン 1 β の細胞がん化への関与を調べた。TAZ S89A によるインターロイキン 1 β の発現調節機構については、IL1B プロモーター領域とルシフェラーゼ遺伝子を融合したプラスミドを TAZ S89A 発現 HOMC-D4 細胞に導入し、ルシフェラーゼアッセイにより解析した。

【結果】

活性化 TAZ 変異体を発現した HOMC-D4 細胞では、野生型 TAZ を発現した細胞もしくは親株と比較して、培養液中のインターロイキン 1 β 量が増加していた。このことから、TAZ の活性化は転写活性化によるインターロイキン 1 β の分泌を促進すると考えられた。そこで、インターロイキン 1 β の分泌が中皮細胞のがん化に関与するか検討した。野生型 TAZ を発現した HOMC-D4 細胞の培養液中にインターロイキン 1 β を添加して培養したところ、非添加培養の細胞と比較して細胞増殖が促進された。また、インターロイキン 1 β の培地中への添加は、野生型 TAZ を発現した HOMC-D4 細胞の運動、浸潤能が上昇した。これらの結果から、TAZ によるインターロイキン 1 β の分泌は細胞がん化を促進すると考えられた。一方、活性化 TAZ を発現した細胞では増殖の促進は見られず、活性化 TAZ によるインターロイキン 1 β の分泌増加が細胞増殖を促進していると考えられた。インターロイキン 1 β の分泌亢進は、TAZ による転写活性化によるものであると予想し、TAZ が作用する IL1B プロモーター領域について解析を行った。その結果、TAZ は IL1B の TSS 上流 300 bp の領域で転写活性を制御している可能性を明らかにした。

【考察】

本研究結果から、TAZ の活性化は IL1B のプロモーターに作用して転写を活性化させ、それがインターロイキン 1 β の産生と細胞外分泌を促すことで、中皮細胞の増殖、運動、浸潤能が亢進するのではないかと考えられた。今後、さらに詳細な分子機構を明らかにするとともに、TAZ の活性化が認められる悪性中皮腫に対してインターロイキン 1 β が治療標的となりうるか、培養細胞もしくは実験動物を用いて検証する必要がある。

<研究課題 3>

漿液性嚢胞性腫瘍および悪性膵内分泌腫瘍に対するプローベ型共焦点内視鏡の検討

Needle based confocal laser endomicroscopy for SCN and pNET

<研究者氏名>

所属部 消化器内科部

研究者氏名 奥野のぞみ

共同研究者 原 和生、桑原崇通、水野伸匡、松尾恵太郎

【目的】

膵病変に対する診断の進歩にはめざましいものがあり、主な診断法としては、1. CT・MRI・PET などの画像検査 2. 超音波内視鏡および超音波内視鏡下穿刺吸引法 3. 内視鏡的逆行性膵胆管造影検査 (ERCP) があげられる。膵病変に対し、当院では確定診断のために超音波内視鏡下穿刺吸引法 (EUS-FNA) を施行しており、正診率は 95% 以上と良好な成績を得ている。しかし、漿液性嚢胞性腫瘍 (SCN) や膵管内乳頭粘液性腫瘍においては画像診断のみでは鑑別が困難である症例や 10mm 以下の小病変においては EUS-FNA による検体採取が困難な症例を経験する。現在、生検診断のみに頼らず生体内で生きた状態の細胞を直接観察することができ、細胞レベルでの診断を可能にするプローベ型共焦点内視鏡に注目が集まっている。これまで行われてきた画像検査を大きく凌駕する可能性があり、漿液性嚢胞性腫瘍および膵内分泌腫瘍 (pNET) に対するプローベ型共焦点内視鏡の有用性を明らかにすることを目的とした。

【方法】

病理組織学的診断が必要な SCN や 10mm 以下の pNET が疑われる症例で、患者本人より文書同意が得られた症例に対し EUS-FNA の際に共焦点プローベ型内視鏡による観察を行う。プローベ型共焦点内視鏡については、EUS-FNA をおこなう際に 19G の穿刺針よりプローベを挿入し、10% フルオロセイン 2.5ml - 5ml を静脈内投与したのちに病変の観察をおこなう。15 分以内に術者が病変部の診断が可能と思われる細胞像を得られた場合には手技の完遂とし、診断可能な細胞像が得られない場合には手技の不成功と定義した。

最終診断は、手術検体による病理組織学的診断あるいは半年以上の経過観察による臨床診断とした。

Primary endpoint を安全性、Secondary endpoint を手技の完遂率および有用性とし、予定症例数は 10 例を目標とした。

【結果】

結果 1 : SCN が疑われた 6 例の検討

年齢中央値 72 (46-77) 歳、男女比 3/3 であった。腫瘍径中央値は 23(4-37)mm であり、部位別にみると頭部 / 体部 / 尾部 1/4/1 であった。プローベ型共焦点内視鏡により SCN と診断可能であった症例は 50% (3/6 例) であり、残りの 3 例については診断可能な所見は得られなかった。EUS-FNA は全例で施行しており、検体採取率は 66.7% (4/6 例) であった。検体採取が可能であった 4 症例は良性の診断は可能であったが、病理

組織学的に SCN の診断は得られなかった。偶発症は 1 例に腭液漏を認め、保存的に改善した。

結果 2：10mm 以下の pNET が疑われた 5 例の検討

年齢中央値 58 (50-76) 歳、男女比 4/1 であった。腫瘍径中央値は 8 (7-10) mm であり、全例体部病変であった。プローベ型共焦点内視鏡により pNET と診断可能であった症例は 60 % (3/5 例) であった。EUS-FNA は全例で施行しており、検体採取率は 60.0% (3/5 例) であり、1 例は pNET の診断であり、2 例は良性の診断であった。

良性と診断された 2 例のうち 1 例がセルビジオでは pNET の診断であり、手術を施行し最終診断も pNET であった。偶発症は 1 例も認めなかった。

【考察】

今回、小数例の検討ではあるが、偶発症は 1 例のみであり、重症例や致命的な症例は認めなかった。セルビジオで診断が可能であった症例は、54.5% (6/11 例) であり、十分な成績ではなかった。しかしながら、EUS-FNA の検体採取率も 64.6% (7/11 例) と低率であり、病理組織学的には診断がつかず、セルビジオのみで診断が可能であり手術を施行できた pNET の 1 例も経験した。本検討のように EUS-FNA による病理組織学的診断が困難である症例においては、セルビジオの診断能の向上が得られれば臨床的に有用である可能性は示唆された。

<研究課題 4>

次世代シーケンサーを用いた個別化医療の確立を目指した悪性リンパ腫の遺伝子変異解

Genome-wide mutational analyses of malignant lymphomas leading to the establishment of individualized medicine

<研究者氏名>

所属部 血液・細胞療法部、遺伝子医療研究部

研究者氏名 加藤春美

共同研究者 山本一仁、片山美幸

【背景・目的】

成人リンパ芽球性リンパ腫 (LBL) は希少疾患であり、リンパ系前駆細胞腫瘍として同一疾患概念に定義づけられている急性リンパ芽球性白血病 (ALL) と比して、分子病態に関する研究はまだまだ十分でない。本研究の全体構想は、次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝子解析を実施し、LBL と ALL の比較検討を行うことによって、LBL の病因に特徴的に関わる遺伝子変異およびシグナルパスウェイを明らかにすることである。臨床応用可能な分子病態を解明し、患者の層別化および個別化治療の確立、および分子標的治療へ発展するための研究基盤を確立することを目的としている。

【方法および結果】

希少疾患である成人 T 細胞リンパ芽球性リンパ腫に対しては、強力な化学療法である hyper CVAD/MA 交代療法にひきつづく強化・維持療法での良好な治療成績 (Thomas et al.

Blood 2004) の報告結果を受けて、当院でも 2005 年以降、成人 T 細胞リンパ芽球性リンパ腫に対して同様の治療を継続的に実施し、良好な成績を得ている。

細胞起源の同定については、前回報告したように以下の抗体、抗 CD1a, CD2, cCD3, sCD3, CD7, CD34 抗体を用いて腫瘍細胞の表現型の解析をおこなった。4 症例は cortical T-cell type、2 症例は medullary T-cell type、2 例は pro T/pre T-cell types であった。これら 8 症例のうち、2 例で再発をみとめ、再発を認めた症例は pro/pre T-cell types と診断された症例であった。

小児急性リンパ芽球性白血病では、early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemia と診断される表現型を示す症例のうち、T 細胞表現型として CD1a 陰性、CD8 陰性、CD5dim を有する腫瘍細胞で、さらに myeloid/stem cell antigens として CD13, CD33, CD34, CD117, and/or HLA-DR を発現している症例の予後は不良な経過を示すことが報告されている。(Coustan-Smith et al. Lancet Oncol 2009)。当院の症例においても pro T-cell type の症例が early T-cell precursors の表現型と診断され、本症例は hyper CVAD/MA 交代療法中に早期再発を認め、化療抵抗性を有する症例であったことを示した (Kato H et al. Hematology. 2017; ahead of print)。Early T-cell precursors の表現型を含む上記 8 症例のうち、正常細胞からの DNA を抽出可能な症例について、腫瘍細胞における遺伝子変異解析の検討をおこなった。腫瘍割合が 8 割以下の症例に関しては、磁気細胞分離法を用いて細胞純化を行った後に、DNA の抽出後にライブラリー作成し、次世代シーケンサーを用いて、全エクソン解析をおこなった。現在、詳細な解析を進めつつ、臨床情報との関連を検討し、予後・治療予測因子となるマーカーにつき統計学的解析を行っている。

【考察および結語】

ALL における遺伝子変異解析・パスウェイ解析のデータに関しては、国内外より多くの報告がこれまで行われています。それらの実験結果に基づいた分子標的治療薬の開発は目覚ましく、臨床応用も行われています。しかし、成人 LBL の研究に関しては網羅的遺伝子解析についてのデータに乏しい状況です。現在、LBL では強力な化学療養や自家移植で良好な治療成績がえられえいる一方で、初回治療不応の症例の予後は不良であり、これらの症例の治療反応性を事前に予測することが、LBL の治療成績の改善に重要な課題と考えられています。将来的な治療成績向上に寄与可能となる遺伝子異常などの発見を目指し、今後解析をすすめる予定です。

第2章 研究発表関係

1. 学会等における研究発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下幽門保存胃切除術における体腔内胃胃端々吻合の手技. 第72回日本消化器外科学会総会,2017,(金沢)[ビデオセッション]
- 002 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 残胃癌におけるリンパ節転移と至適郭清範囲の検討. 第72回日本消化器外科学会総会,2017,(金沢)[口演]
- 003 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 胃癌切除症例の検討. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 004 重吉 到, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 木下 平: 当院に於ける胃重全摘症例の術後短期成績と栄養評価. 第47回胃外科・術後障害研究会,2017,(横浜)[口演]

2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Hirayama Y, Tajika M, Tnaka T, Ishihara M, Ohnishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Niwa Y** : Significance of Preoperative Screening Colonoscopies in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma. DDW2017,2017,(Chicago)[ポスター]
- 002 **Mizuno N, Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura S, Ito Y, Hiraoka N, Ioka T, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Shimizu K, Okusaka T, Ozaka M, Yanagimoto H, Nakamori S, Azuma T, Hosokasa A, Ishii H, Furuse J** : (JCOG) JCOG: Effect of inflammatory and nutritional (IN) status on induction chemotherapy (CT) followed by chemoradiotherapy (CRT) for locally advanced pancreatic cancer (LAPC): an exploratory subgroup analysis of JCOG1106. ASCO 2017,2017,(Chicago) [ポスター]
- 003 **Ueno M, Ioka T, Ueno H, Park JO, Chang H-M, Sasahira N, Kanai M, Chung I-J, Ikeda M, Nakamori S, Mizuno N, Omuro Y, Yamaguchi T, Hara H, Sugimori K, Furuse J, Takeuchi M, Okusaka T, Boku N, Hyodo I** : TAS-118 (S-1 plus leucovorin) versus S-1 in gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer : A randomized, open-label, phase III trial (GRAPE trial) . ASCO 2017,2017, (Chicago) [ポスター]
- 004 **Okuno N** : EUS-FNA. 上海交通大学新華医院 Workshop,2017,(上海) [講演]
- 005 **Hara K** : EUS/EUS-FNA Hands-on. 上海交通大学新華医院 Workshop,2017,(上海) [ワークショップ]
- 006 **Hara K** : Advanced EUS-FNA techniques. 上海交通大学新華医院 Workshop,2017,(上海) [特別講演]
- 007 **Hara K** : Interventional EUS. Southern Forum on GI Diseases & Endoscopy 2017 Annual congress of small enteroscopy 2017,2017,(広州) [講演]
- 008 **Okuno N** : Organizing of endosonography in Aichi Cancer Center. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [講演]
- 009 **Okuno N** : Anatomy of the pancreatobiliary area scanning with convex echoendoscope. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [講演]
- 010 **Hara K** : Techniques of EUS-FNA, Live Demo. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [ワークショップ]
- 011 **Hara K** : EUS-FNA. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [特別講演]
- 012 **Hara K** : Advanced EUS-guided techniques. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [特別講演]
- 013 **Hara K** : EUS-FNA for unusual lesions, Live demo. RASEUS COURSE 2017,2017,(チャラビンスク) [ワークショップ]
- 014 **Hara K** : Role of EUS in diagnosis and treatment for pancreatic neoplasms. Japan-Thailand International Workshop on Therapeutic GI Endoscopy,2017,(バンコク) [講演]
- 015 **Hara K** : Interventional EUS workshop. Japan-Thailand International Workshop on Therapeutic GI Endoscopy,2017,(バンコク) [ワークショップ]
- 016 **Hara K** : Interventional Endoscopy for pancreato-biliary system. Japan-Thailand International Workshop on Therapeutic GI Endoscopy,2017,(バンコク) [ワークショップ]
- 017 **Hara K** : Video Session II : HPB Plenary. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai), [座長]
- 018 **Hara K** : Present status & Future perspective of Gastrojejunostomy. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai) [講演]
- 019 **Hara K** : EUS-BD is 1st line therapy for unresectable distal malignant obstruction? Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai) [講演]
- 020 **Hara K** : ADVANCED HANDS ON. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai) [座長]
- 021 **Okuno N** : EUS-guided hepaticocenterostomy for primary drainage in patients with surgically-altered upper gastrointestinal anatomy and malignant biliary obstruction. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai) [ポスター]
- 022 **Ueno M, Morizane C, Kawamoto Y, Takahashi H, Naruge D, Shimizu S, Nakamura K, Nakajima TE, Kato T, Kudo T, Mizuno N, Ohtsubo K, Itoh S, Ishii H, Sudo T, Nomura S, Fujii S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T** : The nationwide cancer genome screening project in Japan, SCRUM-Japan GI-screen: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced biliary tract cancer. ESMO 2017,2017,(Madrid, Spain) [ポスター]
- 023 **Shirasu H, Omae K, Fujii H, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Seigo Y, Takafumi H, Henmi T, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A** : The impact of UGT1A1 genetic polymorphism on safety in unresectable pancreatic cancer patients receiving FOLFIRINOX therapy : A subset analysis of JASPAC 06 study. ESMO 2017,2017,(Madrid, Spain) [ポスター]
- 024 **Kobayashi N, Omae K, Horita Y, Ueno H, Mizuno N, Uesugi K, Sudo K, Ozaka M, Hayashi H, Okano N, Kamei K, Yamaguchi A, Kobayashi S, Suzuki S, Ishihara S, Uchiyama T, Todaka A, Fukutomi A** : FOLFIRINOX as second-line chemotherapy for advanced pancreatic cancer : A subset analysis from the nation-wide multicenter observational study (JASPAC06). ESMO 2017,2017,(Madrid, Spain) [ポスター]

- 025 **Ikeda M, Sasaki T, Morizane C, Mizuno N, Nagashima F, Shimizu S, Hayata N, Ikezawa H, Suzuki T, Nakajima R, Dutcus C, Ueno M** : A phase 2 study of lenvatinib monotherapy as second-line treatment in unresectable biliary tract cancer: Primary analysis results. ESMO 2017,2017,(Madrid, Spain),[ポスター]
- 026 **Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Okusaka T, Ito T, Okano N, Mizuno N, Ikeda M, Ueno M, Shioji K, Ozaka M, Shimizu S, Sakamoto Y, Kondo S, Kawabe K, Eba J, Ishii H, Fukuda H, Furuse J** : Randomized phase II study of modified FOLFIRINOX versus gemcitabine plus nab-paclitaxel combination therapy for locally advanced pancreatic cancer : Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1407). ESMO 2017,2017,(Madrid, Spain),[ポスター]
- 027 **Hara K** : LIVE DEMO from BIDS. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai),[司会]
- 028 **Hara K** : EUS-BD: Current Status. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai),[講演]
- 029 **Hara K** : India Symposium. Asian EUS congress 2017,2017,(Mumbai),[座長]
- 030 **Hara K** : EUS Teaching subcommittee: teaching material. AEG research forum 2017,2017,(香港),[ワークショップ]
- 031 **Hara K** : Interventional EUS for pancreato-biliary diseases. 第10回新華医院学会, 2017,(上海),[特別講演]
- 032 **Hara K** : LIVE DEMO. 第10回新華医院学会,2017,(上海),[ワークショップ]
- 033 **Hara K** : EUS for pancreatic malignancy. 第10回新華医院学会 Hands-on training,2017,(上海),[講演]
- 034 **Hara K** : LIVE DEMO. 第10回新華医院学会 Hands-on training,2017,(上海),[ワークショップ]
- 035 **Okuno N** : The way to the pancreatobiliary endosonographer. 第10回新華医院学会 Hands-on training,2017,(上海),[講演]
- 036 **Hara K** : Management of Necrotizing pancreatitis. UNIVERSITY of MINNESOTA,2017,(ミネソタ),[ワークショップ]
- 037 **Umemoto K, Takahashi H, Morizane C, Yamada I, Shimizu S, Shioji K, Yoshida Y, Motoya M, Mizuno N, Kojima Y, Terashima T, Uesugi K, Ikeda M, Ueno M, Furuse J** : FOLFIRINOX in advanced pancreatic cancer patients with the double-variant type of UGT1A1 polymorphism : A multicenter, retrospective study. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium,2018,(San Francisco),[ポスター]
- 038 **Ueno M, Yamanaka T, Ogura T, Yamaguchi A, Mizuno N, Ozaka M, Ueno H, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Hosokawa T, Henmi T, Kobayashi M, Todaka A, Fukutomi A** : The influence of biliary drainage in patients with advanced pancreatic cancer receiving FOLFIRINOX. 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium,2018,(San Francisco),[ポスター]
- 039 **Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ozaka M, Sugimori K, Fukutomi A, Hara H, Mizuno N, Yanagimoto H, Sano K, Tobimatsu K, Yane K, Nakamori S, Sata N, Yukisawa S, Ishii H, Furuse J** : (JCOG) JCOG: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: a Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113, FUGA-BT). 2018 Gastrointestinal Cancers Symposium,2018,(San Francisco),[口演]
- 040 **Hara K** : Recent EUS for pancreas in JAPAN. Interventional EUS Workshop in Yangon General Hospital,2018,(ヤンゴン),[講演]
- 041 **Hara K** : EUS Live Demo. Interventional EUS Workshop in Yangon General Hospital,2018,(ヤンゴン),[ワークショップ]
- 042 **Hara K** : EUS and ERCP Live Demo. Interventional EUS Workshop in Yangon General Hospital,2018,(ヤンゴン),[ワークショップ]
- 043 **脇岡 範** : GEP-NET の適切な診断・治療のために ～最新の知見に基づく update～. Novartis Oncology Web Seminar,2017,(名古屋),[講演]
- 044 **脇岡 範** : 胆膵内視鏡の最前線～今昔物語～. 第3回山鹿消化器疾患治療セミナー,2017,(熊本),[講演]
- 045 **原 和生** : Interventional EUS Live demo. Interventional EUS workshop,2017,(沖縄),[ワークショップ]
- 046 **大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 藤田 曜, 近藤 尚, 鈴木貴博, 鳥山和浩, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正** : 当院における大腸 ESD 中途断念症例の検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[一般口演]
- 047 **田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 鳥山和浩, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 伊東文子, 小森康司, 谷口浩也, 原和生, 清水泰博, 室 圭, 谷田部 恭, 丹羽康正** : BRAF 変異陽性切除不能進行・再発大腸癌の臨床病理学的検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[口演]
- 048 **松本慎平, 原 和生, 清水泰博** : 80歳以上の高齢膵癌患者に対する単施設における治療成績. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[シンポジウム]
- 049 **岩屋博道, 脇岡 範, 原 和生** : 分枝型膵 IPMN における壁肥厚径の癌化予測因子としての有用性について. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[パネルディスカッション]
- 050 **伊東文子, 脇岡 範, 原 和生** : 進行膵癌に対する FFX 療法と GnP 療法の臨床的検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[シンポジウム]
- 051 **伊東文子, 脇岡 範, 原 和生** : 進行膵癌に対する FOLFIRINOX 療法 (FFX) と nab-PTX/GEM 療法 (GnP) の臨床的検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[シンポジウム]
- 052 **岩屋博道, 脇岡 範, 原 和生** : 分枝型膵 IPMN における壁肥厚径の癌化予測因子としての有用性について. 第

- 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[シンポジウム]
- 053 原 和生: Interventional EUS の実際とコツ. 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[イブニングセミナー]
- 054 倉岡直亮, 脇岡 範, 原 和生: 123I MIBG シンチグラフィの集積亢進を認め paraganglioma と鑑別困難であった GIST の 1 例. 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[デジタルポスター]
- 055 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の診断と治療. 帝人ファーマ株式会社 社内講演会,2017,(名古屋)[講演]
- 056 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生, 丹羽康正: 当院における大腸拡大 NBI 分類 (JNET 分類) の有用性と問題点に関する検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[一般演題]
- 057 伊東文子, 原 和生, 丹羽康正: The role of endoscopy in the diagnosis of pancreatic cancer. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[パネルディスカッション]
- 058 岩屋博道, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正: 当院における抗血栓薬内服者に対する EUS-FNA の現状. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[シンポジウム]
- 059 倉岡直亮, 原 和生, 丹羽康正: 肝門部悪性胆道狭窄に対する 6mm covered self-expandable metal stent の有効性についての検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[ワークショップ]
- 060 原 和生: 内視鏡医が求める ERCP 検査室. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[ランチョンセミナー]
- 061 奥野のぞみ, 原 和生, 丹羽康正: PD14-5. 安全かつ効果的な Interventional EUS の教育法. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[パネルディスカッション]
- 062 松本慎平, 原 和生, 脇岡 範: EUS-CDS を安全に施行するために. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[パネルディスカッション]
- 063 原 和生: 症例ディスカッション. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[ワークショップ]
- 064 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 平山 裕, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 当院における早期大腸癌の深達度診断や治療に画像強調観察 (IEE) が及ぼす影響. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[ポスター]
- 065 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 当院における StageI の食道癌に対する内視鏡切除 (ER)+ 化学放射線療法 (CRT) の治療成績. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[口演]
- 066 原 和生: 膵癌の診断と最新の内視鏡治療. がんセンター市民公開講座,2017,(名古屋)[講演]
- 067 脇岡 範: 内視鏡医の立場から: 十二指腸ステントを中心に. 第 46 回日本 IVR 学会総会,2017,(岡山)[講演]
- 068 脇岡 範: 超音波内視鏡指導. 公立多良木病院胆膵超音波研究会,2017,(熊本)[実技指導]
- 069 原 和生: 膵臓癌について. 臨床腫瘍セミナー,2017,(名古屋)[講演]
- 070 原 和生: 膵胆道癌診療の進歩. 靱月消化器フォーラム,2017,(金沢)[特別講演]
- 071 脇岡 範: 神経内分泌腫瘍 治療の現状と今後の展望. 第 3 回 KANAGAWA NET FORUM,2017,(横浜)[講演]
- 072 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の治療戦略「ストレプトゾシンは first-line therapy となりうるか?」. 熊本 GEP-NET 懇話会,2017,(熊本)[講演]
- 073 岩屋博道, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 丹羽康正: 当院で経験した胆嚢神経内分泌癌の 10 例. 第 232 回日本内科学会東海地方会,2017,(名古屋)[一般演題]
- 074 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の治療戦略「ストレプトゾシンは first-line therapy となりうるか?」兵庫 GEP-NET カンファレンス,2017,(神戸)[講演]
- 075 脇岡 範, 原 和生, 丹羽康正: 膵が同定困難な場合に対する膵実質同定の工夫～膵辺縁のメルクマールを用いた抽出法～. 第 56 回日本消化器がん検診学会総会,2017,(茨木)[ワークショップ]
- 076 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の治療戦略- ストレプトゾシンは first-line therapy となりうるか? 千葉 GEP-NET カンファレンス,2017,(千葉)[講演]
- 077 脇岡 範: 神経内分泌腫瘍の治療～ストレプトゾシン療法を中心に. 座談会 Expert Meeting,2017,(東京)[座談会]
- 078 大西祥代, 夏目誠治, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 谷田部 恭, 清水泰博, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 正常肝に発生した若年性肝細胞癌の一例. 第 126 回日本消化器病学会東海地方会,2017,(岐阜)[症例報告]
- 077 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生, 丹羽康正: 狭窄症状で発見された Hyperplastic/serrated polyposis syndrome(HPS) の一例. 第 126 回日本消化器病学会東海地方会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 078 原 和生: IPMN 関連膵癌と EUS 診断. 第 109 回日本消化器内視鏡学会北陸支部例会,2017,(富山)[教育講演]
- 079 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の治療戦略「ストレプトゾシンは first-line therapy となりうるか?」鳥取 NET 講演会,2017,(鳥取)[講演]
- 080 脇岡 範: 神経内分泌腫瘍 治療の現状と今後の展望. 京滋 NET Academy2017,2017,(京都)[講演]
- 081 河合秀子, 高柳夏未, 渡辺経子, 鈴木君枝, 石川まり,

- 西川勢津子, 山本一仁, 水野伸匡, 原 和生, 清水康博: 膵癌臨床試験における多職種支援チーム医療の中でのCRCの関わり。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[口演]
- 082 脇岡 範: 消化管NETに対する診断と治療の最前線。第87回大腸癌研究会,2017,(三重)[講演]
- 083 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生: VS1-10 膵癌症例におけるEUS下胆道ドレナージの基本と応用。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[ビデオシンポジウム]
- 084 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生: 非典型的な画像形態を呈する膵神経内分泌腫瘍(G1/G2)の臨床的意義についての検討。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[ミニシンポジウム]
- 085 原 和生: ミニパネルディスカッション5 膵嚢胞性腫瘍(IPMNを除く)に対する診断と治療の現状。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[座長]
- 086 脇岡 範: pNETに対する術前・術後の診断。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[講演]
- 087 脇岡 範 他: 膵NETの組織および画像診断の進歩: ガイドラインの問題点と今後の展望。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[シンポジウム]
- 088 伊東文子, 水野伸匡, 夏目誠治, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 脇岡 範, 千田嘉毅, 清水泰博, 原 和生: 当院におけるBorderline resectable 膵癌の治療成績。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[口演]
- 089 倉岡直亮, 原 和生, 丹羽康正: 当院における主膵管狭窄・拡張に対するENPD留置下膵液細胞診の成績。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[シンポジウム]
- 090 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ: 膵癌の早期診断における内視鏡検査の役割。第48回日本膵臓学会大会,2017,(京都)[シンポジウム]
- 091 原 和生: EUS標準的描出法。EUS標準的描出委員会,2017,(京都)[講演]
- 092 脇岡 範: pNET 診断と治療。千葉県pNET/GISTセミナー,2017,(千葉)[講演]
- 093 脇岡 範: 膵神経内分泌腫瘍におけるMGMT発現とストレプトゾシンの治療,の相関に関する検討。第15回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸)[講演]
- 094 脇岡 範: 膵・消化管神経内分泌腫瘍の最新の診断と治療～WHO2017新分類を踏まえて～。第15回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸)[講演]
- 095 脇岡 範: 膵癌化学療法におけるGem/nab-PTXの取り組み。Pancreatic Cancer Expert Meeting,2017,(福山)[講演]
- 096 脇岡 範: 膵臓がんの術前化学療法について。Pancreatic Cancer Expert Meeting,2017,(福山)[パネルディスカッション]
- 097 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 小森康司, 木下敬史, 原 和生, 清水泰博 丹羽康正: 家族性大腸腺腫症に対する術式の選択やサーベイランスの検討。第23回日本家族性腫瘍学会,2017,(札幌)[口演]
- 098 脇岡 範: 胆膵内視鏡の診断・治療の最前線～今昔物語～。第8 EXPERT MEETING,2017,(熊本)[講演]
- 099 奥野のぞみ, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田祐介, 原 和生: 当院におけるEZ shot 3 plusの使用経験。第16回FNA-club Japan,2017,(東京)[口演]
- 100 原 和生: EUS-FNA 偶発症。第16回FNA-club Japan,2017,(東京)[基調講演]
- 101 脇岡 範: 膵NETに対するザノサーの成績と今後の展望。ノーベルファーマ勉強会,2017,(名古屋)[講演]
- 102 工藤千穂, 水野伸匡, 安藤正志: 愛知県がんセンター中央病院におけるSMOを活用した治験の取り組み。第17回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2017,2017,(名古屋)[ポスター]
- 103 脇岡 範: 消化管NETの診断・治療。第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2017,(仙台)[講演]
- 104 鳥山和浩, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 室 圭, 原 和生, 丹羽康正: 当院における消化管神経内分泌腫瘍(GI-NET)に対する薬物療法の成績。第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2017,(仙台)[一般演題]
- 105 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 安田宗司, 栗田祐介, 田中宏樹, 小畑雅寛, 倉岡直亮, 松本慎平, 伊東文子, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 谷田部 恭, 原 和生: 膵NEN-G3の臨床病理学的特徴と治療戦略についての検討。第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2017,(仙台)[ポスター]
- 106 松本慎平, 脇岡 範, 今村正之, 上野 誠, 古川正幸, 吉富秀幸, 小林規俊, 池田公史, 伊藤鉄英, 中森正二, 石井 浩, 児玉裕三, 森実千種, 柳本泰明, 北野雅之, 真口宏介, 河本 泉, 古瀬純司, 吉田 司, 原 和生, 水野伸匡: 膵神経内分泌癌における外科手術の意義。第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2017,(仙台)[シンポジウム]
- 107 脇岡 範: 膵・消化管内分泌腫瘍の治療戦略～ストレプトゾシンはfirst-line therapyとなりうるか?～。富山GEP-NET懇話会,2017,(富山)[講演]
- 108 脇岡 範: IPMNと膵のう胞性疾患について。第3回公立多良木病院胆膵超音波研究会,2017,(熊本)[講演]
- 109 原 和生: IPMNの診断とマネージメント。木曜会,2017,(東京)[特別講演]
- 110 原 和生: 膵2。第67回日本消化器画像診断研究会,2017,(札幌)[座長]
- 111 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田祐介, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 横這型早期胃癌の1例。第14回拡大内視鏡研究会,2017,(札幌)[口演]
- 112 伊東文子, 原 和生, 田近正洋, 水野伸匡, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平,

- 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 谷田部 恭, 村上善子, 丹羽康正: 遠位胆管に局限する胆管狭窄を来し胆管癌との鑑別を要した好酸球性胆管炎の一例. 第 67 回日本消化器画像診断研究会, 2017,(札幌),[口演]
- 113 倉岡直亮, 原 和生, 丹羽康正: 内視鏡的乳頭切除術の適応と限界. 第 53 回日本胆道学会学術集会, 2017,(山形),[一般演題]
- 114 伊東文子, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 当院における肝門部胆管癌、肝内胆管癌に対する化学療法の治療成績. 第 53 回日本胆道学会学術集会, 2017,(山形),[口演]
- 115 奥野のぞみ, 桑原崇通, 原 和生: O-200 術後腸管を有する悪性胆管狭窄に対する primary drainage としての EUS ガイド下経肝胆道ドレナージ術の検討. 第 53 回胆道学会, 2017,(山形),[一般演題]
- 116 原 和生: Convex EUS の標準的描出法. 消化器内視鏡推進連絡会 コンベックス型超音波内視鏡描出法標準化検討部会, 2017,(東京),[口演]
- 117 大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 鳥山和浩, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における B 型肝炎再活性化の検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[ポスター]
- 118 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 表在型パレット食道腺癌における SSBE と LSBE の臨床病理学的検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[口演]
- 119 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正: 人工知能を用いた IPMN 術前悪性予測の有用性. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[ポスター]
- 120 奥野のぞみ: P-88 胆膵疾患に対する胆道鏡・膵管鏡 (Spy Glass DS) の有用性. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[デジタルポスター]
- 121 伊東文子, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 早期膵癌、特に 10mm 以下膵癌の臨床病理学的検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[ポスター]
- 122 岩屋博道, 原 和生, 水野 匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: 抗血栓薬内服中の症例における EUS-FNA の後出血に関する検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[シンポジウム]
- 123 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正: JNET 分類における Vessel/Surface の不一致例の検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[ワークショップ]
- 124 倉岡直亮, 原 和生, 丹羽康正: 当院における早期十二指腸乳頭部癌に対する内視鏡治療および外科治療の比較検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[デジタルポスター]
- 125 松本慎平, 原 和生, 脇岡 範: EUS-Cyst drainage における Metal stent 留置の有用性. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡),[ワークショップ]
- 126 原 和生: M through wire の使用経験. 第 25 回 JDDW 2017 メディコスヒラタ プースカンファレンス, 2017,(福岡),[座長]
- 127 岩屋博道, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 丹羽康正: 当院で経験した胆嚢神経内分泌癌の 10 例. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜),[一般演題]
- 128 原 和生: Endoscopic treatment for pancreatic cancer related diseases. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜),[シンポジウム]
- 129 松本慎平, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 原 和生: 当院における pNET に対する Sunitinib の治療成績. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜),[一般演題]
- 130 原 和生: 胆道ドレナージの実際: ERCP, EUS. 朝日インテック 社内講演会, 2017,(名古屋),[講演]
- 131 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生, 丹羽康正: Fanconi 貧血に合併した食道癌. 第 233 回日本内科学会東海地方会, 2017,(岐阜),[症例報告]
- 132 原 和生: 膵癌診療の最前線. 鷹丘校区 40 周年記念式典, 2017,(豊橋),[特別講演]
- 133 安田宗司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 丹羽康正: 共焦点レーザー内視鏡が診断に有用であった迷入瘻の 1 例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会, 2017,(名古屋),[一般演題]
- 134 鳥山和浩, 石原 誠, 田近正洋: 表在型食道癌に対する内視鏡治療前評価における FDG-PET の有用性の検討. 第 127 回消化器病学会東海支部例会, 2017,(名古屋),[シンポジウム]
- 135 伊東文子, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 肺、肝病変を有する成人ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH) に対し禁煙が有効であった一例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会, 2017,(名古屋),[口演]
- 136 栗田裕介, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中 宏, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平,

- 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和浩, 丹羽康正 : 潰瘍性大腸炎の発症を契機に自己免疫性膵炎2型と診断しえた1例. 第127回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[口演]
- 137 小畑雅寛, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中 宏, 安田宗司, 栗田裕介, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和浩, 丹羽康正 : 共焦点レーザー内視鏡検査が有用であった膵神経内分泌腫瘍の1例. 第127回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[口演]
- 138 原 和生 : 膵癌に関する最近の話題. 第107回市民公開講座,2017,(名古屋)[講演]
- 139 原 和生 : シンポジウム2 高齢者に対する肝胆膵疾患の診断と治療. 127回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[司会]
- 140 倉岡直亮, 原 和生, 田近正洋, 堀尾芳嗣, 丹羽康正 : 経口胆道鏡により炎症胆道壁が観察されたニボルマブ胆管炎の1例. 第60回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 141 岩屋博道, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正, 原 和生 : 胆嚢神経内分泌癌の臨床病理学的特徴と治療方針の現状. 第60回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 142 原 和生 : LIVE-DEMO. 長野 EUS・ERCP 研究会,2017,(長野)[ワークショップ]
- 143 原 和生 : EUS 下瘻孔形成術の現状と展望. 長野 EUS・ERCP 研究会,2017,(長野)[特別講演]
- 144 栗田裕介, 田中 努, 石原 誠, 脇岡 範, 丹羽康正 : 病診連携による新予約システムを活用した二次検診内視鏡の取り組み. 第47回がん検診学会東海北陸地方会,2017,(富山)[口演]
- 145 原 和生 : EUS ガイド下瘻孔形成術の現状と展望. 北海道消化器科病院講演会,2017,(札幌)[特別講演]
- 146 原 和生 : Convex EUS 標準化描出法. コンベックス EUS 描出標準化委員会,2018,(東京)[ワークショップ]
- 147 原 和生 : Interventional EUS の現状と展望. 第39回徳島消化器内視鏡治療研究会,2018,(徳島)[特別講演]
- 148 原 和生 : Interventional EUS の最前線. 第4回仙台胆膵 EUS ハンズオンセミナー,2018,(仙台)[特別講演]
- 149 奥野のぞみ : IPMN の動向と胆膵検査の実態. 第29回愛知県消化器内視鏡技師懇話会,2018,(刈谷)[教育講演]
- 150 奥野のぞみ : 当院における安全かつ効果的な Interventional EUS の教育法. 新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院,2018,(新潟)[一般講演]
- 151 原 和生 : 膵癌に対する診断と治療. 院内セミナー,2018,(名古屋)[講演]
- 152 原 和生 : 胆嚢疾患に対する EUS-FNA、現状とテクニク. 第7回 FNA masters,2018,(東京)[講演]
- 153 原 和生 : Convex EUS の描出法. 第4回コンベックス EUS 標準的描出部会,2018,(東京)[ワークショップ]
- 154 原 和生 : AXIOS 講習会 講師. HOTAXIOS System 講習会,2018,(東京)[ワークショップ]

内視鏡部

- 001 *Hirayama Y, Tajika M, Tnaka T, Ishihara M, Ohnishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Niwa Y* : Significance of Preoperative Screening Colonoscopies in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma. DDW2017,2017,(Chicago)[ポスター]
- 002 *Narita Y, Sugiyama K, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K* : Peritoneum metastasis (PM) as a prognostic factor in metastatic gastric cancer (MGC) treated with anti-PD-1/PD-L1 monotherapy. ASCO 2017,2017,(Chicago)[ポスター]
- 003 *Narita Y, Sasaki E, Yatabe Y, Kato K, Okano H, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Ito S, Muro K* : PD-L1 immunohistochemistry (IHC) by three different assays and molecular profiling in tissue microarray (TMA) of gastric cancer. ESMO 2017,2017,(マドリッド)[ポスター]
- 004 *Mitani S, Taniguchi H, Masuishi T, Sugiyama K, Honda K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando T, Tajika M, Yatabe Y, Muro K* : Analysis of efficacy and prognostic factors in second-line chemotherapy for BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer. ESMO 2017,2017,(マドリッド)[ポスター]
- 005 *Mitani S, Kadowaki S, Oze I, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Tajika M, Makita C, Kodaira T, Uemura N, Abe T, Muro K* : Risk of second malignancies after definitive therapy for esophageal cancer : a competing risk analysis. ESMO 2017,2017,(マドリッド)[ポスター]
- 006 大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 藤田 曜, 近藤 尚, 鈴木貴博, 鳥山和浩, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正 : 当院における大腸 ESD 中途断念症例の検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[一般口演]
- 007 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 鳥山和浩, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 伊東文子, 小森康司, 谷口浩也, 原 和生, 清水泰博, 室 圭, 谷田部 恭, 丹羽康正 : BRAF 変異陽性切除不能進行・再発大腸癌の臨床病理学的検討. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[口演]
- 008 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正 : 胃術後のバレット食道. 第103回日本消化器病学会総会,2017,(東京)[ワークショップ]
- 009 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正 : 食道表在癌の臨床的特

- 徴と治療経過からみたサーベイランスの検討. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[パネルディスカッション]
- 010 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 組織混在型早期胃癌の内視鏡像の検討. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[パネルディスカッション]
- 011 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生, 丹羽康正: 当院における大腸拡大 NBI 分類 (JNET 分類) の有用性と問題点に関する検討. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[一般演題]
- 012 岩屋博道, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正: 当院における抗血栓薬内服者に対する EUS-FNA の現状. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[シンポジウム]
- 013 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大西祥代, 平山 裕, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 当院における早期大腸癌の深達度診断や治療に画像強調観察 (IEE) が及ぼす影響. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[ポスター]
- 014 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 当院における StageI の食道癌に対する内視鏡切除 (ER)+ 化学放射線療法 (CRT) の治療成績. 第93回日本消化器内視鏡学会総会,2017,(大阪)[口演]
- 015 岩屋博道, 原 和生, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 丹羽康正: 当院で経験した胆嚢神経内分泌癌の10例. 第232回日本内科学会東海地方会,2017,(名古屋)[一般演題]
- 016 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正: 食道表在癌における FDG-PET の有用性. 第71回日本食道学会,2017,(軽井沢)[ポスター]
- 017 大西祥代, 夏目誠治, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 谷田部 恭, 清水泰博, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 正常肝に発生した若年性肝細胞癌の一例. 第126回日本消化器病学会東海地方会,2017,(岐阜)[症例報告]
- 018 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生, 丹羽康正: 狭窄症状で発見された Hyperplastic/serrated polyposis syndrome (HPS) の一例. 第126回日本消化器病学会東海地方会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 019 *Mitani S, Taniguchi H, Masuishi T, Sugiyama K, Honda K, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Yatabe Y, Muro K*: A systematic analysis of second-line treatment outcomes in BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer. 第15回日本臨床腫瘍学会総会,2017,(神戸)[ポスター]
- 020 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 小森康司, 木下敬史, 原 和生, 清水泰博 丹羽康正: 家族性大腸腺腫症に対する術式の選択やサーベイランスの検討. 第23回日本家族性腫瘍学会,2017,(札幌)[口演]
- 021 鳥山和浩, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 室 圭, 原 和生, 丹羽康正: 当院における消化管神経内分泌腫瘍 (GI-NET) に対する薬物療法の成績. 第5回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2017,(仙台)[一般演題]
- 022 田近正洋: 第573回東海胃腸疾患研究会,2017,(名古屋)[司会]
- 023 田近正洋: 胃がんについて. 第2回名東区南部いきいき支援センター医療相談事業,2017,(名古屋)[講演]
- 024 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 安田宗司, 栗田祐介, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 横型型早期胃癌の1例. 第14回拡大内視鏡研究会,2017,(札幌)[口演]
- 025 伊東文子, 原 和生, 田近正洋, 水野伸匡, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 谷田部 恭, 村上善子, 丹羽康正: 遠位胆管に局限する胆管狭窄を来し胆管癌との鑑別を要した好酸球性胆管炎の一例. 第67回日本消化器画像診断研究会,2017,(札幌)[口演]
- 026 伊東文子, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 当院における肝門部胆管癌、肝内胆管癌に対する化学療法の治療成績. 第53回日本胆道学会学術集会,2017,(山形)[口演]
- 027 田近正洋: 最新医療と看護. 愛知県立大学,2017,(名古屋)[講義]
- 028 中山衣代, 田近正洋: 変則勤務を導入した内視鏡勤務体制の取り組みから見えたこと. 第79回日本消化器内視鏡技師会,2017,(福岡)[ポスター]
- 029 平山 裕, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における非切除高齢者胃癌診療の現状について. 第59回日本消化器病学会大会,2017,(福岡)[ワークショップ]
- 030 大西祥代, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 鳥山和浩, 原 和生, 田近正洋, 丹羽康正: 当院における B 型肝炎再活性化の検討. 第25回 JDDW2017,2017,(福岡)[ポスター]
- 031 桑原崇通, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ,

- 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文字, 倉岡直亮, 松本慎平, 田近正洋, 丹羽康正: 人工知能を用いた IPMN 術前悪性予測の有用性. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡)[ポスター]
- 032 伊東文字, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 早期膵癌、特に 10mm 以下膵癌の臨床病理学的検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡)[ポスター]
- 033 岩屋博道, 原 和生, 水野 匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: 抗血栓薬内服中の症例における EUS-FNA の後出血に関する検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡)[シンポジウム]
- 034 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 平山 裕, 大西祥代, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文字, 倉岡直亮, 松本慎平, 丹羽康正: 表在型パレット食道腺癌における SSBE と LSBE の臨床病理学的検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡)[口演]
- 035 鳥山和浩, 田近正洋, 丹羽康正: JNET 分類における Vessel/Surface の不一致例の検討. 第 25 回 JDDW2017,2017,(福岡)[ワークショップ]
- 036 加藤恭子, 成田有季哉, 岡野裕子, 小島勇貴, 三谷誠一郎, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 抗 PD-1/PD-L1 抗体薬不応後の胃癌に対する殺細胞性抗がん剤の有効性と安全性. 第 55 回日本癌治療学会総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 037 三谷誠一郎, 尾瀬 功, 門脇重憲, 本多和典, 舩石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室 圭: 競合リスクモデルを用いた食道癌根治治療後の他臓器癌発生リスクの検討. 第 56 回日本癌治療学会総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 038 小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 伊藤 誠, 安部哲也, 室 圭, 田近正洋, 丹羽康正, 伊藤善之, 長縄慎二: I 期食道癌の根治的放射線治療の臨床成績. 第 57 回日本癌治療学会総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 039 舩石俊樹, 谷口浩也, 川上武志, 川本泰之, 門脇重憲, 小野澤祐輔, 村中徹人, 田近正洋, 安井博史, 中積宏之, 結城敏志, 室 圭, 大前勝弘, 小松嘉人, 山崎健太郎: 前治療における腫瘍増殖速度がレゴラフェニブと TAS-102 の抗腫瘍効果に与える影響. 第 57 回日本癌治療学会総会,2017,(横浜)[口演]
- 040 田近正洋: ADR (腺腫検出率) 向上をめざした大腸内視鏡検査. 第 57 回ひだ消化器病研究会,2017,(高山)[講演]
- 041 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生, 丹羽康正: Fanconi 貧血に合併した食道癌. 第 233 回日本内科学会東海地方会,2017,(岐阜)[症例報告]
- 042 田近正洋: 第 124 回東海食道疾患症例研究会,2017,(名古屋)[司会]
- 043 田近正洋: シンポジウム. 日本消化器病学会東海支部. 第 127 回例会,2017,(名古屋)[司会]
- 044 鳥山和浩, 石原 誠, 田近正洋: 表在型食道癌に対する内視鏡治療前評価における FDG-PET の有用性の検討. 第 127 回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[シンポジウム]
- 045 安田宗司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 鳥山和浩, 岩屋博道, 伊東文字, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 丹羽康正: 共焦点レーザー内視鏡が診断に有用であった迷入膵の 1 例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[一般演題]
- 046 伊東文字, 原 和生, 水野伸匡, 田近正洋, 脇岡 範, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 桑原崇通, 大西祥代, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 丹羽康正: 肺、肝病変を有する成人ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH) に対し禁煙が有効であった一例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[口演]
- 047 栗田裕介, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中 宏, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文字, 岩屋博道, 鳥山和浩, 丹羽康正: 潰瘍性大腸炎の発症を契機に自己免疫性膵炎 2 型と診断しえた 1 例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[口演]
- 048 小畑雅寛, 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中 宏, 安田宗司, 栗田裕介, 松本 慎平, 倉岡直亮, 伊東文字, 岩屋博道, 鳥山和浩, 丹羽康正: 共焦点レーザー内視鏡検査が有用であった膵神経内分泌腫瘍の 1 例. 第 127 回消化器病学会東海支部例会,2017,(名古屋)[口演]
- 049 田近正洋: 胃がんとピロリ菌について. 日本消化器病学会東海支部. 第 107 回市民公開講座,2017,(名古屋)[講演]
- 050 田近正洋: ADR (腺腫検出率) 向上を目指した大腸内視鏡検査. 北区医師会学術講演会,2017,(名古屋)[講演]
- 051 田近正洋: 消化器がん治療における内視鏡医の役割～検査・診断・治療. 一宮地区病診連携推進の集い学術講演会,2017,(一宮)[講演]
- 052 田近正洋: 若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション審査員. 第 60 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2017,(岐阜)[司会]
- 053 大西祥代, 田近正洋, 丹羽康正: H.pylori 除菌時代における MALT リンパ腫. 第 60 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2017,(岐阜)[シンポジウム]
- 054 倉岡直亮, 原 和生, 田近正洋, 堀尾芳嗣, 丹羽康正: 経口胆道鏡により炎症胆道壁が観察されたニボルマブ胆管炎の 1 例. 第 60 回日本消化器内視鏡学会東海支部例

- 会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 055 岩屋博道, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 小畑雅寛, 田中宏樹, 栗田裕介, 安田宗司, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 丹羽康正, 原 和生: 胆嚢神経内分泌癌の臨床病理学的特徴と治療方針の現状. 第60回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2017,(岐阜)[一般演題]
- 056 田近正洋: 消化管がんの内視鏡診断の進歩. 胃内視鏡検診に関する研修会,2017,(日進市), [講演]
- 057 栗田裕介, 田中 努, 石原 誠, 脇岡 範, 丹羽康正: 病診連携による新予約システムを活用した二次検診内視鏡の取り組み. 第47回がん検診学会東海北陸地方会,2017,(富山)[口演]
- 058 田近正洋: 当院における cStage I 食道癌の治療成績～内視鏡治療から化学放射線治療まで. 第125回東海食道疾患症例研究会,2018,(名古屋)[講演]
- 059 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正: 遺伝性大腸疾患の最新の知見 家族性大腸腺腫症における下部消化管術後サーベイランスの検討. 第14回日本消化管学会総会,2018,(東京)[ワークショップ]
- 060 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正: 早期胃管癌に対する内視鏡治療成績. 第90回胃癌学会総会,2018,(横浜)[ポスター]

呼吸器内科部

- 001 *Ono A, Takahashi T, Niho S, Yoshida T, Akimoto T, Sakamaki K, Seto T, Nishio M, Yamamoto N, Hida T, Okamoto H, Kurata T, Satouchi M, Goto K, Yamanaka T, Ohe Y*: Safety Data from Randomized Phase II Study of CDDP+S-1 vs CD-DP+PEM, Combined with TRT for Locally Advanced Non-Squamous NSCLC. IASLC 18TH World conference on lung cancer, 2017,(Yokohama),[poster]
- 002 *Ahn MJ, Han JY, Tsai CM, Delmonte A, Hsia TC, Laskin J, Kim SW, He Y, Hida T, Maemondo M, Kato T, Jenkins S, Markovets A, Thress KS, Mok T*: Detection of EGFR mutations from plasma ctDNA in the osimertinib Phase III trial (AURA3): comparison of three plasma assays. IASLC 18TH World conference on lung cancer,2017, (Yokohama),[Oral]
- 003 *Goto Y, Okada M, Kijima T, Aoe K, Kato T, Fujimoto N, Nanangawa K, Takeda Y, Hida T, Kanai K, Imamura F, Oizumi S, Takahashi T, Takenoyama M, Tanaka H, Ohe Y*: A Phase II Study of Nivolumab: A multicenter, open-label, single arm study in Malignant Pleural Mesothelioma (MPM); MERIT. IASLC 18TH World conference on lung cancer, 2017,(Yokohama),[oral]
- 004 *Horinouchi H, Maemondo M, Hida T, Takeda M, Hotta K, Hirai F, Kim YH, Matsumoto S, Mitsudomi T, Seto T, Moizumi S, Tokushige K, Hatano B, Nishio M*: Phase 2 study of ceritinib in patients with *ALK*+ NSCLC with prior alectinib treatment in Japan: ASCEND-9. IASLC 18TH World conference on lung cancer,2017,(Yokohama),[oral]
- 005 *Nishio M, Kiura K, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Murakami H, Takeuchi K, Inamura S, Kuriki H, Shimada T, Tamura T*: Final Result of Phase I/II Study (AF-001JP) of Alectinib, a Selective CNS-Active *ALK* Inhibitor, in *ALK*+ NSCLC Patients. IASLC 18TH Worldconference on lung cancer,2017,(Yokohama),[poster]
- 006 *Misumi Y, Shimokawa T, Okamoto H, Atagi S, Tanaka H, Goto K, Nakagawa K, Hida T, Yamamoto N, Hosomi Y, Yamada K, Okamoto I, Ohe Y*: Underrepresentation of Elderly Patients with ED-SCLC as Clinical Trial Candidates (JCOG1201/TORG1528). IASLC 18TH Worldconference on lung cancer,2017,(Yokohama),[poster]
- 007 *Sugawara S, Azuma K, Nishio M, Hayashi H, Kiura K, Satouchi M, Hida T, Nakamura A, Iwamoto Y, Inoue A, Takeda K, Ikeda S, Nakagawa T, Asahina S, Komatsu K, Morita S, Fukuoka M, Nakagawa K*: Tolerability and Antitumor Activity of ASP8273 in TKI-Naïve Japanese Subjects with EGFR Mutation Positive Non-Small Cell Lung Cancer. ASCO2017,2017,(Chicago),[poster]
- 008 *Takiguchi Y, Hida T, Nokihara H, Kondo M, Kim YH, Azuma K, Seto T, Nishio M, Yoshioka H, Imamura F, Hotta K, Watanabe S, Goto K, Nakagawa K, Mitsudomi T, Yamamoto N, Kuriki H, Inagaki N, Tanaka T, Tamura T*: Updated efficacy and safety of the J-ALEX study comparing Alectinib (ALC) with Crizotinib (CRZ) in *ALK*-inhibitor naïve *ALK* fusion positive Non-Small Cell Lung Cancer (*ALK*+ NSCLC). ASCO2017,2017,(Chicago),[poster]
- 009 *Mitsudomi T, Ahn MJ, Bazhenova L, Blackhall F, Hida T, Majem M, Vowler SL, Laus G, Jänne PA, Yang JCH*: Overall survival (OS) in patients (pts) with EGFR T790M positive advanced nonsmall cell lung cancer (NSCLC) treated with osimertinib: results from two Phase II studies. ASCO2017,2017,(Chicago),[poster]
- 010 *Murakami H, Ohe Y, Hida T, Sakai H, Kasahara K, Imamura F, Baba T, Kubota K, Hosomi Y, Shimokawa T, Hayashi H, Miyadera K, Tamura T, Nishio M*: Phase I study of TAS-121, a novel third-generation epidermal growth factor receptor (EGFR) inhibitor, in patients with *EGFR* mutation-positive non-small-cell lung cancer (NSCLC). ASCO2017,2017,(Chicago),[poster]
- 011 *Sequist LV, Wu YL, Schuler M, Kato T, Yang JCH, Tanaka H, Hida T, Lu S, Park K, Laurie S, Bennouna J, Sibilot DM, Märten A, Peil B, Ehrnrooth E, Yamamoto N, Nakagawa K*: Subsequent therapies post-afatinib among patients (pts) with *EGFR* mutation-positive (*EGFR*m+) NSCLC in LUX-Lung (LL) 3, 6 and 7. ASCO2017,2017, (Chicago),[poster]
- 012 *Park K, Ciardiello F, Hida T*: Phase I/II study of S

- 49076, a MET/AXL/FGFR inhibitor, in combination with gefitinib in EGFR-mutated NSCLC patients who Progress on EGFR tyrosine kinase inhibitor therapy. AS-CO2017, 2017, (Chicago), [poster]
- 013 **Velcheti V, Hida T, Reckamp KL, Yang JC, Nokihara H, Sachdev P, Feit K, Kubota T, Nakada T, Dutcus CE, Ren M, Tamura T**: Phase 2 Study of Lenvatinib in Patients With RET Fusion-Positive Adenocarcinoma of the Lung. EC-CO2017, (Amsterdam), [oral]
- 014 後藤祐介, 山口哲平, 森川紗也子, 魚津桜子, 林 正道, 後藤康洋, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 在宅酸素療法導入下に化学療法が行われた肺癌症例に関する後方視的検討. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 015 山口哲平, 後藤祐介, 魚津桜子, 後藤康洋, 磯谷澄都, 林正道, 中西 亨, 今泉和良, 堀口高彦, 岡澤光芝: ペメトレキセドによる維持療法時の腎機能障害に関する後方視的解析. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 016 後藤康洋, 渡邊俊和, 前田真吾, 井上敬浩, 相馬智英, 赤尾 謙, 堀口智也, 後藤祐介, 丹羽義和, 森川紗也子, 峯澤智之, 榊原洋介, 武山知子, 山口哲平, 岡村拓哉, 魚津桜子, 三重野ゆうき, 林 正道, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: Erlotinib + bevacizumab 併用療法が奏効したEGFR 遺伝子変異陽性癌性髄膜症の2例の検討. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 017 堀口智也, 山口哲平, 後藤康洋, 岡村拓哉, 峯澤智之, 森川紗也子, 丹羽義和, 後藤祐介, 武山知子, 魚津桜子, 三重野ゆうき, 林 正道, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 線維化嚢胞病変から発生する肺癌の初期画像の検討. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 018 磯谷澄都, 前田真吾, 井上敬浩, 相馬智英, 渡邊俊和, 赤尾 謙, 堀口智也, 後藤祐介, 丹羽義和, 森川紗也子, 峯澤智之, 榊原洋介, 武山知子, 山口哲平, 岡村拓哉, 魚津桜子, 三重野ゆうき, 後藤康洋, 林 正道, 中西 亨, 今泉和良: セレコキシブ内服試験でNSAIDsによる誘発症状が認められたアスピリン喘息の2例. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 019 峯澤智之, 森川紗也子, 岡村拓哉, 後藤康洋, 山口哲平, 丹羽義和, 後藤祐介, 堀口智也, 武山知子, 榊原洋介, 魚津桜子, 三重野ゆうき, 林 正道, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: EBUS-TBNAによるサルコイドーシスリンパ節のリンパ球動態解析. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 020 森川紗也子, 山口哲平, 岡村拓哉, 魚津桜子, 後藤康洋, 林 正道, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 非小細胞肺癌患者におけるNivolumab治療後の抗がん剤治療反応性に関する検討. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 021 魚津桜子, 堀口智也, 後藤祐介, 丹羽義和, 森川紗也子, 峯澤智之, 山口哲平, 武山知子, 榊原洋介, 岡村拓哉, 三重野ゆうき, 後藤康洋, 林 正道, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 肺内の単発性腫瘍として発見された肺原発性
- 毛癌の一例. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 022 中尾心人, 村松秀樹, 鈴木悠斗, 香川友祐, 黒川良太, 佐藤英文, 古閑 寛, 亀井克彦: Cryptococcus Gattii 感染症 - 自験例と国内報告例の検討 -. 第57回日本呼吸器学会, 2017, (東京), [ポスター]
- 023 渡邊俊和, 後藤康洋, 岡村拓哉, 峯澤智之, 森川紗也子, 丹羽義和, 堀口智也, 後藤祐介, 相馬智英, 赤尾 謙, 山口哲平, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 血性胸水で発症し胸腔鏡にて診断した異所性子宮内膜症の1例. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [ポスター]
- 024 堀口智也, 峯澤智之, 岡村拓哉, 森川紗也子, 丹羽義和, 相馬智英, 赤尾 謙, 渡邊俊和, 後藤祐介, 山口哲平, 後藤康洋, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: 末梢肺GGN病変に対するEBUS-TBB診断. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [オーラルセッション]
- 025 森川紗也子, 岡村拓哉, 峯澤智之, 山口哲平, 丹羽義和, 堀口智也, 後藤祐介, 相馬智英, 赤尾謙, 渡邊俊和, 後藤康洋, 磯谷澄都, 中西 亨, 今泉和良: nivolumabによる間質性肺炎の気管支肺胞洗浄所見. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [ワークショップ]
- 026 丹羽義和, 磯谷澄都, 峯澤智之, 岡村拓哉, 森川紗也子, 相馬智英, 渡邊俊和, 赤尾 謙, 前田真吾, 井上敬浩, 堀口智也, 後藤祐介, 山口哲平, 魚津桜子, 後藤康洋, 中西 亨, 今泉和良: 当院での気管支サーモプラスティ施行症例の検討. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [ビデオワークショップ]
- 027 後藤祐介, 山口哲平, 森川紗也子, 峯澤智之, 今泉和良: ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)における気胸発症のリスク因子に関する検討. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [オーラルセッション]
- 028 今泉和良, 岡村拓哉, 峯澤智之, 森川紗也子, 丹羽義和, 堀口智也, 後藤祐介, 相馬智英, 赤尾 謙, 渡邊俊和, 山口哲平, 後藤康洋, 磯谷澄都, 中西 亨: プローブ型共焦点レーザー顕微鏡下肺胞マクロファージのリアルタイム観察による間質性肺炎の鑑別診断. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017, (長崎), [オーラルセッション]
- 029 樋田豊明: EGFR 変異陽性肺癌患者に対する gefitinib と pemetrexed 併用療法の比較第II相試験: Translational research. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017, (横浜), [アンコールセッション]
- 030 大矢由子, 吉田達哉, 黒田浩章, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭: セリチニブ治療後に増悪を認めたALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌におけるアレクチニブの治療効果. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017, (横浜), [口演]
- 031 大矢由子, 吉田達哉, 古田裕美, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部 恭: Nivolumab治療によるHyperprigression diseaseの予測因子の検討. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017, (横

- 浜)[口演]
- 032 古田裕美, 清水淳市, 香川友祐, 山口哲平, 渡辺尚宏, 上剛 大, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 谷田部恭, 樋田豊明: 高齢者(75歳以上)におけるOsimertinibの有効性と安全性の検討-前治療EGFR-TKIと比較して-. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[口演]
- 034 田中 薫, 樋田豊明, 吉岡弘鎮, 鈴木和己, 江夏総太郎, 中村 隆, 田村友秀, 中川和彦: 既治療進行・再発非小細胞肺癌に対するラムシルマブとドセタキセル併用投与: 奏効までの期間の解析. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[口演]
- 035 久保寿夫, 樋田豊明, 奥田千幸, 里内美弥子, 池田徳彦, 軒原 浩, 堀池 篤, 瀬戸貴司: 治療歴を有するNSCLC患者に対するatezolizumabの第3相臨床試験(OAK)における日本人部分集団解析. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[口演]
- 036 樋田豊明, 平島智徳, 里内美弥子, 西尾誠人, 加藤晃史, 酒井 洋, 今村文生, 木浦勝行, 岡本 勇, 笠原寿郎, 内田寛彦, 光富徹哉: 前治療歴のあるT790M変異陽性進行非小細胞肺癌患者におけるOsimertinib: 第II相2試験の結果. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[アンコールセッション]
- 037 堀尾芳嗣, 谷田部 恭, 坂尾幸則, 香川友祐, 大矢由子, 古田裕美, 上村剛大, 山口哲平, 渡辺尚宏, 清水淳市, 小山 真, 松井琢哉, 杉田祐介, 坂田省三, 出嶋 仁, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 樋田豊明: 肺癌手術例の遺伝子変異とCT画像: oncogenic driver 遺伝子変異を読み取ることができるか?. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[ワークショップ]
- 038 鈴木悠斗, 中尾心人, 香川友祐, 藤田浩平, 黒川良太, 村松秀樹: 胸水セブルックにてEGFR遺伝子T790M変異検索を行った症例の検討. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[ポスター]
- 039 中尾心人, 香川友祐, 鈴木悠斗, 黒川良太, 藤田浩平, 村松秀樹: 非小細胞肺癌におけるニボルマブへの反応性と好中球・リンパ球比および予後栄養指数の関係. 第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[ポスター]
- 040 福嶋敬子, 船田千秋, 山口真澄, 中山衣代, 小川明伸, 仙波晴美, 太田浩美, 庄村和子, 清水淳市, 岡本泰岳: 顔の見える関係の構築 愛知県クリニカルパス研究会活動紹介. 第18回日本クリニカルパス学会学術集会,2017,(大阪)[ポスター]
- 041 友岡 健, 中尾心人, 亀井誠二, 鈴木悠斗, 酒井祐輔, 荒川総介, 香川友祐, 黒川良太, 佐藤英文, 堀川よしみ, 村松秀樹: 胸部異常陰影を契機に診断された原発性気管支動脈蔓状血管腫の1例. 第66回日本農村医学会学術総会,2017,(沖縄)[症例報告]
- 血液・細胞療法部
- 001 *Kyo K, Tojo A, Kyo T, Yamamoto K, Nakamae H, Takahashi N, Kobayashi Y, Tauchi T, Okamoto S, Miyamura K, Hatake K, Iwasaki H, Matsumura I, Usui N, Naoe T, Farin H, Ohyashiki K*: Phase 1/2 Study of Ponatinib in Japanese Patients With Ph+ Leukemia: 3-Year Follow-up Results. 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京)[口演]
- 002 *Ishikawa Y, Kiyoi H, Suzuki R, Kawaguchi T, Takahashi N, Yamamoto K, Ohnishi K, Kizaki M, Naoe T, Matsumura I*: Interim analysis of the New TARGET Observational Study 1, a prospective observational study for newly diagnosed CML in Japan. 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京)[口演]
- 003 *Fukuhara N, Hatake K, Yamamoto K, Kusumoto S, Izutsu K, Choi I, Nagai H, Kobayashi Y, Shintani M, Saeki J, Roberts A, Maciag P, Agarwal S, Salem A, Freise K, Kiriyama T, Tobinai K*: Phase I Study of Venetoclax (VEN) in Japanese (JPN) Patients (Pts) With Hematologic Malignancies. 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京都)[口演]
- 004 *Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K, Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K*: Randomized phase II study of Bor/Dex vs Thal/Dex for relapsed/refractory multiple myeloma (JCOG0904). 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京都)[口演]
- 005 *Yamamoto K, Hatake K, Fukuhara N, Kusumoto S, Nagai H, Kobayashi Y, Kakihara T, Shintani M, Roberts A, Maciag P, Agarwal S, Salem A, Freise K, Kiriyama T, Tobinai K*: A Phase 1 study evaluating the safety and pharmacokinetics (PK) of venetoclax (VEN) in Japanese patients (PTS) with non-Hodgkin lymphoma (NHL) and multiple myeloma (MM). Abstract:E1139(e-poster) 22nd Congress of European Hematology Association (EHA),2017,(Madrid, Spain)[ポスター]
- 006 *Kagami Y, Yamamoto K, Shibata T, Tobinai K, Imaizumi Y, Uchida T, Shimada K, Minauchi K, Fukuhara N, Kobayashi H, Yamauchi N, Tsujimura H, Hangaishi A, Tominaga R, Suehiro T, Yoshida S, Inoue Y, Suzuki S, Tokuhira M, Nagai H, Kusumoto S, Kuroda J, Yakushijin Y, Takamatsu Y, Kubota Y, Nosaka K, Morishima S, Nakamura S, Maruyama D, Hotta T, Morishima Y, Tsukasaki K*: Randomized Phase II Study of R-CHOP-14 Versus R-CHOP-14 Followed by CHASER as Induction Therapy for High-dose Chemotherapy (HDT), LEED, and Autologous Stem-cell Transplantation (ASCT) in Poor-risk Diffuse Large B-cell Lymphoma (DLBCL): Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study (JCOG0908). (Poster Session #4127). 59th ASH (American Society of Hematology) Annual Meeting & Exposition,2017,(Atlanta, GA, U.S.A.)[ポスター]
- 007 *Kato H, Tange N, Iriyama C, Kojima Y, Taji H, Kinoshita T, Yatabe Y, Nakamura S, Yamamoto K*: Evaluation of Tumor Burden for Predicting Survival in Patients with Follicu-

lar Lymphoma Receiving First-Line R-CHOP Treatment: Comparison of Different Definition of GELF Criteria. (Poster Session #4063). 59th ASH (American Society of Hematology) Annual Meeting & Exposition, 2017, (Atlanta, GA, U.S.A), [ポスター]

- 008 丹下直幸, 加藤春美, 入山智沙子, 田地浩史, 谷田部 恭, 中村栄男, 木下朝博, 山本一仁: 濾胞性リンパ腫における腫瘍量と予後の関連 (Evaluation of tumor burden for predicting clinical outcomes in follicular lymphoma). 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸), [口演]
- 009 加藤春美, 小島勇貴, 入山智沙子, 齋藤統子, 田地浩史, 谷田部 恭, 中村栄男, 木下朝博, 山本一仁: Evaluation of the CNS risk model in patients with DLBCL receiving R-CHOP based chemotherapy (CNS リスクモデルを用いた DLBCL の CNS 再発評価). 第79回日本血液学会学術集会, 2017, (東京), [口演]
- 010 加藤春美, 古平 毅, 入山智沙子, 小島勇貴, 田地浩史, 木下朝博, 山本一仁: 施設搬入後の同種臍帯血保存温度に関する検討 (Evaluation of cord blood storage temperatures for the immediate future use). 第40回日本造血細胞移植学会総会, 2018, (札幌), [ポスター]

薬物療法部

- 001 **Kadowaki S, Shitara K, Sakai D, Nishina T, Yoshikawa R, Piao Y, Ozeki A, Inoue K, Muro K**: Phase 1b study of ramucirumab (RAM) in combination with fluoropyrimidine and platinum-based agents in Japanese patients (pts) with metastatic gastric/gastroesophageal junction adenocarcinoma (mGC). AACR, 2017, (Washington DC), [Poster]
- 002 **Kato K, Doi T, Kojima T, Hara H, Takahashi S, Muro K, Nishina T, Wakabayashi M, Nomura S, Sato A, Ohtsu**: A Phase II study of BKM120 in patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma (EPOC1303). ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Session]
- 003 **Bang YJ, Muro K, Fuchs CS, Golan T, Geva R, Hara H, Ibrahim S, Borg JC, Doi T, Wainberg ZA, Wang J, Koshiji M, Dalal RP, Chung HC**: KEYNOTE-059 cohort 2: Safety and efficacy of pembrolizumab (pembro) plus 5-fluorouracil (5-FU) and cisplatin for first-line (1L) treatment of advanced gastric cancer. ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Discussion Session]
- 004 **Fuchs CS, Doi T, Jang RWJ, Muro K, Satoh T, Machado M, Sun W, Jalal SI, Shah MA, Metges JP, Garrido M, Golan T, Mandala M, Wainberg ZA, Catenacci DVT, Bang YJ, Wang J, Koshiji M, Dalal RP, Yoon HH**: KEYNOTE-059 cohort 1: Efficacy and safety of pembrolizumab (pembro) monotherapy in patients with previously treated advanced gastric cancer. ASCO, (4003), Chicago, 2017, (Chicago), [Oral Abstract Session]

- 005 **Haddad RI, Seiwert TY, Chow LQM, Gupta S, Weiss J, Gluck I, Eder JP, Burtness B, Tahara M, Keam B, Kang H, Muro K, Albright A, Huang L, Ayers M, Mogg R, Cristescu R, Cheng JD, Mehra R**: Genomic determinants of response to pembrolizumab in head and neck squamous cell carcinoma (HNSCC). ASCO, 2017, (Chicago), [Clinical Science Symposium]
- 006 **Narita Y, Sugiyama K, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K**: Peritoneum metastasis (PM) as a prognostic factor in metastatic gastric cancer (MGC) treated with anti-PD-1/PD-L1 monotherapy. ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Session]
- 007 **Nakashima Y, Kojima T, Hara H, Kato K, Kajiwara T, Hironaka S, Nakatsumi H, Kato T, Moriwaki T, Naruge D, Esaki T, Izawa N, Kadowaki S, Tamura T, Miki I, Sudo T, Nomura S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T**: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-screen: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced esophageal cancer. ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Session]
- 008 **Kadowaki S, Shitara K, Yuki S, Hironaka S, Kato T, Hara H, Kajiwara T, Izawa N, Iwasa S, Moriwaki T, Naruge D, Esaki T, Saeki H, Kudo T, Cho H, Tamura T, Ebi H, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T**: The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan SCRUM-Japan, GI-screen: Efficient identification of cancer genome alterations in advanced gastric cancer. ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Session]
- 009 **Fukuoka S, Moriwaki T, Taniguchi H, Takashima A, Kume-kawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Hatachi Y, Suto T, Sugimoto N, Katsumata K, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Yuki S, Gosho M, Shimada Y**: Regorafenib (REG) versus trifluridine/tipiracil (TAS-102) as salvage-line in patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard chemotherapies (REGOTAS): A propensity score analysis from a JSCCR multicenter observational study. ASCO, 2017, (Chicago), [Poster Session]
- 010 **Doi T, Iwata H, Tsurutani J, Takahashi S, Park H, Redfern CH, Shitara K, Shimizu C, Taniguchi H, Iwasa T, Taira S, Lockhart AC, Fisher JM, Jikoh T, Fujisaki Y, Lee CC, Yver A, Tamura K**: Single agent activity of DS-8201a, a HER2-targeting antibody-drug conjugate, in heavily pretreated HER2 expressing solid tumors. ASCO, 2017, (Chicago), [Clinical Science Symposium]
- 011 **Daniel VC, Wainberg Z, Charles SF, Garrido M, Bang Y-J, Muro K, Savage M, Wang J, Koshiji M, Rita PD, Kang Y-K**: KEYNOTE-059 cohort 3: safety and efficacy of pembrolizumab monotherapy for first-line treatment of patients (pts) with PD-L1-positive advanced gastric/gastroesophageal (G/GEJ) cancer. 2017, ESMO-GI, (バルセロナ), [Late Breaking Abstracts]
- 012 **Kajiwara T, Nishina T, Taniguchi H, Muro K, Akagi K, Hara**

- H, Denda T, Hironaka S, Kudo T, Satoh T, Okamoto W, Yoshino T* : A clinical validation study of RASKET-B: A multiple detection kit for RAS and BRAF gene mutations in colorectal cancer. 2017,ESMO-GI,(バルセロナ),[Poster]
- 013 *Kato T, Yoshino T, Muro K, Yamazaki K, Yamaguchi T, Oki E, Iwamoto S, Tsuji A, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Bando H, Kagawa Y, Taniguchi H, Yamanaka T, Kanazawa A* : A phase II study of FOLFOX-IRI with bevacizumab in untreated metastatic colorectal cancer patients: A UGT1A1 genotype and safety results (QUATTRO study). ESMO-GI,2017,(バルセロナ),[Poster Discussion]
- 014 *Satake H, Kito Y, Taniguchi H, Horie Y, Yamada T, Esaki T, Denda T, Mori K, Yamazaki K* : Dose finding phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer: The initial safety analysis. ESMO-GI, 2017,(バルセロナ),[Poster Discussion]
- 015 *Taniguchi H, Kito Y, Satake H, Horie Y, Yamada T, Esaki T, Denda T, Mori K, Yamazaki K* : Safety analysis of phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer. ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 016 *Narita Y, Sasaki E, Yatabe Y, Kato K, Okano H, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Ito S, Muro K* : PD-L1 immunohistochemistry (IHC) by three different assays and molecular profiling in tissue microarray (TMA) of gastric cancer . ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 017 *Mitani S, Taniguchi H, Honda K, Masuishi T, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K* : Analysis of efficacy and prognostic factors in second-line chemotherapy for BRAF V600E mutant metastatic colorectal cancer. ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 018 *Mitani S, Oze I, Kadowaki S, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Tajika M, Makita C, Kodaira T, Uemura N, Abe T, Muro K* : Risk of second malignancies after definitive therapy for esophageal cancer a competing risk analysis . ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 019 *Kitagawa Y, Doki Y, Kato K, Ura T, Kojima T, Tsushima T, Hironaka S, Hara H, Kudo T, Iwasa S, Muro K, Hamamoto Y, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A* : Two year survival and safety update for esophageal squamous cell carcinoma treated with nivolumab (ATTRACTION-01/ONO-4538-07) . ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 020 *Tabernero J, Hozak RR, Yoshino T, Cohn A. L., Obermannova R, Bodoky G, Garcia-CR, Ciuleanu T, Portnoy D. C, Muro K, Ouyang H, Melemed S, Ferry D, Nasroulah F, Cutsem EV* : Analysis of Angiogenesis Biomarkers for Ramucirumab (RAM) Efficacy in Patients with Metastatic Colorectal Cancer (mCRC) from RAISE, a Global, Randomized, Double-Blind, Phase 3 Study. ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 021 *Yuki S, Kato T, Taniguchi H, Hamaguchi T, Akagi K, Denda T, Mizukami T, Oki E, Yamada T, Shiozawa M, Kudo T, Tamura T, Esaki T, Naruge D, Kajiwara T, Nomura S, Fujii S, Shitara K, Ohtsu A, Yoshino T* : The Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan, SCRUM-Japan GI-SCREEN:Efficient Identification of Cancer Genome Alterations in Advanced Colorectal Cancer. ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 022 *Bando H, Kato T, Yoshino T, Muro K, Yamazaki K, Yamaguchi T, Oki E, Iwamoto S, Tsuj A, Nakayama G, Emi Y, Touyama T, Nakamura M, Kotaka M, Kagawa Y, Taniguchi H, Sakisaka H, Yamanaka T, Kanazawa A* : Primary Efficacy Results and Clinical Impact of UGT1A1 genotype on Safety from a Phase II Study of FOLFOXIRI plus bevacizumab in Patients with Metastatic Colorectal Cancer: The QUATTRO Study. ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 023 *Tamura T, Sakai D, Sugimoto N, Tokunaga S, Tsuji A, Ishida H, Otsu S, Moriwaki T, Satake H, Uchino K, Matsumoto S, Baba E, Sato M, Taniguchi H, Kishimoto J, Boku N, Hyodo I, Muro K* : Predictive value of primary tumor location: Results from randomized phase II study of panitumumab + irinotecan versus cetuximab + irinotecan in patients with KRAS exon2 wild-type metastatic colorectal cancer (WJOG6510G) . ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 024 *Nakamura Y, Okamoto W, Sawada K, Komatsu Y, Kato K, Taniguchi H, Kato T, Nishina T, Esaki T, Nomura H, Fukutani M, Fukui M, Hasegawa H, Yonemura M, Fuse N, Sato A, Fujii S, Ohtsu A, Yoshino T* : TRIUMPH Study: A multicenter phase II study to evaluate efficacy and safety of combination therapy with trastuzumab and pertuzumab in patients with HER2-positive metastatic colorectal cancer (EPOC1602) . ESMO,2017,(Madrid),[poster]
- 025 *Muro K* : The Latest Evidence and Clinical Potential of Immune Checkpoint Inhibitors for Gastric/gastroesophageal Junction (GEJ) Adenocarcinoma. Taiwan Digestive Disease Week(TDDW),2017,(Special Session),[Taiwan]
- 026 *Muro K* : Chemotherapy and immunotherapy for metastatic colorectal cancer. JSGE · JGES · JSH · JSGS(JD-DW),2017,(福岡),[International Session]
- 027 *Masuishi T* : Alternate-day versus daily administration of S-1 plus oral leucovorin with bevacizumab for refractory metastatic colorectal cancer: A comparison of two prospective studies. 5th International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology (FACO),2017,(Seoul),[Oral]
- 028 *Muro K* : Recent progress of systemic chemotherapy for metastatic colorectal cancer. JASTRO,2017,(大阪),[Special Program]
- 029 *Muro K, Calvo E, Maglinte G, Rider A, Contente M, Middleton C, Clarke B, Rha S* : Real-World Productivity, Healthcare Resource Utilization (HRU), and Quality of Life (QOL) in Patients with Advanced Gastric Cancer (GC) in Korea and Japan. ESMO Asia,2017,(Singapore),[poster]

- 030 **Okamoto W, Muro K, Taniguchi H, Akagi K, Hara H, Nishina T, Kajiwara T, Denda T, Hironaka S, Kudo T, Satoh T, Yoshino T** : A clinical validation study of RASKET-B: A multiple detection kit for RAS and BRAF gene mutations in colorectal cancer. ESMO Asia,2017,(Singapore),[poster]
- 031 **Rha S, Calvo E, Contente M, Rider A, Maglinte G, Clarke B, Muro K** : Real-World Advanced Gastric Cancer Treatment Patterns in Western and Asian Countries. ESMO Asia,2017,(Singapore),[poster]
- 032 **Yamada T, Kito Y, Satake H, Taniguchi H, Horie Y, Esaki T, Denda T, Mori K, Yamazaki K** : Update analysis of phase Ib study of FOLFOXIRI plus ramucirumab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer. ESMO Asia,2017,(Singapore),[poster]
- 033 **Kim T, Park Y, Muro K, Xu R, Han S, Yamazaki K, Wang W, Ahn J, Uetake H, Deng Y, Cho S, Matsumoto H, Ba Y, Lee K, Nishina T, Zhang T, Iwasa S, Morita S, Sakamoto J** : Randomized, non-inferiority, phase III trial of second-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer (mCRC), comparing the efficacy and safety of XELIRI + bevacizumab versus FOLFIRI + bevacizumab (AXEPT) . ESMO Asia,2017,(Singapore),[poster]
- 034 **Kang Y-K, Doi T, Kondo S, Chung H-C, Muro K, Helwig C, Watanabe M, Bang Y-J** : M7824(MSB0011359C), a bifunctional fusion protein targeting PD-L1 and TGF- β , in Asian patients with pretreated recurrent or refractory gastric cancer: Preliminary results from a phase I trial. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 035 **Iwasa S, Shitara K, Takahashi S, Park H, Kadowaki S, Modi S, Nonagase Y, Tamura K, Yamaguchi K, Muro K, Tsurutani J, Shahidi J, Lee CC, Sugihara M, Kawaguchi Y, Doi T** : Updated results of phase I study of DS-8201a in subjects with HER2-expressing gastric cancer. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 036 **Arai H, Iwasa S, Boku N, Kawahira M, Yasui H, Masuishi T, Muro K, Hironaka S, Fukuda N, Takahari D, Nakajima T** : Fluoropyrimidine(F) alone versus F plus platinum(P) as first-line chemotherapy in patients(pts) with advanced gastric cancer(AGC) and severe peritoneal metastasis(SPM):A multicenter observational study. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 037 **Fukuda N, Kawai S, Omae K, Mitani S, Wakatsuki T, Kato K, Kadowaki S, Takahari D, Boku N, Muro K, Machida N** : Retrospective observational study of salvage line ramucirumab monotherapy(RAM) for patients(pts) with unresectable advanced gastric cancer(AGC) which was refractory to fluoropyrimidine and taxanes. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 038 **Kato K, Narita Y, Mitani S, Honda K, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Tajika M, Muro K** : Efficacy of cytotoxic agents after progression of anti-PD-(L)1 antibody for pretreated metastatic gastric cancer. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 039 **Hasegawa H, Mitani S, Wakatsuki T, Hara H, Hirao M, Takahari D, Chin K, Kadowaki S, Muro K** : Systemic chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: A multicenter retrospective study. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 040 **Yoshino T, Obermannova R, Bodoky G, Prausová J, Carbonero RG, Ciuleanu T-E, Alfonso PG, Portnoy DC, Cohn AL, Cutsem EV, Yamazaki K, Clingan P, Muro K, Kim TW, Wijayawardana SR, Hozak R, Nasroulah F, Tabernero J** : Are BRAF mutated metastatic colorectal cancer(mCRC) tumors more responsive to VEGFR-2 blockage? Analysis of patient outcomes by RAS/RAF mutation status in the RAISE study—A global, randomized, double-blind, phase III study. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 041 **Nishina T, Taniguchi H, Sakai D, Kawakami H, Sugimoto N, Hara H, Esaki T, Denda T, Makiyama A, Tsuda M, Okuda H, Izawa N, Hosokawa A, Yamazaki K, Tokunaga S, Moriwaki T, Tsuji A, Koh Y, Kishimoto J, Muro K** : Analysis of RAS/BRAF mutations in a randomized phase II WJOG6510G study of panitumumab plus irinotecan versus cetuximab plus irinotecan in chemorefractory metastatic colorectal cancer. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 042 **Yamamoto Y, Okamoto W, Makiyama A, Shitara K, Denda T, Ogura T, Nakano Y, Nishina T, Komoda M, Hara H, Ozaki Y, Kawakami H, Boku N, Hyodo I, Yamazaki K, Hironaka S, Sakai K, Yamanaka T, Muro K, Nishio K** : Plasma ICAM-1(pICAM-1) and plasma IL-8(pIL-8) level as biomarker of metastatic colorectal cancer patients(mCRC) treated with mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab(BV) (WJOG7612GTR). ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 043 **Okamoto W, Makiyama A, Yamamoto Y, Shitara K, Denda T, Izawa N, Nakano Y, Nishina T, Esaki T, Hara H, Ozaki Y, Okuda H, Boku N, Hyodo I, Yamazaki K, Hironaka S, Sakai K, Yamanaka T, Muro K, Nishio K** : Plasma VEGF-A(pVEGF-A) level in efficacy analysis of metastatic colorectal cancer patients(mCRC) treated with mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab(BV) (WJOG7612GTR). ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 044 **Muro K, Fuchs CS, Jang RW-J, Satoh T, Machado M, Sun W, Jalal SI, Shah MA, Metges J-P, Garrido M, Golan T, Mandala M, Wainberg ZA, Catenacci DV.T, Bang Y-J, Lin J, Lu J, Yoon HH, Doi T** : KEYNOTE-059 cohort 1:Pembrolizumab(Pembro) monotherapy in previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction(G/GEJ) cancer in patients(Pts) with PD-L1+tumor Asian subgroup analysis. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 045 **Uetake H, Emi Y, Yamanaka T, Muro K, Oki E, Takahashi T, Nagasaka T, Hatano E, Ojima H, Manaka D, Kusumoto T, Katayose Y, Fujiwara T, Yoshida K, Unno M, Hyodo I, Tomita N, Sugihara K, Maehara Y** : A randomized phase II study

- of mFOLFOX6 plus bevacizumab versus mFOLFOX6 plus cetuximab for previously untreated, liver-limited metastatic colorectal cancer that is unsuitable for resection(ATOM trial). ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 046 **Taniguchi H, Yamanaka T, Sakai D, Yamazaki K, Muro K, Peeters M, Price TJ** : Panitumumab versus cetuximab in patients with wild-type KRAS exon 2 metastatic colorectal cancer who received prior bevacizumab therapy: A combined analysis of individual patient data from ASPCCCT and WJOG6510G. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 047 **Kawakami T, Masuishi T, Kawamoto Y, Omae K, Muranaka T, Nakatsumi H, Yuki S, Komatsu Y, Yamazaki K, Onozawa Y, Yasui H, Tajika M, Kadowaki S, Taniguchi H, Muro K** : Predictive value of tumor growth rate during previous treatment for tumor response to regorafenib(REGO) and trifluridine/tipiracil(TFTD) in metastatic colorectal cancer (mCRC). ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 048 **Kadowaki S, Masuishi T, Ura T, Mitani S, Narita Y, Kato K, Honda K, Taniguchi H, Ando M, Muro K** : A triplet combination with irinotecan, oxaliplatin, continuous infusion 5-fluorouracil and leucovorin(FOLFOXIRI) plus cetuximab as first-line treatment in RAS wild-type, metastatic colorectal cancer: A phase 1 dose finding study. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Poster]
- 049 **Yoshino T, Oki E, Nozawa H, Nakajima T, Taniguchi H, Morita S, Takenaka N, Ozawa D, Shirao K, The TRUSTY Study Group** : TRUSTY : A randomized multicenter phase II/III study of trifluridine/tipiracil and bevacizumab versus irinotecan, fluoropyrimidine, and bevacizumab as second-line treatment in patients with metastatic colorectal cancer progressive during or following first-line oxaliplatin-based chemotherapy. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Trials in Progress Poster Session]
- 050 **Yuki S, Yamazaki K, Taniguchi H, Sunakawa Y, Kawazoe A, Kagawa Y, Kato K, Hara H, Denda T, Oki E, Moriwaki T, Shiozawa M, Satoh T, Kawakami H, Esaki T, Furuse J, Abe Y, Nomura S, Ohtsu A, Yoshino T** : The nationwide screening project on plasma angiogenesis-related mediators for treatment selection of optimal antiangiogenic inhibitors in metastatic colorectal cancer: GI-SCREEN CRC-Ukit. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Trials in Progress Poster Session]
- 051 **Maeda H, Nagata N, Nagasaka T, Oba K, Mishima H, Kato T, Yoshida H, Muro K, Sakamoto J** : Trial in progress: A phase II study of second-line FOLFIRI plus panitumumab after first-line FOLFOX plus panitumumab for RAS wild-type colorectal cancer with evaluation of circulating tumor DNA. ASCO-GI,2018,(San Francisco),[Trials in Progress Poster Session]
- 052 **舛石俊樹 (演者), 門脇重憲, 室 圭** : 胃癌における FOLFOX 療法の治療成績 . 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[シンポジウム]
- 053 **室 圭 (司会)** : 進行胃癌治療の最前線 . 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[シンポジウム]
- 054 **室 圭 (演者)** : 伝えたい, 胃癌薬物療法の今 . 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[ランチョンセミナー]
- 055 **室 圭 (演者)** : 大腸癌の薬物療法 . 第 103 回日本消化器病学会総会,2017,(東京),[ポストグラデュエイトコース]
- 056 **室 圭 (演者)** : 胃癌・大腸癌薬物療法におけるエビデンスとプラクティス . 第 54 回九州外科学会,2017,(熊本),[ランチョンセミナー]
- 057 **室 圭 (ディスカッサー)** : Cancer board . 第 71 回日本食道学会学術集会,2017,(軽井沢),[特別企画]
- 058 **野村基雄, 門脇重憲, 牧田智誉子, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 富田夏夫, 立花弘之, 古平毅, 室 圭** : 臨床病期 IB-IV 食道癌に対する根治的 PCF-RT 療法の第 I 相試験 . 第 71 回日本食道学会学術集会,2017,(軽井沢),[ポスター]
- 059 **植村則久, 安部哲也, 川上次郎, 細井敬泰, 室 圭, 宇良 敬, 丹羽康正, 田近正洋, 古平 毅, 牧田智誉子** : 当院におけるサルベージ手術の成績と問題点 . 第 71 回日本食道学会学術集会,ポスター,軽井沢,2017,(軽井沢),[ポスター]
- 060 **室 圭 (座長・演者)** : 切除不能進行・再発大腸癌二次治療における新たな治療戦略 . 第 87 回大腸癌研究会,2017,(三重),[ランチョンセミナー]
- 061 **室 圭 (演者)** : 均てん化のツールとしてのガイドラインの役割 . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[会長特別企画]
- 062 **室 圭 (演者)** : WJOG における大腸がん化学療法の臨床試験 . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[シンポジウム]
- 063 **室 圭 (演者)** : 切除不能進行・再発胃癌におけるペムプロリズマブの臨床試験成績 . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[シンポジウム]
- 064 **室 圭 (演者)** : 大腸癌研究会編大腸癌治療ガイドライン 2016 年改訂版の解説と今後の展開 . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[ESMO/JSMO 合同シンポジウム]
- 065 **室 圭 (司会)** : 腫瘍内科医が学ぶ胃癌周術期補助化学療法 . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[メディカルセミナー]
- 066 **室 圭 (司会)** : 進行再発大腸癌に対する 2 次化学療法 - 新規 VEGF 阻害剤ザルトラップの有効性と安全性 - . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[モーニングセミナー]
- 067 **室 圭 (司会)** : 全国規模のがんゲノムスクリーニングに基づく,がん Precision Medicine 実現に向けた取り組み . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[イブニングセミナー]
- 068 **安藤正志 (司会)** : 抗がん剤を巡る保険医療制度～現状と展望～ . 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸),[シンポジウム]

- 069 宇良 敬 (司会) : 支持療法 4. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 070 門脇重憲, 設楽紘平, 坂井大介, 仁科智裕, 吉川麗月, ピャオヨングゼ, 尾関暁史, 井上晃一, 室 圭 : Phase 1b study of first-line Ramucirumab + Platinum + Fluoropyrimidine in Japanese Patients with advanced gastric cancer. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 071 谷口浩也, 森脇俊和, 辻 晃仁, 在田修二, 坂井大介, 長谷和生, 田村孝雄, 掛地吉弘, 五所正彦, 島田安博 : Regorafenib versus TAS-102 as salvage therapy in colorectal cancer (REGOTAS): a propensity score analysis by the JSCCR. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 072 谷口浩也, 室 圭, 岡本 渉, 赤木 究, 原 浩樹, 仁科智裕, 梶原猛史, 傳田忠道, 廣中秀一, 工藤敏啓, 佐藤太郎, 吉野孝之 : A clinical validation study of RASKET-B: A multiple detection kit for RAS and BRAF gene mutations in colorectal cancer. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 073 成田有季哉 : Peritoneum metastasis (PM) as a prognostic factor for anti-PD-1/PD-L1 monotherapy in metastatic gastric cancer (MGC). 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 074 舛石俊樹, 谷口浩也, 杉山圭司, 三谷誠一郎, 本多和典, 成田有季哉, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭 : 切除不能大腸癌において前治療の腫瘍増殖割合がレゴラフェニブと TAS-102 の抗腫瘍効果に与える影響 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 075 本多和典 (司会) : 医療経済. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 076 本多和典 (演者), 安藤正志, 杉山圭司, 三谷誠一郎, 舛石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 室 圭 : 化学療法実施中のがん患者を対象とした経済毒性 (Financial Toxicity) に関する COST スコアを用いた質問紙調査研究. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 077 三谷誠一郎, 谷口浩也, 舛石俊樹, 成田有季哉, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 谷田部 恭, 室 圭 : 最終ペバシズマブ投与からの期間による抗 EGFR 抗体薬およびイリノテカン併用量法の治療効果の検討. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 078 杉本直俊, 傳田忠道, 佐藤太郎, 濱口哲弥, 宇良 敬, 佐々木 亨, 須永義則, 吉野孝之 : 転移性結腸直腸癌 (mCRC) の日本人患者を対象としたアフリバルセプト + FOLFIRI の第 II 相試験. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 079 若槻 尊, 三谷誠一郎, 長谷川裕子, 原 浩樹, 高張大亮, 陳勁松, 平尾素宏, 門脇重憲, 室 圭 : Chemotherapy for gastric cancer with early recurrence after adjuvant S-1 monotherapy: a multi-center retrospective study. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 080 林 香里, 三谷誠一郎, 谷口浩也, 町田 望, 福富 晃, 小野沢祐輔, 安井博史, 室 圭, 後藤田卓志, 山崎健太郎 : 最終ペバシズマブ投与からの期間による抗 EGFR 抗体薬およびイリノテカン併用量法の治療効果の検討. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 081 野村基雄, 門脇重憲, 牧田智誉子, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 室 圭 : 臨床病期 IB-IV 食道癌に対する根治的 PCF-RT 療法の第 I 相試験. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 082 石井友里加, 能澤一樹, 加藤恭子, 杉山圭司, 福井彩子, 山田 努, 小暮啓人, 北川智余恵, 坂 英雄 : 劇症 1 型糖尿病発症後もニボルマブ投与を継続し得た, 脈絡膜原発悪性黒色腫の 1 例. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 083 白石和寛, 坂 英雄, 北川智余恵, 小暮啓人, 杉山圭司, 加藤恭子, 能澤一樹, 熊澤詔子, 木村恭介, 副田雄也 : 単純子宮全摘出術後, 13 年を経て後腹膜に再発した子宮頸がん SstageIA1 の一例. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [ポスター]
- 084 江頭徹哉, 舛石俊樹, 鈴木康平, 柴田 勇, 深見裕一, 松井 徹, 上山俊介, 市田 崇, 草野史彦, 酒井義法 : A phase II study of S-1, irinotecan and bevacizumab as first-line treatment for KRAS mutant metastatic colorectal cancer. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 085 川上武志, 舛石俊樹, 山崎健太郎, 田中 晶, 谷口浩也, 平嶋泰之, 小野沢祐輔, 安井博史 : The role of oophorectomy for metastatic colorectal cancer patients with ovarian metastases. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 086 山本祥之, 設楽紘平, 門脇重憲, 結城敏志, 廣中秀一, 加藤健志, 原 浩樹, 野村尚吾, 大津 敦, 吉野孝之 : SCRUM-Japan GI-SCREEN: Efficient Identification of Cancer Genome Alterations in Advanced Gastric Cancer. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [口演]
- 087 原 浩樹, 坂井大介, 高野利実, 篠崎勝則, 後藤昌弘, 谷口浩也, 岸本淳司, 朴 成和, 兵頭一之介, 室 圭 : WJOG6510G: FU, IRI, L-OHP 不応・不耐の KRAS 野生型大腸がんに対する Pmab + IRI 対 Cmap + IRI のランダム化第 II 相試験. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2017, (神戸) [セミプレナリーセッション]
- 088 室 圭 (司会) : 大腸がん遺伝子関連検査の現状と展望. 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017, (横浜) [ランチョンセミナー]
- 089 谷口浩也 (演者) : Molecular testing in colorectal cancer : Current status and future directions. (大腸がん遺伝子関連検査の現状と展望) 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017, (横浜) [ランチョンセミナー]
- 090 室 圭 (演者) : 胃・大腸がん薬物療法の新展開ーガイドラインの動向も踏まえてー. 消化器外科学会 (JD-

- DW),2017,(福岡)[ブレイクファストセミナー]
- 091 大西祥代, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原嵩通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 松本慎平, 室 圭, 木下朝博, 谷田部 恭, 丹羽康正: 当院における化学療法施行時のB型肝炎ウイルス再活性化の現状. 肝臓学会(JDDW),2017,(福岡)[デジタルポスターセッション]
- 092 室 圭(演者): 進行・再発乳がんにおけるアバスタチンの活用方法 ~大腸がん, 婦人科がんのエキスパートから学ぶ~. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[学術セミナー]
- 093 室 圭(演者): 胃がん治療のパラダイムシフト ~がん免疫療法の到来~. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[学術セミナー]
- 094 谷口浩也, 鶴谷純司, 土井俊彦, 田村研治, 高橋俊二, バクヘソン, レッドファンチャールズ, リーカレブ, 慈幸貴洋, 藤崎良彦, イヴェルアントワン, 岩田広治: 標準治療不応のHER2 発現固形癌患者に対するDS-8201aの第I相試験 中間報告. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[一般口演]
- 095 舩石俊樹, 谷口浩也, 川上武志, 川本泰之, 門脇重憲, 小野澤祐輔, 村中徹人, 田近正洋, 安井博史, 中積宏之, 結城敏志, 室 圭, 大前勝弘, 小松嘉人, 山崎健太郎: 前治療における腫瘍増殖速度がレゴラフェニブとTAS-102の抗腫瘍効果に与える影響. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[一般口演]
- 096 三谷誠一郎, 尾瀬 功, 門脇重憲, 本多和典, 舩石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室圭: 競合リスクモデルを用いた食道癌根治治療後の他臓器癌発生リスクの検討. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 097 加藤恭子, 成田有季哉, 岡野裕子, 小島勇貴, 三谷誠一郎, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 抗PD-1/PD-L1抗体薬不応後の胃癌に対する殺細胞性抗がん剤の有効性と安全性. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 098 北川雄光, 土岐祐一郎, 加藤 健, 宇良 敬, 小島隆嗣, 對馬隆浩, 廣中秀一, 原 浩樹: ATTRACTION-01(ONO-4538-07): Phase 2 trial of nivolumab monotherapy for esophageal squamous cell carcinoma: 2-year activity and safety update. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[International Session]
- 099 濱島明美, 石黒めぐみ, 杉原健一, 板橋道朗, 室 圭, 佐藤太郎, 小西敏郎: 大腸がん患者・市民のがん情報へのアクセスの現状. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 100 濱島明美, 石黒めぐみ, 杉原健一, 板橋道朗, 室 圭, 佐藤太郎, 金 哲彦, 小西敏郎, 中井美穂: 大腸がん疾患啓発活動「ブルーリボンキャンペーン」の現状と展望. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[パネルディスカッション]
- 101 黒田純子, 楠本 茂, 片岡智美, 日比 聡, 中根茂喜, 町支優和, 竹本将士, 木全 司, 室 圭, 木村和哲: HBs 抗原陰性固形癌患者におけるHBV再活性化の臨床的特徴: 多施設共同後方視的観察研究. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[ワークショップ]
- 102 石黒めぐみ, 中谷英仁, 山口研成, 高橋慶一, 島田安博, 吉田和弘, 水沼信之, 室 圭, 小松嘉人, 杉原健一: 切除不能大腸癌に対するPanitumumab 併用一次治療におけるETS・DoR: PaFF-J 試験. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[International Session]
- 103 小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 伊藤誠二, 安部哲也, 室 圭, 田近正洋, 丹羽康正, 伊藤善之, 長縄慎二: I期食道癌の根治的放射線治療の臨床成績. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 104 小寺泰弘, 安藤雄一, 室 圭, 川井 章, 小田義直, 藤原俊義: 希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[がん診療ガイドライン統括・連絡委員会企画シンポジウム]
- 105 工藤敏啓, 佐藤太郎, 岡本 渉, 室 圭, 谷口浩也, 赤木 究, 原 浩樹, 仁科智裕, 梶原猛史, 傳田忠道, 廣中秀一, 吉野孝之: A clinical validation study of RAS-KET-B: A multiple detection kit for RAS and BRAF gene mutations in colorectal cancer. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[International Session]
- 106 山崎健太郎, 吉野孝之, 室 圭, 加藤健志, 沖 英次, 辻 晃仁, 江見泰徳, 向坂英樹, 坂東英明, 谷口浩也, 賀川義規, 山中竹春, 金澤旭宣: 切除不能大腸癌に対するFOLFOXIRI+bevacizumab療法の第II相試験(QUATTRO study). 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[International Session]
- 107 高原悠子, 赤羽和久, 室田かおる, 岩井美世子, 船崎初美, 室 圭, 岩田広治: がん就労の問題点と課題に対する「がん就労を考える会」参加者アンケートからの考察. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[一般口演]
- 108 江頭徹哉, 舩石俊樹, 森田裕規, 古川貴光, 磯崎 岳, 佐野慎哉, 米本有輝, 木下隼人, 永井瑞紀, 上山俊介, 市田 崇, 草野史彦, 酒井義法: S-1+CPT-11に不応・不耐となった切除不能大腸癌に対するSOX+BVとCapeOX+BVの比較検討. 第55回日本癌治療学会学術集会,2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 109 室 圭(演者): 胃癌薬物療法の新展開. 日本消化器病学会東海支部 第127回例会,2017,(名古屋)[ランチョンセミナー]
- 110 室 圭(司会): 大腸癌の個別化治療に有用な癌悪性度所見. 第88回大腸癌研究会,2018,(東京)[口演]
- 111 谷口浩也(演者): 進行再発大腸癌二次治療~内科的視点からみたザルトラップの位置づけ~. 第88回大腸癌研究会,2018,(東京)[アフタヌーンセミナー]
- 112 宮本裕士, 石黒めぐみ, 中谷英仁, 篠崎英司, 山口達郎,

- 中村将人, 尾嶋 仁, 本間義崇, 後藤昌弘, 石川敏明, 山口研成, 高橋慶一, 島田安博, 吉田和弘, 水沼信之, 室 圭, 小松嘉人, 杉原健一: 第Ⅱ相試験 (PaFF-J 試験) における Panitumumab 併用一次治療の原発巣占拠部位別の治療成績の検討. 第 88 回大腸癌研究会, 2018, (東京) [口演]
- 113 加藤恭子, 本多和典, 成田有季哉, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 花井信広, 谷田部 恭, 室 圭: アレクチニブが奏効した ALK 陽性 炎症性筋線維芽細胞腫瘍の 1 例. 内科学会東海地方会, 2018, (名古屋) [口演]
- 114 **Yamaguchi K, Shitara K, Iwasa S, Tamura K, Kadowaki S, Muro K, Takahashi S, Nonagase Y, Tsurutani J, Park H, Modi S, Javad S, Caleb L, Sugihara M, Kawaguchi Y, Doi T**: Updated Results of Phase 1 study of DS-8201a in subjects with HER2 expressing gastric cancer. 胃癌学会, Oral Presentation, 2018, (横浜) [Oral Presentation]
- 115 **Muro K**: Clinical Trials for Metastatic Gastric Cancer in WJOG, 2018, (横浜) [Symposium]
- 116 加藤恭子 (演者), 成田有季哉, 三谷誠一郎, 本多和典, 舩石俊樹, 谷口浩也, 門脇重憲, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 室 圭: 抗 PD-(L)1 抗体薬不応後の切除不能胃癌に対する化学療法の有効性, 2018, (横浜) [ポスター]
- 117 室 圭 (演者): どう変わったのか? 胃癌治療ガイドライン. 胃癌学会, 2018, (横浜) [Luncheon Seminar]
- 118 室 圭 (演者): 胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の臨床試験とその臨床応用. 胃癌学会, 2018, (横浜) [教育講演]
- 119 室 圭: 20 年後の胃癌治療を語る. 胃癌学会, 2018, (横浜) [座談会]
- 120 室 圭 (演者): 免疫チェックポイント阻害剤が変える胃癌治療. 胃癌学会, 2018, (横浜) [ランチョンセミナー]
- 121 **Kadowaki S (司会)**: Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer 3. 胃癌学会, 2018, (横浜) [Poster Presentation]
- 006 **Yatabe Y**: A New stage of the companion diagnostics of lung cancer. Asian Clinical Oncology Society, 2018, (Chiang Mai, Thailand) [Symposium]
- 007 **Yatabe Y**: Lung Cancer Classification, histology versus genomics. Asian Clinical Oncology Society, 2018, (Chiang Mai, Thailand) [Symposium]
- 008 **Yatabe Y**: Diagnostic immunohistochemistry. IASLC Pathology Committee, 2018, (Vancouver, Canada) [Workshop]
- 009 **Yatabe Y**: Updated Molecular Testing Guideline for Lung Cancer. US-Canada Academy of Pathology 2018 Annual Meeting, 2018, (Vancouver, Canada) [Workshop]
- 010 **Sasaki E, Yatabe Y**: EGFR mutations in sinonasal squamous cell carcinoma, The 107thUSCAP annual meeting, 2018, (Vancouver) [Poster]
- 011 谷田部 恭: 肺癌治療のパラダイムシフト -PD-L1 22C3 検査の実際. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [講演]
- 012 谷田部 恭: スポンサーセミナー. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [座長]
- 013 谷田部 恭: (English) Respiratory tract II. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [座長]
- 014 谷田部 恭: 明日から出来る!! PD-L1 検査 22C3 ハンズオンセミナー ~顕微鏡を備えて~. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [ワークショップ]
- 015 谷田部 恭: 肺癌診療における NGS を含めた診断ワークフロー. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [コンパニオンミーティング]
- 016 谷田部 恭: 肺癌における新しい molecular testing guideline. 第106回日本病理学会総会, 2017, (東京) [ランチョンセミナー]
- 017 谷田部 恭: 肺癌における病理医の新たな役割. 第34回京都臨床細胞学会学術, 2017, (京都) [特別講演]
- 018 谷田部 恭: 肺癌の病理診断. 第43回肺癌診断会, 2017, (愛知) [講演]
- 019 谷田部 恭: がん免疫療法における PD-L1 検査. 第49回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 2017, (岐阜) [教育講演]
- 020 谷田部 恭: 肺癌治療における治療戦略の急速な変化: 2017 年下半期で病理医が知っておくこと. 第63回日本病理学会秋期特別総会, 2017, (東京) [ランチョンセミナー]
- 021 谷田部 恭: 肺癌治療の進歩を知って肺癌バイオマーカー検査を理解しよう!. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 2017, (福岡) [教育講演]
- 022 谷田部 恭: 肺癌における CAP/IASLC/AMP 遺伝子テストガイドラインと細胞診. 第56回日本臨床細胞学会秋期大会, 2017, (福岡) [ランチョンセミナー]
- 023 佐々木英一, 谷田部 恭: EGFR 遺伝子変異は内反性乳頭腫由来の鼻腔・副鼻腔扁平上皮癌に特徴的である. 第106回病理学会総会, 2017, (東京) [口頭]
- 024 佐々木英一, 西川大輔, 長谷川泰久: 頭頸部扁平上皮癌における EGFR 遺伝子変異の検討. 第28回頭頸部外科学会総会, 2018, (宇都宮) [口頭]

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 025 加藤省一：疾患の認識と臨床病理学的研究：T/NK 細胞リンパ腫を例に。第3回リンパ腫分子病態研究会,2017,(松江市)[口演]
- 026 出嶋 仁：術前導入療法後の肺部胸壁浸潤癌に対して行った胸腔鏡・開胸融合手術の1例。第34回日本呼吸器外科学会総会,2017,(福岡)[口演]
- 027 出嶋 仁：HRCTでGGNを呈する肺腺癌における、CT値を用いた術前診断の検討。第58回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜)[口演]
- 028 柴田典子：シンポジウム「がん診療における遺伝子検査 - Current and Future Perspectives -」固形癌における将来展望。第65回日本医学検査学会,2017,(千葉)[口演]
- 029 長谷川かおり, 所 嘉朗, 谷田部 恭：超音波ドプラ法による乳癌リンパ節転移の評価能に関する検討。第66回日本医学検査学会,2017,(千葉)[口演]
- 030 櫻井えり子, 本山めぐみ, 長谷川かおり, 所 嘉朗, 谷田部 恭：心電図検査内部精度管理に関する検討。第56回中部圏支部医学検査学会,2017,(愛知)[口演]
- 031 植田菜々絵, 井上麻衣, 太田裕子, 柴田典子, 所 嘉朗, 村上善子, 谷田部 恭：ROS1(D4D6)IHC法の検討。第56回中部圏支部医学検査学会,2017,(愛知)[口演]
- 032 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：胸水・心嚢水に出現した乳癌の細胞学的検討。第56回日本臨床細胞学会総会秋季大会,2017,(福岡)[ポスター]
- 033 吉野 聡, 井上麻衣, 柴田典子：病理検査手順施設間相互チェックの試み。平成29年度がん診療拠点病院臨床検査技師研修会,2018,(名古屋)[口演]
- 034 近藤吉起, 藤田奈央, 植田菜々絵, 太田裕子, 村上善子, 谷田部 恭：稀な組織像を示した悪性中皮腫の一例。第37回日本臨床細胞学会東海連合会総会,2018,(名古屋)[口演]
- 005 長谷川泰久：薬剤性間質性肺疾患の予防と対策。第6回口腔癌化学療法研究会,2017,(横浜)[口演]
- 006 花井信広：中咽頭癌における新TNM分類基準と局所進行例に対する治療戦略。Head and Neck summit in Hiroshima,2017,(広島)[特別講演]
- 007 花井信広：局所進行頭頸部癌に対する治療戦略と手術のTips。第19回高知頭頸部癌勉強会,2017,(高知)[特別講演]
- 008 花井信広, 木村隆浩, 澤部 倫, 鈴木秀典, 小澤泰次郎, 平川 仁, 福田裕次郎, 長谷川泰久：頭頸部癌におけるmodified GPSおよびhigh-sensitivity modified GPSの有用性。第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会,2017,(広島)[口演]
- 009 小出悠介, 小栗恵介, 高野 学, 寺田星乃, 福田裕次郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久：頭頸部癌リンパ節転移と頸動脈洞症候群。第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会,2017,(広島)[口演]
- 010 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久：再建を伴う口腔悪性腫瘍切除後の気管カニューレ抜去, 経口摂取や肺転移の予測。第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会,2017,(広島)[口演]
- 011 花井信広：リンパ節の計測法に関する問題点。日本超音波医学会第90回学術集会,2017,(宇都宮)[シンポジウム]
- 012 小栗恵介, 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 小出悠介, 西川大祐, 長谷川泰久：眼窩悪性腫瘍が疑われた炎症偽腫瘍の一例。第169回東海地方部会連合講演会,2017,(名古屋)[口演]
- 013 花井信広, 坂下智博：局所進行頭頸部癌の分子標的薬治療 - 外科的治療と分子標的薬を味方にするために -。第41回日本頭頸部癌学会,2017,(京都)[学術セミナー]
- 014 久保田彰, 藤井正人, 甲能直幸, 川端一嘉, 長谷川泰久, 塚原清彰, 田口享秀, 吉野邦俊, 富田吉信, 手良向聡：頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法の有用性を根治治療別に検討したACTS-HNC試験のsubgroup解析。第41回日本頭頸部癌学会,2017,(京都)[口演]
- 015 萩原純孝, 兵藤伊久夫, 西川大輔, 小出悠介, 福田裕次郎, 鈴木秀典, 花井信広, 橋 五月, 奥村誠子, 日比英晴, 長谷川泰久：下顎前方欠損の腭骨皮弁再建における形態的工夫について。第41回日本頭頸部癌学会,2017,(京都)[口演]
- 016 福田裕次郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 小栗恵介, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 長谷川泰久：頭頸部再建手術中の電気メス高周波分流による熱傷例。第41回日本頭頸部癌学会,2017,(京都)[ポスター]
- 017 別府慎太郎, 伊藤洋平, 草深公秀, 飯田善幸, 鬼塚哲郎, 谷田部 泰, 花井信広, 長谷川泰久, 伊地知圭, 村上信五, 稲垣 宏：唾液腺腺様嚢胞癌と癌精巣抗原。第41回日本頭頸部癌学会,2017,(京都)[口演]
- 018 齋田昆佑, 村瀬貴幸, 藤井香那, 草深公秀, 梅村昌宏,

頭頸部外科部

- 001 Hanai N, Kimura T, Sawabe M, Suzuki H, Ozawa T, Hasegawa Y: The prognostic value of the modified glasgow prognostic score and the high-sensitivity modified glasgow prognostic score in head and neck cancer. 2017 IFOS World Congress,2017,(パリ)[口演]
- 002 Suzuki H, Hanai N, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hasegawa Y: Correlation between lymph node density and survival outcomes in differentiated papillary thyroid carcinoma based on the eighth edition UICC. 2nd Congress of Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery,2017,(沖縄)[ポスター]
- 003 Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Koide Y, Beppu S, Hasegawa Y: Difficult neck management and further operative procedures. 2nd Congress of Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery,2017,(沖縄)[シンポジウム]
- 004 花井信広：外切開による喉頭部分切除術の歴史。第29回日本喉頭科学会総会・学術講演会,2017,(盛岡)[シンポジウム]

- 嘉悦淳男, 伊地知圭, 丹生健一, 長谷川泰久, 下郷和雄, 稲垣 宏: 唾液腺腺様嚢胞癌: RAS 遺伝子異常の臨床病理学的意義. 第41回日本頭頸部癌学会, 2017,(京都)[口演]
- 019 高津淳, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 長谷川泰久, 山本正彦: 舌癌周術期 62 例における構音障害の音声学的・音響学的検討. 第41回日本頭頸部癌学会, 2017,(京都)[口演]
- 020 花井信広: 再発・遠隔転移を有する頭頸部癌に対する国際共同第Ⅲ相試験 (CheckMate141 試験) から見る Nivolumab の可能性. オプジーボ頭頸部癌承認記念講演会, 2017,(名古屋)[特別講演]
- 021 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久: 鼻副鼻腔扁平上皮癌に対する在院治療期間や死亡率. 第29回日本頭蓋底外科学会, 2017,(松本)[口演]
- 022 西川大輔, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 高野 学, 小栗恵介: Non-bifurcating carotid artery に対して動脈塞栓術を行った1例. 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会学術講演会, 2017,(下関)[ポスター]
- 023 鈴木秀典, 高野 学, 西川大輔, 福田裕次郎, 小栗恵介: 頭頸部肉腫における肺転移. 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会学術講演会, 2017,(下関)[ポスター]
- 024 福田裕次郎, 鈴木秀典, 山下裕司: 鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性の予測. 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会学術講演会, 2017,(下関)[ポスター]
- 025 小栗恵介, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 高野 学: 頻回の Provox[®] 交換を要した症例とその対処. 第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会学術講演会, 2017,(下関)[ポスター]
- 026 鈴木秀典: 『咽喉頭癌の現状と愛知県がんセンターの取り組み』について. 平成29年度中部日本ブロック発生訓練指導者養成研修会, 2017,(名古屋)[講演]
- 027 鈴木秀典: 頭頸部外科医から放射線医へ期待すること. 第22回東海腫瘍核医学研究会, 2017,(名古屋)[講演]
- 028 小出悠介, 西川大祐, 小栗恵介, 寺田星乃, 別府慎太郎, 萩原純孝, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久: 耳下腺類上皮血管内皮腫の1例. 第170回東海地方部会連合講演会, 2017,(名古屋)[口演]
- 029 花井信広, 寺田星乃, 長谷川泰久: 甲状腺乳頭癌と頭頸部扁平上皮癌のリンパ節転移様式の違い. 第39回日本乳癌甲状腺超音波医学会学術集会, 2017,(大宮)[シンポジウム]
- 030 松塚 崇, 清田尚臣, 水澤純基, 秋元哲夫, 長谷川泰久, 岩江信法, 門田伸也, 松浦一登, 小野澤祐輔, 本間明宏, 藤井博文, 福田治彦, 林 隆一, 田原 信: 根治切除不能な頭頸部扁平上皮癌における悪液質と予後の検討 JCOG0706 副次的解析. 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[学術セミナー]
- 031 花井信広: 「BRT」×「頸部郭清術」実践的ノウハウ. Scientific Exchange Conference ~頭頸部癌 Expert Seminar ~, 2017,(宇都宮)[特別講演]
- 032 花井信広: BRT は世界的にどのぐらい使われているか?. 兵庫頭頸部がん治療研究会, 2017,(神戸)[特別講演]
- 033 花井信広, 小栗恵介, 的場拓磨, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎, 長谷川泰久: ボイスプロテーゼ留置と問題点. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2017,(大阪)[シンポジウム]
- 034 西川大祐, 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 小栗恵介, 長谷川泰久: cTis-cT2 喉頭癌・下咽頭癌に対する治療法選択. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2017,(大阪)[口演]
- 035 小栗恵介, 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 小出悠介, 別府慎太郎, 寺田星乃, 西川大祐, 長谷川泰久: 眼窩悪性腫瘍が疑われた炎症偽腫瘍の一例. 第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2017,(大阪)[ポスター]
- 036 松塚 崇, 上村裕和, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 本間明宏, 横山順吉, 塚原清彰, 吉崎智一, 谷田部泰, 小針健大, 小須田茂, 室野重之, 長谷川泰久: 口腔がんに対するセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術における微小転移の定義の試み. 第19回 SNNS 研究会学術集会, 2017,(東京)[シンポジウム]
- 037 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術共同研究班, 長谷川泰久, 甲能直幸, 吉本世一, 松塚 崇, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山順吉, 近松一郎, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 北村守正, 篠崎 剛, 塚原清彰, 小須田茂, 尾瀬 功, 谷田部 泰, 村上善子: 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術臨床試験. 第19回 SNNS 研究会学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 038 鈴木秀典: 喉頭癌 cT3-cT4 の喉頭温存治療. 第10回喉頭機能温存治療研究会, 2017,(東京)[シンポジウム]
- 039 齋田昂佑, 村瀬貴幸, 藤井香那, 川北大介, 草深公秀, 長谷川泰久, 丹生健一, 多田雄一郎, 稲垣 宏: 唾液腺腺様嚢胞癌 EGFR 経路における遺伝子異常解析. 第62回日本唾液腺学会, 2017,(東京)[口演]
- 040 西川大輔: 中下咽頭癌に対する経口的咽頭切除の検討. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[口演]
- 041 花井信広: 免疫チェックポイント阻害薬が変える頭頸部がん治療. 第28回日本頭頸部外科学会総会, 2018,(宇都宮)[セミナー]
- 042 小出悠介, 西川大祐, 小栗恵介, 寺田星乃, 別府慎太郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久: 耳下腺類上皮血管内皮腫の1例. 第28回日本頭頸部外科学会総会, 2018,(宇都宮)[口演]
- 043 鈴木秀典, 中多祐介, 花井信広, 西川大輔, 小出悠介, 長谷川泰久: 咽喉頭癌に対する救済手術前の FDG-PET/CT における Total lesion glycolysis は, 生存や肺転移を予測する. 第28回日本頭頸部外科学会総会, 2018,(宇都宮)[口演]
- 044 松塚 崇, 上村裕和, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 本間明宏, 横山順吉, 塚原清彰, 吉崎智一, 小針健大, 室野重之, 長谷川泰久: 口腔がんセンチネルリンパ節ナビゲーション頸部郭清術における微小転移の定義の試み. 第28回日本頭頸部外科学会総会, 2018,(宇都宮)[口演]
- 045 中多祐介, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介,

福田裕次郎, 清水猛史, 長谷川泰久: 頸部食道癌に対して, 喉頭温存を目指した化学放射線療法とケモセクションの比較検討. 第28回日本頭頸部外科学会総会, 2018,(宇都宮)[口演]

- 046 萩原純孝, 兵藤伊久夫, 小出悠介, 西川大輔, 長谷川泰久: 術後に保守的整復を要した高齢者下顎再建の2例. 第36回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 2018,(新潟)[口演]
- 047 長谷川泰久: 筋膜と筋間隙に基づく頭頸部癌の手術と術前化学療法. 第35回東海頭頸部腫瘍研究会, 2018,(名古屋)[特別講演]

形成外科部

- 001 橋 五月, 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 舌再建に深下腹壁動脈穿通枝皮弁(DIEP皮弁)の経験. 第60回日本形成外科学会総会・学術集会, 2017,(大阪)[一般演題]
- 002 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 成田央良, 亀井 譲: Analysis of Intra/post-operative Incidence in Head and Neck Microsurgical Reconstruction. 第9回国際マイクロサージャリー学会, 2017,(ソウル)[パネルディスカッション]
- 003 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 成田央良, 亀井 譲: 複数の皮弁を用いた頭蓋底再建例の検討. 第41回日本頭頸部癌学会, 2017,(京都)[一般演題]
- 004 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 成田央良, 中村亮太, 亀井 譲: 既頸部郭清例における頭頸部遊離皮弁再建の検討. 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2017,(岐阜)[シンポジウム]
- 005 奥村誠子, 角谷 聡, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 起壊死性抗がん剤の血管外漏出に血管外漏出治療薬デクスラゾキサンを使用するも皮膚全層壊死が生じた症例に対しPICO®使用にて創閉鎖した経験. 第9回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2017,(岐阜)[ポスター]
- 006 奥村誠子, 角谷 聡, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 権藤なおみ, 小谷はるる, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 服部正也, 岩田広治, 武石明精, 亀井 譲: リスク低減乳房切除および乳房再建を施行した10症例の乳房再建についての検討. 第25回日本乳癌学会学術集会, 2017,(福岡)[ポスター]
- 007 奥村誠子, 成田央良, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: リスク低減乳房切除および乳房再建について. 第52回中部形成外科学会学術集会, 2017,(名古屋)[ミニシンポジウム]
- 008 奥村誠子, 成田央良, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 亀井 譲, 安立弥生, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 岩田広治: 当院における1次1期SBI再建方法-安全性担保の必要性と工夫. 第5回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会学術総会, 2017,(東京)[一般演題]
- 009 成田央良, 奥村誠子, 橋 五月, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 遊離腹直筋皮弁による乳房再建時に腹腔鏡手術によって深下腹壁動脈が損傷されていた1例. 第70回東海形成外

科学会, 2017,(浜松)[一般演題]

- 010 兵藤伊久夫, 亀井 譲: チタンメッシュを用いた鼻根部を含む前頭部再建の1例. 第35回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2017,(福岡)[一般演題]
- 011 成田央良, 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 橋 五月, 亀井 譲: 舌垂・全摘再建後の中期嚥下機能評価. 第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2017,(宮崎)[一般演題]
- 012 奥村誠子, 橋 五月, 成田央良, 兵藤伊久夫, 澤木正孝, 服部正也, 吉村章代, 石黒淳子, 小谷はるる, 権藤なおみ, 安立弥生, 岩田広治, 亀井 譲: Immediate one-stage implant-based breast reconstruction without an acellular dermal matrix in Japanese breast cancer patients. 第40回サンアントニオ乳房シンポジウム, 2017,(サンアントニオ(アメリカ))[ポスター]
- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 成田央良, 亀井 譲: 耳下腺切除後, 顔面神経再建におけるナーブリッジ®の使用経験. 第2回東海神経再生研究会, 2018,(名古屋)[一般演題]

呼吸器外科部

- 001 **Kuroda H, Sakao Y**: VATS Segmentectomy for lung cancer by safe stapler technique and cartridge selection. Powerd Forum 上海, 2017,(上海)[シンポジウム]
- 002 **Kuroda H, Sakata S, Dejima H, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y**: Profiling of indocyanine green for segmental boundary visibility during fluorescence imaging. アジア心臓血管胸部外科学会, 2017,(韓国)[一般口演]
- 003 **Mizuno T, Fukuzawa T, Sugita Y, Matusi T, Koyama S, Sakata S, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y**: Current outcomes of postrecurrence survival in patients after resection of non-small cell lung cancer. ESMO Asia 2017,(シンガポール)[ポスター]
- 004 坂尾幸則: 当院における肺がん治療における salvage surgery の適応、考え方、成績. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017,(横浜)[ワークショップ]
- 005 坂尾幸則: 肺癌新 TNM 分類を検証する = c T と病理学的 invasive size の乖離について = 第79回日本臨床外科学会総会, 2017,(東京)[ワークショップ]
- 006 黒田浩章, 出嶋 仁, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: Clinical IA肺腺がんに対する術前画像所見見合わせによる予後の評価. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[シンポジウム]
- 007 黒田浩章, 坂田省三, 出嶋 仁, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: ICG 蛍光観察を用いた完全胸腔鏡下肺区域間同定 - Spectra A による視認性の向上の検討 - . 第40回呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017,(長崎)[シンポジウム]
- 008 黒田浩章, 坂尾幸則: 肺癌手術に対する VATS 難所の攻略法. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 2017,(

- 札幌)[イブニングセミナー]
- 009 坂倉範昭, 坂田省三, 出嶋 仁, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 肺全摘症例の長期成績: 隣接臓器浸潤の観点から. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[ポスター]
- 010 坂倉範昭, 水野鉄也, 坂田省三, 小山 真, 松井琢哉, 杉田裕介, 有村隆明, 黒田浩章, 坂尾幸則: 化療/放治療導入療法後の肺全摘とサルベージ肺全摘: 成績とリスク, 通常全摘との比較. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 2017,(札幌)[一般口演]
- 011 坂倉範昭, 出嶋 仁, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 縦隔原発非セミノーマ悪性胚細胞腫に対する化学療法後の根治術一切除範囲とマージンをどう決定するか. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017,(横浜)[ビデオ]
- 012 水野鉄也, 坂田省三, 出嶋 仁, 有村隆明, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 肺癌に対する分子標的治療後のサルベージ切除. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[要望演題]
- 013 水野鉄也, 坂田省三, 出嶋 仁, 谷田部恭, 樋田豊明, 有村隆明, 黒田浩章, 坂倉範昭: 当院における非小細胞肺癌術後補助化学療法の現状と課題. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017,(横浜)[ワークショップ]
- 014 有村隆明, 坂尾幸則, 坂倉範昭, 黒田浩章, 水野鉄也, 出嶋 仁, 坂田省三: 80歳超高齢者におけるcN0肺癌手術例の検討. 第58回日本肺癌学会学術集会, 2017,(横浜)[口演]
- 015 有村隆明, 坂田省三, 出嶋 仁, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 無治療で陰影の自然縮小を認めた原発性肺癌6例の検討. 第111回呼吸器学会東海地方学会, 2017,(名古屋)[口演]
- 016 坂田省三, 坂倉範昭, 出嶋 仁, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部恭, 坂尾幸則: 浸潤性粘液産生性腺癌における切除後予後についての検討. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[ポスター]
- 017 坂田省三, 出嶋 仁, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 肺手術時の気管挿管が原因で声門下狭窄を来し気管切開を要した一例. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017,(長崎)[ポスター]
- 018 坂田省三, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 福澤俊昭, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 食道被覆により修復し得た縦隔腫瘍再手術の気管膜様部損傷の1例. 第53回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会, 2017,(名古屋)[口演]
- 019 坂田省三, 黒田浩章, 杉田裕介, 松井琢哉, 小山 真, 有村隆明, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 胸腔鏡下左上葉亜区域切除が呼吸機能に及ぼす影響. 第70回日本胸部外科学会定期学術集会, 2017,(札幌)[ポスター]
- 020 松井琢哉, 遠藤克彦, 山田 健: 胸腔鏡下左上葉切除後に施行した残存肺全摘術の経験. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[要望ビデオ]
- 021 松井琢哉, 遠藤克彦, 山田 健: 当院における気管気管支形成術の検討 完全鏡視下手術の導入と成績. 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2017,(長崎)[ビデオワークショップ]
- 022 松井琢哉, 遠藤克彦, 山田 健: 胸腔鏡下に切除した左不全分葉肺に発生した紡錘胞癌の1例. 第60回関西胸部外科学会学術集会, 2017,(大阪)[Case presentation]
- 023 杉田裕介, 石橋洋則, 川田 悠, 栗原康之, 菅原了子, 今井紗智子, 高崎千尋, 小林正嗣, 大久保憲一: Transmanubrial Approachにより摘出した神経原性腫瘍の3手術例の検討. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[ビデオ]
- 024 杉田裕介, 坂倉範昭, 松井琢哉, 小山 真, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則, 出嶋 仁, 谷田部 恭: 診断に難渋した肺癌胸壁転移の1例. 第111回日本肺癌学会中部支部学術集会, 2017,(名古屋)[口演]
- 025 杉田裕介, 黒田浩章, 松井琢哉, 小山 真, 福澤俊昭, 坂田省三, 有村隆明, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 不全分葉に対する胸腔鏡下右S10区域切除術のアプローチ方法の検討. 第30回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[口演]
- 026 仲西慶太, 小柳 和夫, 佐藤 中, 岡田尚也, 加藤文彦, 金森 淳, 大幸宏幸: 食道表在癌手術症例における胸管温存に関する検討. 第79回日本臨床外科学会総会, 2017,(東京)[一般口演]
- 027 仲西慶太, 小柳和夫, 加藤文彦, 岩部 純, 日月裕司: 胃全摘を除く胃切除後の食道癌手術症例における残胃温存の妥当性. 第71回日本食道学会学術集会, 2017,(長野)[一般口演]
- 028 仲西慶太, 中川加寿夫, 渡邊敬夫, 朝倉啓介, 渡辺俊一, 渡辺裕一: 石灰化リンパ節を伴う原発性肺癌手術症例の後方視的観察研究 転移頻度および臨床病理学的所見について. 第34回日本呼吸器外科学会総会, 2017,(福岡)[一般示説]

乳腺科部

- 001 *Modi S, Tsurutani J, Takagashi S, Iwata H, Park H, Redfern CD, Doi T, Li B, Iwasa T, Taira S, Hattori M, Ma CX, Fisher JM, Naito Y, Yonemori K, Kawasaki Y, Saito K, Jikoh T, Shahidi J, Lee CC, Yver A, Tamura K*: Safety and efficacy results from a phase 1 study of DS-8201a in patients with HER2 expressing breast cancers. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017, 2017,(テキサス州サンアントニオ)[スポットライトセッション]
- 002 *Chia SKL, Martin M, Holmes FA, Ejertsen B, Delaloge S, Moy B, Iwata H, von Minckwitz G, Mansi J, Barrios CH, Grant M, Tomasevic Z, Denduluri N, Separovic R, Kim S-B, Hugger Jakobsen, Harvey V, Robert N, Smith II J, Harker G, Lalani AS, Zhang B, Eli LD, Buyse M, Chan A*: PIK3 alterations and benefit with neratinib after trastu-

- zumab-based adjuvant therapy in early-stage HER2+ breast cancer : Correlative analyses of the phase III ExteNET trial. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[スポットライトセッション]
- 003 **Yamamoto Y, Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Kashiwaba M, Ohtani S, Taira N, Sasaki T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Sakamaki K, Chao C, McCullough D, Sugiyama N, Ohashi Y**: TransNEOS:Validation of the oncotype DX recurrence score (RS) testing core needle biopsy samples from NEOS as predictor of clinical response to neoadjuvant endocrine therapy for postmenopausal estrogen receptor positive (ER+), HER2 negative (HER2-) breast cancer patients. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[スポットライトセッション]
- 004 **Chia SKL, Martin M, Iwata H, Moy B, Lalani AS, Holmes FA, Mansi J, von Minckwitz G, Byse M, Delalge S, Ejlersen B, Yao B, Murias Rosales A, Hellerstedt B, Cold S, Inoue K, Shen Z-Z, Galeano T, Barrios CH, Chan A**: Effects of neratinib after trastuzumab-based adjuvant therapy in hormone receptor-positive HER2+ early-stage breast cancer : Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスターセッション]
- 005 **Ejlertsen B, Chan A, Grant M, von Minckwitz G, Delaloge S, Buyse M, O'Shaughnessy J, Mansi M, Moy B, Iwata H, Wong A, Ye Y, Means-Powell J, Hui R, Ruiz-Berrego M, Ruiz-Simon A, Shen Z-Z, Holmes FA, Lesniewski Kmak K, Martin M**: Timing of initiation of neratinib after completion of trastuzumab-based adjuvant therapy in early-stage HER2+ breast cancer : Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスターセッション]
- 006 **Iwata H, Masuda N, Kim S-B, Inoue K, Rai Y, Fujita T, Shen-Z-Z, Chiu JW, Ohtani S, Takahashi M, Yamamoto N, Miyaki T, Sun Q, Yen-Shen L, Xu B, Yap YS, Bustam AZ, Lee JR, Zhang B, Bryce R, Chan A**: Neratinib in the extended adjuvant treatment of patients from Asia with early-stage HER2+ breast cancer after trastuzumab-based therapy : Exploratory analyses from the phase III ExteNET trial. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスターセッション]
- 007 **Shimomura A, Masuda N, Tamura K, Yasojima H, Sawaki M, Nishimura Y, Saji S, Iwata H**: A phase 1 study of KHK2375 (entinostat) as monotherapy and in combination with exemestane in Japanese patients with hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced or recurrent breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスターセッション]
- 008 **Iwata H, Masuda N, Fujisawa T, Toyama T, Ohtani S, Yamamoto Y, Kashiwaba M, Taira N, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T, Ohashi Y**: NEOS : A randomized, open label, phase 3 trial of adjuvant chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole : Forst report of long-term outcome and prognostic value of response to neoadjuvant endocrine therapy. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスターセッション]
- 009 **Shien T, Tanaka K, Kinoshita T, Hara F, Fujisawa T, Masuda N, Tamura K, Hojo T, Kanbayashi C, Nükura N, Shibata T, Fukuda H, Iwata H**: A randomized controlled trial comparing primary tumor resection plus systemic therapy with systemic alone in metastatic breast cancer (JCOG1017 PRIM-BC). (Abstract TPS587). ASCO2017 Annual Meeting,2017,(シカゴ)[ポスターセッション]
- 010 **Ogiya R, Niikura N, Kumaki N, Yasojima H, Iwasa T, Kanbayashi C, Oshitanai R, Tsuneizumi M, Watanabe K, Matsui A, Fujisawa T, Saji S, Tokuda Y, Masuda N, Iwata H**: Immune microenvironment in brain metastases of breast cancer. ASCO2017 Annual Meeting,2017,(シカゴ)[ポスターセッション]
- 011 **Adams S, Loi S, Toppmeyer D, Cesson D.W. , De Laurentiis M De, Nanda R, Winer E.P. ,Mukai H, Tamura K, Armstrong A, Liu M.C. , Iwata H, Ryvo L, Wimberger P, Card D, Ding Y, Karantz V, Schmid P**: Phase 2 study of pembrolizumab as first-line therapy for PD-L1 - positive metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC) : Preliminary data from KEYNOTE-086 cohort B. (Abstract 1088). ASCO2017 Annual Meeting,2017,(シカゴ)[ポスターセッション]
- 012 **Tsurutani J, Doi T, Iwata H, Takahashi S, Modi S, Tamura K, Shitara K, Taniguchi H, Taira S, Li B, Shimomura A, Sato Y, Akiyama K, Fujisaki Y, Lee C, Yver A, Nakagawa K**: Updated results of phase1 study of DS8201a in patients with HER2 expressing non-breast, non-gastric malignancies. ESMO2017,2017,(マドリード)[ポスター]
- 013 **Martin M, Holmes FA, Ejlersen B, Delaloge S, Moy B, Iwata H, von Minckwitz G, Chia S, Mansi J, Barrios C, Gnani M, Tomasovic Z, Denduluri N, Separovic R, Kim S-B, Jakobsen EH, Bryce R, Xu F, Buyse M, Chan A**: Neratinib after trastuzumab (T)-based adjuvant therapy in early-stage HER2+ breast cancer (BC) : 5-year analysis of the phase 3 ExteNET trial.ESMO2017,2017,(マドリード)[口演]
- 014 **Loi S, Adams S, Schmid P, Cortés J, Cescon D.W., Winer, E.P. , Toppmeyer D, Rugo H.S., Laurentiis M, Nanda R, Iwata H, Dieras V, Awada A, Wang A, Aktan G, Karantz V, Salgado R**: Relationship between tumor infiltrating lymphocyte (TIL) levels and response to pembrolizumab (pembro) in metastatic triple-negative breast cancer (mTNBC) : results

- from KEYNOTE-086. ESMO2017,2017,(マドリード)[口演]
- 015 **Kaufman P, Iwata H, Nikolinakos P, Beck T, Koh H, Trujillo J L-G, Lin Y, Barriga S, Headley D, Bourayou N, Llombart-Cussac A, Sledge, Jr. G-W**: Abemaciclib plus fulvestrant in patients with HR+/HER2- endocrine therapy naïve advanced breast cancer - an exploratory analysis of MONARCH 2. ESMO2017, 2017,(マドリード)[口演]
- 016 **Yee D, Prat A, Sablin M. P, Iwata H, Bogenrieder T, Huang D C-L, Serra J, Braunger J, Fürtig R, Kress T, Russo P.L.**: A phase Ib trial of xentuzumab and abemaciclib in patients with locally advanced or metastatic solid tumours, hormone receptor-positive (HR+), HER2-negative (HER2-) breast cancer (BC; +/-endocrine therapy), or non-small-cell lung cancer (NSCLC). ESMO2017,2017,(マドリード)[ポスター]
- 017 **Toi M, Huang C-S, Im Y-H, Iwata H, Sohm J, Wang H-C, Masuda N, Lin Y, Sakaguchi S, Bourayou N, Lilombart-Cussac A, Sledge, Jr. G-W**: Monarch 2 : Abemaciclib in combination with fulvestrant in Asian women with HR+ HER2- advanced breast cancer who progressed on endocrine therapy. ESMO2017,2017,(マドリード)[ポスター]
- 017 **Hattori M, Tamura K, Mukai H, Miyoshi Y, Masuda N, Suzuki E, Ishiguro H, Ohtani S, Hara F, Shimamoto T, Yamamoto K, Ding Y, Aktan G, Karantza V, Iwata H**: Phase 2 Study of Pembrolizumab for Metastatic Triple-Negative Breast Cancer (mTNBC); Results for the Japanese Subgroup of KEYNOTE-086. ESMO Asia 2017,2017,(シンガポール)[口演]
- 018 **Hattori M, Nakanishi H, Adachi Y, Iwase M, Yishimura A, Gondo N, Kotani H, Sawaki M, Yatabe Y, Iwata H**: Circulating tumor cells (CTCs) in the venous drainage of the breast in patients with primary breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2017,2017,(テキサス州サンアントニオ)[ポスター]
- 019 **安立弥生**: Comparison of sentinel lymph node biopsy between invasive lobular carcinoma and invasive ductal carcinoma. CoBrCa. 2017,(東京)[ポスター]
- 020 **寺田満雄**: The current status of 21-gene signature in early breast cancer patients with hormone receptor positive at single institution in Japan. CoBrCa, 2017,(東京)[ポスター]
- 021 **服部正也, 中西速夫, 吉村章代, 岩瀬まどか, 安立弥生, 谷田部 恭, 岩田広治**: 手術可能乳癌における血中循環がん細胞 (CTC) 分離デバイスを用いた末梢静脈血及び外側胸静脈血からの CTC 検出. 第 117 回日本外科学会定期学術集会,2017,(横浜)[ポスター]
- 022 **服部正也, 杉野香世子, 新貝夫弥子, 吉村章代, 石黒淳子, 小谷はるる, 澤木正孝, 権藤なおみ, 片岡愛弓, 大西 桜, 岩瀬まどか, 岩田広治**: 主観的及び客観的評価法によるドセタキセルの四肢浮腫の経時的評価とその一致性. 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[シンポジウム]
- 023 **澤木正孝**: 問診・病歴の取り方、家族歴、家族集積性、治療のプランニング、乳癌以外の悪性腫瘍、良性疾患の治療. 日本乳癌学会第 6 回乳腺専門医セミナー,2017,(東京)[口演]
- 024 **澤木正孝**: 高齢者がん患者へのアプローチ - 乳がん -. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸)[ワークショップ]
- 025 **吉村章代**: 近年における乳癌の長期予後改善に関する検討 (地域がん登録データより). 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[ポスター討論]
- 026 **小谷はるる**: 当院での ER 陽性 /HER2 陰性乳癌の再発治療の検討. 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[ポスター]
- 027 **安立弥生**: アロマターゼ阻害剤投与の現状. 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[ポスター]
- 028 **安立弥生**: 乳癌患者における切除・再建術式別の術後満足度に関する調査. 第 5 回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会,2017,(東京)[口演]
- 029 **寺田満雄**: HER2 FISH の結果が前医と一致せず、さらに再発時に根治可能性が見逃されていた男性乳癌の一例. 第 14 回乳癌学会中部地方会,2017,(飯田)[口演]
- 030 **寺田満雄**: エベロリムス + エキセメスタン併用療法の有効性と治療中止理由の検討. 第 55 回癌治療学会学術総会,2017,(横浜)[口演]
- 031 **堀澤七恵**: 放射線後に生じた繰り返す続発性乳房血管肉腫の一例. 第 14 回乳癌学会中部地方会,2017,(飯田)[口演]
- 032 **森万希子**: 乳腺アミロイド腫瘍の一例. 第 14 回乳癌学会中部地方会,2017,(飯田)[口演]
- 033 **片岡愛弓, 小谷はるる**: 一次再建術後の局所再発症例に学ぶリスク因子についての検討. 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[ポスター]
- 034 **片岡愛弓**: ワクチン接種後の FDG-PET 検査で腋窩リンパ節に False positive な集積を認めた一例. 第 14 回乳癌学会中部地方会,2017,(飯田)[口演]
- 035 **杉野香世子**: 患者自身の主観的評価と客観的評価による TC 療法の浮腫の検討. 第 25 回日本乳癌学会学術総会,2017,(福岡)[ポスター]
- 036 **杉野香世子**: 胸骨傍リンパ節の摘出を行った乳癌の 1 例. 第 14 回乳癌学会中部地方会,2017,(飯田)[口演]

消化器外科部

- 001 **Ouchi A, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Shimizu Y**: COMPLETE LATERAL LYMPHNODE DISSECTION USING A TRANSABDOMINAL AND EXTRAPERITONEAL APPROACH: AVOIDING LOCAL RECURRENT IN LOW RECTAL CANCER. Digestive Disease Week (DDW) 2017, 2017,(Chicago)[示説]
- 002 **Takahashi S, Ohno I, Ikeda M, Konishi M, Kobayashi T, Akimoto T, Kojima M, Morinaga S, Yonson Ku, Shimizu Y, Nakamori S, Hishinuma S, Takakura N, Kainuma O, Hira-**

- no S, Otsubo T, Nagino M, Kimura W, Yamashita Y, Uesaka K* : Phase II trial of neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy for borderline resectable pancreatic cancer: Interim results of JASPAC05. 2017 ASCO Annual Meeting, 2017,(Chicago),[示説]
- 003 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y* : Predictive factors for anastomotic stenosis of hepaticojejunostomy after pancreaticoduodenectomy for patients without preoperative biliary stenting. 第6回アジア太平洋肝胆膵学会第29回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2017,(横浜),[口演]
- 004 *Senda Y, Shimizu Y, Natsume S* : A comparison of patency of the main pancreatic duct and risk of fatty liver after pancreaticoduodenectomy between duct-to mucosa and invagination pancreaticojejunostomy. 第6回アジア太平洋肝胆膵学会第29回日本肝胆膵外科学会学術集会, 2017,(横浜),[口演]
- 005 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y* : Detailed stratification of pMP colorectal cancers based on the scoring of poor prognostic factors. The 63rd Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2017,(東京),[口演]
- 006 *Kitasaka T, Kagajo M, Nimura Y, Hayashi Y, Oda M, Misawa K, Mori K* : Automatic Anatomical Labeling of Arteries and Veins Using Conditional Random Fields. The 8th International Conference on Information Processing in Computer-Assisted Interventions(IPCAI,2017),2017,(Barcelona),[口演]
- 007 *Misawa K, Ito S, Ito Y, Tanaka H, Uemura N, Kinoshita T, Senda Y, Abe T, Komori K, Shimizu Y, Kinoshita T* : Reduced port gastrectomy for gastric cancer using the same technique as 5-port laparoscopic gastrectomy : Short-term and long-term outcomes. 6th Reduced Port Surgery Forum 2017 in Oita 第11回単孔式内視鏡手術研究会 第17回Needlescopic Surgery Meeting, 2017,(大分),[International Session]
- 008 *Holger R. Roth, Oda H, Hayashi Y, Oda M, Shimizu N, Fujiwara M, Misawa K, Mori K* : Hierarchical fully convolutional networks for semantic segmentation of 3D medical images. 計測自動制御学会 ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2017, 2017,(岐阜),[口演]
- 009 *Oda M, Shimizu N, Holger R. Roth, Karasawa K, Kitasaka T, Misawa M, Fujiwara M, Rueckert D, Mori K* : 3D FCN Feature Driven Regression Forest-Based Pancreas Localization and Segmentation. 20th International Conference on Medical Image Computing and Computer Assisted Intervention 2017, 2017,(Quebec),[ワークショップ]
- 010 *Cheng Wang, Oda M, Hayashi Y, Misawa K, Roth H, Mori K* : Motion Vector for Outlier Elimination in Feature Matching and Its Application in SLAM Based Laparoscopic Tracking. 20th International Conference on Medical Image Computing and Computer Assisted Intervention 2017, 2017,(Quebec),[口演]
- 011 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ouchi A, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Shimizu Y* : The surgical technique of preventing peritoneal seeding in ISR. 第25回JDDW-2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡),[示説]
- 012 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Hara K, Hijioka S, Mizuno N, Ito S, Komori K, Abe T, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Oshiro T* : Surgical outcome and prognostic impact of conversion surgery for unresectable pancreatic cancer. 第25回JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡),[示説]
- 013 *Kinoshita T, Komori K, Oshiro T* : Clinical and oncological outcomes of lateral lymph node dissection using both transabdominal and extraperitoneal approach. 第25回JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡),[示説]
- 014 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Hirono S, Hijioka S, Hara, K, Sano T, Senda Y, Natsume S, Yanagisawa A* : Verification of International Consensus Guidelines 2012-Surgical Indication for Branch Duct Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm of the Pancreas,(BD-IPMN)with worrisome features. 25th United European Gastroenterology(UEG) Week Barcelona 2017, 2017,(Barcelona),[示説]
- 015 *Ouchi A, Shimizu Y, Komori K, Senda Y, Kinoshita T, Natsume S, Oshiro Y* : The role of liver resection after chemotherapy for synchronous colorectal liver metastasis. 25th United European Gastroenterology(UEG) Week Barcelona 2017, 2017,(Barcelona),[示説]
- 016 *Kinoshita T, Komori K, Oshiro T, Ouchi A, Shimizu Y* : Laparoscopic complete lateral lymph node dissection for low rectal cancer. 25th United European Gastroenterology(UEG) Week Barcelona 2017, 2017,(Barcelona),[示説]
- 017 *Sano T, Koyama K, Arikawa T, Saito T, Ishiguro S, Komatsu S, Senda S, Natsume S, Shimizu Y, Esaki M, Shimada K* : Surgical outcome of hepatopancreatoduodenectomy associated with hemihepatectomy or more extended liver resection. 25th United European Gastroenterology(UEG) Week Barcelona 2017, 2017,(Barcelona),[示説]
- 018 *Chen Shen, Holger R. Roth, Oda H, Oda M, Hayashi Y, Misawa K, Mori K* : On the influence of Dice loss function in multi-class organ segmentation of abdominal CT using 3D fully convolutional networks. 電子情報通信学会研究会医用画像研究会, 2017,(高松),[口演]
- 019 *Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, An B, Hayashi D, Tanaka H, Uchino T, Kunitomo A, Shimizu Y* : Surgical techniques for the local recurrences after lateral lymph node dissection in rectal cancers. 第21回Asian Congress of Surgery Asian Surgical Association, 2017,(Tokyo),[口演]

- 020 **Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, An B, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y** : Combined resection for re-recurrent lateral lymph nodes and external iliac vein. 第21回 Asian Congress of Surgery Asian Surgical Association, 2017,(Tokyo),[口演]
- 021 **Oda M, Shimizu N, Holger R. Roth, Kitasaka T, Misawa K, Mori K, Fujiwara M, Rueckert D** : Machine Learning Techniques for Automated Accurate Organ Segmentation and Their Applications to Diagnosis Assistance. Radiological Society of North America 2017, 2017,(Chicago),[口演]
- 022 **Holger R. Roth, Oda H, Qier MENG, Hayashi Y, Oda M, Shimizu N, Mori K, Fujiwara M, Misawa K** : Automated Multi-Organ Segmentation in Abdominal CT with Hierarchical 3D Fully-Convolutional Networks. Radiological Society of North America(RSNA 2017),2017,(Chicago),[口演]
- 023 **Roth Holger, Yang Ying, Oda M, Oda H, Hayashi Y, Shimizu N, Kitasaka T, Fujiwara M, Misawa K, Mori K** : Torso organ segmentation in CT using fine-tuned 3D fully convolutional networks. 第36回日本医用画像工学会大会,2017,(岐阜),[口演]
- 024 **Misawa K, Ito S, Ito Y, Tsutsuyama M, Kunitomo A, Higaki E, Oshiro T, Uemura N, Kinoshita T, Senda Y, Abe T, Komori K, Shimizu Y** : Simple technique for esophageojejunostomy in LTG using EndoStitch and Circular stapler. 第90回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜),[ビデオ]
- 025 **Ito S, Misawa K, Ito Y, Kinoshita T, Shimizu Y, Kinoshita T** : The value of PAND following NAC for gastric cancer with extensive lymph node metastasis. 第90回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜),[パネルディスカッション]
- 026 赤澤智之, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城泰平, 川上次郎, 清水泰博: 切除不能進行胃癌に対し8年にわたる化学療法後 conversion surgery を施行し得た1例. 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[口演]
- 027 重吉 到, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 化学放射線治療後の肛門管癌、肝転移に対して一期的切除を施行した一例. 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[口演]
- 028 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 後腹膜巨大腫瘍に対して骨盤内臓全摘術を施行した1例. 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[口演]
- 029 田中秀治, 大城泰平, 木下敬史, 小森康司, 赤澤智之, 林 大介, 重吉 到, 細井敬泰, 筒山将之, 大内 晶, 川上次郎, 夏目誠治, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 術後15年目に骨盤内再発を認めた直腸カルチノイドの1例. 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[口演]
- 030 木下敬史: 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[座長]
- 031 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 右反回神経領域に気管憩室を合併した食道がんの1切除例. 第293回東海外科学会, 2017,(名古屋),[口演]
- 032 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 大腸癌骨盤内局所再発手術における術前 Double-J カテーテルの有効性についての検討. 第103回日本消化器病学会総会, 2017,(東京),[口演]
- 033 松本慎平, 清水泰博, 原 和生: 80歳以上の高齢膀胱癌患者に対する単施設における治療成績. 第103回日本消化器病学会総会, 2017,(東京),[シンポジウム]
- 034 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 水野伸匡, 脇岡 範, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 岩屋博道, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 小森康司, 谷口浩也, 原和生, 清水泰博, 室 圭, 谷田部 恭, 丹羽康正: BRAF 変異陽性切除不能進行・再発大腸癌の臨床病理学的検討. 第103回日本消化器病学会総会, 2017,(東京),[口演]
- 035 清水泰博: 第117回日本外科学会, 2017,(横浜),[座長]
- 036 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 清水泰博: 膀胱十二指腸切除術再建における連続肝管空腸吻合は吻合狭窄の危険因子か?. 第117回日本外科学会, 2017,(横浜),[口演]
- 037 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 重吉 到, 大内 晶, 細井敬泰, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 大腸癌術後の骨盤死腔炎に対する治療方針の検討. 第117回日本外科学会, 2017,(横浜),[示説]
- 038 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 田中秀治, 清水泰博: 膀胱切除後における非膀胱液漏性合併症危険因子の検討. 第117回日本外科学会, 2017,(横浜),[示説]
- 039 赤澤智之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: がん high volume center における緊急手術の現状. 第117回日本外科学会, 2017,(横浜),[示説]
- 040 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道切除時における肝円索を用いた経腸栄養カテーテル留置法の有用性. 第117回日

- 本外科学会, 2017,(横浜) [示説]
- 041 伊藤誠二 : 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [座長]
- 042 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 川上次郎, 大内 晶 : 大腸癌同時性肝転移に対する化学療法先行肝切除の治療成績～新規抗癌剤は予後に寄与したか～. 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [口演]
- 043 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 廣野誠子, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 柳澤昭夫 : 2012 年 IPMN 国際診療ガイドラインの検証 - " worrisome features " と BD-IPMN の手術適応 -. 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [パネルディスカッション]
- 044 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 筒山将之, 大内 晶, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博 : 下部進行直腸癌に対する予防的側方郭清 134 例の検討 . 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [パネルディスカッション]
- 045 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 川上次郎, 植村則久, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博 : 下部直腸癌に対する ISR の治療成績と適応 . 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [示説]
- 046 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博 : 当科の直腸癌局所再発に対する仙骨合併切除骨盤内臓器全摘術の Strategy : - 消化器外科医、泌尿器科医、整形外科医コラボレーション手術 -. 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [示説]
- 047 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治 : 食道癌手術におけるプレバイオティクス療法の臨床的意義 . 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [口演]
- 048 中田浩二, 滝口伸浩, 藤田淳也, 三澤一成, 池田正視, 高橋正純, 木南伸一, 吉田 昌, 上之園芳一, 寺島雅典, 小寺泰弘 : 上部消化管機能温存手術の工夫とその生理学的評価 胃癌切除術後患者の QOL を改善するための機能温存型胃切除術の有用性 (The usefulness of function-preserving gastrectomy as to improve the QOL of postgastrectomy patients). 第 117 回日本外科学会, 2017,(横浜) [口演]
- 049 田中秀治, 植村則久, 安部哲也, 川上次郎, 細井敬泰, 清水泰博 : 右反回神経領域に気管憩室を合併した食道癌の 1 切除例 . 第 71 回日本食道学会学術集会, 2017,(軽井沢) [示説]
- 050 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博 : 肝硬変を伴う腹部食道癌に対して左開胸下経横隔膜のアプローチが有用であった 1 例 . 第 71 回日本食道学会学術集会, 2017,(軽井沢) [示説]
- 051 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 細井敬泰, 篠田雅幸 : 胸腔鏡下食道切除術における定型化と手技の工夫 . 第 71 回日本食道学会学術集会, 2017,(軽井沢) [パネルディスカッション]
- 052 大西祥代, 夏目誠治, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 水野伸匡, 脇岡 範, 桑原嵩通, 奥野のぞみ, 鳥山和浩, 伊東文子, 岩屋博道, 倉岡直亮, 松本慎平, 谷田部 恭, 清水泰博, 田近正洋, 丹羽康正 : 正常肝に発生した若年者肝細胞癌の一例 . 第 126 回日本消化器病学会東海支部第 126 回例会, 2017,(岐阜) [口演]
- 053 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 今井勇伍, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博 : 肝細胞癌術後早期再発症例の検討 . Evaluation of early recurrence after surgery for hepatocellular carcinoma. 第 53 回日本肝癌研究会, 2017,(東京) [口演]
- 054 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到 : がん専門医療院における潰瘍性大腸炎に発生合併した Colitis associated cancer 手術症例 . 第 87 回大腸癌研究会, 2017,(四日市) [示説]
- 055 大城泰平, 木下敬史, 筒山将之, 重吉 到, 小森康司 : BMI30 を超える肥満患者に対する腹腔鏡下直腸癌手術 . 第 87 回大腸癌研究会, 2017,(四日市) [示説]
- 056 河合秀子, 水野伸匡, 西川勢津子, 高柳夏未, 渡辺経子, 鈴木君枝, 石川まり, 原 和生, 清水泰博 : 膀胱癌臨床試験における多職種支援～チーム医療の中での CRC の関わり～ . 第 48 回日本膀胱学会, 2017,(京都) [口演]
- 057 清水泰博 : 第 48 回日本膀胱学会, 2017,(京都) [座長]
- 058 伊東文子, 水野伸匡, 夏目誠治, 奥野のぞみ, 桑原嵩通, 脇岡 範, 千田嘉毅, 清水泰博, 原 和生 : 当院における Borderline resectable (BRPC) 膀胱癌の治療成績 . 第 48 回日本膀胱学会, 2017,(京都) [ミニパネルディスカッション]
- 059 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介, 廣野誠子, 脇岡 範, 柳澤昭夫 : IPMN における新たな癌予測モデル作成 . 第 48 回日本膀胱学会, 2017,(京都) [パネルディスカッション]
- 060 松本慎平, 原 和生, 水野伸匡, 桑原嵩通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 清水泰博, 夏目誠治 : 膀胱癌の早期診断における内視鏡検査の役割 . 第 48 回日本膀胱学会, 2017,(京都) [シンポジウム]
- 061 田中秀治, 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 國友愛奈, 内野大倫, 林 大介, 赤澤智之, 安 炳九, 重吉 到, 細井敬泰, 筒山将之, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博 : 下咽頭癌 CRT 中に嘔吐で発症した突発性食道破裂の 1 例 . 第 48 回愛知臨床外科学会, 2017,(名古屋) [口演]
- 062 内野大倫, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博 : 右睾丸合併切除を施行した後腹膜脂肪肉腫の 1 例 . 第 48 回愛知臨床外科学会, 2017,(名古屋) [口演]
- 063 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博 :

- Circular Stapler を用いた胸骨後胃管再建、頸部吻合における吻合部狭窄-リスク因子の解析とその対策。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ワークショップ]
- 064 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久: 臍頭十二指腸切除術における臍腸吻合法~粘膜吻合法と陥入法のランダム化比較試験。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[シンポジウム]
- 065 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術におけるD3郭清の工夫。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ビデオ]
- 066 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 清水泰博: 当院における高齢者臍切除症例の検討(大腸切除症例との比較)。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 067 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 腹膜内外アプローチ併用自律神経温存骨盤リンパ節郭清術とその治療成績。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ワークショップ]
- 068 重吉 到, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 清水泰博: 当院に於ける胃全摘症例の術後短期成績と栄養評価。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 069 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 腹腔鏡下幽門保存胃切除術における体腔内胃胃端々吻合の手法。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ビデオ]
- 070 伊藤誠二: 第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[座長]
- 071 安部哲也: 第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[座長]
- 072 小森康司: 第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[座長]
- 073 清水泰博: 2012年IPMN国際診療ガイドラインの検証-"worrisome features"を呈するBD-IPMN。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[パネルディスカッション]
- 074 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 下部直腸癌に対するTME+両側側方郭清+術後化学療法による治療戦略と成績。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[パネルディスカッション]
- 075 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 食道癌の周術期疼痛管理における高容量アセトアミノフェン静注定時投与の有効性と安全性の検討。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 076 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 残胃癌におけるリンパ節転移と至適郭清範囲の検討。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 077 植村則久, 川上次郎, 安部哲也, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 胸骨後経路再建胃管の胸腔内脱出の長期的臨床経過。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 078 田中秀治, 小森康司, 大城泰平, 木下敬史, 清水泰博: がん high volume center における緊急手術症例の現状と動向。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[口演]
- 079 木下敬史: 第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[座長]
- 080 清水泰博: 第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[座長]
- 081 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久: 新規抗癌剤は切除不能癌の conversion surgery 施行率を向上させえるか? conversion rate と手術成績を中心に。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ワークショップ]
- 082 大内 晶, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史: 大腸癌同時性肝限局転移に対する化学療法後肝切除~治療成績と予後因子~。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[ワークショップ]
- 083 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 下部直腸癌に対する肛門温存手術(ISR)におけるcircumferential resection margin(CRM)確保の工夫。第72回日本消化器外科学会総会, 2017,(金沢)[シンポジウム]
- 084 柴田睦実, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: ステレオ内視鏡画像からの臓器形状復元方法における複数フレームの利用に関する初期的検討。第36回日本医用画像工学会大会, 2017,(岐阜)[口演]
- 085 王 成, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: Improvement on robustness of ORB-SLAM based surgical navigation system by building submap. 第36回日本医用画像工学会大会, 2017,(岐阜)[口演]
- 086 楊 瀛, 小田昌宏, Roth Holger, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 条件付き確率場による医用画像からの多臓器抽出におけるHigher Order Potential とボクセル連結構造の影響に関する考察。第36回日本医用画像工学会大会, 2017,(岐阜)[口演]
- 087 舘 高基, 小田昌宏, 中村嘉彦, 寶珠山 裕, 三澤一成, 森 健策: 血管情報を用いた経時リンパ節の自動対応付け手法に関する研究。第36回日本医用画像工学会大会, 2017,(岐阜)[口演]
- 088 清水泰博: 第44回日本臍切研究会, 2017,(横浜)[座長]
- 089 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅: 新規抗癌剤は切除不能癌の conversion surgery 施行率を向上させるか?。第44回日本臍切研究会, 2017,(横浜)[示説]
- 090 脇岡 範, 水野伸匡, 田近正洋, 清水泰博, 原 和生: 消

- 化管 NET の診断・治療. 第 5 回日本神経内分泌腫瘍研究会, 2017,(仙台) [示説]
- 091 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 安田宗司, 栗田裕介, 田中宏樹, 小畑雅寛, 倉岡直亮, 松本慎平, 伊東文子, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博, 谷田部 恭, 原 和生: 膵 NEN-G3 の臨床病理学的特徴と治療戦略についての検討. 第 5 回日本神経内分泌腫瘍研究会, 2017,(仙台) [示説]
- 092 清水泰博: 第 67 回日本消化器画像診断研究会, 2017,(札幌) [座長]
- 093 夏目誠治, 千田嘉毅, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 柳澤昭夫, 清水泰博: Gem+nabpaclitaxel が奏効し conversion surgery が可能となった内分泌腫瘍への分化を伴う局所進行膵臓細胞癌の 1 例. 第 67 回日本消化器画像診断研究会, 2017,(札幌) [示説]
- 094 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 脇岡 範: 膵頭十二指腸切除術再建における良性吻合部狭窄発生に関わる危険因子の検討. 第 53 回日本胆道学会学術集会, 2017,(山形) [口演]
- 095 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治: 胆嚢壁肥厚病変に対する術前診断と術式の検討. 第 53 回日本胆道学会学術集会, 2017,(山形) [口演]
- 096 川上次郎, 植村則久, 檜垣栄治, 安 炳九, 細井敬泰, 田中秀治, 安部哲也: 食道癌の周術期疼痛管理における高容量 acetaminophen 定時静注投与の安全性と有効性の検討: Propensity score matching を用いた分析. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2017,(札幌) [示説]
- 097 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 篠田雅幸: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における術中トラブル回避のための手術手技. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2017,(札幌) [示説]
- 098 中西速夫, 伊藤誠二, 伊藤友一, 坂尾幸則, 黒田浩章, 岩田広治, 服部正也, 安立弥生, 筒山将之, 谷田部 恭: フィルタ型分離デバイスを用いた CTC 細胞診断法の開発とその前臨床 並びに臨床応用. 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017,(横浜) [口演]
- 099 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 丹羽康正, 木下平: 胃癌に対する内視鏡的治療非治療切除後の追加手術症例に関する検討. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 100 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介: 新たな IPMN 癌予測モデルの作成 - BD-IPMN の診断能 -. 第 25 回 JDDW-2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [統合プログラム 1 口演]
- 101 清水泰博: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 102 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 細井敬泰, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における反回神経周囲郭清の成績と麻痺を減らす工夫. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 103 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 赤澤智之, 林大介, 田中秀治, 清水泰博: SMA 左縁をランドマークとした右側結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清手技. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 104 **Komori K.**: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [Discussant]
- 105 千田嘉毅: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 106 大島 貴, 吉川貴己, 宮城洋平, 森田智視, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤友一, 青山 徹, 林 勉, 尾形高士, 利野靖, 益田宗孝, 横瀬智之, 坂本純一: 局所進行胃癌に対する術前補助化学療法 +D2 切除の予後予測マーカー検索 (COMPASS 試験バイオマーカー研究). 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 107 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 同時性大動脈周囲リンパ節転移を有する左側結腸・直腸癌の切除成績 ~ R0 切除による予後の延長を目指して ~. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 108 田中秀治, 小森康司, 大城泰平, 木下敬史, 林 大介, 赤澤智之, 重吉 到, 細井敬泰, 筒山将之, 大内 晶, 川上次郎, 夏目誠治, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 当科における大腸 SM 癌の治療成績の検討. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 109 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 当科における側方リンパ節転移陽性下部直腸癌に対する術後補助療法に関する検討. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 110 伊藤誠二: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 111 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: pStageI 胃癌症例における術後合併症と長期予後の関連性の検討. 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [示説]
- 112 三澤一成: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 113 木下敬史: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 114 小森康司: 第 25 回 JDDW2017FUKUOKA 日本消化器関連学会週間, 2017,(福岡) [座長]
- 115 山田和希, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策:

- 色ヒストグラム特徴を用いた腹腔鏡手術映像の体外・体内シーン分類. 平成 29 年度日本生体医工学学会東海支部大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 116 伊藤誠二: 第 294 回東海外科学会, 2017,(津)[座長]
- 117 内野大倫, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: S 状結腸癌・同時性肝転移・大動脈周囲リンパ節転移に対して術前化学療法後に切除した 1 例. 第 294 回東海外科学会, 2017,(津)[口演]
- 118 田中秀治, 檜垣栄治, 安部哲也, 植村則久, 國友愛奈, 内野大倫, 林 大介, 安 炳九, 重吉 到, 細井敬泰, 筒山将之, 大内 晶, 大城泰平, 夏目誠治, 木下敬史, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 2 度の開胸歴を有する食道癌根治的 GRT 後局所再発に対して、気縦隔下食道亜全摘術を施行した 1 例. 第 294 回東海外科学会, 2017,(津)[口演]
- 119 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 仙骨合併切除骨盤内臓全摘に対する工夫-術前 Double-J カテーテルの有効性について-. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[ワークショップ]
- 120 金光幸秀, 志田 大, 塚本俊輔, 落合大樹, 山田和之助, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平: 側方リンパ節郭清が、下部直腸癌に対する予後及び局所制御に与える影響について. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[パネルディスカッション]
- 121 伊藤誠二: 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[座長].
- 122 大島 貴, 吉川貴己, 宮城洋平, 森田智視, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤友一, 青山 徹, 林 勉, 尾形高士, 長 晴彦, 横瀬智之, 利野 靖, 益田宗孝, 坂本純一: 進行胃癌に対する術前補助化学療法の予後予測マーカー検索 (COMPASS 試験 biomarker 研究). 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[口演]
- 123 野村基雄, 安藤暢敏, 加藤 健, 安部哲也, 水澤純基, 北川雄光: 術前化学療法による非血液毒性と術後合併症・予後との関連性. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[デジタルポスター]
- 124 小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 冨田夏夫, 牧田智誉子, 伊藤誠二, 安部哲也, 室 圭, 田近正洋, 丹羽康正, 伊藤善之, 長縄慎二: I 期食道癌の根治的放射線治療の臨床成績. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[示説]
- 125 三谷誠一郎, 尾瀬 功, 門脇重憲, 本多和典, 舛石俊樹, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室 圭: 競合リスクモデルを用いた食道癌根治治療後の他臓器癌発生のリスクの検討. 第 55 回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[示説]
- 126 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ: Gem+nabpaclitaxel が奏効し conversion surgery が可能となった局所進行腺房細胞癌の 1 例. 第 12 回隣癌術前治療研究会, 2017,(広島)[示説]
- 127 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 開腹手術における 3 次元画像を用いた手術ナビゲーションシステムの臨床応用. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 128 三澤一成: 日本コンピューター外科学会 次の 25 年. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[パネルディスカッション]
- 129 楊 瀛, 小田昌宏, *Roth Holger*, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 3D Fully Convolutional Networks と全連結条件付確率場による 3 次元 CT 画像からの多臓器自動抽出に関する検討. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 130 清水南月, *Holger R Roth*, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 自動設計特徴量を用いた 3 次元腹部 CT 像における隣臓領域の位置推定. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 131 舘 高基, 小田昌宏, 中村嘉彦, 三澤一成, 森 健策: 血管芯線を用いた経時リンパ節の自動対応付け. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 132 鈴木拓矢, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下手術の教育支援に向けた VR 訓練システムの開発. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 133 阿部史明, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 音声認識及びジェスチャー認識による腹腔鏡下手術ナビゲーション非接触操作システムの開発. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 134 柴田睦実, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 複数フレームのステレオ内視鏡画像を用いた臓器表面形状復元に関する検討. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 135 鉄村悠介, *Holger Roth*, 林 雄一郎, 小田昌宏, 進藤幸治, 大内田研宙, 橋爪 誠, 三澤一成, 森 健策: 機械学習を用いた腹部動脈血管名自動命名における臓器情報利用方法に関する一考察. 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[口演]
- 136 三澤一成: 第 26 回日本コンピューター外科学会大会, 2017,(名古屋)[座長]
- 137 重吉 到, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 木下 平: 当院における胃亜全摘症例の術後短期成績と栄養評価. 第 47 回胃外科・術後障害研究会, 2017,(横浜)[口演]
- 138 大城泰平, 木下敬史, 筒山将之, 大内 晶, 重吉 到, 小森康司: 肥満症を伴う直腸癌に対する術式選択と治療成績. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017,(福岡)[パネルディスカッション]
- 139 内野大倫, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 筒山将之, 小森康司: 下部直腸癌に対する ISR の治療成績の検討. 第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2017,(福岡)[口演]

- 140 重吉 到,小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,筒山将之,内野大倫:一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[口演]
- 141 大内 晶,木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,川上次郎,筒山将之,重吉 到,清水泰博:右側結腸癌に対する腹腔鏡下全結腸間膜切除+D3郭清~開腹手術と同等の根治性を目指して~. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[口演]
- 142 木下敬史,小森康司,大城泰平,筒山将之,大内 晶,内野大倫:下部直腸癌に対する腹腔鏡下側方リンパ節郭清の手技・成績. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[口演]
- 143 筒山将之,小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,重吉 到,内野大倫:骨盤内臓全摘術後における骨盤死腔炎の臨床的検討. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[口演]
- 144 小森康司:第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[座長]
- 145 小森康司,木下敬史,大城泰平,大内 晶,筒山将之,重吉 到,内野大倫:がん専門病院における潰瘍性大腸炎に合併したColitis cancer手術症例の現状. 第72回日本大腸肛門病学会学術集会,2017,(福岡)[口演]
- 146 大城泰平,小森康司,木下敬史,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,大内 晶,筒山将之,重吉 到,清水泰博:下部進行直腸癌に対する側方郭清の適応と治療成績. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[パネルディスカッション]
- 147 小森康司,木下敬史,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,大内 晶,筒山将之,重吉 到,清水泰博:側方郭清後再発リンパ節手術の要点とトラブルシューティング. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[ビデオシンポジウム]
- 148 筒山将之,木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,清水泰博:当科におけるマルチフラップゲートを有効利用した腹腔鏡下手術での創感染対策の工夫. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 149 林 大介,夏目誠治,千田嘉毅,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,植村則久,大城泰平,檜垣栄治,清水泰博:当院における80歳以上の高齢者瘻瘻症例の検討. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[ワークショップ]
- 150 清水泰博:第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[座長]
- 151 内野大倫,木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣誠治,清水泰博:当院における高齢者直腸手術症例の検討. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 152 木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,清水泰博:下部直腸癌に対する腹腔鏡下側方リンパ節郭清. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 153 安部哲也,植村則久,檜垣栄治,細井敬泰,安 炳九,伊藤誠二,小森康司,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,夏目誠治,大城泰平,清水泰博:腹臥位胸腔鏡下食道切除術における反回神経麻痺ゼロを目指した手術手技. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 154 伊藤誠二,三澤一成,伊藤友一,植村則久,大城泰平,夏目誠治,木下敬史,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博:当院の過去の症例の検討から網嚢切除の意義と大網切除試験の実現可能性を考える. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 155 伊藤友一,伊藤誠二,三澤一成,檜垣栄治,大城泰平,夏目誠治,植村則久,木下敬史,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博,木下 平:POCY1胃癌切除症例の検討. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 156 大内 晶,小森康司,木下敬史,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,清水泰博:右側・左側結腸癌の初回切除後および再発後の治療成績の検討. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[パネルディスカッション]
- 157 國友愛奈,伊藤誠二,三澤一成,伊藤友一,檜垣栄治,大城泰平,夏目誠治,植村則久,木下敬史,千田嘉毅,安部哲也,小森康司,清水泰博:予後の観点から見た残胃癌の今後の治療開発に関する考察. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 158 重吉 到,小森康司,木下敬史,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,清水泰博:当院における一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 159 夏目誠治,清水泰博,千田嘉毅,伊藤誠二,小森康司,安部哲也,三澤一成,伊藤友一,木下敬史,植村則久,大城泰平,檜垣栄治:当科における肝管空腸吻合法の工夫代表的中長期合併症である狭窄発生危険因子の検討と現在の取り組み. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[ワークショップ]
- 160 森田信司,伊藤誠二,佐野武,寺島雅典,川島吉之,笹子三津留:臨床試験から見た胃癌手術高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前DCS療法(JCOG1002)の長期成績. 第79回日本臨床外科学会総会,2017,(東京)[口演]
- 161 千田嘉毅,清水泰博,夏目誠治:脾静脈を合併切除した脾動脈温存腹腔鏡下脾温存尾側脾切除の安全性. 第9回膵臓内視鏡外科研究会,2017,(京都)[口演]
- 162 木下敬史,小森康司,大城泰平,伊藤誠二,安部哲也,千田嘉毅,三澤一成,伊藤友一,植村則久,夏目誠治,檜垣栄治,清水泰博:横行結腸癌に対する腹腔鏡下中結腸動脈D3郭清. 第30回日本内視鏡外科学会総会,2017,(京都)[示説]

- 163 大城泰平, 小森康司, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 筒山将之, 大内 晶, 重吉 到, 清水泰博: SMN 左縁をランドマークとした右側結腸癌手術. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[Surgical Forum]
- 164 大内 晶, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 下行結腸癌に対する腹腔鏡下全結腸間膜切除+D3 郭清. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[口演]
- 165 細井敬泰, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 右鎖骨下動脈起始異常を伴う食道癌の 6 切除例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[口演]
- 166 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 植村則久, 大城泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 当科における腹腔鏡下膈尾側切除術の術式と手術適応の変遷. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 167 衛藤 剛, 大坪 大, 三澤 一成, 木下敬弘, 長 晴彦, 比企直樹, 土岐祐一郎, 六車一哉, 佐近雅宏, 白石憲男, 北野正剛,(腔鏡下胃切除術研究会): Minimally invasive gastrectomy for advanced gastric cancer:current status and future perspective 多施設共同第 III 相試験からみた腹腔鏡下幽門側胃切除術の進行胃癌へ適応拡大について. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 168 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 檜垣栄治, 大城泰平, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡胃切除術・左側膈上縁領域における解剖と展開・郭清の工夫. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 169 田中秀治, 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 右 aberrant V2 を伴う胸部食道癌に対して, 胸腔鏡下食道切除術を施行した 1 例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 170 筒山将之, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 完全内臓逆位に合併した上行結腸癌に対し, 腹腔鏡下結腸右半切除術 D3 郭清を施行した 1 例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 171 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 審査腹腔鏡を施行した原発不明癌の 1 例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 172 國友愛奈, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 胃癌術後に遅発生左肝動脈瘤を認めた 1 例. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[示説]
- 173 安部哲也, 植村則久, 檜垣栄治, 細井敬泰, 安 炳九, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 大城泰平, 清水泰博: 胸腔鏡下食道切除術における微細解剖に基づく 106recR 郭清. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[Surgical Forum]
- 174 内野大倫, 木下敬史, 小森康司, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 下部直腸癌に対する腹腔鏡下 ISR. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[Surgical Forum]
- 175 伊藤友一, 三澤一成, 伊藤誠二, 檜垣栄治, 大城泰平, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下手術における肝圧排法「PROLENE hanging (PH) 法」. 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 2017,(京都)[口演]
- 176 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内晶, 筒山将之, 重吉到: 病理組織学的所見からみた腹膜転移巣 (P1) 完全切除を施行した Stage IV 大腸癌の予後-大腸癌治療ガイドラインを検証する-. 第 88 回大腸癌研究会, 2018,(東京)[示説]
- 177 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 千田嘉毅, 夏目誠治, 坂尾幸則, 黒田浩章, 清水泰博: 原発巣の sidedness は再発大腸癌のサルベージ手術の成績に影響を及ぼすか. 第 88 回大腸癌研究会, 2018,(東京)[示説]
- 178 内野大倫, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 右側/左側結腸癌の初回切除後および再発後の 治療成績の検討. 第 88 回大腸癌研究会, 2018,(東京)[示説]
- 179 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 清水泰博: EndoRelief 細胞鉗子を用いた 5-port/Reduced port 骨癌手術の工夫と標準化. 第 18 回 Needleoscopic Surgery Meeting, 2018,(京都)[口演]
- 180 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 安 炳九, 赤澤智之, 林 大介, 田中秀治, 清水泰博: 側方郭清後再発リンパ節の再発手術の洋展とトラブルシューティング Surgical techniques with the resection of lateral lymph node recurrences in rectal cancers. 第 14 回日本消化管学会総会学術集会, 2018,(東京)[口演]
- 181 小森康司: 第 14 回日本消化管学会総会学術集会, 2018,(東京)[座長]
- 182 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 清水泰博: 小腸に穿通した突発性腹腔内デスマイド腫瘍の一例. 第 49 回愛知臨床外科学会, 2018,(名古屋)[口演]
- 183 内野大倫, 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 大城

- 泰平, 檜垣栄治, 清水泰博: 腹膜播種を伴う胃癌に対して S-1+ パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法が著効し、conversion surgery 後に長期生存を得た 1 例. 第 49 回愛知臨床外科学会, 2018,(名古屋)[口演]
- 184 外山貴洋, 羽場 真, 飯田章人, 溝口直人, 桐山論和, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 原 和生, 清水泰博, 成田 真, 山雄健次: 臍鉤部に発生した粘液性嚢胞腫瘍(MCN)の一例. 第 68 回日本消化器画像診断研究会, 2018,(東京)[口演]
- 185 清水泰博: 第 68 回日本消化器画像診断研究会, 2018,(東京)[座長]
- 186 小島 瞳, 山口真澄, 安形真由美, 佐々木照美, 木下敬史, 小森康司: ストーマ周囲創離開が術後補助化学療法中に高度の皮膚障害へと悪化した高度肥満患者の 1 例. 第 36 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2018,(札幌)[口演]
- 187 筒山将之, 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 大内 晶, 清水泰博: 当科における一時的回腸人工肛門造設術の工夫とその成績. 第 36 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会総会, 2018,(札幌)[パネルディスカッション]
- 188 大内 晶, 小森康司, 木下敬史, 伊藤友一, 大城泰平, 筒山将之, 内野大倫, 國友愛奈: 低位直腸吻合におけるカバーリングストーマの閉鎖困難症例の検討. 第 36 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2018,(札幌)[示説]
- 189 伊藤誠二: 第 90 回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜)[座長]
- 190 三澤一成: 第 90 回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜)[座長]
- 191 小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 安柄九, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 清水泰博: 結腸癌術後吻合部再発巣穿孔性腹膜炎の 1 例. 第 64 回日本腹部救急医学会総会, 2018,(東京)[口演]
- 192 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 木下 平: pStage II / III 胃癌症例における術後合併症と長期予後の関連性の検討. 第 90 回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜)[示説]
- 193 大島 貴, 吉川貴己, 宮城洋平, 森田智視, 田邊和照, 西川和宏, 伊藤友一, 青山 徹, 林 勉, 利野 靖, 増田宗孝, 横瀬智之, 坂本純一: 局所進行胃癌に対する術前補助化学療法の予後予測マーカー検索 (COMPASS 試験バイオマーカー研究). 第 90 回日本胃癌学会総会, 2018,(横浜)[口演]
- 近位悪性骨腫瘍切除後の clavícula prohumero 法. 口演, 第 90 回日本整形外科学会学術集会, 2017,(仙台)[口演]
- 003 小倉浩一, 上原浩介, 秋山 達, 岩田慎太郎, 原田裕介, 筑紫 聡, 小林英介, 丹澤義一, 遠藤 誠, 中谷文彦, 中馬広一: 骨・軟部腫瘍における機能評価法. 第 90 回日本整形外科学会学術集会, 2017,(仙台)[ポスター]
- 004 綿貫宗則, 保坂正美, 吉田新一郎, 秋山 達, 福島 崇, 岩田慎太郎, 筑紫 聡, 井樋栄二: 軟部肉腫広範切除後の残存四頭筋断面積の経時的変化: 多施設共同後ろ向き研究. 第 90 回日本整形外科学会学術集会, 2017,(仙台)[ポスター]
- 005 生田国大, 西田佳弘, 浦川 浩, 筑紫 聡, 新井英介, 濱田俊介, 石黒直樹: 悪性末梢神経鞘腫瘍患者における手術成績. 第 90 回日本整形外科学会学術集会, 2017,(仙台)[ポスター]
- 006 秋田直洋, 土持太一郎, 関水匡大, 市川瑞穂, 新井英介, 筑紫 聡, 服部浩佳, 西田佳弘, 前田尚子, 堀部敬三: 当院で治療した骨肉腫再発例の検討. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[ポスター]
- 007 小澤英史, 吉田雅博, 鈴木周一郎, 杉浦英志, 西田佳弘, 筑紫 聡: 胸膜/胸膜外発生 solitary fibrous tumor の臨床的特徴. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[ポスター]
- 008 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 鈴木周一郎, 西田佳弘: 画像所見と組織学的所見からみた非円形軟部肉腫の安全な切除線. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 009 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 鈴木周一郎, 西田佳弘: 骨・軟部発生血管肉腫の臨床学的特徴. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 010 中村知樹, 片桐浩久, 紫藤洋二, 山田健志, 濱田俊介, 松峯昭彦, 須藤啓広, 山田 聡, 筑紫 聡, 永野昭仁, 石村大輔, 西田佳弘: C-reactive protein は初診時遠隔転移を有する軟部肉腫症例における予後不良因子である - 東海骨軟部腫瘍コンソーシアム共同研究 -. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 011 新井英介, 西田佳弘, 浦川 浩, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹, 筑紫 聡: 術前 inofamide・adriamycin 併用化学療法の軟部肉腫に与える局所効果について. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 012 生田国大, 西田佳弘, 筑紫 聡, 浦川 浩, 新井英介, 濱田俊介, 石黒直樹: 頸骨近位骨腫瘍に対する腫瘍用人工膝関節置換術後伸展機構再建の成績. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 013 鈴木周一郎, 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史: 大腿骨転移性骨腫瘍に対する手術方法の検討. 第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2017,(東京)[口演]
- 014 小澤英史, 筑紫 聡, 浦川 浩, 生田国大, 濱田俊介, 西田佳弘, 佐藤 啓, 下山芳江, 中村栄男: 右後頭部軟部肉腫の一例. 第 58 回東海骨軟部腫瘍研究会, 2017,(東京)[口演]
- 015 鈴木周一郎, 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 橋本光義,

整形外科部

- 001 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 鈴木周一郎, 西田佳弘: 高齢者の悪性骨軟部腫瘍に対する治療 高齢者軟部肉腫の治療成績. 第 128 回中部日本整形外科学会, 2017,(神戸)[シンポジウム]
- 002 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 鈴木周一郎, 西田佳弘: 肩関節周囲悪性骨腫瘍切除後の肩関節再建手術 上腕骨

森 俊輔, 谷田部 恭: 左大腿軟部腫瘍の1例. 第58回東海骨軟部腫瘍研究会, 2017,(東京)[口演]

- 016 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 林 卓馬, 西田佳弘: 高齢者軟部肉腫の治療戦略. 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[口演]
- 017 小澤英史, 吉田雅博, 谷田部 恭, 藤永一弥, 林 卓馬, 筑紫 聡: 肺原発性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍の1症例. 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[口演]
- 018 筑紫 聡: サルコマセンター開設後の現状. 第9回自由ヶ丘医会, 2017,(名古屋)[口演]
- 019 林 卓馬, 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史, 坂倉範昭, 石村大輔, 兵藤伊久夫, 坂尾幸則: 胸壁合併切除を要したがん患者の術後合併症の検討. 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017,(横浜)[口演]
- 020 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 林 卓馬: 骨軟部悪性腫瘍における Gemcitabine と Docetaxel 併用療法についての検討. 第1回サルコマ治療研究学会学術集会, 2018,(東京)[ポスター]
- 021 小澤英史, 吉田雅博, 林 卓馬, 安藤正志, 水野美香, 室 圭, 筑紫 聡: 進行性平滑筋肉腫の臨床的特徴. 第1回サルコマ治療研究学会学術集会, 2018,(東京)[ポスター]
- 022 林 卓馬, 小澤英史, 吉田雅博, 筑紫 聡: 当院におけるサルコマセンター開設前後の患者受診行動の変化についての検討. 第1回サルコマ治療研究学会学術集会, 2018,(東京)[口演]

リハビリテーション部

- 001 吉田雅博, 杉浦英志: 膝癌骨転移の臨床的特徴. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2017,(岡山)[口演]
- 002 杉浦英志, 吉田雅博, 門野 泉, 岡田貴士, 西田佳弘: 大腿骨病的骨折術後の短期生命予後症例についての検討. 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2017,(岡山)[口演]
- 003 前田明弘, 伊藤敬太, 吉田雅博: 大腿骨近位部転移性骨腫瘍 切迫骨折/病的骨折患者の術後機能の比較. 第2回がんサポーターケア学会, 2017,(埼玉)[ポスター]
- 004 高津 淳, 花井信広, 鈴木秀典: 舌癌周術期62例における構音障害の音声学的・音響学的検討. 第41回日本頭頸部癌学会, 2017,(京都)[口頭]
- 005 高津 淳, 青山寿昭, 和座雅浩: 中咽頭癌治療後の嚥下リハビリテーションに対する定量的解析. 第29回日本嚥下障害臨床研究会, 2017,(島根)[口頭]
- 006 高津 淳, 青山寿昭, 和座雅浩: 中咽頭癌治療後の嚥下リハビリテーションに対する定量的解析. 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2018,(千葉)[口頭]

泌尿器科部

- 001 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: 2因子で構成される GP score(Gleason score X PSA 値)は、D 'Amico 分類と比較して前立腺全摘除後の生化学的再発を有意に予測する因子である. 第105回日本泌尿器科学会総会, 2017,(鹿児島)[総会賞]
- 002 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二: 去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの効果予測因子としての投与前血清テストステロン値の測定方法別意義. 第105回日本泌尿器科学会総会, 2017,(鹿児島)[総会賞]
- 003 小倉友二, 景山拓海, 曾我倫久人: 尿管皮膚瘻症例の検討. 第105回日本泌尿器科学会総会, 2017,(鹿児島)[ポスター]
- 004 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 後腹膜アプローチによる, ロボット補助下根治的前立腺全摘除術の経験. 第62回三重泌尿器科医会, 2017,(津)[口演]
- 005 曾我倫久人, 景山拓海, 古澤 淳, 小倉友二: CRPCでの enzalutamide 治療効果予測因子としての, 測定法別テストステロン値の意義. 第55回日本癌治療学会, 2017,(横浜)[口演]
- 006 小倉友二, 古澤 淳, 曾我倫久人: 前立腺癌術後再発に対する救済放射線療法の検討, 照射線量と PSA 非再発率の検討. 第55回日本癌治療学会, 2017,(横浜)[ポスター]
- 007 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二: Indocyanine green 近赤外蛍光法の, 腎部分切除術時における腫瘍部位認識補助としての有効性. 第31回日本泌尿器内視鏡学会, 2017,(徳島)[ビデオ: 総会賞]
- 008 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: ダヴィンチ Xi による RARP 導入初期での, ミニマム創手術との比較. 第67回日本泌尿器科学会中部総会, 2017,(大阪)[口演]
- 009 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 前立腺6カ所生検に内側生検を加えることにより, がん検出率は改善する. 第33回前立腺シンポジウム, 2017,(品川)[ポスター]
- 010 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 腎部分切除術時における, Indocyanine green 近赤外蛍光法の腫瘍部位認識補助としての有効性. 第10回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会, (東京)[パネルディスカッション]
- 011 曾我倫久人, 景山拓海, 古澤 淳, 小倉友二: 2017年度, 愛知県がんセンター中央病院の手術統計. 第63回三重泌尿器科医会, 2018,(津)[口演]
- 012 曾我倫久人, 景山拓海, 古澤 淳, 小倉友二: ダヴィンチ Xi による RARP と, ミニマム創前立腺全摘除との比較検討. 第63回三重泌尿器科医会, 2018,(津)[口演]
- 013 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二: 3rd アームによる腫瘍牽引が有益であった, 腎上極腫瘍に対する RAPN の1例. The 9th Tokai Robotic Urology Symposium, 2018,(名古屋)[口演]

婦人科部

- 001 **Mizuno M** : The study of unility and safety of robot-assisted laparoscopic hysterectomy for early cervical cancer, ~ Progress reports ~ .(18th APAGE Annual Congress2017,(Okayama),[口演]
- 002 **森 正彦, 宇野あす香, 清水裕介, 近藤紳司, 水野美香** : 乳癌既往を有する子宮体がん 73 症例の検討 . 第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 ,2017,(広島) [ポスター]
- 003 **使河原利哉, 水野美香, 坂田 純, 内海 史, 関谷龍一郎, 鈴木史朗, 梶山広明, 柴田清住, 吉川史隆** : 卵巣明細胞癌における 5-aminolevulinic acid を用いた光線力学療法の検討 . 第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 ,2017,(広島) [ポスター]
- 004 **梶山広明, 河井通泰, 水野公雄, 山室 理, 小口秀紀, 水野美香, 吉川史隆** : 初期卵巣癌に対する妊孕性温存手術 拡大 vs 温存 : 傾向スコア用いた長期生存解析の結果から . 第 59 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 ,2017,(熊本) [口演]
- 005 **水野美香, 森 正彦, 近藤紳司, 坪内寛文** : 当院における子宮頸癌に対するロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術の導入 . 第 57 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 ,2017,(岡山) [口演]
- 006 **服部諭美, 水野美香, 近藤紳司, 森 正彦** : 骨盤内から臀部に広範に進展した侵襲性血管粘液腫 aggressive angio-myxoma の 1 例 . 第 105 回愛知産科婦人科学会学術講演会 ,2017,(名古屋) [口演]
- 007 **井上修作, 伊藤秀美, 細野覚代, 水野美香, 加藤聖子, 松尾恵太郎** : 日本の婦人科がん高齢患者の相対生存率 . 第 76 回日本癌学会学術総会 ,2017,(横浜) [ポスター]
- 008 **水野美香** : 産婦人科領域におけるレーザー治療の現状と展望 子宮頸部上皮内腫瘍に対する 5-aminolevulinic acid を用いた photodynamic therapy の検討 臨床試験結果より . 第 38 回日本レーザー医学会総会 ,2017,(横浜) [シンポジウム]
- 009 **水野美香, 森 正彦, 井坂恵一** : ロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術の導入 . 第 30 回日本内視鏡外科学会総会 ,2017,(京都) [ポスター]
- 010 **水野美香, 服部諭美, 坪内寛文, 森 正彦, 近藤紳司** : 婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の転帰 case reports より . 第 106 回愛知産科婦人科学会学術講演会 ,2017,(名古屋) [口演]

放射線診断 I V R 部

- 001 **Hasegawa T, Yamanaka T, Gobara H, Miyazaki M, Yamakado K** : Comparison of clinical outcomes of radiofrequency ablation and cryoablation for cT1b renal cell carcinoma. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe-CIRSE2017, (Copenhagen,Denmark),[Oral pre-

sentation]

- 002 **Sato Y, Inaba Y, Yamakado K** : TACE combined with molecular-targeted agent (sorafenib). The 11th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention-SGI2017, (Seoul,Korea),[Oral presentation]
- 003 **Sato Y, Inaba Y, Murata S** : Percutaneous management for afferent loop obstruction. The 11th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention-SGI2017, (Seoul, Korea),[Oral presentation]
- 004 **Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Hasegawa T, Imai Y, Kimura K** : Long tube insertion via percutaneous transesophageal gastrotubing route for patients with malignant bowel obstruction. The 11th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention-SGI2017,(Seoul,Korea),[Oral presentation]
- 005 **Imai Y, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Murata S, Hasegawa T, Kimura K, Hara K** : Comparison of percutaneous transhepatic gallbladder aspiration and drainage for acute cholecystitis after biliary stenting. The 11th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention-SGI2017,(Seoul,Korea),[Poster]
- 006 **Sato Y, Inaba Y, Aramaki T, Sone M, Arai Y, Morita Y, Nishiofuku H, Tanaka T, Matsueda K, Miyazaki M** : Hepatic arterial infusion chemotherapy in patients with unresectable liver metastases from colorectal cancer refractory to standard systemic chemotherapy : multicenter retrospective study. Asia Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology-APSCVIR 2018, (Auckland New Zealand),[Oral presentation]
- 007 **Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Hasegawa T, Imai Y** : Long tube insertion via percutaneous transesophageal gastrotubing route for patients with malignant bowel obstruction. Asia Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology-APSCVIR 2018, (Auckland New Zealand),[Poster]
- 008 **Murata S, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Hasegawa T, Imai Y** : Embolization for tumor bleeding of the brachiocephalic artery area. Asia Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology-APSCVIR 2018, (Auckland New Zealand),[Poster]
- 009 **Hasegawa T, Kuroda H, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Murata S, Kato M, Onoda Y, Sakao Y** : The utility of mixture of "lipiodol-indigo carmine-lidocaine gel" for preoperative pulmonary nodule localization. Society of Interventional Radiology-SIR2018, (Los Angeles USA),[Poster]
- 010 **稲葉吉隆** : IVR11 : 塞栓 2 ・その他 . 第 76 回日本医学放射線学会 ,2017,(横浜) [座長]
- 011 **佐藤洋造** : B-TACE のエビデンス . 第 46 回日本 IVR 学会 ,2017,(岡山) [口演]
- 012 **長谷川貴章, 山中隆嗣, 郷原英夫, 宮崎将也, 山門亨一郎** : T1b 腎癌に対するアブレーション治療 : 多施設共同後方視的研究 . 第 46 回日本 IVR 学会 ,2017,(岡山) [口演]

- 013 今井勇伍, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 原 和生:胆管ステント留置後の急性胆嚢炎に対して行ったPTGBAとPTGBDの比較検討. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[口演]
- 014 稲葉吉隆:マイクロスフィア使用に当たっての工夫. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[座長]
- 015 佐藤洋造, 竹内義人, 森下博之, 濱口真吾, 坂本憲昭, 徳江浩之, 米満尚史, 村上健司, 藤原寛康, 祖父江慶太郎:血管塞栓術に用いるNBCAのガイドライン2012. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[講演]
- 016 稲葉吉隆:HCC治療のアルゴリズムとcTACEの適応. 第46回日本IVR学,2017,(岡山)[講演]
- 017 稲葉吉隆:IVR技術のいろは6 カテーテル挿入. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[座長]
- 018 長谷川貴章:ポスターセッション12 泌尿生殖器1. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[座長]
- 019 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志, 今井勇吾, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博:肝細胞癌術後早期再発症例の検討. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[ポスター]
- 020 福嶋敬子:メディカルスタッフセッション2 看護2. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[座長]
- 021 小沢あゆみ, 福嶋敬子, 山口真澄, 松尾育未, 奥田孝光, 山田英光子, 大橋みどり, 中山衣代, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 清水淳一:CVポート設置におけるクリニカルパスバリアンス分析. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[口演]
- 022 服部寿史, 浅井 翼, 米澤祐司, 安部忠臣, 流 真治, 松島 秀, 稲葉吉隆:血管撮影装置でのデジタルズーム機能による透視線量増加割合の検討. 第46回日本IVR学会,2017,(岡山)[口演]
- 023 稲葉吉隆:非血管系ステントのCase Based Discussion. 第35回日本Metallic Stents & Grafts 研究会,2017,(岡山)[座長]
- 024 稲葉吉隆:上部消化管. 第35回日本Metallic Stents & Grafts 研究会,2017,(岡山)[口演]
- 025 佐藤洋造:消化管ステント. 第35回日本Metallic Stents & Grafts 研究会,2017,(岡山)[座長]
- 026 佐藤洋造:消化管ステント基本事項:食道ステントを中心に. 第35回日本Metallic Stents & Grafts 研究会,2017,(岡山)[講演]
- 027 佐藤洋造, 村田慎一, 金原佑樹, 守永広征, 長谷川貴章, 今井勇伍, 小野田 結, 山浦秀和, 稲葉吉隆, 原 和生, 奥野のぞみ:重症急性膵炎後の腹部腫瘍に対して腫瘍空から体外に留置した消化管ステントを介した内視鏡下ネクロセクトミーが有効であった1例. 第3回日本穿刺ドレナージ研究会,2017,(大阪)[口演]
- 028 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章:化学療法後再燃症例における画像ガイド下再生検の有用性の検討. 第3回日本穿刺ドレナージ研究会,2017,(大阪)[口演]
- 029 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 今井勇伍, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰弘:肝細胞癌術後早期再発症例の検討. 第53回日本肝癌研究会,2017,(東京)[口演]
- 030 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 西尾福英之, 藤森将志, 池田公史, 山門亨一郎:TACEにおける塞栓物質・抗癌剤の選択 エビデンス構築への取り組み. 第53回日本肝癌研究会,2017,(東京)[口演]
- 031 佐藤洋造:HCCに対するソラフェニブ療法 今後の展望. 第28回北海道肝がん研究会,2017,(札幌)[講演]
- 032 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 今井勇伍, 木村佳奈子:肝細胞癌術後早期再発症例の検討. 第62回中部IVR研究会,2017,(富山)[口演]
- 033 稲葉吉隆, 村田慎一, 今井勇伍, 山浦秀和, 佐藤洋造, 小野田 結, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 木村佳奈子:経皮的胃瘻造設における胃壁固定具ガストロペクシーの使用経験. 第62回中部IVR研究会,2017,(富山)[口演]
- 034 今井勇伍, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 小野田 結, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 木村佳奈子:DewXを用いて設置した中心静脈ポートにおけるカテーテル損傷の検討. 第62回中部IVR研究会,2017,(富山)[口演]
- 035 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 西尾福英之, 保本 卓, 中塚豊真, 松尾国弘, 児玉芳尚, 大久保裕直, 阿保大介, 高木治行, 山門亨一郎, 廣田省三:BCLC stage Cの進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法の併用療法の第II相試験(STAB study). 第15回日本臨床腫瘍学会,2017,(神戸)[ポスター]
- 036 *Hasegawa T, Yamanaka T, Gobara H, Miyazaki M, Yamakado K*: Comparison of clinical outcomes of radiofrequency ablation and cryoablation for cT1b renal cell carcinoma: multi-center Study. 第15回日本臨床腫瘍学会,2017,(神戸)[口演]
- 037 長谷川貴章, 山中隆嗣, 郷原英夫, 宮崎将也, 山門亨一郎:T1b腎癌に対するアブレーション治療の多施設共同後方視的研究:ラジオ波焼灼術と凍結療法の比較. 第18回RFA・凍結療法研究会,2017,(金沢)[口演]
- 038 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田 結, 長谷川貴章, 今井勇伍, 木村佳奈子:肝細胞癌術後早期再発症例の検討. 第42回リザーバー研究会,2017,(高野)[口演]
- 039 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 新横 剛, 曾根美雪, 荒井保明, 森田吉多佳, 西尾福英之, 田中利洋, 松枝 清, 宮崎将也:全身化学療法不応後の切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実態調査. 第42回リザーバー研究会,2017,(高野)[口演]
- 040 今井勇伍, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 長谷川貴章, 木村佳奈子:DewXを用いて設置した中心静脈ポートにおけるカテーテル損傷の検討. 第42回リザーバー研究会,2017,(高野)[口演]
- 041 佐藤洋造:カテーテル留置手技. 第42回リザーバー研究会,2017,(高野)[講演]

- 042 佐藤洋造：IVR 医からみた TKI 治療の使いどころ～Evidence と Clinical practice ～. 第 42 回リザーバー研究会,2017,(高野)[講演]
- 043 稲葉吉隆：CV ポート①. 第 42 回リザーバー研究会,2017,(高野)[座長]
- 045 山田英光子, 福嶋敬子, 山口真澄, 小沢あゆみ, 松尾育未, 奥田孝光, 大橋みどり, 中山衣代, 清水淳市, 佐藤洋造, 稲葉吉隆：CV ポート設置パスにおけるバリエーション分析による改善. 第 42 回リザーバー研究会,2017,(高野)[口演]
- 046 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 新楨 剛, 曾根美雪, 荒井保明, 森田吉多佳, 西尾福英之, 田中利洋, 松枝 清, 宮崎将也：全身化学療法不応後の切除不能大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法の実態調査. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 047 長谷川貴章, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 村田慎一, 今井勇伍, 黒田浩章, 坂田省三, 坂倉範昭, 水野鉄也, 有村隆明, 坂尾幸則：インジゴカルミン・リピオドール混合液による術前肺マーキングの検討. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 048 今井勇伍, 稲葉吉隆, 出嶋育朗, 木村佳奈子, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田結, 佐藤洋造, 山浦秀和：縦隔膿瘍に対する経鼻経食道ドレナージ. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 049 稲葉吉隆, 長谷川貴章, 出嶋育朗, 木村佳奈子, 今井勇伍, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田結, 佐藤洋造, 山浦秀和：IVR を予定した高度血小板減少を伴う肝細胞癌症例でのルストロンボパグ錠（ムルプレタ錠®）の使用経験. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 050 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田結, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 今井勇伍, 木村佳奈子, 出嶋育朗：悪性消化管狭窄に対する PTEG ルートからのロングチューブ挿入. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 051 出嶋育朗, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田 結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 今井勇伍, 木村佳奈子, 水野鉄也, 金原佑樹：気管支断端瘻に対して経皮的塞栓術を行った 1 例. 第 63 回中部・第 64 回関西 IVR 合同研究会,2018,(長久手)[口演]
- 004 *Chiyoko Makita, Takeshi Kodaira, Hiroyuki Tachibana, Natuso Tomita, Yutaro Koide, Makoto Ito, Daiki Kato, Takashi Daimon*：Comparison of clinical outcomes of different radiation strategies in postoperative radiotherapy for patients with head and neck squamous cell carcinoma: a propensity-score matched analysis.The 5th Japan-Taiwan Radiation Oncology Symposium,2017,(神戸)[口演]
- 005 *H Shimizu*, K Sasaki, H Tachibana, N Tomita, C Makita, K Nakashima, K Yokoi, T Kubota, T Iwata, T Kodaira*：Analysis of Modulation Factor to Reduce the Delivery Time of Head and Neck Cases in Helical Tomotherapy. AAPM 2017 59th annual meeting & exhibition,2017,(Denver)[ポスター]
- 006 *H Shimizu*, K Sasaki, M Ito, T Aoyama, H Tachibana, N Tomita, C Makita, Y Koide, T Iwata, T Kodaira*：Robustness of the Organ Doses Related to Setup Error in Helical Tomotherapy Planning of Restricted Incident Beam Angles. AAPM 2017 59th annual meeting & exhibition,2017,(Denver)[ポスター]
- 007 *T Aoyama*, H Shimizu, M Ando, T Isomura, K Nakashima, K Yokoi, T Iwata, H Tachibana, T Kodaira*：Improvement of the Positional Reproducibility of Head and Neck Cancer Patient Using the Orbitomeatal Angle in Radiotherapy. AAPM 2017 59th annual meeting & exhibition,2017,(Denver)[ポスター]
- 008 *Seiichiro Mitani, Shigenori Kadowaki, Isao Oze, Yukiya Narita, Hiroya Taniguchi, Takashi Ura, Masahiro Tajika, Chieko Makita, Takeshi Kodaira⁹, Norihisa Uemura, Tetsuya Abe, Kei Muro*：Risk of second malignancies after definitive therapy for esophageal cancer : a competing risk analysis. ESMO 2017 congress,2017,(Madrid Spain)[ポスター]
- 009 *C. Makita, T. Kodaira, H. Tachibana, N. Tomita, I. Makoto, Y. Koide, D. Kato, Y. Koide, Y. Fukuda, D. Nishikawa, H. Suzuki, N. Daimon, and Y. Hasegawa*：Comparison of clinical outcome of different radiation strategies in postoperative radiotherapy for patients with head and neck squamous cell carcinoma: a propensity-score matched analysis. 59th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2017,(San Diego)[口演]
- 010 *M. Nozaki, Y. Kagami, T. Shibata, K. Nakamura, Y. Ito, Y. Nishimura, Y. Kawaguchi, Y. Saito, Y. Nagata⁹, Y. Matsumoto, T. Akimoto, T. Nishimura, T. Uno, K. Tsujino, M. Kataoka, T. Kodaira, K. Shiraishi, K. Inoue, F. Isohashi, M. Hiraoka, K. Karasawa, S. Izumi, H. Sakurai*：A clinical trial on hypofractionated whole-breast irradiation after breast-conserving surgery. 60th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015,2018,(San Antonio)[ポスター]
- 011 *Yokose S, Komori M, Kamomae T, Shimizu H, Okudaira K,*

放射線治療部

- 001 *Takeshi Kodaira*：ESTRO 36,2017,(Viena)[口演]
- 002 *Takeshi Kodaira*：Moderator Session 4, Head and Neck, CNS.The 5th Japan-Taiwan Radiation Oncology Symposium,2017,(神戸)[座長]
- 003 *Makoto Itoh, Hidetoshi Shimizu, Takahiro Aoyama, Daiki Kato, Yutaro Koide, Chiyoko Makita, Natsuo Tomita, Hiroyuki Tachibana, Takeshi Kodaira, Tsuneo Ishiguchi*：Examination of the planning technique using Helical Tomotherapy aiming at lung dose reduction for cervical esophageal

- Kawabata F, Oguchi H** : A sensitivity calibration of radio-photoluminescent glass dosimeter for scattered therapeutic x-ray in water equivalent phantom. 第113回日本医学物理学学会学術大会,2017,(横浜)[口演]
- 012 **Takeshi Kodaira** : International symposium Treatment strategy for head and neck cancer IMRT for head and neck cancer. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[演者]
- 013 古平 毅:治療. 第76回日本医学放射線学会総会,2017,(横浜)[座長]
- 014 清水秀年:放射線治療 計測(演題番号362-365). 第73回日本放射線技術学会総会学術大会,2017,(横浜)[座長]
- 015 古平 毅:HPV+ 頭頸部癌の放射線治療の現状. 10th Advisory Board Meeting for SCCHN,2017,(東京)[口演]
- 016 古平 毅:頭頸部癌治療にIMRTが与えた影響・我が国における頭頸部癌IMRTの現状. 第41回日本頭頸部癌学会,2017,(横浜)[口演]
- 017 藤井博文, 林 隆一, 丹生健一, 中溝宗永, 古平 毅, 西野 宏, 齋藤祐毅:喉頭・下咽頭癌における喉頭温存治療法のガイドラインへの反映. 第41回日本頭頸部癌学会,2017,(横浜)[口演]
- 018 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 小出悠介, 福田裕次郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 長谷川泰久:上顎洞癌に対する放射線治療症例の検討. 第41回日本頭頸部癌学会,2017,(横浜)[口演]
- 019 植村則久, 安部哲也, 川上次郎, 細井敬泰, 室 圭, 宇良 敬, 丹羽康正, 田近正洋, 古平 毅, 牧田智誉子:当院におけるサルベージ手術の成績と問題点. 第70回日本食道学会,2017,(軽井沢)[口演]
- 020 古平 毅:頭頸部癌の放射線治療 多様化する治療と精密放射線治療への期待. 神戸大講演,2017,(神戸)[口演]
- 021 古平 毅:化学放射線療法の実状と問題 - 適切なERT使用への考案. 第5回西日本中部地区頭頸部腫瘍研究会,2017,(岡山)[口演]
- 022 清水秀年, 松山勝哉:放射線治療装置のコミッションングと継続的な品質管理の開始. 東海放射線腫瘍研究会 第45回技術部会,2017,(岐阜)[座長]
- 023 青山貴洋:各施設における固体ファントムスケリングの取り扱い. 東海放射線腫瘍研究会 第45回技術部会,2017,(岐阜)[口演]
- 024 古平 毅:頭頸部がんに対するIMRTの勘どころ. 第19回放射線腫瘍学夏期セミナー, 2017,(岩手)[口演]
- 025 古平 毅:局所進行頭頸部がんの放射線治療の現状と治療完遂のポイント. Head and Neck Summit,2017,(東京)[講演]
- 026 清水秀年:固定具の作成 - 頭頸部 -, 他2題. 平成29年度日本放射線治療専門放射線技師認定機構 統一講習会(東海地区),2017,(愛知)[座長]
- 027 古平 毅:頭頸部癌のIMRT 最新のエビデンスと治療のコツ. 和歌山腫瘍センター勉強会,2017,(和歌山)[講演]
- 028 古平 毅:それぞれの癌 がん治療にまつわる Update 頭頸部癌. 第55回癌治療学会,2017,(横浜)[口演]
- 029 清水秀年, 佐々木浩二, 青山貴洋, 久保田隆士, 福岡宙志, 岩田 徹, 立花弘之, 古平 毅:頭頸部癌の捻れに対応した放射線治療用患者位置補正台の開発. 第45回日本放射線技術学会秋期学術大会,2017,(広島)[口演]
- 030 小出雄太郎, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 安部哲也, 室 圭, 田近正洋, 丹羽康正, 牧田智誉子, 伊藤 誠, 伊藤善之, 長縄慎二: I期食道癌の根治的放射線治療の臨床成績. 第55回癌治療学会,2017,(横浜)[ポスター]
- 031 三谷誠一郎, 尾瀬 功, 門脇重憲, 成田有季哉, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 牧田智誉子, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 室 圭:競合リスクモデルを用いた食道癌根治治療後の他臓器癌発生リスクの検討. 第55回癌治療学会,2017,(横浜)[ポスター]
- 032 清水秀年:放射線治療(治療計画・検証). 第10回中部放射線医療技術学術大会,2017,(岐阜)[座長]
- 033 北川智基, 清水秀年, 青山貴洋, 磯村泰己:小照射野の出力係数におけるプラスチックシンチレーション検出器の検討. 第10回中部放射線医療技術学術大会,2017,(岐阜)[口演]
- 034 磯村泰己, 青山貴洋, 清水秀年, 中山雅詞, 横井和志:厚みに傾斜がついた6軸補正寝台における仮想寝台の検討. 第10回中部放射線医療技術学術大会,2017,(岐阜)[口演]
- 035 青山貴洋, 清水秀年, 横井和志, 流 真治, 古平 毅:多分割 Atlas-based auto segmentationの有用性. 第10回中部放射線医療技術学術大会,2017,(岐阜)[口演]
- 036 古平 毅:「どうしてますか?緩和治療の方針決定」. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[座長]
- 037 富田夏夫, 足達 崇, 田中 寛, 加藤大貴, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅:長期内分泌治療併用された前立腺癌患者に対する線量増加の意義. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 038 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 小出雄太郎, 田中 寛, 加藤大貴, 足達 崇:頭頸部扁平上皮癌の術後放射線治療症例に対する検討. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 039 小出雄太郎, 富田夏夫, 立花弘之, 牧田智誉子, 田中 寛, 加藤大貴, 足達 崇, 古平 毅:3cm以上の転移性脳腫瘍に対するトモセラピーを用いた定位放射線治療. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 040 加藤大貴, 足達 崇, 田中 寛, 小出雄太郎, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅:局所進行肛門管癌の治療成績. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 041 中島貴子, 野田順子, 朝井哲也, 牧田智誉子, 西川大輔, 宇良 敬, 古平 毅:頭頸部がん化学放射線療法における予防的胃瘻造設が臨床経過に及ぼす影響の検討. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 042 青山貴洋, 清水秀年, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 小出雄太郎, 岩田 徹, 古平 毅:ヘリカルトモセラピーと強度変調回転照射を用いた多発脳定位放射線治療の線量比較. 第30回日本放射線腫瘍学会,2017,(大阪)[口演]
- 043 田中 寛, 古谷智久, 二瓶圭二, 熊崎 祐, 西村英輝,

- 中山雅史, 鹿間直人, 唐澤克之: 転移性脊髄腫瘍に対する定位放射線治療に関する多施設前向き実施可能性試験. 第30回日本放射線腫瘍学会, 2017,(大阪)[口演]
- 044 古平 毅: 頭頸部がん放射線治療のエビデンス 一時間・生物・物理の修飾による治療成績の向上. 札幌医科大学腫瘍診療センター講演会, 2017,(札幌)[講演]
- 045 立花弘之: 臨床腫瘍学特論 放射線腫瘍学「がんの放射線治療の理論と実際」. 名城大学薬学部大学院, 2017,(名古屋)[講演]
- 046 清水秀年: 愛知県がんセンター中央病院における放射線治療品質管理室の活動について. 第11回南九州地域放射線治療技術合同研究会, 2018,(宮崎)[講演]
- 047 清水秀年: ヘリカルトモセラピーによる放射線治療. 成田記念病院 勉強会, 2018,(愛知)[講演]
- 048 立花弘之: 「放射線治療における支持療法」. 大分赤十字病院 放射線治療研修会, 2018,(大分)[講演]
- 049 加藤大貴, 足達 崇, 小出雄太郎, 田中 寛, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅: 局所進行肛門管癌の治療成績. 第31回日本高精度外部照射研究会, 2018,(大阪)[ポスター]
- 050 古平 毅: 肺, 前立腺. 第31回日本高精度外部照射研究会, 2018,(大阪)[座長]
- 051 立花弘之: 治療 前立腺. 日本医学放射線学会第163回中部地方会, 2018,(愛知)[座長]
- 052 古平 毅: 特別講演座長. 第36回頭頸部腫瘍研究会, 2018,(愛知)[世話人]
- 053 田中 寛: 椎体定位放射線治療の対象症例に関して. 東海大学医学部, 2018,(神奈川)[講演]

緩和ケア部

- 001 下山理史, 齋藤洋司, 恒藤 暁, 有賀悦子, 緒方 健: ヒドロモルフォン即放錠第II相臨床試験 モルヒネとの効力比検討試験. 第22回日本緩和医療学会学術大会, 2017,(横浜)[口演]

精神腫瘍科部

- 001 小森康永: ナラティブ・セラピー. 日本精神神経学会, 家族療法シンポジウム, 2017,(名古屋)[シンポジウム]
- 002 小森康永, 安達映子, 宋 敏鎬: ナラティブ・メディスン. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ, 2017,(つくば)[ワークショップ]
- 003 小森康永: ナラティブ・セラピー. 死を前にした自己の構築, 日心公開シンポジウム: 死について考える心理学, 2017,(東京)[招聘講演]
- 004 小森康永: ナラティブ・セラピー. 死を前にした自己の構築, 日心公開シンポジウム: 死について考える心理学, 2017,(京都)[招聘講演]
- 005 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行: ナラティブ・セラピー入

門. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ, 2017,(東京)[ワークショップ]

- 006 小森康永: 私の考える精神腫瘍学～緩和ケアと時間. 緩和ケアフォーラム in 枚岡, 2018,(東大阪市)[講演]

看護部

- 001 青山寿昭: 病院で勤務する摂食・嚥下障害看護認定看護師の地域での活動. 日本摂食嚥下障害看護研究会, 2017,(金沢)[口演]
- 002 南谷志野: 看護助手との業務分担阻害要因に基づく看護師 - 看護助手の協働/業務分担推進に向けた取り組み. 第21回日本看護管理学会学術集会, 2017,(神奈川)[口演]
- 003 吉川 恵: 進行肺癌患者の就労実態調査と就労阻害因子の検討. 第55回日本癌治療学会学術集会, 2017,(神奈川)[デジタルポスター]
- 004 岩井美世子, 船崎初美, 鈴木秀典: 頭頸部がん化学放射線療法が就労に及ぼす影響. 第32回日本がん看護学会学術集会, 2018,(千葉)[口演]
- 005 井上さよ子, 花出正美, 小野桂子, 林 美子, 他: 「がんを知って歩む会」の新規立ちあげ・運営に関する医療者のニーズと課題. 日本緩和医療学会, 2017,(横浜)[示説]
- 006 井上さよ子, 大島祐美, 濱口由美子: 婦人科がん患者の終末期の家族支援について - 障害を抱えた子を持つ高齢者への支援 -. 日本家族看護学会, 2017,(千葉)[示説]
- 007 中島貴子, 野田順子, 朝井哲也, 牧田智誉子, 西川大輔, 宇良 敬, 古平 毅: 頭頸部がん化学放射線療法における予防的胃瘻増設が臨床経過に及ぼす影響の検討. 第30回日本放射線腫瘍学会学術集会, 2017,(大阪)[口演]
- 008 山口真由美, 石井房世, 栢田ゆかり, 池松裕子: 愛知県集中ケア認定看護師会の活動報告. 集中治療医学会学術集会, 2018,(東京)[示説]
- 009 谷川 綾, 宮武美智代, 藤井博子, 山崎祥子: がん専門病院1施設の混合病棟における患者安全への意識に関する調査. 第48回日本看護学会 - 看護管理 -, 2017,(北海道)[示説]
- 010 中山衣代: 変則勤務を導入した内視鏡体制の取り組みから見えたこと. 第79回日本消化器内視鏡技師学会, 2017,(福岡)[口演]
- 011 山田英光子, 福嶋敬子, 山口真澄, 小沢あゆみ, 松尾育未, 奥田孝光, 大橋みどり, 中山衣代, 清水淳市, 佐藤洋造, 稲葉吉隆: CVポート設置パスにおけるバリエーション分析による改善. 第42回リザーバー研究会, 2017,(和歌山)[口演]
- 012 小沢あゆみ, 福嶋敬子, 山口真澄, 松尾育未, 奥田孝光, 山田英光子, 大橋みどり, 中山衣代, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 清水淳市: CVポート設置術におけるクリニカルパスバリエーション分析. IVR学会, 2017,(岡山)[口演]
- 013 福嶋敬子, 山口真澄, 小川明信, 中山衣代, 清水淳市, 佐藤洋造, (他 他施共同者6名): 「顔の見える関係」構築を目指して愛知県クリニカルパス研究会の活動紹介. 第

- 18 回日本クリニカルバス学会,2017,(大阪)[示説]
- 014 西村聖子：当院における外来通院患者の転倒・転落の要因検討. 第4回日本医療安全学会学術総会,2018,(東京)[ポスター]

講演・講義講師、学会座長、シンポジスト

- 001 亀島里美：看護管理「病院における認定看護師の役割」. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野,2017,(愛知)[講師]
- 002 亀島里美：看護管理「病院における認定看護師の役割」. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん性疼痛看護」分野,2017,(愛知)[講師]
- 003 南谷志野：グループマネジメント チーム医療と連携 - カンファレンスの運営 - ファシリテーション. 愛知県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル,2017,(愛知)[講師]
- 004 南谷志野：看護管理の基礎. 愛知県立病院看護職員研修,2017,(愛知)[講師]
- 005 南谷志野：看護の質向上 看護指標. 聖泉大学大学院看護管理学特論 I ,2017,(滋賀)[講師]
- 006 南谷志野：自施設の分析と看護管理課題 BSC を用いた戦略的経営. 聖泉大学大学院看護管理学特論 II ,2017,(滋賀)[講師]
- 007 小原真紀子：ちょっとしたスキンケアの工夫. 第55回日本癌治療学会学術集会ブースセミナー,2017,(神奈川)[講演]
- 008 小原真紀子：ちょっとしたスキンケアの工夫～泡洗浄・創傷被覆材の活用・保湿剤の塗布～. 経口分子標的治療薬による皮膚障害マネジメントの会,2017,(愛知)[講演]
- 009 小原真紀子：肺がん治療における EGFR-TKI 治療の副作用マネジメント. がん治療に伴う皮膚障害看護セミナー,2017,(宮崎)[講演]
- 010 小原真紀子：肺がん治療における EGFR-TKI 治療の副作用マネジメント. 小倉地区 TKI 適正使用セミナー,2017,(福岡)[講演]
- 011 小原真紀子：患者サポート体制. がん看護ジェネラリスト研修公開講座,2017,(愛知)[講師]
- 012 小原真紀子：愛知がん免疫療法看護セミナー. 名古屋ルーセントタワー,2017,(愛知)[座長]
- 013 小原真紀子：経口分子標的治療薬による皮膚障害マネジメントの会. AP 名古屋,2017,(愛知)[座長]
- 014 向井未年子：「大切な大人ががんになったときー子どもたちを支えるために」. 第22回日本緩和医療学会学術大会,2017,(神奈川)[シンポジスト]
- 015 向井未年子：「東海・北陸地区における緩和医療の取り組みと課題ー病院側から、地域側から」. 第22回日本緩和医療学会学術大会,2017,(神奈川)[シンポジスト]
- 016 向井未年子：がん看護ーがん患者を生活者として支える看護師の役割ー. 愛知県総合看護専門学校,2017,(愛知)[講師]

- 017 向井未年子：特別講演「がん看護専門看護師として、がん患者を看続けることの意味」. 三重がん看護フォーラム,2017,(三重)[座長]
- 018 岩井美世子：在宅医療病態論. 愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程,2017,(愛知)[講師]
- 019 岩井美世子：訪問看護方法論(悪性腫瘍患者の看護). 愛知県看護協会訪問看護職員会,2017,(愛知)[講師]
- 020 岩井美世子：成人看護援助論Ⅲ(がん患者の就労支援). 蒲都市立ソフィア看護専門学校,2017,(愛知)[講師]
- 021 岩井美世子：がん就労の質向上. 第4回がん就労を考える会,2017,(愛知)[パネリスト]
- 022 岩井美世子：がん看護の役割. 愛知医科大学看護学部,2017,(愛知)[特別講師]
- 023 岩井美世子：専門看護師の役割. 愛知県立大学看護学部,2017,(愛知)[講師]
- 024 岩井美世子：認定の役割・指導. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん化学療法看護」分野,2017,(愛知)[講師]
- 025 岩井美世子：認定の役割・指導. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師課程「がん性疼痛看護」分野,2017,(愛知)[講師]
- 026 岩井美世子：地域とつながり患者を支える～病院看護師の立場から～. 愛知県看護協会三職能合同集会,2018,(愛知)[シンポジスト]
- 027 吉川 恵：医療現場に求められる臨床倫理の基礎と考え方. JA 愛知厚生連 豊田厚生病院, 2017,(愛知)[講師]
- 028 宮武美智代：相談の実際. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師課程「がん性疼痛看護」分野,2017,(愛知)[講義]
- 029 宮武美智代：相談の実際. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師課程「がん化学療法看護」分野,2017,(愛知)[講義]
- 030 宮武美智代：コンサルテーション論. 愛知県立大学大学院看護学研究科,2017,(愛知)[講義]
- 031 宮武美智代：看護倫理の今. 第22回日本看護研究学会東海地方学術集会,2018,(愛知)[シンポジスト]
- 032 宮谷美智子：がん化学療法看護Ⅲ「臨床試験」. がん看護ジェネラリスト研修,2017,(愛知)[講師]
- 033 井上さよ子：看護倫理研修. 愛知県心身障害者コロニー中央病院,2017,(愛知)[講師]
- 034 井上さよ子：コンサルテーション論. 日本赤十字豊田看護大学,2017,(愛知)[講師]
- 035 西尾里美：がん看護指導者養成研修・フォローアップ研修. 国立がん研究センター,2018,(東京)[講師]
- 036 西尾里美：がん看護指導者養成研修. 国立がん研究センター,2017,(東京)[講師]
- 037 千種智之,河村大一：新人看護職員合同研修・感染対策. 愛知県看護研修センター,2017,(愛知)[講師]
- 038 千種智之：看護職カムバック研修・感染対策. 愛知県看護研修センター,2017,(愛知)[講師]
- 039 千種智之：感染対策. 椋山女学園大学早期体験実習,2017,(愛知)[講師]
- 040 千種智之：感染対策. 管理栄養士養成課程,2017,(愛知)[講

- 師]
- 041 千種智之：看護職カムバック研修・感染対策. 愛知県ナースセンター,2017,(愛知),[講師]
- 042 八重樫裕：摂食嚥下障害を持つ人の会（つばめの会）の支援を考える. 日本摂食嚥下障害看護研究会,2017,(石川),[講演]
- 043 八重樫裕：認知症の食支援を考える. .七宝病院,2017,(愛知),[講師]
- 044 八重樫裕：摂食嚥下障害を持つ人の会つばめの会の支援を考える. 嚥下マニア,2017,(愛知),[講演]
- 045 小島 瞳：ストーマ・褥瘡の処置. 平成 29 年度再就業のための研修会,2017,(愛知),[講師]
- 046 小島 瞳：褥瘡予防概論. メディカルケアサポートセミナー in 名古屋, 2017,(愛知),[講演]
- 047 小島 瞳：局所管理・陰圧閉鎖療法. 第 34 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会,2017,(愛知),[座長]
- 048 西尾充代：チームで取り組む皮膚障害のケア ～愛知県がんセンター中央病院での取り組み～. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会,2018,(兵庫),[シンポジスト]
- 049 青山寿昭：明日から活かせる在宅での栄養管理と摂食嚥下. 愛知県看護協会,2017,(愛知),[講師]
- 050 青山寿昭：日本嚥下障害臨床研究会,2017,(松江),[座長]
- 051 青山寿昭：覚醒の悪い患者への対応・症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識. メディカ出版,2017,(大阪),[講師]
- 052 青山寿昭：気管切開をされている患者の対応・症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識. メディ出版,2017,(大阪),[講師]
- 053 青山寿昭：覚醒の悪い患者への対応・症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識. メディカ出版,2017,(東京),[講師]
- 054 青山寿昭：気管切開をされている患者の対応・症例から学ぶ摂食嚥下障害の知識. メディカ出版,2017,(東京),[講師]
- 055 青山寿昭：頭頸部がん治療後の摂食嚥下障害へのサポート. 摂食嚥下リハビリテーション学会,2017,(千葉),[シンポジスト]
- 056 青山寿昭：みんなで認知症の摂食嚥下障害を考えよう. 摂食嚥下リハビリテーション学会,2017,(千葉),[座長]
- 057 青山寿昭：嚥下と摂食. 名古屋市介護施設看護職員研修会,2017,(愛知),[講師]
- 058 河村大一：専門・認定看護師の活動. 椋山女学園大学看護学部,2018,(愛知),[講師]
- 059 高畑知帆子：「愛知県がんセンター中央病院における免疫チェックポイント阻害薬の投与の実際」. 愛知がん免疫療法看護セミナー,2017,(愛知),[講師]
- 060 瀬古志桜：『アドバンス・ケア・プランニング』. 第 8 回東海乳癌チーム医療研究会,2018,(愛知),[座長]
- 061 深堀慎一郎：クリティカルケア看護の専門性. 愛知県立大学 臨床講義,2017,(愛知),[講師]
- 062 深堀慎一郎：段階的早期離床プロトコルから周術期管理チームへの展望－食道がん術後に人工呼吸器を装着した 1 事例の紹介－. 第 1 回食道周術期管理セミナー,2017,(東京),[パネリスト]
- 063 新田都子：事例をもとに病態からアセスメントする！～認定看護師と一緒に考えるがん性疼痛マネジメント～. 愛知県立大学看護師実践センター第 2 回がん看護セミナー,2017,(愛知),[ファシリテーター]
- 064 新田都子：がん医療チームにおける看護の役割. 愛知県立大学看護実践センター,2017,(愛知),[講師]
- 065 新田都子：がん看護学総論 演習 「がん性疼痛を有する患者のアセスメントと計画立案. 愛知県立大学看護実践センター,2017,(愛知),[講師]
- 066 新田都子：がん性疼痛看護. 名古屋医専,2017,(愛知),[講師]
- 067 中島貴子：「がん性疼痛に対する放射線療法と看護・治療を受ける患者への看護」. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師教育課程「がん性疼痛」分野,2017,(愛知),[講師]
- 068 中島貴子：がん基礎研修「がん放射線療法看護」. 小牧市民病院,2017,(愛知),[講師]
- 069 山田健司：手術室における看護について. 愛知県立大学臨床講義,2017,(愛知),[講師]
- 070 山田健司：がん基礎研修・手術療法における看護について. 小牧市民病院,2017,(愛知),[講師]
- 071 山田健司：認定相談ブース、日本手術看護学会年次大,2017,(大阪),[ファシリテーター]
- 072 永田智子：リンパ浮腫とは. あけぼの会愛知支部,2017,(愛知),[講師]
- 073 永田智子：緩和とリンパ浮腫. 名古屋リンパ浮腫研究会,2017,(愛知),[基調講演]
- 074 永田智子：ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム -M7: 悲嘆・喪失・死別-. がんセンター愛知病院,2017,(愛知),[講師・ファシリテーター]
- 075 永田智子：がん性疼痛に対する治療と看護・症状緩和における非薬物的アプローチ. 愛知県立大学看護実践センター認定看護師課程「がん性疼痛看護」分野,2017,(愛知),[講義]
- 076 久保 知：頭頸部癌治療における副作用マネジメント. 福岡頭頸部がんチーム医療セミナー,2017,(福岡),[講師]
- 077 久保 知：頭頸部癌治療のアップデートと副作用マネジメントの知識技術を向上. 頭頸部がん化学療法セミナー,2017,(大阪),[講師]
- 078 久保 知：BRT の皮膚炎と粘膜炎を中心とした副作用マネジメント. 天王寺頭頸部癌チーム医療セミナー,2017,(大阪),[講師]
- 079 久保 知：放射線治療に対する支持療法～看護の役割～. 東海オンコロジーセミナー,2017,(愛知),[講師]
- 080 久保 知：BRT を受ける患者の副作用管理. 沖縄頭頸部がんチーム医療セミナー,2017,(沖縄),[講師]
- 081 高木礼子：乳癌化学療法の副作用マネジメント. 尾張北部プレストケアセミナー,2017,(愛知),[講師]
- 082 高木礼子：脱毛ケア. 第 22 回医看薬連携研究会,2017,(愛知),[講師]
- 083 笹川良子：メディカルスタッフシンポジウム. 第 46 回日本 IVR 学会総会,2017,(岡山),[座長]
- 084 中山衣代：内視鏡治療を受ける患者の看護. 愛知県立大学,2017,(愛知),[講師]
- 085 福嶋敬子：メディカルスタッフセッション. 第 46 回日本

- IVR学会,2017,(岡山),[座長]
- 086 福嶋敬子:IVR看護の役割. 国立大学病院第48回放射線診療部門会議,2017,(岐阜),[講演]
- 087 福嶋敬子:血管看護から継続した看護を考える. 第7回INE会,2017,(東京),[座長]

薬剤部

- 001 橋本直弥,高橋新次,立松三千子,稲熊一英,水野靖也:
レンパチニブ通常開始群と減量開始群における忍容性の比較検討. 第50回東海薬剤師学会大会,2017,(名古屋),[口演]
- 002 橋本直弥,高橋新次,立松三千子,稲熊一英,水野靖也:
レンパチニブ導入後の副作用発現状況とRDIに関する調査. 日本臨床腫瘍薬学会学会大会,2018,(横浜),[ポスター]
- 003 高橋新次,橋本直弥,稲熊一英,水野靖也:UGT1A1遺伝子多型を有する膵癌患者に対するmFOLFIRINOX療法の安全性. 日本臨床腫瘍薬学会学会大会,2018,(横浜),[ポスター]
- 004 前田章光,稲葉吉隆,松崎雅英,長谷川彩子,金涌えり,栗原幸司,山内拓也,高野裕佑,稲熊一英,水野靖也:
薬剤師を対象にしたがん診療に関連したCT画像読影研修会の取り組みと研修の効果. 日本臨床腫瘍薬学会学会大会,2018,(横浜),[口演]
- 005 前田章光,下村一景,栗原幸司,高橋新次,橋本直弥,長谷川彩子,小原真紀子,高畑知帆子,稲熊一英,水野靖也:
エクアシールド(EQUASHIELD®)を用いたシクロホスファミド調製における,調製者手袋及び周辺環境の汚染状況の調査. 第27回日本医療薬学会,2017,(幕張),[口演]
- 006 前田章光:症例サマリのまとめ方. 第27回日本医療薬学会,2017,(幕張),[シンポジウム]
- 007 下村一景:非小細胞肺癌におけるニボルマブによる皮疹と治療効果との関連性. 第27回日本医療薬学会年会,2017,(幕張),[口演]
- 008 立松三千子:薬剤師がつなぐチーム医療の輪～医看薬連携による外来がん患者サポート～. 第14回日本乳癌学会中部地方会薬剤師セミナー,2017,(飯田),[口演]
- 009 立松三千子:薬剤師が担う医療機関と薬局の連携手法の検討とアウトカムの評価研究～愛知県がんセンター地域の取組～. 日本医療薬学会・日本臨床腫瘍薬学会共催シンポジウム,2018,(東京),[口演]
- 010 立松三千子:薬剤師がつなぐチーム医療の輪～患者ファーストで目指す新しい連携の形～. 兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会連携1周年記念大会,2017,(神戸),[ランチョンセミナー]

3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 **Nakagawa H, Ito H** : Prognostic impact of tumor location in colon cancer: the Monitoring of Cancer Incidence in Jap (MCIJ) project. The 39th Annual Conference of the International Association of Cancer Registries , 2017,(Utrecht),[ポスター]
- 002 中川弘子, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 松尾恵太郎: ゲノムワイド関連解析を用いた日本人におけるコーヒー摂取行動遺伝子多型の同定: J-MICC Study. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜),[ポスター]

分子腫瘍学部

- 001 **Sekido Y** : New Biological Insights. 第18回世界肺癌学会議,2017,(横浜),[口演]
- 002 **Sekido Y** : Mesothelioma: Bench to Bedside. 第18回世界肺癌学会議,2017,(横浜),[シンポジウム]
- 003 **Kakumu T, Goto D, Kato T, Yogo N, Hase T, Morise M, Fukui T, Yokoi K, Sekido Y, Girard L, Minna J, Byers L, Heymach JV, Coombes K, Kondo M, Hasegawa Y** : Identification of Proteasomal Catalytic Subunit PSMA6 as a Therapeutic Target for Lung Cancer through a Pooled shRNA Screen. 第18回世界肺癌学会議,2017,(横浜),[ポスター]
- 004 **Matsushita A, Hasegawa Y, Sekido Y** : Transcriptional co-activator TAZ enhances malignant phenotypes of mesothelioma cells. 第59回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜),[ポスター]
- 005 **Sekido Y, Matsushita A, Mukai S, Sato T** :Transcriptional coactivator TAZ enhances malignant. EMBO Workshop The Hippo pathway across species and disciplines, 2017,(Roma),[ポスター]
- 006 **Mukai S** : LATS1/2 inhibit O-GlcNAcylation mediated by BAP1 in malignant mesothelioma cells. 第10回 NAGOYA グローバルリトリート,2018,(大府),[ポスター]
- 007 関戸好孝: 悪性中皮腫における遺伝子異常と治療標的の探索. 第27回日本サイトメトリー学会,2017,(神戸),[シンポジウム]
- 008 天野美希, 小木曾杏奈, 池田遥奈, 村上(渡並)優子, 金田典雄, 関戸好孝: 悪性中皮腫における BAP1 変異と合成致死表現型を示す遺伝子の機能解析. 第63回(平成29年)日本薬学会東海支部総会・大会,2017,(岐阜),[口演]
- 009 藤川遥加, 宍戸裕子, 木村康明, 友池史明, 村上優子, 青木正博, 阿部 洋: 共有結合性 GST 阻害剤の開発. 第63回(平成29年)日本薬学会東海支部総会・大会,2017,(岐阜),[口演]
- 010 佐藤龍洋: 悪性中皮腫における転写因子 TAZ の機能解析. 第8回 JMIG 研究会,2017,(横浜),[口演]

- 011 佐藤龍洋: 悪性中皮腫における Rheb-SmgGDS-mTOR 経路の解析. 第7回 TOR 研究会,2017,(福岡),[口演]
- 012 宍戸裕子, 関戸好孝, 村上優子, 阿部 洋: 共有結合型グルタチオン S- 転移酵素阻害剤の創薬研究. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜),[ポスター]
- 013 竹下純平, 山本尚吾, 辰野健二, 白石友一, 大搦泰一郎, 栗林康造, 近藤展行, 長谷川誠紀, 佐藤鮎子, 辻村 亨, 中野孝司, 関戸好孝, 油谷浩幸: 243 症例の悪性胸膜中皮腫の統合的ゲノム解析. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(名古屋),[口演]
- 014 向井智美, 松下明弘, 佐藤龍洋, 藤下晃章, 青木正博, 関戸好孝: 転写共役因子 TAZ は、IL-1 β の転写活性を介して悪性中皮腫の進展を促進する. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(名古屋),[ポスター]
- 015 藤林えみ, 向井智美, 内橋俊大, 田中 晋, 古郷幹彦, 藪田紀一: LATS と SLUG は EMT-MET 誘導性螺旋状悪性化メカニズムを制御する. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(名古屋),[ポスター]
- 016 藤川遥加, 宍戸裕子, 村上優子, 関戸好孝, 阿部 洋: グルタチオン-S- トランスフェラーゼのプロローブ開発. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(名古屋),[ポスター]
- 017 佐藤龍洋, 加藤毅人, 関戸好孝: Merlin を発現しない中皮腫において、FAK 阻害剤への抵抗性は E-cadherin 発現量と相関する. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(名古屋),[ポスター]
- 018 加藤毅人, 横井香平, 関戸好孝: Merlin 陰性悪性中皮腫において E-cadherin の発現は VS-4718 の耐性と相関する. 第59回日本肺癌学会学術集会,2017,(横浜),[口演]
- 019 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子異常とその特性. 中皮腫シンポジウム 悪性中皮腫の診断/治療の最前線,2018,(東京),[シンポジウム]
- 020 関戸好孝: 悪性中皮腫の遺伝子異常と細胞特性. 日本薬学会東海支部特別講演会,2018,(名古屋),[教育講演]

遺伝子医療研究部

- 001 **Matsuo K, Sawabe M** : Heterogeneous impact of smoking on major salivary gland cancer according to histopathological subtype. 14th Annual INHANCE Meeting,2017,(New York),[口演]
- 002 **Matsuo K** : Aldehyde-dehydrogenase 2 polymorphism and risk of cancer among Asian. Post-A3 Meeting 2017,2017,(沖縄),[口演]
- 003 **Oze I, Nagamatsu Y, Aoe K, Kato K, Hotta K, Nakagawa J, Hara K, Kishimoto T, Fujimoto N** : Evaluation of Quality of Life in survivors with malignant pleural mesothelioma in Japan. The 21st International Epidemiological Association (IEA), World Congress of Epidemiology

- (WCE2017),2017,(Sonic City)[ポスター]
- 004 **Oze I, Nagamatsu Y, Aoe K, Kato K, Hotta K, Nakagawa J, Hara K, Kishimoto T, Fujimoto N** : Evaluation of Quality of Life in survivors with malignant pleural mesothelioma in Japan. uropean Society of Medical Oncology (ESMO) 2017 Congress,2017,(IFEMA - Feria de Madrid)[ポスター]
- 005 **Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Motoki I, Yamaji T, Shimazu T, Sasazuki S, Inoue M, Kanda Y, Tsugane S** : Smoking is a significant risk factor for AML/MDS among Japanese population. .第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京)[口演]
- 006 **Sugita J, Miyamoto T, Nagafuji K, Kagaya Y, Machida S, Mara M, Miyazaki Y, Shibasaki Y, Matsuo K, Akashi K, Taniguchi S, Harada M, Teshima T** : Myeloablative HLA-haploidentical PBSCT using posttransplant cyclophosphamide. 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京)[口演]
- 007 **Yoshida I, Maeda Y, Nishimori H, Hiramatsu Y, Uno M, Masaki Y, Sunami K, Masunari T, Nawa Y, Yamane H, Gomyo H, Takahashi T, Yano T, Matsuo k, Ohshima K, Nakamura S, Yoshino T, Tanimoto M** : Phase II multi-center trial of dose-adjusted EPOCH therapy for untreated peripheral T-cell lymphoma. 第79回日本血液学会学術集会,2017,(東京)[口演]
- 008 **Masaoka H, Matsuo K, Eto M** : Aldehyde dehydrogenase2 (ALDH2) polymorphism modifies the effect of alcohol consumption on bladder cancer risk. 第69回西日本泌尿器科学会,2017,(大分)[口演]
- 009 **Ishiguro J, Ito H, Tsukamoto M, Iwata H, Nakagawa H, Matsuo K** : A functional single nucleotide polymorphisms in ABCC11, rs17822931, is associated with the risk of breast cancer in Japanese. 40th San Antonio Breast Cancer Symposium, Henry B. Gonzalez Convention Center,2017,(San Antonio)[ポスター]
- 010 澤部 倫, 川北大介, 長谷部泰久, 村上信五, 松尾恵太郎: 頭頸部癌における飲酒の治療法による影響の違い. 第41回頭頸部癌学会学術集会,2017,(京都)[口演]
- 011 伊藤秀美: がん登録資料を用いた高齢者の治療と生存率の分析. がん予防学術大会 2017,大阪,2017,(大坂)[口演]
- 012 尾瀬 功, 長松康子, 青江啓介, 加藤勝也, 堀田勝幸, 中川淳子, 原 桂子, 岸本卓己 藤本伸一: 悪性胸膜中皮腫患者のQOL 調査結果. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会,2017,(神戸)[口演]
- 013 鶴飼知嵩, 松尾恵太郎, 澤田典絵, 岩崎 基, 山地大樹, 島津太一, 笹月 静, 井上真奈美, 神田善伸, 津金昌一郎: 喫煙、飲酒と骨髄異形成症候群のリスク. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[口演]
- 014 伊藤秀美, 岩崎 基, 郡山千早, 谷山祐香里, 尾瀬 功, 井本逸勢, 大野ゆう子, 津金昌一郎, 岩田広治, 松尾恵太郎: 日本人女性における乳がん感受性遺伝子多型による乳がんリスク予測. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[口演]
- 015 谷山祐香里, 伊藤秀美, 岩崎 基, 郡山千早, 金昌一郎, 大野ゆう子, 松尾恵太郎: 日本人女性の乳がんリスク層別生涯累積罹患リスク推計. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[口演]
- 016 石黒淳子, 伊藤秀美, 塚本めぐみ, 岩田広治, 中川 大, 松尾恵太郎: 日本人における耳垢遺伝子 ABCC11 と乳癌発がんリスクとの関連. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[口演]
- 017 白石航也, 岡田随象, 桃沢幸秀, 國頭英夫, 清水公裕, 後藤明輝, 後藤功一, 松田文彦, 松尾恵太郎, 醍醐弥太郎, 久保充明, 河野隆志: 全ゲノム関連解析による EGFR 変異陽性肺腺がんに対する感受性遺伝子座の同定. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[シンポジウム]
- 018 井上修作, 伊藤秀美, 細野覚代, 水野美香, 加藤聖子, 松尾恵太郎: 日本の婦人科がん高齢患者の相対生存率. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 019 中川弘子, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 松尾恵太郎: ゲノムワイド関連解析を用いた日本人におけるコーヒー摂取行動遺伝子多型の同定: J-MICC Study. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 020 菱田朝陽, 藤井亮輔, 中柘昌弘, 川合紗世, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 玉井裕也, 鈴木貞夫, 栗山長門, 渡邊能行, 内藤真理子, 若井建志: SNP-set Kernel Association Tests (SKAT) により見出された TLR2 遺伝子とピロリ菌関連胃粘膜萎縮の関連. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 021 澤部 倫, 伊藤秀美, 高原大志, 尾瀬 功, 川北大介, 村上信五, 矢田部 恭, 松尾恵太郎: 唾液腺癌の病理組織型によって変化する喫煙のリスク. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 022 郡山千早, 伊藤秀美, 松尾恵太郎, 秋葉澄伯: 乳がんにおける喫煙習慣と SLC4A7 遺伝子多型の相互作用: 鹿児島における症例対照研究. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 023 松尾恵太郎, 鶴飼知嵩, 春日井由美子, 尾瀬 功, 伊藤秀美: ゲノム情報を用いたリスク予測に基づく乳がんの予防介入研究の試み. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[シンポジウム]
- 024 春日井由美子, 鶴飼知嵩, 伊藤秀美, 石黒淳子, 尾瀬 功, 井本逸勢, 岩田広治: 個別乳がん罹患リスクフィードバック介入による行動変容効果を検証する研究: 試験デザインと根拠. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 025 塚本めぐみ, 伊藤秀美, 中川 大, 松尾恵太郎: ABCC4 遺伝子上の非同義一塩基多型 (rs3765534, E757K) は乳がんリスクと関連する. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 026 松尾恵太郎: 生活習慣情報と遺伝子多型による乳がんリスク予測ツール. 平成29年度 医療・バイオ系シーズ発表会,2017,(名古屋)[口演]
- 027 尾瀬 功, 三谷誠一郎, 門脇憲法, 伊藤秀美, 田近正洋, 古平 毅, 植村則久, 安部哲也, 松尾恵太郎: 食道がん

- 罹患後の二次がん罹患に関連する生活習慣要因. 第28回日本疫学会学術総会,2017,(福島)[ポスター]
- 028 澤部 倫, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 長谷川泰久, 村上信吾, 松尾恵太郎: 局所進行頭頸部癌の予後 に対する Fluorouracil (FU) 併用導入化学療法と診断前葉酸摂取の交互作用の検討. 第28回日本疫学会学術総会,2017,(福島)[ポスター]
- 029 菊池宏幸, 尾瀬 功, 桑原恵介, 清原康介, 原 梓, 柿崎真沙子, 秋山有佳, 大西一成, 黒谷佳代, 長谷田真帆, 天笠志保: 若手疫学者におけるキャリア形成上の課題と解決策に関する探索的研究~WCE2017でのワークショップを通じて. 第28回日本疫学会学術総会,2017,(福島)[ポスター]
- 030 小柳友理子, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: ALDH2 遺伝子多型とがんリスク. 第88回日本衛生学会総会,2018,(東京)[口演]

腫瘍免疫学部

- 001 **Kuwahara K, Gondo N, Rezano A, Zhang Z, Hato Y, Kuzushima K, Iwata H, Toyama T, Kondo E**: Forced reduction of DSS1, a member of TREX2 complex, highly sensitizes chemotherapy to breast cancer cells in a BRCA2-independent manner. AACR Annual Meeting 2017, (Washington D.C., USA)[ポスター]
- 002 桑原一彦, 近藤英作: TREX2 complex as a molecular target to sensitize anti-cancer agents. 第106回日本病理学会総会,2017,(東京)[口演]
- 003 田中萌恵, 田坂杏美, 桑原一彦, 近藤英作: R-loop 発現の病理学的意義. 第106回日本病理学会総会,2017,(東京)[ポスター]
- 004 桑原一彦, 近藤英作: Forced reduction of TREX2 complex highly sensitizes chemotherapy to breast cancer cells. 第21回日本がん分子標的治療学会学術集会,2017,(福岡)[ポスター]
- 005 栗田菜花, 桑原一彦, 近藤英作: 生体内腫瘍における R-loop 形成亢進の特徴と意義. 第14回日本病理学会カンファレンス,2017,(愛知)[ポスター]
- 006 桑原一彦, 近藤英作: Depletion of TREX2 components, which is related to R-loop accumulation, sensitizes chemotherapy to breast cancer cells. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 007 赤塚美樹, 岡本晃直, 岡村文子, 楯屋良子, 稲熊容子, 白石圭子, 葛島清隆, 恵美宣彦: 再生不良性貧血発症に関わる抗原遺伝子同定の試み. 第9回血液疾患免疫療法会,2017,(東京)[ポスター]
- 008 森 舞子, 赤塚美樹, 伊藤佳織, 徳田倍将, 稲熊容子, 岡本晃直, 蟹江匡治, 柳田正光, 山本幸也, 富田章裕, 岡本昌隆, 山田成樹, 恵美宣彦: Rasburicase 投与後の抗体産生の頻度と抗体価の推移に関する研究. 第79回日本血液学会総会,2017,(東京)[ポスター]

- 009 安部明弘, 山本幸也, 岡本晃直, 徳田倍将, 稲熊容子, 柳田正光, 蟹江匡治, 富田章裕, 赤塚美樹, 岡本昌隆, 亀山俊樹, 前田 明, 恵美宣彦: 再発急性骨髄性白血病において微小転座から複数のスプライシング産物を認めた RUNX1-GRIK2 融合遺伝子. 第79回日本血液学会総会,2017,(東京)[ポスター]
- 010 鎧高健志, 丸山裕之, **Luis Espinoza, Nguyenthi Maianh**, 佐治博夫, 赤塚美樹, 中尾慎二: 再生不良性貧血患者の KIR リガンド欠失自己造血幹細胞に対する NK 細胞の寛容. 第79回日本血液学会総会,2017,(東京)[口演]
- 011 片岡圭亮, 三好寛明, 岡村文子, 坂田征士, 木暮泰寛, 土橋映仁, 佐藤康晴, 西田賢司, 白石友一, 田中洋子, 千葉健一, 綿谷陽作, 塩澤裕介, 吉田健一, 真田 昌, 加藤元博, 葛島清隆, 宮野 悟, 大田泰徳, 伊豆津宏二, 吉野 正, Olivier Hermine, 竹内賢吾, 赤塚美樹, 大島孝一, 小川誠司: Frequent somatic alterations involving programmed death ligands in EBV-related lymphomas. 第79回日本血液学会総会,2017,(東京)[口演]
- 012 小川 薫, 黒瀬 顕, 阿保亜紀子, 桑原一彦, 岩淵英人, 中澤温子: 小児頭蓋骨に発生した Hodgkin lymphoma. 第63回日本病理学会秋期特別総会,2017,(東京)[ポスター]

感染腫瘍学部

- 001 小根山千歳: Src がんシグナル制御とがん進展. 岐阜大学連合創薬医療情報研究科特別セミナー,2017,(岐阜)[特別講演]
- 002 小根山千歳: FOXA1/mTOR を標的とする microRNA と乳がんにおけるエストロゲン依存性. 第21回日本がん分子標的治療学会学術集会,2017,(九州)[ポスター]
- 003 栗原敦, 小根山千歳: c-Src によるエクソソームの制御. 第68回日本細胞生物学会大会,2017,(仙台)[ポスター]
- 004 疋田智也, 小根山千歳: c-Src を起点としたエクソソーム形成および内包化システムの解明. 第68回日本細胞生物学会大会,2017,(仙台)[口演]
- 005 小根山千歳: microRNA を介した c-Src 発現亢進とがん進展. 第26回日本がん転移学会学術集会・総会,2017,(大阪)[ポスター]
- 006 内藤陽子, 小根山千歳: FOXA1/mTOR を標的とする microRNA と乳がんのエストロゲン依存性. 第9回日本 RNAi 研究会・第4回日本細胞外小胞学会,2017,(広島)[口演]
- 007 疋田智也, 小根山千歳: Src によるエクソソーム形成促進機構の解明. 第9回日本 RNAi 研究会・第4回日本細胞外小胞学会,2017,(広島)[ポスター]
- 008 疋田智也, 小根山千歳: Alix を介した c-Src によるエクソソーム分泌の制御機構. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 009 栗原 敦, 疋田智也, 小根山千歳: Alix による c-Src の抑制を介した腫瘍抑制機構. 第76回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]

- 010 小根山千歳：Src シグナルによるエクソソーム形成制御とがん形質発現. *Conbio* 2017,(神戸)[招待講演]
- 011 小根山千歳：Src によるエクソソーム形成制御破綻とがん進展. 岡山大学医歯薬総合研究科特別セミナー,2018,(岡山)[特別講演]
- 012 小根山千歳：Src シグナルによるエクソソーム形成制御破綻とがん進展. 大阪大学蛋白質研究所セミナー,2018,(大阪)[特別講演]

分子病態学部

- 001 *Shimma S, Kojima Y, Aoki M, Takeo E, Soga T* : Metabolic imaging of colorectal tumors in mice and humans. 13th Annual Conference of the Metabolomics Society METABOLOMICS 2017,2017,(Brisbane,Australia)[ポスター]
- 002 青木正博, 藤下晃章：浸潤性腸がんの mTOR 阻害薬抵抗性獲得にはがん微小環境が関与する. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会,2017,(福岡)[ポスター]
- 003 青木正博, 小島 康, 曾我朋義：がん悪液質の代謝異常. 第 5 回がんと代謝研究会,2017,(札幌)[招待講演]
- 004 佐藤清敏, 谷内田真一, 杉本昌弘, 田畑祥, 梶野リエ, 小島 康, 平山明由, 青木正博, 曾我朋義：大腸がん代謝のマルチオミックス解析. 第 5 回がんと代謝研究会,2017,(札幌)[ポスター]
- 005 青木正博：新規大腸がん転移抑制因子 HNRNPLL は上皮間葉転換において CD44 の選択的スプライシングを制御する. 第 26 回日本がん転移学会学術集会,2017,(大阪)[ワークショップ]
- 006 藤下晃章：がん微小環境は浸潤性大腸がんに mTOR 阻害薬抵抗性をもたらす. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017,2017,(京都)[口演]
- 007 青木正博：shRNA ライブラリースクリーニングによる新規大腸がん転移抑制因子の同定. 新学術領域研究 学術研究支援基盤形成先端モデル動物支援プラットフォーム 若手支援技術講習会,2017,(蓼科)[教育講演]
- 008 青木正博, 小島 康, 曾我朋義：がん悪液質マウスモデルにおける全身的代謝異常. 第 76 回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[シンポジウム]
- 009 藤下晃章, 津田都子, 小島 康, 武藤 誠, 青木正博：腸管腫瘍の薬剤抵抗性獲得における EGF 受容体の役割. 第 76 回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 010 津田都子, 藤下晃章, 小島 康, 武藤 誠, 青木正博：エルロチニブとトラメチニブの併用投与は cis-APC/Smad4 マウスの腸管腺がん形成を抑制する. 第 76 回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 011 梶野リエ, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博：Apc+/ Δ 716 マウスの腸管腫瘍形成において腸上皮細胞の MyD88 が果たす役割の解析. 第 76 回日本癌学会学術総会,2017,(横浜)[ポスター]
- 012 小島 康, 曾我朋義, 武藤 誠, 青木正博：新規がん悪

液質モデルマウスの表現型解析. 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017,(横浜)[ポスター]

- 013 向井智美, 松下明弘, 佐藤龍洋, 藤下晃章, 青木正博, 関戸好孝：転写共役因子 TAZ は、IL-1 β の転写活性を介して悪性中皮腫の進展を促進する. 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017,(横浜)[ポスター]
- 014 佐久間圭一郎, 青木正博：HNRNPLL は大腸がん細胞の EMT と MET における形質変化に関与する. 第 76 回日本癌学会学術総会, 2017,(横浜)[ポスター]
- 015 青木正博：Apc 変異マウスの腫瘍形成における腸管上皮細胞 MyD88 の役割の解析. *Conbio*2017, 2017,(神戸)[ポスター]

腫瘍医化学部

- 001 *Inoko A, Kiyono T, Inagaki M, Hayashi Y* : Albatross/FBF1 integrates centrosome dynamics. ASCB|EMBO 2017 meeting,2017,(Philadelphia), [ポスター]
- 002 *Kano H, Akiyama T, Inoko A, Kobayashi T, Leproux P, Couderc V, Kaji Y, Oshika T* : CARS molecular fingerprinting using a sub-nanosecond supercontinuum light source. SPIE BIOS,2018, (San Francisco)[招待講演]
- 003 猪子誠人, 加納英明：非標識イメージング技術のインパクトをあげる分子生物学の利活用. 第 69 回日本細胞生物学会大会,2017,(仙台), [シンポジウム口演・ポスター]

4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（総長）

総長

- 001 *Misawa K, Ito S, Ito Y, Shigeyoshi I, Komori K, Shimizu Y, Kinoshita T*: Reduced-port gastrectomy for gastric cancer with similar port arrangement to conventional five-port laparoscopic gastrectomy. *Annals of Laparoscopic and Endoscopic Surgery*,2:73,2017.

5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

病院長

[その他誌上への発表]

- 001 *Nakanishi H, Doyama H, Ishikawa H, Uedo N, Gotoda T, Kato M, Nagao S, Nagami Y, Aoyagi H, Imagawa A, Kodaira J, Mitsui S, Kobayashi N, Muto M, Takatori H, Abe T, Tsujii M, Watari J, Ishiyama S, Oda I, Ono H, Kaneko K, Yokoi C, Ueo T, Uchita K, Matsumoto K, Kanesaka T, Morita Y, Katsuki S, Nishikawa J, Inamura K, Kinjo T, Yamamoto K, Yoshimura D, Araki H, Kashida H, Hosokawa A, Mori H, Yamashita H, Motohashi O, Kobayashi K, Hirayama M, Kobayashi H, Endo M, Yamano H, Murakami K, Koike T, Hirasawa K, Miyaoka Y, Hamamoto H, Hikichi T, Hanabata N, Shimoda R, Hori S, Sato T, Kodashima S, Okada H, Mannami T, Yamamoto S, Niwa Y, Yashima K, Tanabe S, Satoh H, Sasaki F, Yamazato T, Ikeda Y, Nishisaki H, Nakagawa M, Matsuda A, Tamura F, Nishiyama H, Arita K, Kawasaki K, Hoppo K, Oka M, Ishihara S, Mukasa M, Minamino H, Yao K* : Evaluation of an e-learning system for diagnosis of gastric lesions using magnifying narrow-band imaging : a multicenter randomized controlled study. *Endoscopy*,49(10):957-967,2017.
- 002 *Nishikawa K, Yamada Y, Ishido K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I* : Impact of progression type on overall survival in patients with advanced gastric cancer based on randomized phase III study of S-1 plus oxaliplatin versus S-1 plus cisplatin. *Gastric Cancer*,20(4):640-645,2017.

消化器内科部

- 001 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Yamao K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y* : Optimal intake of clear liquids during preparation for afternoon colonoscopy with low-volume polyethylene glycol plus ascorbic acid. *Endosc Int Open*,5(6):E416-e423,2017.
- 002 *Morita S, Hara K, Suda T, Hijioka S, Okuno N, Kobayashi M, Terai S* : The use of clip anchoring to ensure safe transgastric puncture during endoscopic ultrasound-guided transmural drainage. *Endoscopy*,49(7): E186-E187.,2017.
- 003 *Fujita A, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Hirayama T, Shibuya H, Kondo H, Suzuki H, Toriyama K, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : A case of API2-MALT1-positive gastric MALT lymphoma with

concomitant diffuse large B-cell lymphoma. *Nagoya J Med Sci*,79(2): 251-527,2017.

- 004 *Ueno M, Li CP, Ikeda M, Ishii H, Mizuno N, Yamaguchi T, Ioka T, Oh DY, Ichikawa W, Okusaka T, Matsuyama Y, Arai D, Chen LT, Park YS, Furuse J* : A randomized phase II study of gemcitabine plus Z-360, a CCK2 receptor-selective antagonist, in patients with metastatic pancreatic cancer as compared with gemcitabine plus placebo. *Cancer Chemother Pharmacol*,80(2):307-315,2017.
- 005 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Fujita A, Niwa Y* : Advanced technique for the treatment of chronic calculous pancreatitis using endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage. *Endoscopy*,49(8): E197-e199,2017.
- 006 *Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Okusaka T, Yanagimoto H, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Maguchi H, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Kawaguchi Y, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Yoshida T, Hara K, Imamura M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N* : Rb Loss and KRAS Mutation Are Predictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3 : A Japanese Multicenter Pancreatic NEN-G3 Study. *Clin Cancer Res*,23(6):4625-4632,2017.
- 007 *Bhanthumkomol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K* : Uptake of (123)I-metaiodobenzylguanidine by gastrointestinal stromal tumor. *Clin J Gastroenterol*,10(4):364-370,2017.
- 008 *Bhanthumkomol P, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Yoshida T, Tokuhisa J, Siramolpiwat S, Vilaichone RK, Pornthisarn B, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Yamao K* : Feasibility of the unilateral-flange stent for the treatment of benign pancreatic duct stricture: a pilot study. *Nagoya J Med Sci*,79(4):453-458,2017.
- 009 *Fujiyoshi T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yatabe Y, Hirooka Y, Goto H, Yamao K, Niwa Y* : Comparative evaluation of new and conventional classifications of magnifying endoscopy with narrow band imaging for invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma. *Dis Esophagus*,30(11)1-8,2017.
- 010 *Hirayama Y, Masahiro T, Tanaka T, Ishihara M, Ohnishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Abe T, Uemura N, Kawakami J, Kurahashi S, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y* : Slow-growing amelanotic malignant melanoma

- of the esophagus with long survival: a case report and review of the literature. *Endosc Int Open*,5(11): E1076-E1080,2017.
- 011 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Yamao K** : Endoscopic Ultrasound-guided Rendezvous Technique after Failed Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography : Which Approach Route is the Best? *Internal Medicine*,56(23): 3135-3143,2017.
- 012 **Kuwahara T, Hirooka Y, Kawashima H, Ohno E, Yokoyama Y, Fujii T, Nakamura S, Kodera Y, Nagino M, Goto H** : Usefulness of endoscopic ultrasonography-elastography as a predictive tool for the occurrence of pancreatic fistula after pancreatoduodenectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*,24(12):649-656,2017.
- 013 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Kuwahara T, Iwaya H, Ito A, Kuraoka N, Matsumoto S, Polmanee P, Niwa Y** : Efficacy of the 6-mm fully covered self-expandable metal stent during endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrotomy as a primary biliary drainage for the cases estimated difficult endoscopic retrograde cholangiopancreatography: A prospective clinical study. *J Gastroenterol Hepatol*,2018.
- 014 **Fujita A, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Kuwahara T, Okuno N, Shimizu Y, Senda Y, Natsume S, Niwa Y** : Utility of convex EUS for preoperative vascular evaluation of malignant biliary tract neoplasm. *Mol Clin Oncol*,8(3): 407-412,2018.
- 015 **Kuwahara T, Hirooka Y, Kawashima H, Ohno E, Ishikawa T, Yamamura T, Furukawa K, Funasaka K, Nakamura M, Miyahara R, Watanabe O, Ishigami M, Hashimoto S, Goto H** : Usefulness of shear wave elastography as a quantitative diagnosis of chronic pancreatitis. *J Gastroenterol Hepatol*,33(3):756-761,2018.
- 016 **Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K** : **Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K** : *Intern Med, internalmedicine.* 0516-17,2018.
- 017 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋博道, 伊東文字, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生 : 【今 IPMN をどう診るか】サーベイランスをめぐる諸問題 膵液細胞診・EUS-FNA の適応、有用性 (解説 / 特集). *肝・胆・膵*,74(4):587-595,2017.
- 018 川嶋啓揮, 原 和生 : 肝門部胆管狭窄の鑑別診断の実際 良悪性の鑑別を第一義に診断にあたる 生検を経て、確診に至る (Q&A). *日本医事新報*, (4853)56-57,2017.
- 019 原 和生, 河上 洋 : 胆嚢、胆管病変の EUS-FNA について 原発巣の穿刺時は、腫瘍内または壁内のみを穿刺し播種のリスクを最小限に減らす (Q&A). *日本医事新報*, (4850):60-61,2017.
- 020 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生 : 【肝胆膵外科診療の最前線】進行膵癌に対する術前化学 (放射線) 療法とその意義 (解説 / 特集). *消化器外科*,40(6):933-939,2017.
- 021 脇岡 範, 渋谷 仁, 奥野のぞみ, 水野伸匡, 原 和生 : 膵癌・胆道癌 診断・治療 Q&A pNET に対するストレプトゾシンの使い方について教えてください (Q&A). *膵・胆道癌 Frontier*,6(2):93-97,2017.
- 022 原 和生 : 超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術. *新世代の膵癌 診療・治療 バイブル*, 312-316,2017.
- 023 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原和生 : 【胆膵 EUS の進歩】EUS-FNA による診断 膵診断 (解説 / 特集). *臨床消化器内科*, 32(8):1099-1108,2017.
- 024 原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 脇岡 範, 水野伸匡 : 【消化器内視鏡-私の流儀】Interventional EUS 成功への道 (解説 / 特集). *消化器内視鏡*,29(6):1123-1125,2017.
- 025 原 和生 : 内視鏡医が求める ERCP 検査室 C アーム X 線システム導入施設の取り組み 理想的な ERCP 検査室を考える (解説). *Rad Fan*,15(9):2-5,2017.
- 026 脇岡 範 : PNET 診断の最前線. *GI Rare Cancer Up-To-Date*,2017.
- 027 伊東文字, 脇岡 範 : 【実地診療で遭遇する胆膵疾患 基本病態のアップデートと新しい疾患概念の理解】実地医家が知っておくべき治療のポイント 膵内分泌腫瘍の診断・治療方針 (解説 / 特集). *Medical Practice*,34(7):1179-1183,2017.
- 028 脇岡 範, 原 和生 : 【神経内分泌腫瘍 UPDATE】診断 膵神経内分泌腫瘍に対する EUS-FNA (解説 / 特集). *医学のあゆみ*,262(7-8):709-714,2017.
- 029 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生 : 【膵癌治療の最前線 - 諸問題の解決にむけた取り組み -】切除不能膵癌に対する FOLFIRINOX 療法とゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法の現状 Conversion rate と治療成績 (解説 / 特集). *胆と膵*,38(8):767-770,2017.
- 030 原 和生, 奥野のぞみ, 桑原崇通 : 【胆膵内視鏡診療における新たな展開】共焦点レーザー内視鏡を用いた胆膵病変の診断 (解説 / 特集). *日本消化器病学会雑誌*,114(8):1415-1422,2017.
- 031 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原 和生 : 【内視鏡データリファレンスブック 2017】胆道・膵臓 膵神経内分泌腫瘍 (解説 / 特集). *消化器内視鏡*,29(8):1617-1621,2017.
- 032 岩屋博道, 水野伸匡 : 胆嚢神経内分泌癌 (小細胞癌) に対して CBDCA/VP-16 が奏効した 1 例. *消化器神経内分泌腫瘍 薬物療法のケースファイリング*,1(1):113-119,2017.
- 033 原 和生 : Interventional EUS の実際とコツ. *日本消化器病学会セミナー冊子*,2017.
- 034 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 桑原崇通, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏

- 樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 栗田裕介, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和弘, 丹羽康正: 【胆膵 EUS を極める - 私ならこうする (There is always a better way)-】治療 EUS ガイド下肝外胆管ドレナージ (EUS-guided choledochoduodenostomy:EUS-CDS) 私はこうする (解説 / 特集). 胆と膵,38(特大)1043-1046,2017.
- 035 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 桑原崇通, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 栗田裕介, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和弘, 丹羽康正: 【胆膵 EUS を極める - 私ならこうする (There is always a better way)-】治療 EUS ガイド下膵管ドレナージ 私はこうする (解説 / 特集). 胆と膵,38(特大):1085-1090,2017.
- 036 田中宏樹, 脇岡 範, 原 和生: 【消化器領域の神経内分泌腫瘍】消化器領域における神経内分泌腫瘍患者への対応膵神経内分泌腫瘍への治療方針は?(解説 / 特集). 臨床腫瘍ブракテイス,13(4):283-290,2017.
- 037 栗田裕介, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和弘, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正, 原和生: 【膵神経内分泌腫瘍診療の最前線】切除不能低分化型膵神経内分泌癌 (panNEC-G3) の特徴と薬物療法 (解説 / 特集). 胆と膵,38(12):1403-1411,2017.
- 038 桑原崇通, 石川卓哉: 膵疾患に対するエラストグラフィーの有用性と最近の進歩 膵腫瘍の良悪性診断に有用. 慢性膵炎診断でも力を発揮. 弾性に加え粘性の評価も可能に (Q&A). 日本医事新報, (4896):51,2018.
- 039 小畑雅寛, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 岩屋博道, 原 和生: 【高齢者がん医療の現状と課題】高齢者がん 臓器別 高齢者肝臓がん, 膵がん (解説 / 特集). 腫瘍内科,21(2):184-191,2018.
- ylene glycol plus ascorbic acid. *Endosc Int Open*,5(6):E416-E423,2017.
- 004 *Mitani S, Kadowaki S, Komori A, Sugiyama K, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Sato Y, Yamaura H, Inaba Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Muro K*: Acute hyperammonemic encephalopathy after fluoropyrimidine-based chemotherapy:A case series and review of the literature. *Medicine (Baltimore)*,96(22): e6874,2017.
- 005 *Narita Y, Kadowaki S, Masuishi T, Taniguchi H, Takahari D, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Eto T, Hara H, Asayama M, Yamaguchi K, Yatabe Y, Muro K*: Correlation between human epidermal growth factor receptor 2 expression level and efficacy of trastuzumab beyond progression in metastatic gastric cancer. *Oncol Lett*,14(2):2545-2551,2017.
- 006 *Iizumi S, Takashima A, Narita Y, Tajika M, Muro K, Kawai S, Yasui H, Matsushima T, Takahari D, Nagashima K, Boku N*: Efficacy and safety of taxane monotherapy in advanced gastric cancer refractory to triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1:a multicenter retrospective study. *Cancer Chemother Pharmacol*,80(3):575-582,2017.
- 007 *Fujita A, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Hirayama T, Shibuya H, Kondo H, Suzuki H, Toriyama K, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y*: A case of API2-MALT1-positive gastric MALT lymphoma with concomitant diffuse large B-cell lymphoma. *Nagoya J Med Sci.*,79(2):251-527,2017.
- 008 *Bhanthumkomol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K*: Uptake of 123I-metaiodobenzylguanidine by gastrointestinal stromal tumor. *Clin J Gastroenterol*,10(4):364-370,2017.
- 009 *Kadowaki S, Masuishi T, Eto T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Yatabe Y, Muro K*: Depth of response predicts the clinical outcome of advanced HER2-positive gastric cancer to trastuzumab-based first-line chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol*,80(4):807-813,2017.
- 010 *Komori A, Taniguchi H, Hamauchi S, Masuishi T, Kito Y, Narita Y, Tsushima T, Ishihara M, Todaka A, Tanaka T, Yokota T, Kadowaki S, Machida N, Ura T, Fukutomi A, Ando M, Onozawa Y, Tajika M, Yasui H, Muro K, Mori K, Yamazaki K*: Serum CA19-9 Response Is an Early Predictive Marker of Efficacy of Regorafenib in Refractory Metastatic Colorectal Cancer. *Oncology*,93(5):329-335,2017.
- 011 *Ito M, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Koide Y, Kato D, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Hasegawa Y*: Clinical results of definitive chemoradiotherapy for cervical esophageal cancer: Comparison of failure pattern and toxicities between intensity-modulated radiother-

内視鏡部

- 001 *Koide Y, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Itoh M, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Itoh Y, Naganawa S*: Clinical outcome of definitive radiation therapy for superficial esophageal cancer. *Jpn J Clin Oncol*,47(5):393-400,2017.
- 002 *Maeda A, Ando H, Ura T, Komori A, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Kobara M, Matsuzaki M, Hashimoto N, Maeda M, Kojima Y, Aoki M, Kondo E, Mizutani A, Fujimura A*: Association between ABCG2 and SLCO1B1 polymorphisms and adverse drug reactions to regorafenib: a preliminary study. *Int J Clin Pharmacol Ther*,55(5):409-415,2017.
- 003 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Yamao K, Bhatia V, Ando M, Niwa Y*: Optimal intake of clear liquids during preparation for afternoon colonoscopy with low-volume polyeth-

- apy and 3-dimensional conformal radiotherapy. *Head Neck*,39(12):2406-2415,2017.
- 012 **Bhanthumkol P, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Yoshida T, Tokuhisa J, Siramolpiwat S, Vilaichone RK, Pornthisarn B, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Yamao K** : Feasibility of the unilateral-flange stent for the treatment of benign pancreatic duct stricture: a pilot study. *Nagoya J Med Sci*,79(4):453-458,2017.
- 013 **Fujiyoshi T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yatabe Y, Hirooka Y, Goto H, Yamao K, Niwa Y** : Comparative evaluation of new and conventional classifications of magnifying endoscopy with narrow band imaging for invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma. *Dis Esophagus*,30(11):1-8,2017.
- 014 **Hirayama Y, Masahiro T, Tanaka T, Ishihara M, Ohnishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Abe T, Uemura N, Kawakami J, Kurahashi S, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y** : Slow-growing amelanotic malignant melanoma of the esophagus with long survival: a case report and review of the literature. *Endosc Int Open*,5(11):E1076-E1080,2017.
- 015 **Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Yamao K** : Endoscopic Ultrasound-guided Rendezvous Technique after Failed Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography:Which Approach Route Is the Best?Intern Med,56(23):3135-3143,2017.
- 016 **Narita Y, Kadowaki S, Oze I, Kito Y, Kawakami T, Machida N, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yasui H, Muro K** : Establishment and validation of prognostic nomograms in first-line metastatic gastric cancer patients. *J Gastrointest Oncol*,9(1):52-63,2018.
- 017 **Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K** : A Rare Case of Ampullary Goblet Cell Carcinoid. *Intern Med, internal medicine*. 0516-17,2018.
- 018 脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生 : 【今 IPMN をどう診るか】サーベイランスをめぐる諸問題 膵液細胞診・EUS-FNA の適応、有用性 (解説 / 特集). *肝・胆・膵*,74(4):587-595,2017.
- 019 岩屋博道, 脇岡 範, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 原和生 : 胆膵 EUS の進歩】EUS-FNA による診断 膵診断 (解説 / 特集). *臨床消化器内科* ,32(8):1099-1108,2017.
- 020 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 桑原崇通, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 栗田裕介, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和弘, 丹羽康正 : 【胆膵 EUS を極める - 私ならこうする (There is always a better way)-】治療 EUS ガイド下肝外胆管ドレナージ (EUS-guided choledochoduodenostomy:EUS-CDS) 私はこうする (解説 / 特集). *胆と膵* ,38(特大)1043-1046,2017.
- 021 原 和生, 奥野のぞみ, 脇岡 範, 桑原崇通, 水野伸匡, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 栗田裕介, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和弘, 丹羽康正 : 【胆膵 EUS を極める - 私ならこうする (There is always a better way)-】治療 EUS ガイド下膵管ドレナージ 私はこうする (解説 / 特集). *胆と膵* ,38(特大):1085-1090,2017.
- 022 栗田裕介, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和浩, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正, 原和生 : 【膵神経内分泌腫瘍診療の最前線】切除不能低分化型膵神経内分泌癌 (panNEC-G3) の特徴と薬物療法 (解説 / 特集). *胆と膵* ,38(12):1403-1411,2017.
- 023 田近正洋, 中村常哉 : 悪性リンパ腫の肉眼分類 (MALT を除く). *内視鏡診断のプロセスと疾患別内視鏡像 上部消化管* ,398-401,2018.

呼吸器内科部

[原著]

- 001 **Hida T, Nishio M, Nogami N, Ohe Y, Nokihara H, Sakai H, Satouchi M, Nakagawa K, Takenoyama M, Isobe H, Fujita S, Tanaka H, Minato K, Takahashi T, Maemondo M, Takeda K, Saka H, Goto K, Atagi S, Hirashima T, Sumiyoshi N, Tamura T** : Efficacy and safety of nivolumab in Japanese patients with advanced or recurrent squamous non-small cell lung cancer. *Cancer Sci*. 108(5):1000-1006,2017.
- 002 **Tamura T, Kiura K, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Murakami H, Kuriki H, Shimada T, Tanaka T, Takeuchi K, Nishio M** : Three-year Follow-up of an Alectinib Phase 1/2 study in ALK- positive Non-Small-Cell Lung Cancer: AF-001JP. *J Clin Oncol*. 35(14):1515-1521, 2017.
- 003 **Tanaka K, Hida T, Oya Y, Yoshida T, Shimizu J, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Yoshimura K, Horio Y, Sakao Y, Yatabe Y** : Unique prevalence of oncogenic genetic alterations in young patients with lung adenocarcinoma. *Cancer*. 123(10):1731-1740, 2017.
- 004 **Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Clinical Efficacy of Alectinib in Patients with ALK-Rearranged Non-small Cell Lung Cancer After Ceritinib Failure. *Anticancer Res*. 37:6477-6480,2017.
- 005 **Yoshida T, Kuroda H, Oya Y, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Clinical outcomes of platinum-based

- chemotherapy according to T790M mutation status in EGFR-positive non-small cell lung cancer patients after initial EGFR-TKI failure. *Lung Cancer*. 109:89-91,2017.
- 006 **Hida T, Satouchi M, Nakagawa K, Seto T, Matsumoto S, Kiura K, Nokihara H, Murakami H, Tokushige K, Hatanano B, Nishio M** : Ceritinib in patients with advanced, crizotinib-treated, anaplastic lymphoma kinase-rearranged NSCLC: Japanese subset. *Jpn J Clin Oncol*. 28:1-7,2017.
- 007 **Hida T, Nokihara H, Kondo M, Kim YH, Azuma K, Seto T, Takiguchi Y, Nishio M, Yoshioka H, Imamura F, Hotta K, Watanabe S, Goto K, Satouchi M, Kozuki T, Nakagawa K, Mitsudomi T, Yamamoto N, Asakawa T, Asabe R, Tanaka T, Tamura T** : Randomised phase 3 trial of alectinib versus crizotinib in patients with ALK-positive non-small-cell lung cancer. *Lancet*. 390:29-39,2017.
- 008 **Furuta H, Yoshida T, Shimizu J, Tomita N, Yatabe Y, Hida T** : Nivolumab Enhances the Inflammation of the Irradiation Field in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer. *J Thorac Oncol*,12(11): 1733-1736,2017.
- 009 **Blackhall F, Ross Camidge D, Shaw AT, Soria JC, Solomon BJ, Mok T, Hirsh V, Janne PA, Shi Y, Yang PC, Pas T, Hida T, Carpeno JC, Lanzalone S, Polli A, Iyer S, Reisman A, Wilner KD, Kim DW** : Final results of the large-scale multinational trial PROFILE 1005: efficacy and safety of crizotinib in previously treated patients with advanced/metastatic ALK-positive non-small-cell lung cancer. *ESMO Open*. 17:2(3):e000219,2017.
- 010 **Kubota K, Yoshioka H, Oshita F, Hida T, Yoh K, Hayashi H, Kato T, Kaneda H, Yamada K, Tanaka H, Ichinose Y, Park K, Cho EK, Lee KH, Lin CB, Yang JC, Hara K, Asato T, Nakagawa K** : A Phase III, Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Trial of Motesanib (AMG-706) in Combination with Paclitaxel and Carboplatin for East Asian Patients with Advanced Non-Squamous Non-Small Cell Lung Cancer. *J Clin Oncol*. 35:3662-3670,2017.
- 011 **Yamaguchi T, Sakurai K, Kuroda H, Imaizumi K, Hida T** : Different Response to Nivolumab in a Patient with Synchronous Double Primary Carcinomas of Hypopharyngeal Cancer and Non-Small-Cell Lung Cancer. *Case Rep Oncol*. 10:802-808,2017.
- 012 **Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Mikubo M, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Predictive clinical parameters for the response of nivolumab in pretreated advanced non-small-cell lung cancer. *Oncotarget*. 8:103117-103128,2017.
- 013 **Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Mikubo M, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Association Between EGFR T790M Status and Progression Patterns During Initial EGFR-TKI Treatment in Patients Harboring EGFR Mutation. *Clin Lung Cancer*. 18: 698-705,2017.
- 014 **Uemura T, Hida T** : Alectinib can replace crizotinib as standard first-line therapy for ALK-positive lung cancer. *Ann Transl Med*. 5:433,2017.
- 015 **Hida T, Kaji R, Satouchi M, Ikeda N, Horiike A, Nokihara H, Seto T, Kawakami T, Nakagawa S, Kubo T** : Atezolizumab in Japanese Patients With Previously Treated Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer: A Subgroup Analysis of the Phase 3 OAK Study. *Clin Lung Cancer*. 19(4):e405-415,2018.
- [総説、その他]
- 001 **樋田豊明** : 呼吸がん検査. 生体ガス計測と高感度ガスセンシング, 63-67,2017.
- 002 **堀尾芳嗣** : 非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害剤の臨床開発. がん免疫療法 - What's now and what's next? - 遺伝子医学 MOOK 31号 :75-83,2017.
- 003 **清水淳市, 樋田豊明** : 【免疫チェックポイント阻害剤 from A to Z】抗 PD-L1 抗体のすべて (解説/特集). 呼吸器内科, 32(6):548-555,2017.
- 004 **清水淳市** : 【免疫チェックポイント療法と病理】免疫関連有害事象の病理 (解説/特集). 病理と臨床, 36(1):62-65,2018.
- 005 **荒川総介, 中尾心人, 香川友祐, 黒川良太, 友岡 健, 酒井祐輔, 鈴木悠斗, 藤田浩平, 佐藤英文, 村松秀樹** : 当院にて局所麻酔下胸腔鏡を施行した結核性胸膜炎の検討. 気管支学, 39(5):463-464,2017.
- 006 **中尾心人, 村松秀樹, 鈴木悠斗, 酒井祐輔, 香川友祐, 黒川良太, 伊藤直之, 諸戸昭代, 藤本佐希子, 佐藤英文** : 市中病院における T-スポット (R) TB とクオンティフェロンの偽陰性率の比較. 日本呼吸器学誌, 6(3):115-121,2017.
- 007 **里内美弥子, 西尾誠人, 樋田豊明, 中川和彦** : ALK 陽性肺癌におけるセリチニブの臨床成績と副作用マネジメント. 癌と化学療法, 45(2):257-264,2018.
- 008 **古田裕美, 吉田達哉, 樋田豊明** : 原発性胸壁悪性腫瘍. 呼吸器内科, 33(3):262,2018.
- 血液・細胞療法部
- 001 **Kagami Y, Uchiyama S, Kato H, Okada Y, Seto M, Kinoshita T** : Establishment of cell lines from adult T-cell leukemia cells dependent on negatively charged polymers. *J Clin Exp Hematop*. 57:9-14,2017.
- 002 **Tojo A, Kyo T, Yamamoto K, Nakamae H, Takahashi N, Kobayashi Y, Tauchi T, Okamoto S, Miyamura K, Hatake K, Iwasaki H, Matsumura I, Usui N, Naoe T, Tugait M, Narasimhan NI, Lustgarten S, Farin H, Haluska F, Ohya-shiki K** : Ponatinib in Japanese patients with Philadelphia chromosome-positive leukemia, a phase 1/2 study. *Int J Hematol*, 106:385-397,2017.

- 003 **Ishida T, Utsunomiya A, Jo T, Yamamoto K, Kato K, Yoshida S, Takemoto S, Suzushima H, Kobayashi Y, Imaizumi Y, Yoshimura K, Kawamura K, Takahashi T, Tobinai K, Ueda R**: Mogamulizumab for relapsed adult T-cell leukemia-lymphoma: Updated follow-up analysis of phase I and II studies. *Cancer Sci*, 108:2022-2029,2017.
- 004 **Yuda J, Miyamoto T, Odawara J, Ohkawa Y, Semba Y, Hayashi M, Miyamura K, Tanimoto M, Yamamoto K, Taniwaki M, Akashi K**: Persistent detection of alternatively spliced BCR-ABL variant results in a failure to achieve deep molecular response. *Cancer Sci*, 108:2204-2212,2017.
- 005 **Shirahata-Adachi M, Iriyama C, Tomita A, Suzuki Y, Shimada K, Kiyoi H**: Altered EZH2 splicing and expression is associated with impaired histone H3 lysine 27 tri-Methylation in myelodysplastic syndrome. *Leuk Res*, 63:90-97,2017.
- 006 **Kato H, Yamamoto K, Kodaira T, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T**: Immunophenotypic analysis of adult patients with T-cell lymphoblastic lymphoma treated with hyper-CVAD. *Hematology*, 23:83-88,2018.
- 007 **Ishida T, Jo T, Takemoto S, Suzushima H, Suehiro Y, Choi I, Yoshimitsu M, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Kobayashi Y, Yamamoto K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Imada K, Kato K, Moriuchi Y, Yoshimura K, Takahashi T, Tobinai K, Ueda R**: Follow-up of a randomised phase II study of chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma: impact on allogeneic haematopoietic stem cell transplantation. *Br J Haematol*, doi: 10.1111/bjh.15123. [Epub ahead of print] PMID: 29411857, 2018
- 008 **Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K, Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K**: Bortezomib plus dexamethasone versus thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma. *Cancer Sci*, doi: 10.1111/cas.13550. [Epub ahead of print] PMID:29478257,2018.
- 009 入山智沙子, 山本一仁: 【特集 悪性リンパ腫に関する診療と研究の現在の到達点と今後の課題】 悪性リンパ腫に対する自家造血幹細胞移植併用大量化学療法の現在の到達点と今後の課題. *血液内科*, 74:527-536,2017.
- 010 山本一仁: 【特集 リンパ系腫瘍に対する重要な臨床試験の今後の診療と研究に及ぼすインパクト】 未治療びまん性大細胞型リンパ腫に対する Rituximab-CHOP 療法と Obinutuzumab-CHOP 療法の第 III 相試験 (GOYA 試験). *血液内科*, 75:18-21,2017.
- 011 山本一仁: 【特集: 悪性リンパ腫の新規標的治療薬】 Polatuzumab vedotin (CD79b ADC). *血液フロンティア*, 28:63-68,2018.
- 薬物療法部
- 001 **Mitani S, Muro K**: No benefit from ramucirumab in first-line chemotherapy? *Transl Gastroenterol Hepatol*, 21:2:30,2017
- 002 **Kudo T, Hamamoto Y, Kato K, Ura T, Kojima T, Tsushima T, Hironaka S, Hara H, Satoh T, Iwasa S, Muro K, Yasui H, Minashi K, Yamaguchi K, Ohtsu A, Doki Y, Kitagawa Y**: Nivolumab treatment for oesophageal squamous-cell carcinoma: an open-label, multicentre, phase 2 trial. *Lancet Oncol*, 18(5):631-639,2017.
- 003 **Koide Y, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Itoh M, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Itoh Y, Naganawa S**: Clinical outcome of definitive radiation therapy for superficial esophageal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 47(5),2017.
- 004 **Maeda A, Ando H, Ura T, Komori A, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Kobara M, Matsuzaki M, Hashimoto N, Maeda M, Kojima Y, Aoki M, Kondo E, Mizutani A, Fujimura A**: Association between ABCG2 and SLC01B1 polymorphisms and adverse drug reactions to regorafenib: a preliminary study. *Int J Clin Pharmacol Ther*, 55(5): 409-15,2017.
- 005 **Taniguchi H, Iwasa S, Yamazaki K, Yoshino T, Kiryu C, Naka Y, Liew EL, Sakata Y**: Phase 1 study of OCV-C02, a peptide vaccine consisting of two peptide epitopes for refractory metastatic colorectal cancer. *Cancer Sci*, 108(5):1013-1021,2017.
- 006 **Narita Y, Kadowaki S, Masuishi T, Taniguchi H, Takahari D, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Eto T, Hara H, Asayama M, Yamaguchi K, Yatabe Y, Muro K**: Correlation between human epidermal growth factor receptor 2 expression level and efficacy of trastuzumab beyond progression in metastatic gastric cancer. *Oncol Lett*, 14(2): 2545-2551,2017.
- 007 **Mitani S, Kadowaki S, Komori A, Sugiyama K, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Sato Y, Yamaura H, Inaba Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Muro K**: Acute hyperammonemic encephalopathy after fluoropyrimidine-based chemotherapy: A case series and review of the literature. *Medicine (Baltimore)*, 96(22):e6874,2017.
- 008 **Nomura M, Kato K, Ando N, Ohtsu A, Muro K, Igaki H, Abe T, Takeuchi H, Daiko H, Gotoh M, Kataoka K, Wakabayashi M, Kitagawa Y**: Comparison between neoadjuvant chemotherapy followed by surgery and definitive chemoradiotherapy for overall survival in patients with clinical Stage II/III esophageal squamous cell carcinoma (JCOG1406-A). *Jpn J Clin Oncol* 47(6):480-486,2017.
- 009 **Fuchs CS, Muro K, Tomasek J, Van Cutsem E, Cho JY, Oh SC, Safran H, Bodoky G, Chau I, Shimada Y, Al-Batran SE, Passalacqua R, Ohtsu A, Emig M, Ferry D, Chandrawansa K, Hsu Y, Sashegyi A, Liepa AM, Wilke H**: Prognostic Factor Analysis of Overall Survival in Gastric Cancer from Two

- Phase III Studies of Second-line Ramucirumab (REGARD and RAINBOW) Using Pooled Patient Data. *J Gastric Cancer* 17(2):132-144,2017.
- 010 **Masuishi T, Taniguchi H, Hamauchi S, Komori A, Kito Y, Narita Y, Tsushima T, Ishihara M, Todaka A, Tanaka T, Yokota T, Kadowaki S, Machida N, Ura T, Fukutomi A, Ando M, Onozawa Y, Tajika M, Yasui H, Muro K, Mori K, Yamazaki K**: Regorafenib Versus Trifluridine/Tipiracil for Refractory Metastatic Colorectal Cancer: A Retrospective Comparison. *Clin Colorectal Cancer* 6(2):e15-e22,2017.
- 011 **Maeda A, Ando H, Ura T, Muro K, Aoki M, Saito K, Kondo E, Takahashi S, Ito Y, Mizuno Y, Fujimura A**: Differences in Urinary Renal Failure Biomarkers in Cancer Patients Initially Treated with Cisplatin. *Anticancer, Res* 37(9):5235-5239,2017.
- 012 **Komori A, Taniguchi H, Hamauchi S, Masuishi T, Kito Y, Narita Y, Tsushima T, Ishihara M, Todaka A, Tanaka T, Yokota T, Kadowaki S, Machida N, Ura T, Fukutomi A, Ando M, Onozawa Y, Tajika M, Yasui H, Muro K, Mori K, Yamazaki K**: Serum CA19-9 Response Is an Early Predictive Marker of Efficacy of Regorafenib in Refractory Metastatic Colorectal Cancer. *Oncology* 93(5):329-335,2017.
- 013 **Honda K, Ando M, Sugiyama K, Mitani S, Masuishi T, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Muro K**: Successful Treatment of Cardiac Angiosarcoma Associated with Disseminated Intravascular Coagulation with Nab-Paclitaxel: A Case Report and Review of the Literature. *Case Rep Oncol* 10(3):863-870,2017.
- 014 **Iizumi S, Takashima A, Narita Y, Tajika M, Muro K, Kawai S, Yasui H, Matsushima T, Takahari D, Nagashima K, Boku N**: Efficacy and safety of taxane monotherapy in advanced gastric cancer refractory to triplet chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1: a multicenter retrospective study. *Cancer Chemother Pharmacol* 80(3):575-582,2017.
- 015 **Kadowaki S, Masuishi T, Eto T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Yatabe Y, Muro K**: Depth of response predicts the clinical outcome of advanced HER2-positive gastric cancer to trastuzumab-based first-line chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol* 80(4):807-813,2017.
- 016 **Taberero J, Ohtsu A, Muro K, Van Cutsem E, Oh SC, Boddoky G, Shimada Y, Hironaka S, Ajani JA, Tomasek J, Safran H, Chandrawansa K, Hsu Y, Heathman M, Khan A, Ni L, Melemed AS, Gao L, Ferry D, Fuchs CS**: Exposure-Response Analyses of Ramucirumab from Two Randomized, Phase III Trials of Second-Line Treatment for Advanced Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer. *Mol Cancer Ther* 16(10):2215-2222,2017.
- 017 **Doi T, Yamaguchi K, Komatsu Y, Muro K, Nishina T, Nakajima TE, Tang R, Yang H, Zhang Y, Jung AS, Ang A, Yasui H**: A Phase 1/1b tolerability study of rilotumumab alone or in combination with cisplatin and capecitabine in Japanese patients with gastric cancer. *Jpn J Clin Oncol* 47(11):1002-9,2017.
- 018 **Shinozaki E, Yoshino T, Yamazaki K, Muro K, Yamaguchi K, Nishina T, Yuki S, Shitara K, Bando H, Mimaki S, Nakai C, Matsushima K, Suzuki Y, Akagi K, Yamanaka T, Nomura S, Fujii S, Esumi H, Sugiyama M, Nishida N, Mizokami M, Koh Y, Abe Y, Ohtsu A, Tsuchihara K**: Clinical significance of BRAF non-V600E mutations on the therapeutic effects of anti-EGFR monoclonal antibody treatment in patients with pretreated metastatic colorectal cancer: the Biomarker Research for anti-EGFR monoclonal Antibodies by Comprehensive Cancer genomics (BREAC) study. *Br J Cancer* 117(10):1450-1458,2017.
- 019 **Ito M, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Koide Y, Kato D, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Hasegawa Y**: Clinical results of definitive chemoradiotherapy for cervical esophageal cancer: Comparison of failure pattern and toxicities between intensity-modulated radiotherapy and 3-dimensional conformal radiotherapy. *Head Neck* 39(12):2406-2415,2017.
- 020 **Masuishi T, Kadowaki S, Kondo M, Komori A, Sugiyama K, Mitani S, Honda K, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Mishima H, Muro K**: FOLFOX as First-line Therapy for Gastric Cancer with Severe Peritoneal Metastasis. *Anticancer Res* 37(12):7037-7042,2017.
- 021 **Sakai D, Chung HC, Oh DY, Park SH, Kadowaki S, Kim YH, Tsuji A, Komatsu Y, Kang YK, Uenaka K, Wijayawardana SR, Wacheck V, Wang X, Yamamura A, Doi T**: A non-randomized, open-label, single-arm, Phase 2 study of emibetuzumab in Asian patients with MET diagnostic positive, advanced gastric cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* 80(6):1197-1207,2017.
- 022 **Kang YK, Boku N, Satoh T, Ryu MH, Chao Y, Kato K, Chung HC, Chen JS, Muro K, Kang WK, Yeh KH, Yoshikawa T, Oh SC, Bai LY, Tamura T, Lee KW, Hamamoto Y, Kim JG, Chin K, Oh DY, Minashi K, Cho JY, Tsuda M, Chen LT**: Nivolumab in patients with advanced gastric or gastro-oesophageal junction cancer refractory to, or intolerant of, at least two previous chemotherapy regimens (ONO-4538-12, ATTRACTION-2): a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet* 390(10111):2461-2471,2017.
- 023 **Yoshino T, Arnold D, Taniguchi H, Pentheroudakis G, Yamazaki K, Xu RH, Kim TW, Ismail F, Tan IB, Yeh KH, Grothey A, Zhang S, Ahn JB, Chong D, Chen LT, Kopetz S, Eguchi-Nakajima T, Ebi H, Ohtsu A, Cervantes A, Muro K, Taberero J, Minami H, Ciardiello F, Douillard JY**: Pan-Asian adapted ESMO consensus guidelines for the management of patients with metastatic colorectal cancer: A JSMO - ESMO initiative endorsed by CSCO, KACO, MOS, SSO and TOS. *Ann Oncol* 29(1):44-70,2018.
- 024 **Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kume-**

- kawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama C, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Sugiyama M, Komatsu Y, Okuyama H, Baba E, Sakai D, Watanabe T, Tamura T, Yamashita K, Goshio M, Shimada Y* : Propensity Score Analysis of Regorafenib Versus Trifluridine/Tipiracil in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Refractory to Standard Chemotherapy (REGOTAS): A Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Multicenter Observational Study. *Oncologist* 23(1):7-15,2018.
- 025 *Shitara K, Kadowaki S, Nishina T, Sakai D, Yoshikawa R, Piao Y, Ozeki A, Inoue K, Gritli I, Muro K* : Safety, pharmacokinetic, and clinical activity profiles of ramucirumab in combination with three platinum/fluoropyrimidine doublets in Japanese patients with chemotherapy-naïve metastatic gastric/gastroesophageal junction cancer. *Gastric Cancer* 21(1):106-113,2018.
- 026 *Narita Y, Kadowaki S, Oze I, Kito Y, Kawakami T, Machida N, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yasui H, Muro K* : Establishment and validation of prognostic nomograms in first-line metastatic gastric cancer patients. *J Gastrointest Oncol* 9(1):52-63, 2018.
- 027 *Watanabe T, Muro K, Ajioka Y, Hashiguchi Y, Ito Y, Saito Y, Hamaguchi T, Ishida H, Ishiguro M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Kawano H, Kinugasa Y, Kokudo N, Murofushi K, Nakajima T, Oka S, Sakai Y, Tsuji A, Uehara K, Ueno H, Yamazaki K, Yoshida M, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Itabashi M, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Shimada Y, Takahashi K, Tanaka S, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yamaguchi N, Tanaka T, Kotake K, Sugihara K* : Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2016 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol* 23(1):1-34,2018.
- 028 *Van Cutsem E, Mayer RJ, Laurent S, Winkler R, Grávalos C, Benavides M, Longo-Munoz F, Portales F, Ciardiello F, Siena S, Yamaguchi K, Muro K, Denda T, Tsuji Y, Makris L, Loehrer P, Lenz HJ, Ohtsu A* : RECURSE Study Group : The subgroups of the phase III RECURSE trial of trifluridine/tipiracil (TAS-102) versus placebo with best supportive care in patients with metastatic colorectal cancer. *Eur J Cancer* 90:63-72,2018.
- 029 *Uetake H, Sugihara K, Muro K, Sunaya T, Horiuchi-Yamamoto Y, Takikawa H* : Clinical Features of Regorafenib-induced Liver Injury in Japanese Patients From Postmarketing Experience. *Clin Colorectal Cancer* 17(1):e49-e58,2018.
- 030 *Tahara M, Muro K, Hasegawa Y, Chung HC, Lin CC, Bhumsuk Keam, Takahashi K, Cheng JD, Bang YJ* : Pembrolizumab in Asia-Pacific patients with advanced head and neck squamous cell carcinoma: analyses from KEY-NOTE-012. *Cancer Sci* 109(3):771-776,2018.
- 031 *Kato K, Ura T, Koizumi W, Iwasa S, Katada C, Azuma M, Ishikura S, Nakao Y, Onuma H, Muro K* : Nimotuzumab combined with concurrent chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal cancer: a phase I study. *Cancer Sci* 109(3) : 785-793,2018.
- 032 *Tabernero J, Hozak RR, Yoshino T, Cohn AL, Obermannova R, Bodoky G, Garcia-Carbonero R, Ciuleanu TE, Portnoy DC, Prausová J, Muro K, Siegel RW, Konrad RJ, Ouyang H, Melemed SA, Ferry D, Nasroulah F, Van Cutsem E* : Analysis of Angiogenesis Biomarkers for Ramucirumab Efficacy in Patients with Metastatic Colorectal Cancer from RAISE, a Global, Randomized, Double-Blind, Phase III Study. *Ann Oncol* 29(3) : 602-609,2018.
- 033 成田有季哉 : 分子標的治療薬の耐性にかかわる MET 増幅食道・胃癌における分子学的不均質と受容体共増幅 (文献紹介). *胃がん perspective* vol.9 No.2:54-56,2017.
- 034 杉山圭司, 成田有季哉, 室 圭 : 【消化器がん】 進行大腸癌の診断・治療について教えてください (内科医が知りたい主ながん種の知識 - 診断から治療まで). *Medicina*, 第 54 卷 第 8 号 : 1224-9,2017.
- 035 杉山圭司, 谷口浩也 : 希少フラクションを標的とした切除不能・再発進行大腸がんの臨床開発. *腫瘍内科*, Vol.20 No.1 : 13-8,2017.
- 036 三谷誠一郎, 室 圭 : 胃がん国内外ガイドラインの臨床的解釈と今後の方向性. *腫瘍内科*, Vol.20 No.1 : 36-41,2017.
- 037 舛石俊樹 : 大腸がん RAS-RAF 経路阻害薬の開発と展望 - 基礎 update. *腫瘍内科*, Vol.20 No.1 : 71-5,2017.
- 038 成田有季哉 : オキサリプラチン (L-OHP) 投与時の錯知覚的に有効な対処法は? (研修医からの質問 Q&A). *臨床腫瘍プラクティス*, Vol.13 No.3 : 250,2017.
- 039 舛石俊樹, 谷口浩也 : PinPoint 7. 血管新生阻害薬により, 安全に有効性をあげるコツは? (2 大腸がん薬物治療に用いられる分子標的治療薬). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 50-51,2017.
- 040 室 圭 : 1) ベースレジメンの決定と, 分子標的治療薬の選択はこう行う. (4 臨床現場における分子標的治療薬の選び方). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 65-70,2017.
- 041 本多和典, 谷口浩也 : 4) 悪心・嘔吐. (5 分子標的治療に伴う有害事象とその対応の原則). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 103-5,2017.
- 042 三谷誠一郎, 谷口浩也 : 6) 口内炎. (5 分子標的治療に伴う有害事象とその対応の原則). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 109-10,2017.
- 043 杉山圭司, 谷口浩也 : 9) 神経症状. (5 分子標的治療に伴う有害事象とその対応の原則). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 117-9,2017.
- 044 舛石俊樹, 谷口浩也 : PinPoint19 抗 EGFR 抗体薬による皮膚反応はどこまで忍容可能か? 血管新生阻害薬により, 安全に有効性をあげるコツは? (5 分子標的治療に伴う有害事象とその対応の原則). *進行・再発大腸癌の分子標的治療* : 132,2017.
- 045 室 圭 : 大腸がんを生きるガイド, 日経 BP 社, 2017.

- 046 成田有季哉, 室 圭: I 胃癌に対する免疫チェックポイント阻害薬 (Current Organ Topics: 食道・胃癌). 癌と化学療法 vol.44 No.9: 743-51,2017.
- 047 三谷誠一郎, 門脇重憲, 室 圭: 消化器がん (胃癌, 食道がん). (各腫瘍における免疫チェックポイント阻害薬の現状) 月刊薬事 vol.59 No.12, じほう: 2408-12,2017.
- 048 室 圭 (企画): がん免疫療法の躍進. 週刊 医学のあゆみ vo.263 No.1, 医歯薬出版,2017.
- 049 成田有季哉: 消化器癌に対する免疫チェックポイント阻害薬 - 現在までのエビデンスと今後の展開. 週刊 医学のあゆみ vo.263 No.1, 医歯薬出版 :87-91,2017.
- 050 舩石俊樹, 室 圭: 12. 免疫チェックポイント阻害薬による消化器障害について対処法を教えてください (10 薬物療法の副作用への対応). 肺癌診療 Q&A, 中外医学社: 503-5,2017.
- 051 舩石俊樹, 谷口浩也: 大腸がん領域での Precision Medicine 実装に向けた取り組み. 腫瘍内科 Vol.20 No.4: 278-84,2017.
- 052 谷口浩也: NCCN ガイドラインの概説. 大腸がん perspective Vol.3 No.4: 261-7,2017.
- 053 室 圭 (Section Leader): Lower G.I./Colon and Rectum Cancer 大腸がん わが国の大腸がんにおける各種ガイドライン Update (総括). 癌と化学療法 Vol.44 No.11: 984-5,2017.
- 054 室 圭 (座談会): 胃癌における免疫チェックポイント阻害薬の今後の展望. GC Expert 第 7 号: 3-8,2017.
- 055 室 圭 (座談会): 免疫チェックポイント阻害薬の臨床試験デザイン. がん分子標的治療 Vol.15 No.4: 400-7,2017.
- 056 本多和典, 谷口浩也: 大腸癌~各臓器がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の現状について. がん分子標的治療 vol.15 No.4, メディカルレビュー社: 19-22,2017.
- dictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3: A Japanese Multicenter Pancreatic NEN-G3 Study. Clin Cancer Res,23:4625-4632,2017.
- 004 *Hirayama Y, Masahiro T, Tanaka T, Ishihara M, Ohnishi S, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Okuno N, Abe T, Uemura N, Kawakami J, Kurahashi S, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y*: Slow-growing amelanotic malignant melanoma of the esophagus with long survival: a case report and review of the literature. Endosc Int Open ,5:E1076-E1080,2017.
- 005 *Kadowaki S, Masuishi T, Eto T, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Yatabe Y, Muro K*: Depth of response predicts the clinical outcome of advanced HER2-positive gastric cancer to trastuzumab-based first-line chemotherapy. Cancer Chemother Pharmacol,80:807-813,2017.
- 006 *Kato H, Yamamoto K, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T*: Anti-CCR4 Monoclonal Antibody Mogamulizumab Followed by the GDP (Gemcitabine, Dexamethasone and Cisplatin) Regimen in Primary Refractory Angioimmunoblastic T-Cell Lymphoma. Chemotherapy,62:19-22,2017.
- 007 *Khalil AA, Sivakumar S, Lucas FAS, McDowell T, Lang W, Tabata K, Fujimoto J, Yatabe Y, Spira A, Scheet P, Nemer G, Kadara H*: TBX2 subfamily suppression in lung cancer pathogenesis: a high-potential marker for early detection. Oncotarget,8:68230-68241,2017.
- 008 *Miura K, Hirakawa H, Uemura H, Yoshimoto S, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Matsuo K, Ohkura Y, Kosuda S, Hasegawa Y*: Sentinel node biopsy for oral cancer: A prospective multicenter Phase II trial. Auris Nasus Larynx,44:319-326,2017.
- 009 *Mizuno T, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y*: Histological type predicts mediastinal metastasis and surgical outcome in resected cN1 non-small cell lung cancer. Gen Thorac Cardiovasc Surg,65:519-526,2017.
- 010 *Narita Y, Kadowaki S, Masuishi T, Taniguchi H, Takahari D, Ura T, Ando M, Tajika M, Niwa Y, Eto T, Hara H, Asayama M, Yamaguchi K, Yatabe Y, Muro K*: Correlation between human epidermal growth factor receptor 2 expression level and efficacy of trastuzumab beyond progression in metastatic gastric cancer. Oncol Lett,14:2545-2551,2017.
- 011 *Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Mikubo M, Kondo C, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y*: Predictive clinical parameters for the response of nivolumab in pretreated advanced non-small-cell lung cancer. Oncotarget,8:103117-103128,2017.
- 012 *Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y*: Clinical Efficacy of Alectinib in Patients with ALK-Rearranged Non-small Cell Lung Cancer Af-

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Fujiyoshi T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yatabe Y, Hirooka Y, Goto H, Yamao K, Niwa Y*: Comparative evaluation of new and conventional classifications of magnifying endoscopy with narrow band imaging for invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma. Dis Esophagus ,30:43108,2017.
- 002 *Hasegawa H, Taniguchi H, Mitani S, Masuishi T, Komori A, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Ando M, Yatabe Y, Muro K*: Efficacy of Second-Line Bevacizumab-Containing Chemotherapy for Patients with Metastatic Colorectal Cancer following First-Line Treatment with an Anti-Epidermal Growth Factor Receptor Antibody. Oncology,92:205-212,2017.
- 003 *Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, ... Yatabe Y, ... et al.*: Rb Loss and KRAS Mutation Are Pre-

- ter Ceritinib Failure. *Anticancer Res*,37:6477-6480,2017.
- 013 **Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Inaba Y, Hida T, Yatabe Y** : Association Between EGFR T790M Status and Progression Patterns During Initial EGFR-TKI Treatment in Patients Harboring EGFR Mutation. *Clin Lung Cancer*,18:698-705 e2,2017.
- 014 **Oze I, Shimada S, Nagasaki H, Akiyama Y, Watanabe M, Yatabe Y, Matsuo K, Yuasa Y** : Plasma microRNA-103, microRNA-107, and microRNA-194 levels are not biomarkers for human diffuse gastric cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*,143:551-554,2017.
- 015 **Roden AC, Aisner DL, Allen TC, Aubry MC, Barrios RJ, Beasley MB, Cagle PT, Capelozzi VL, Dacic S, Ge Y, Hariri LP, Lantuejoul S, Miller RA, Mino-Kenudson M, Moreira AL, Raparia K, Rekhtman N, Sholl L, Smith ML, Tsao MS, Vivero M, Yatabe Y, Yi ES** : Diagnosis of Acute Cellular Rejection and Antibody-Mediated Rejection on Lung Transplant Biopsies : A Perspective From Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*,141:437-444,2017.
- 016 **Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : HNRNPLL, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*,2017.
- 017 **Seow WJ, Matsuo K, Hsiung CA, Shiraishi K, Song M, Kim HN, Wong MP, Hong YC, Hosgood HD, 3rd, Wang Z, Yatabe Y, et al** : Association between GWAS-identified lung adenocarcinoma susceptibility loci and EGFR mutations in never-smoking Asian women, and comparison with findings from Western populations. *Hum Mol Genet*,26:454-465,2017.
- 018 **Shigeyoshi I, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Yatabe Y, Shimizu Y** : A case of metachronous left ovarian metastasis 8 years after surgery for cecal cancer and right ovarian metastasis: Report of a case. *Nagoya J Med Sci*,79:259-266,2017.
- 019 **Sivakumar S, Lucas FAS, McDowell TL, Lang W, Xu L, Fujimoto J, Zhang J, Futreal PA, Fukuoka J, Yatabe Y, Dubinett SM, Spira AE, Fowler J, Hawk ET, Wistuba II, Scheet P, Kadara H** : Genomic Landscape of Atypical Adenomatous Hyperplasia Reveals Divergent Modes to Lung Adenocarcinoma. *Cancer Res*,77:6119-6130,2017.
- 020 **Soh SX, Siddiqui FJ, Allen JC, Kim GW, Lee JC, Yatabe Y, Soda M, Mano H, Soo RA, Chin TM, Ebi H, Yano S, Matsuo K, Niu X, Lu S, Isobe K, Lee JH, Yang JC, Zhao M, Zhou C, Lee JK, Lee SH, Lee JY, Ahn MJ, Tan TJ, Tan DS, Tan EH, Ong ST, Lim WT** : A systematic review and meta-analysis of individual patient data on the impact of the BIM deletion polymorphism on treatment outcomes in epidermal growth factor receptor mutant lung cancer. *Oncotarget*,8:41474-41486,2017.
- 021 **Soo RA, Stone ECA, Cummings KM, Jett JR, Field JK, Groen HJM, Mulshine JL, Yatabe Y, Bubendorf L, Dacic S, et al** : Scientific Advances in Thoracic Oncology 2016. *J Thorac Oncol*,12:1183-1209,2017.
- 022 **Tanaka K, Hida T, Oya Y, Yoshida T, Shimizu J, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Yoshimura K, Horio Y, Sakao Y, Yatabe Y** : Unique prevalence of oncogenic genetic alterations in young patients with lung adenocarcinoma. *Cancer*,123:1731-1740,2017.
- 023 **Thunnissen E, Boreczuk AC, Flieder DB, Witte B, Beasley MB, Chung JH, Dacic S, Lantuejoul S, Russell PA, den Bakker M,...Yatabe Y,...et al** : The Use of Immunohistochemistry Improves the Diagnosis of Small Cell Lung Cancer and Its Differential Diagnosis. An International Reproducibility Study in a Demanding Set of Cases. *J Thorac Oncol*,12:334-346,2017.
- 024 **Thunnissen E, Witte BI, Noguchi M, Yatabe Y** : Reply to Letter "The Use of Immunohistochemistry Improves the Diagnosis of Small Cell Lung Cancer and Its Differential Diagnosis. An International Reproducibility Study in a Demanding Set of Cases." . *J Thorac Oncol*,12:e70-e71,2017.
- 025 **Yoshida T, Kuroda H, Oya Y, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Hida T, Yatabe Y** : Clinical outcomes of platinum-based chemotherapy according to T790M mutation status in EGFR-positive non-small cell lung cancer patients after initial EGFR-TKI failure. *Lung Cancer*,109:89-91,2017.
- 026 **Yoshida T, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hieda N, Okuno N, Kinoshita T, Bhatia V, Shimizu Y, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y** : The Features of Colorectal Tumors in a Patient with Li-Fraumeni Syndrome. *Intern Med*,56:295-300, 2017.
- 027 **Adachi Y, Yoshimura M, Nishida K, Usuki H, Shibata K, Hattori M, Kondo N, Yatabe Y, Iwata H, Kikumori T, Kodera Y, Nakanishi H** : Acute phase dynamics of circulating tumor cells after paclitaxel and doxorubicin chemotherapy in breast cancer mouse models. *Breast Cancer Res Treat*,167:439-450,2018.
- 028 **Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y** : Pathologic Diagnosis and Genetic Analysis of a Lung Tumor Needle Biopsy Specimen Obtained Immediately After Radiofrequency Ablation. *Cardiovasc Intervent Radiol*,41:594-602,2018.
- 029 **Kato H, Yamamoto K, Kodaira T, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Immunophenotypic analysis of adult patients with T-cell lymphoblastic lymphoma treated with hyper-CVAD. *Hematology*,23:83-88,2018.
- 030 **Kuroda H, Mori S, Tanaka H, Yoshida T, Mizuno T, Saka-**

- kura N, Yatabe Y, Iwata H, Sakao Y* : Prognostic significance of combined radiologic imaging modalities for prognosis of clinical IA adenocarcinomas. *Oncotarget*.9:10745-10753,2018.
- 031 *Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW, Yatabe Y* : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors: Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the. *J Mol Diagn*.20:129-159,2018.
- 032 *Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW, Yatabe Y* : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors : Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the. *J Thorac Oncol*.13:323-358, 2018.
- 033 *Lindeman NI, Cagle PT, Aisner DL, Arcila ME, Beasley MB, Bernicker EH, Colasacco C, Dacic S, Hirsch FR, Kerr K, Kwiatkowski DJ, Ladanyi M, Nowak JA, Sholl L, Temple-Smolkin R, Solomon B, Souter LH, Thunnissen E, Tsao MS, Ventura CB, Wynes MW, Yatabe Y* : Updated Molecular Testing Guideline for the Selection of Lung Cancer Patients for Treatment With Targeted Tyrosine Kinase Inhibitors : Guideline From the College of American Pathologists, the International Association for the Study of Lung Cancer, and the. *Arch Pathol Lab Med*.142:321-346,2018.
- 034 *Masago K, Fujita S, Hata A, Okuda C, Yoshizumi Y, Kaji R, Katakami N, Hirata Y, Yatabe Y* : Validation of the digital PCR system in tyrosine kinase inhibitor-resistant EGFR mutant non-small-cell lung cancer. *Pathol Int*.68:167-173,2018.
- 035 *Narita Y, Kadowaki S, Oze I, Kito Y, Kawakami T, Machida N, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yasui H, Muro K* : Establishment and validation of prognostic nomograms in first-line metastatic gastric cancer patients. *J Gastrointest Oncol*.9:52-63,2018.
- 036 *Nicholson AG, Torkko K, Viola P, Duhig E, Geisinger K, Borczuk AC, Hiroshima K, Tsao MS, Warth A, Lantuejoul S,...Yatabe Y,...et al.* : Interobserver Variation among Pathologists and Refinement of Criteria in Distinguishing Separate Primary Tumors from Intrapulmonary Metastases in Lung. *J Thorac Oncol*.13:205-217,2018.
- 037 *Nicholson AG, Tsao MS, Travis WD, Patil DT, Galateau-Salle F, Marino M, Dacic S, Beasley MB, Butnor KJ, Yatabe Y, Pass HI, Rusch VW, Detterbeck FC, Asamura H, Rice TW, Rami-Porta R* : Eighth Edition Staging of Thoracic Malignancies : Implications for the Reporting Pathologist. *Arch Pathol Lab Med*.2018.
- 038 *Sakakibara A, Kohno K, Kuroda N, Yorita K, Megahed NA, Eladl AE, Daroontum T, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Satou A, Kato S, Yatabe Y, Asano N, Nakamura S* : Anaplastic variant of diffuse large B-cell lymphoma with hallmark cell appearance : Two cases highlighting a broad diversity in the diagnostics. *Pathol Int* .68:251-255,2018.
- 039 *Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Arimura T, Yatabe Y, Yoshimura K, Sakao Y* : The eighth TNM classification system for lung cancer: A consideration based on the degree of pleural invasion and involved neighboring structures. *Lung Cancer*.118:134-138,2018.
- 040 *Sawabe M, Ito H, Takahara T, Oze I, Kawakita D, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Matsuo K* : Heterogeneous impact of smoking on major salivary gland cancer according to histopathological subtype : A case-control study. *Cancer*.124:118-124,2018.
- 041 *Beppu S, Ito Y, Fujii K, Saida K, Takino H, Masaki A, Murase T, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Ijichi K, Murakami S, Inagaki H* : Expression of Cancer/Testis Antigens in Salivary Gland Carcinomas with Reference to Mage-a and Ny-Eso-1 Expression in Adenoid Cystic Carcinoma. *Histopathology*.71:305-15,2017.
- 042 *Fujii K, Murase T, Beppu S, Saida K, Takino H, Masaki A, Ijichi K, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Inagaki H* : Myb, Mybl1, Mybl2 and Nfib Gene Alterations and Myc Overexpression in Salivary Gland Adenoid Cystic Carcinoma. *Histopathology*.71:823-34,2017.
- 043 *Bhanthumkol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K* : Uptake of (123)I-Metaiodobenzylguanidine by Gastrointestinal Stromal Tumor. *Clin J Gastroenterol*.10:364-70,2017.
- 044 *Fujita A, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Hirayama T, Shibuya H, Kondo H, Suzuki H, Toriyama K, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : A Case of Api2-Malt1-Positive Gastric Malt Lymphoma with Concomitant Diffuse Large B-Cell Lymphoma. *Nagoya J Med Sci*.79:251-7,2017.
- 045 *Masago K, Fujita S, Yatabe Y* : Not Like Breast Cancer, but Like Breast Cancer: Micrometastasis and Micropapillary Structure in Lung Cancer. *J Thorac Dis*.9:4171-3,2017.

- 046 **Shibuya H, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Murakami Y, Yatabe Y, Tajika M, Niwa Y, Hara K** : A Rare Case of Ampullary Goblet Cell Carcinoid. *Intern Med*,0516-17,2018.
- 047 **Thunnissen E, Allen TC, Adam J, Aisner DL, Beasley MB, Borczuk AC, Cagle PT, Capelozzi VL, Cooper W, Hariri LP, Kern I, Lantuejoul S, Miller R, Mino-Kenudson M, Radonic T, Raparia K, Rekhtman N, Roy-Chowdhuri S, Russell P, Schneider F, Sholl LM, Tsao MS, Vivero M, Yatabe Y** : Immunohistochemistry of Pulmonary Biomarkers : A Perspective from Members of the Pulmonary Pathology Society. *Arch Pathol Lab Med*,142:408-19,2018.
- 048 **Aoyama S, Masaki A, Sakamoto Y, Takino H, Murase T, Ohshima K, Yoshino T, Kato S, Inagaki H** : Achromobacter Infection Is Rare in Japanese Patients with Pulmonary B-cell Lymphoma. *Intern Med*,57(6):789-794,2018.
- 049 **Siok-Bian Ng, Tae-Hoon Chung, Kato S, Nakamura S, Takahashi E, Young-Hyeh Ko, Joseph D. Khoury, C. Cameron Yin, Richie Soong, Anand D. Jeyasekharan, Michal Marek Hoppe, Viknesvaran Selvarajan, Soo-Yong Tan, Soon-Thye Lim, Choon-Kiat Ong, Maarja-Liisa Nairismägi, Priyanka Maheshwari, Shoa-Nian Choo, Shuangyi Fan, Chi-Kuen Lee, Shih-Sung Chuang, Wee-Joo Chng** : Epstein-Barr virus-associated primary nodal T/NK-cell lymphoma shows a distinct molecular signature and copy number changes. *Haematologica*,103(2): 278-287,2018.
- 050 **Matsumoto Y, Nagoshi H, Yoshida M, Kato S, Kuroda J, Shimura K, Kaneko H, Horiike S, Nakamura S, Taniwaki I M** : Expression of Master Regulators of T-cell, Helper T-cell and Follicular Helper T-cell Differentiation in Angioimmunoblastic T-cell Lymphoma. *Intern Med*, 56(21): 2851-2856,2017.
- 051 **Chun-Chieh Wu, Takahashi E, Asano N, Miyata-Takata T, Takata K, Furukawa K, Ahmed Ali Elsayed, Lei-Ming Hu, Akira Satou, Kohno K, Kosugi H, Ohashi K, Kinoshita T, Nakamura S, Kato S** : Primary cutaneous NK/T-cell lymphoma of nasal type : an age-related lymphoproliferative disease? *Hum Pathol*,68: 61-68,2017.
- 052 **Suzuki Y, Kato S, Kohno K, Satou A, Ahmed E Eladl, Asano N, Kono M, Kato Y, Taniwaki M, Akiyama M, Nakamura S** : Clinicopathological analysis of 46 cases with CD4(+) and/or CD56(+) immature haematolymphoid malignancy : reappraisal of blastic plasmacytoid dendritic cell and related neoplasms. *Histopathology*,71(6): 972-984,2017.
- 053 **Washio K, Oka T, Abdalkader L, Muraoka M, Shimada A, Oda M, Sato H, Takata K, Kagami Y, Shimizu N, Kato S, Kimura H, Nishizaki K, Yoshino T, Tsukahara H** : Gene expression analysis of hypersensitivity to mosquito bite, chronic active EBV infection and NK/T-lymphoma/leukemia. *Leuk Lymphoma*,58(11):2683-2694,2017.
- 054 **Miyata-Takata T, Takata K, Kato S, Hu LM, Noujima-Harada M, Chuang SS, Sato Y, Maeda Y, Yoshino T** : Clinicopathological analysis of primary central nervous system NK/T cell lymphoma : rare and localized aggressive tumour among extranasal NK/T cell tumours. *Histopathology*,71(2): 287-295,2017.
- 055 **Ohashi A, Kato S, Okamoto A, Inaguma Y, Satou A, Tsuzuki T, Emi N, Okamoto M, Nakamura S** : Reappraisal of Epstein-Barr virus (EBV) in diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) : comparative analysis between EBV-positive and EBV-negative DLBCL with EBV-positive bystander cells. *Histopathology*,71(1): 89-97,2017.
- 056 **Bhanthumkomol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Oonishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K** : Uptake of ¹²³I-metaiodobenzylguanidine by gastrointestinal stromal tumor. *Clin J Gastroenterol*, 10(4):364-370,2017.
- 057 **Sakuma K, Sasaki E, Kimura K, Komori K, Shimizu Y, Yatabe Y, Aoki M** : HNRNP L1, a newly identified colorectal cancer metastasis suppressor, modulates alternative splicing of CD44 during epithelial-mesenchymal transition. *Gut*,67(6):1103-1111,2017.
- 058 谷田部 恭 : PD-L1 IH のハーモナイゼーション. *腫瘍内科*,19(5):589-593,2017.
- 059 谷田部 恭 : 【肺癌治療の進歩 - 最新の基礎と臨床研究状況 -】最新の臨床研究 肺癌の診断 肺癌の病理診断. *日本臨床*,75(7):1044-1050,2017.
- 060 谷田部 恭 : 臨床検査アップデート 肺癌における PD-L1 タンパク免疫染. *Modern Media*,63(9):230-233,2017.
- 061 谷田部 恭 : 【肺がんアップデート - 基礎から最新トピックスまで -】肺がん診断の基礎知識. *肺がんの組織分類. 診断と治療*,105(11):1373-1378,2017.
- 062 細野幸三, 山田健志, 能登公俊, 谷田部 恭, 中西速夫 : 右下腿軟部腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*,28:1-2,2017.
- 063 山田健志, 細野幸三, 中西速夫, 谷田部 恭, 紫藤洋二, 福嶋麻由, 馬場 聡 : 左下腿軟骨性腫瘍. *東海骨軟部腫瘍*,28:11-12,2017.
- 064 長谷川弘晃, 吉田雅博, 筑紫 聡, 羽根田正隆, 佐々木英一, 谷田部 恭 : 骨盤部骨腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*,28:17-18,2017.
- 065 藤戸健雄, 細野幸三, 山田健志, 中西速夫, 谷田部 恭 : 足部再発性軟部腫瘍の検討. *東海骨軟部腫瘍*,28:49-50,2017.
- 066 鈴木周一郎, 吉田雅博, 筑紫 聡, 小澤英史, 橋本光義, 森 俊輔, 谷田部 恭 : 左大腿軟部腫瘍の1例. *東海骨軟部腫瘍*,28:51-52,2017.
- 067 栗田裕介, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山 和浩, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生 : 【隣神経内分泌腫瘍診療の最前線】切除不能低分化型隣神経内分泌癌 (panNEC-G3) の特徴と薬物療法. *胆と隣*,38(12):1403-1411,2017.

- 001 **Yokota T, Ogawa T, Takahashi S, Okami K, Fujii T, Tanaka K, Iwae S, Ota I, Ueda T, Monden N, Matsuura K, Kojima H, Ueda S, Sasaki K, Fujimoto Y, Hasegawa Y, Beppu T, Nishimori H, Hirano S, Naka Y, Matsushima Y, Fujii M, Tahara M**: Efficacy and safety of rebamipide liquid for chemoradiotherapy-induced oral mucositis in patients with head and neck cancer: a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group phase II study. *BMC Cancer*, 17(1):314,2017.
- 002 **Miura K, Hirakawa H, Uemura H, Yoshimoto S, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Matsuo K, Ohkura Y, Kosuda S, Hasegawa Y**: Sentinel node biopsy for oral cancer: A prospective multicenter Phase II trial. *Auris Nasus Larynx*, 44(3):319-326,2017.
- 003 **Suzuki H, Hanai N, Nishikawa D, Fukuda Y, Hasegawa Y**: Complication and surgical site infection for salvage surgery in head and neck cancer after chemoradiotherapy and bioradiotherapy. *Auris Nasus Larynx*, 44(5):596-601,2017.
- 004 **Takatsu J, Hanai N, Suzuki H, Yoshida M, Tanaka Y, Tanaka S, Hasegawa Y, Yamamoto M**: Phonologic and acoustic analysis of speech following glossectomy and the effect of rehabilitation on speech outcomes. *J Oral Maxillofac Surg*, 75(7):1530-1541,2017.
- 005 **Nibu K, Hayashi R, Asakage T, Ojiri H, Kimata Y, Kodaira T, Nagao T, Nakashima T, Fujii T, Fujii H, Homma A, Matsuura K, Monden N, Beppu T, Hanai N, Kirita T, Kamei Y, Otsuki N, Kiyota N, Zenda S, Omura K, Omori K, Akimoto T, Kawabata K, Kishimoto S, Kitano H, Tohno I, Nakatsuka T**: Japanese clinical practice guideline for head and neck cancer. *Auris Nasus Larynx*, 44 (4):375-380,2017.
- 006 **Suzuki H, Kato K, Nishio M, Tamaki T, Fujimoto Y, Hiramatsu M, Hanai N, Kodaira T, Itoh Y, Naganawa S, Sone M, Hasegawa Y**: FDG-PET/CT predicts survival and lung metastasis of hypopharyngeal cancer in a multi-institutional retrospective study. *Ann Nucl Med*, 31(7):514-520,2017.
- 007 **Beppu S, Ito Y, Fujii K, Saida K, Takino H, Masaki A, Murase T, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Ijichi K, Murakami S, Inagaki H**: Expression of cancer-testis antigens in salivary gland carcinomas with reference to MAGE-A and NY-ESO-1 expression in adenoid cystic carcinoma. *Histopathology*, 71(2):305-315,2017.
- 008 **Iwae S, Fujii M, Hayashi R, Hasegawa Y, Fujii T, Okami K, Homma A, Onitsuka T, Kato T, Ogawa T, Terao K, Monden N, Otsuki N, Nishino H, Ota I, Fujimoto Y, Matsuura K, Kawabata K, Matsui H, Yonezawa K, Nibu KI**: Matched-pair analysis of patients with advanced hypopharyngeal cancer: surgery versus concomitant chemoradiotherapy. *Int J Clin Oncol*, 22(6):1001-1008,2017.
- 009 **Nakata Y, Hanai N, Nishikawa D, Suzuki H, Koide Y, Fukuda Y, Nomura M, Kodaira T, Shimizu T, Hasegawa Y**: Comparison between chemoselection and definitive radiotherapy in patients with cervical esophageal squamous cell carcinoma. *Int J Clin Oncol*, 22(6):1034-1041,2017.
- 010 **Fujii K, Murase T, Beppu S, Saida K, Takino H, Masaki A, Ijichi K, Kusafuka K, Iida Y, Onitsuka T, Yatabe Y, Hanai N, Hasegawa Y, Inagaki H**: MYB, MYBL1, MYBL2, and NFIB gene alterations and MYC overexpression in salivary gland adenoid cystic carcinoma. *Histopathology*, 71(5):823-834,2017.
- 011 **Hirakawa H, Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Matayoshi S, Hasegawa Y, Suzuki M**: Prognostic importance of pathological response to neoadjuvant chemotherapy followed by definitive surgery in advanced oral squamous cell carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*, 47(11):1038-1046,2017.
- 012 **Matoba T, Hanai N, Suzuki H, Nishikawa D, Tachibana E, Okada T, Murakami S, Hasegawa Y**: Treatment and outcomes of carcinoma of the external and middle ear: the validity of en bloc resection for advanced tumor. *Neurologia medico-chirurgica*, 58(1):32-38,2018.
- 013 **Kimura T, Ozawa T, Hanai N, Hirakawa H, Suzuki H, Hosoi H, Hasegawa Y**: Renal Protective effect of a hydration supplemented with magnesium in patients receiving cisplatin for head and neck cancer. *J Otolaryngol Head Neck Surg*, 47(1):10,2018.
- 014 **Koshikawa T, Fujita N, Ueda N, Ota Y, Sasaki E, Murakami Y, Yatabe Y, Hasegawa Y**: Differences between follicular variant and conventional papillary thyroid carcinoma according to fine-needle aspiration cytology. *JBCM*, 7(1):1-7,2018.
- 015 **Nishikawa D, Hanai N, Suzuki H, Koide Y, Beppu S, Hasegawa Y**: The impact of skeletal muscle depletion on head and neck squamous cell carcinoma. *ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec*, 80(1):1-9,2018.
- 016 **Nakagawa T, Kodama S, Kobayashi M, Sanuki T, Tanaka S, Hanai N, Hanazawa T, Monobe H, Yokoi H, Suzuki M, Yamashita M, Omori K**: Endoscopic endonasal management of esthesioneuroblastoma: A retrospective multicenter study. *Auris Nasus Larynx*, 45(2):281-285,2018.
- 017 **Suzuki H, Hyodo I, Hasegawa Y**: Prediction of decannulation, oral intake recovery, overall survival and lung metastasis following oral malignant tumor resection and reconstruction. *Oncol Lett*, 15(2):2686-2694,2018.
- 018 **Hasegawa Y, Goto M, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H**: Predictive biomarkers for combined chemotherapy with 5-fluorouracil and cisplatin in oro-and hypopharyngeal cancer. *Mol Clin Oncol*, 8(2):378-386,2018.
- 019 **Tahara M, Muro K, Hasegawa Y, Chung HC, Lin CC, Keam B, Takahashi K, Cheng JD, Bang YJ**: Pembrolizumab in

Asia-Pacific patients with advanced head and neck squamous cell carcinoma: Analyses from KEYNOTE-012. *Cancer Sci*, 109(3):771-776,2018.

- 020 花井信広: 翼口蓋窩・側頭下窩手術. *JOHNS*, 33(7):913-916, 2017.
- 021 中多祐介, 伊地知圭, 花井信広, 西川大輔, 鈴木秀典, 平川 仁, 古平 毅, 藤本保志, 藤井 隆, 宮崎拓哉, 清水猛史, 長谷川泰久: 局所進行喉頭癌に対する中間評価を行う化学放射線交代療法の実施施設共同第2相試験. *日耳鼻*, 120(7):975-976,2017.
- 022 花井信広: 認知症・せん妄への対応. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 89(8):602-608,2017.
- 023 花井信広: 頸部郭清術の術前プランニングの実際について教えてください. *JOHNS*, 33(9):1276-1278,2017.
- 024 三浦弘規, 平川 仁, 上村裕和, 吉本世一, 塩谷彰浩, 菅澤 正, 本間明宏, 横山順吉, 塚原清彰, 吉崎智一, 谷田部泰, 松尾恵太郎, 大倉康男, 小須田茂, 長谷川泰久: 口腔がんのセンチネルリンパ節生検: 前向き施設共同第2相試験. *日耳鼻*, 110(12):1485-1486,2017.
- 025 花井信広: 外切開による喉頭部分切除術の歴史. *喉頭*, 29:57-61,2017.
- 026 中川隆之, 児玉 悟, 小林正佳, 讃岐徹治, 田中秀峰, 花井信広, 花澤豊行, 物部寛子, 横井秀格, 鈴木元彦, 山下 勝, 大森孝一: 嗅神経芽細胞腫に対する内視鏡下経鼻手術の応用に関する多施設後ろ向き研究. *耳鼻と臨床*, 63(S1):S60-S65,2017.
- 027 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 長谷川泰久: 化学放射線治療およびバイオ放射線治療後の頭頸部癌における救済手術の合併症および手術部位感染. *日本耳鼻咽喉科学会会報*, 121(3):247-248,2018.

形成外科部

- 001 *Okumura S, Takeishi M, MD, Nakamura R, Kakutani S, Hyodo I, Kamei Y*: Effectiveness of "Indocyanine Green Dye Clamp Test" in Selecting Perforators for Muscle-Sparing-2 Transverse Rectus Abdominis Myocutaneous Flaps in Breast Reconstruction *Journal of Reconstructive Microsurgery Open*, Vol. 2 No. 2 e126-130,2017
- 002 兵藤伊久夫: 当院における舌全摘・全摘再建における皮弁形態の工夫. *形成外科* 60(4):401-407,2017.

呼吸器外科部

- 001 *Kuroda H, Mizuno H, Dejima H, Watanabe K, Yoshida T, Naito Y, Sakao Y*: A retrospective study on analgesic requirements for thoracoscopic surgery postoperative pain. *J Pain Res*, 10:2643-2648,2017.
- 002 *Kuroda H, Yoshida T, Sakao Y*: A powered vascular staple for the application of segmental bronchial closure in thoracoscopic anatomic segmentectomy. *J Thorac*

Dis, 9(12):5352-5354,2017.

- 003 *Kuroda H, Yoshida T, Arimura T, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y*: Novel development of Spectra-A using indocyanine green for segmental boundary visibility in thoracoscopic segmentectomy. *J Surg Res*. 2018 Jul;227:228-233. doi: 10.1016/j.jss.2018.02.017. Epub 2018 Mar 20.
- 004 *Sakakura N, Mizuno T, Kuroda H, Arimura T, Yatabe Y, Yoshimura K, Sakao Y*: The eighth TNM classification system for lung cancer: a consideration based on the degree of pleural invasion and involved neighboring structures. *Lung Cancer*, in press, 2018.
- 005 *Kuroda H, Mori S, Tanaka H, Yoshida T, Mizuno T, Sakakura N, Yatabe Y, Iwata H, Sakao Y*: Prognostic significance of combined radiologic imaging modalities for prognosis of clinical IA adenocarcinomas. *Oncotarget*, Vol. 9,(No. 12),pp: 10745-10753,2018.
- 006 *Mizuno T, Arimura T, Kuroda H, Sakakura N, Yatabe Y, Sakao Y*: Histological type predicts mediastinal metastasis and surgical outcome in resected cN1 non-small cell lung cancer. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*, 65(9):519-526,2017.
- 007 *Mizuno T, Sakao Y*: Does oncogenic mutation status influence tumor spread in resectable lung cancer?. *Video-assist Thorac Surg*, 2:41,2017.
- 008 有村隆明, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 非小細胞肺癌 stage II-III に対する治療戦略. *呼吸器ジャーナル*, 65 巻:570-576,2017.

乳腺科部

- 001 *Masuda N, Nishimura R, Takahashi M, Inoue K, Ohno S, Iwata H, Mori Y, Hashigaki S, Muramatsu Y, Nagasawa T, Umeyama Y, Toi M*: Palbociclib in combination with letrozole as first - line treatment for advanced breast cancer: A Japanese phase II study. *Cancer Science*, <https://doi.org/10.1111/cas.13507>,2018.
- 002 *Iwase M, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Ishiguro J, Kotani H, Gondo N, Adachi Y, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Iwata H*: Assessing residual cancer cells using MRI and US after preoperative chemotherapy in primary breast cancer to omit surgery. *Breast Cancer*. <https://doi.org/10.1007/s12282-018-0856-6>,2018.
- 003 *Johnston SRD, Hegg R, Im SA, Park IH, Burdaeva O, Kurteva G, Press MF, Tjulandin S, Iwata H, Simon SD, Kenny S, Sarp S, Izquierdo MA, Williams LS and Gradishar WJ*: Phase III, Randomized Study of Dual Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 (HER2) Blockade With Lapatinib Plus Trastuzumab in Combination With an Aromatase Inhibitor in Postmenopausal Women With HER2-Positive, Hormone Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer: ALTERNATIVE. *Journal of Clinical*

- Oncology,36:735-740,2018.
- 004 **Michailidou K, Lindström S, Dennis J, Iwata H** : Association analysis identifies 65 new breast cancer risk loci. *Nature*,2:551(7678):92-94,2017
- 005 **Loibl S, Turner NC, Ro J, Cristofanilli M, Iwata H, Im SA, Masuda N, Loi S, André F, Harbeck N, Verma S, Folkert E, Puyana Theall K, Hoffman J, Zhang K, Bartlett CH, Dowsett M** : Palbociclib Combined with Fulvestrant in Premenopausal Women with Advanced Breast Cancer and Prior Progression on Endocrine Therapy : PALOMA-3 Results. *Oncologist*,22(9):1028-1038,2017.
- 006 **Masuda N, Lee SJ, Ohtani S, Im YH, Lee ES, Yokota I, Kuroi K, Im SA, Park BW, Kim SB, Yanagita Y, Ohno S, Takao S, Aogi K, Iwata H, Jeong J, Kim A, Park KH, Sasano H, Ohashi Y, Toi M** : Adjuvant Capecitabine for Breast Cancer after Preoperative Chemotherapy. *The New England Journal of Medicine*,376(22):2147-2159,2017.
- 007 **Martin M, Holmes FA, Ejlersen B, Delaloge S, Moy B, Iwata H, von Minckwitz G, Chia SKL, Mansi J, Barrios CH, Gnant M, Tomašević Z, Denduluri N, Šeparović R, Gokmen E, Bashford A, Ruiz Borrego M, Kim SB, Jakobsen EH, Ciceniene A, Inoue K, Overkamp F, Heijns JB, Armstrong AC, Link JS, Joy AA, Bryce R, Wong A, Moran S, Yao B, Xu F, Auerbach A, Buyse M, Chan A** : ExteNET Study Group. Neratinib after trastuzumab-based adjuvant therapy in HER2-positive breast cancer (ExteNET) : 5-year analysis of a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncology*.pii:S1470-2045(17)30717-9,2017.
- 008 **Ishiguro H, Saji S, Nomura S, Tanaka S, Ueno T, Onoue M, Iwata H, Yamanaka T, Sasaki Y, Toi M** : A phase I/II pharmacokinetics/pharmacodynamics study of irinotecan combined with S-1 for recurrent/metastatic breast cancer in patients with selected UGT1A1 genotypes (the JBCRG-M01 study). *Cancer Medicine*. doi: 10.1002/cam4.1258. [Epub ahead of print],2017.
- 009 **Adachi Y, Yoshimura M, Nishida K, Usuki H, Shibata K, Hattori M, Kondo N, Yatabe Y, Iwata H, Kikumori T, Kodera Y, Nakanishi H** : Acute phase dynamics of circulating tumor cells after paclitaxel and doxorubicin chemotherapy in breast cancer mouse models. *Breast Cancer Research and Treatment*.doi : 10.1007/s10549-017-4532-x. [Epub ahead of print],2017.
- 010 **Niikura N, Shimomura A, Fukatsu Y, Sawaki M, Ogiya R, Yasojima H, Fujisawa T, Yamamoto M, Tsuneizumi M, Kitani A, Watanabe J, Matsui A, Takahashi Y, Takashima S, Shien T, Tamura K, Saji S, Masuda N, Tokuda Y, Iwata H** : Durable complete response in HER2-positive breast cancer : a multicenter retrospective analysis. *Breast Cancer Research and Treatment*. doi: 10.1007/s10549-017-4489-9. [Epub ahead of print],2017.
- 011 **Kanbayashi C and Iwata H** : Current approach and future perspective for ductal carcinoma in situ of the breast. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 47(8), 671-677,2017.
- 012 **Watanabe J, Ito Y, Ohsumi S, Mizutani M, Tashiro H, Sakurai K, Takahashi M, Saito T, Tsurutani J, Mukai H, Yoshinami T, Takao S, Yamamoto Y, Matsuoka T, Iwase H, Iwata H, Nakamura S, Saeki T** : Safety and effectiveness of eribulin in Japanese patients with locally advanced or metastatic breast cancer:a post-marketing observational study. *Investigational New Drugs*,35(6):791-799,2017.
- 013 **Baselga J, Im SA, Iwata H, Cortés J, De Laurentiis M, Jiang Z, Arteaga CL, Jonat W, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, Jagiello-Gruszfeld A, Pistilli B, Tseng LM, Hurvitz S, Masuda N, Takahashi M, Vuylsteke P, Hachemi S, Dharan B, Di Tomaso E, Urban P, Massacesi C, Campone M** : Buparlisib plus fulvestrant versus placebo plus fulvestrant in postmenopausal, hormone receptor-positive, HER2-negative, advanced breast cancer (BELLE-2) : a randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet Oncology*, 18(7):904-916,2017.
- 014 **Mizota Y, Ohashi Y, Iwase T, Iwata H, Sawaki M, Kinoshita T, Taira N, Mukai H, Yamamoto S** : Rainbow of KIBOU (ROK) study : a Breast Cancer Survivor Cohort in Japan. *Breast Cancer*.doi: 10.1007/s12282-017-0784-x. [Epub ahead of print],2017.
- 015 **Shien T, Iwata H** : Significance of primary lesion resection in Stage IV breast cancer. *Japanese Journal of Clinical Oncology*,1:47(5):381-384,2017.
- 016 **Tamura K, Inoue K, Masuda N, Takao S, Kashiwaba M, Tokuda Y, Iwata H, Yamamoto N, Aogi K, Saeki T, Nakayama T, Sato N, Toyama T, Ishida T, Arioka H, Saito M, Ohno S, Yamauchi H, Yamada K, Watanabe J, Ishiguro H, Fujiwara Y** : A randomized phase II study of nab-paclitaxel as first-line chemotherapy in patients with HER2-negative metastatic breast cancer. *Cancer Science*, 108(5):987-994,2017.
- 017 **Iwata H, Masuda N, Yamamoto D, Sagara Y, Sato N, Yamamoto Y, Saito M, Fujita T, Oura S, Watanabe J, Tsukabe M, Horiguchi H, Hattori S, Matsuura Y, Kuroi K** : Circulating tumor cells as a prognostic marker for efficacy in the randomized phase III JO21095 trial in Japanese patients with HER2-negative metastatic breast cancer. *Breast Cancer Research and Treatment*, Apr;162(3):501-510,2017.
- 018 **Sawaki M** : Tailored treatment for elderly breast cancer patients. *Annals of Oncology*,28 (suppl_9) : mdx623.002,2017.
- 019 **Sawaki M, Tamura K, Shimomura A, Taki Y, Nagashima F and Iwata H** : Practice management for elderly patients with breast cancer; findings from a survey by the Japan Breast Cancer Study Group. *Nagoya Journal of Medical Science*,80 : 217-226,2018.
- 020 **Hattori M, Ishiguro H, Masuda N, Yoshimura A, Ohtani S, Yasojima H, Morita S, Ohno S, Iwata H** : Phase I dose-find-

ing study of eribulin and capecitabine for metastatic breast cancer : JBCRG-18 cape study. Breast Cancer,25 (1) ,108,2018.

- 021 **Adachi Y** : Acute phase dynamics of circulating tumor cells after paclitaxel and doxorubicin chemotherapy in breast cancer mouse models. Breast Cancer Research and Treatment,167 (2) ,439-450,2018.
- 022 **Adachi Y** : Comparison of sentinel lymph node biopsy between invasive lobular carcinoma and invasive ductal carcinoma. Breast Cancer,E-Pub,2018.
- 023 澤木正孝 : Trastuzumab+Capecitabine 療法. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2017,213-215,2017.
- 024 澤木正孝 : Trastuzumab+Vinorelbine 療法. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2017,211-212,2017.
- 025 澤木正孝 : 高齢者フレイル (Frailty) における薬物療法の工夫. 乳がん薬物療法副作用マネジメント ,357-360,2017.
- 026 澤木正孝, 岩田広治 : Oligometastatic recurrence に対する治療戦略. 癌と化学療法 ,44 (10),831-834,2017.
- 027 澤木正孝 : 高齢者がん医療の現状と課題 - 高齢者乳がん. 腫瘍内科 ,21(2),175-183,2018.
- 028 澤木正孝 : 術前化学療法による病理学的完全奏効の意義. がん分子標的治療 ,16(1),91-94,2018.
- 029 服部正也, 岩田広治 : 抗 HER2 薬. 日本臨床 , 第 75 巻 9 号 ,1332,2017.
- 030 服部正也, 岩田広治 : 乳がん. がん分子標的治療 ,Vol.15 No.3,39,2017.
- 031 服部正也, 岩田広治 : 開発中の乳癌治療薬. 日本臨床 , 第 76 回 5 号 ,845,2018.
- 032 吉村章代 : 遺伝性乳がん. 臨床外科 ,72 巻 9 号 ,1104-1108,2017.

消化器外科部

[原著]

- 001 **Koyanagi Y N, Ito H, Oze I, Hosono S, Tanaka H, Abe T, Shimizu Y, Hasegawa Y, Matsuo K** : Development of a prediction model and estimation of cumulative risk for upper aerodigestive tract cancer on the basis of the aldehyde dehydrogenase 2 genotype and alcohol consumption in a Japanese population. Eur J Cancer Prev. 26(1):38-47,2017.
- 002 **Uemura N, Abe T, Kawakami J, Hosoi T, Ito S, Shimizu Y** : Clinical Impact of Intrathoracic Herniation of Gastric Tube Pull-Up via the Retrosternal Route following Esophagectomy. Dig Surg 34(6):483-488,2017.
- 003 **Misawa K, Ito S, Ito Y, Shigeyoshi I, Komori K, Shimizu Y, Kinoshita T** : Reduced-port gastrectomy for gastric cancer with similar port arrangement to conventional five-port laparoscopic gastrectomy. Ann Laprosc Endosc Surg 2(3):73-2017.
- 004 **Kawai R, Abe T, Uemura N, Fukaya M, Saito T, Komori K,**

Yokoyama Y, Nagino M, Shinoda M, Shimizu Y : Feeding catheter gastrostomy with the round ligament of the liver prevents mechanical bowel obstruction after esophagectomy. Dis Esophagus, 30(6):1-8,2017.

- 005 **Kataoka K, Takeuchi H, Mizusawa J, Igaki H, Ozawa S, Abe T, Nakamura K, Kato K, Ando N, Kitagawa Y** : Prognostic Impact of Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer: Exploratory Analysis of JCOG9907. Ann Surg. 265(6):1152-1157,2017.
- 006 **Tanaka H, Uemura N, Abe T, Higaki E, Kawakami J, Hosoi T, An B, Komori K, Ito S, Shimizu Y** : Thoracoscopic resection of esophageal cancer with a tracheal diverticulum. Gen Thorac Cardiovasc Surg , 66(2):116-119,2018.
- 007 **Tanaka M, Fernández-Del Castillo C, Kamisawa T, Jang JY, Levy P, Ohtsuka T, Salvia R, Shimizu Y, Tada M, Wolfgang CL** : Revisions of international consensus Fukuoka guidelines for the management of IPMN of the pancreas. Pancreatology,17(5):738-753,2017.
- 008 **Bhanthumkomol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K** : Uptake of 123I-metaiodobenzylguanidine by gastrointestinal stromal tumor. Clin J Gastroenterol., 10(4):364-370,2017.
- 009 **Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y** : Histopathologic risk stratification of stage IIB colorectal cancer. Surg Today, 47(8):934-939,2017.
- 010 **Kitasaka T, Kagajo M, Nimura Y, Hayashi Y, Oda M, Misawa K, Mori K** : Automatic anatomical labeling of arteries and veins using conditional random fields. Int J Comput Assist Radiol Surg. 12(6):1041-1048,2017.
- 011 **Nomura M, Kato K, Ando N, Ohtsu A, Muro K, Igaki H, Abe T, Takeuchi H, Daiko H, Gotoh M, Kataoka K, Wakabayashi M, Kitagawa Y** : Comparison between neoadjuvant chemotherapy followed by surgery and definitive chemoradiotherapy for overall survival in patients with clinical Stage II/III esophageal squamous cell carcinoma (JCOG1406-A). Jpn J Clin Oncol, 47(6):480-486,2017.
- 012 **Karasawa K, Oda M, Kitasaka T, Misawa K, Fujiwara M, Chu Chen, Rueckert D, Zheng Guo, Mori K** : Multi-atlas pancreas segmentation: Atlas selection based on vessel structure. Medical Image Analysis,39:18-28,2017.
- 013 **Hayashi Y, Misawa K, Mori K** : Optimal port placement planning method for laparoscopic gastrectomy. International Journal of Computer Assisted Radiology and Surgery,12(18):1677-1684,2017.
- 014 **Ouchi A, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Shimizu Y, Nagino M** : Survival Benefit of Japanese Extended Lymphadenectomy for Clinically Node-Negative and Node-Pos-

- itive Colorectal Cancers. Dis Colon Rectum, 61(2):162-171,2018.
- 015 **Iwata Y, Ito S, Misawa K, Ito Y, Komori K, Abe T, Shimizu Y, Tajika M, Niwa Y, Yoshida K, Kinoshita T** : Incidence and treatment of metachronous gastric cancer after proximal gastrectomy. Surg Today, 48(5):552-557,2018.
- 016 **楊 瀛, 小田昌宏, Holger Roth, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策** : 条件付き確率場による医用画像からの多臓器抽出における Higher Order Potential とボクセル連結構造の影響に関する考察 (Influence of Higher Order Potential and Voxel-Connection in Multi-Organ Segmentation Based on Conditional Random Field). 日本医用画像工学会大会予稿集, 36:538-545,2017.
- 017 **舘 高基, 小田昌宏, 中村嘉彦, 寶珠山 裕, 三澤一成, 森 健策** : 血管情報を用いた経時リンパ節の自動対応付け手法に関する研究. 日本医用画像工学会大会, 36:498-503,2017.
- 018 **柴田睦実, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策** : ステレオ内視鏡画像からの臓器形状復元手法における複数フレームの利用に関する初期的検討. 日本医用画像工学会大会予稿集, 36:138-141,2017.
- 019 **王 成, 小田昌宏, 林 雄一郎, 三澤一成, 森 健策** : サブマップによる ORB-SLAM ベースの手術ナビゲーションシステムのロバスト性の向上 (Improvement on Robustness of ORB-SLAM Based Surgical Navigation System by Building Submap). 日本医用画像工学会大会予稿集, 36:129-132,2017.
- 020 **鉄村悠介, 張 曉楠, Roth Holger, 林 雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策** : 機械学習を用いた腹部動脈血管名自動命名における肝動脈分岐情報利用方法に関する一考察. 日本医用画像工学会大会予稿集, 36:237-239,2017
- [解説 / 特集]
- 001 **夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生** : 【膵癌治療の最前線 - 諸問題の解決にむけた取り組み -】 切除不能膵癌に対する FOLFIRINOX 療法とゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法の現状 Conversion rate と治療成績. 胆と膵, 38(8):766-770,2017.
- 002 **脇岡 範, 清水泰博, 水野伸匡, 桑原崇通, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 千田嘉毅, 夏目誠治, 平山貴視, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 渋谷 仁, 岩屋 博道, 伊東文子, 倉岡直亮, 松本慎平, 原 和生** : [今 IPMN をどう診るか] サーベイランスをめぐる諸問題 膵液細胞診・EUS-FNA の適応、有用性. 肝・胆・膵, 74(4):587-595,2017.
- 003 **夏目誠治** : 【どうなったらマズイ? 見た目で見える消化器術後ドレーンの異常】 (Part1) 消化器術後ドレーンの” 5 つの異常”. Expert Nurse, 33(11):19-35,2017.
- 004 **夏目誠治** : わたしのフィロソフィ & スキル キュア編 (第 9 回) 胆汁をめぐる冒険 抜いて終わり? じゃない、胆道ドレナージ がんと胆道ドレナージのカンケイ. プロフェッショナルがんナーシング, 7(3):210-214,2017.
- 005 **夏目誠治** : わたしのフィロソフィ & スキル キュア編 (第 10 回) 胆汁をめぐる冒険 抜いて終わり? じゃない、胆道ドレナージ 胆管ドレナージ患者さんの観察ポイントとケアのコツ. プロフェッショナルがんナーシング, 7(4):314-317,2017.
- 006 **夏目誠治** : 【どうなったらマズイ? 見た目で見える消化器術後ドレーンの異常】 (Part2) 消化器術後ドレーンに起こる” 3 つのトラブル”. Expert Nurse, 33(11):36-40, 2017.
- 007 **小森康司, 木下敬史, 大城泰平, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 檜垣栄治, 大内 晶, 筒山将之, 細井敬泰, 重吉 到, 安 炳九, 林 大介, 田中秀治, 内野大倫, 國友愛奈, 清水泰博** : 若い外科医のための大腸がん周術期薬物療法 (補助化学療法) の基本的知識. 腫瘍内科, 20(6):579-583,2017.
- 008 **伊藤誠二** : 【1 から 10 までスルッとわかる 新人ナースのための消化器外科 ドレーン管理】 (5 章) ドレーントラブル対応 自然抜去・迷入・切断. 消化器外科 Nursing, 2017 春季増刊号 (春季増刊):165-169,2017.
- 009 **伊藤誠二** : 【1 から 10 までスルッとわかる 新人ナースのための消化器外科 ドレーン管理】 (5 章) ドレーントラブル対応 ドレーン閉塞. 消化器外科 Nursing, 2017 春季増刊号 (春季増刊):170-174,2017.
- 010 **伊藤誠二** : 【1 から 10 までスルッとわかる 新人ナースのための消化器外科 ドレーン管理】 (5 章) ドレーントラブル対応 刺入部の感染. 消化器外科 Nursing, 2017 春季増刊号 (春季増刊):175-178,2017.
- 011 **栗田裕介, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 桑原崇通, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 平山 裕, 大西祥代, 田中宏樹, 安田宗司, 小畑雅寛, 松本慎平, 倉岡直亮, 伊東文子, 岩屋博道, 鳥山和浩, 谷田部 恭, 清水泰博, 丹羽康正, 原 和生** : 膵神経内分泌腫瘍診療の最前線 切除不能低分化型膵神経内分泌癌 (panNEC-G3) の特徴と薬物療法. 胆と膵, 38(12):1403-1411,2017.
- 012 **千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治** : 【胆嚢癌 - 術前診断に応じた治療を再考する -】 胆嚢癌の術前診断に応じた治療方針 T3 胆嚢癌. 胆と膵, 39(3):263-269,2018.
- 013 **夏目誠治** : ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第 1 回) 肝胆膵は語る 肝胆膵はどうして「消化器」として扱うの?. 消化器外科 Nursing, 23(1):70-72,2018.
- 014 **夏目誠治** : ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第 2 回) 肝胆膵は語る どうして肝胆膵はひとまとめに考えるの?. 消化器外科 Nursing, 23(2):157-159,2018.
- 015 **夏目誠治** : ドクター夏目の肝胆膵は語る! (第 3 回) 肝胆膵は語る 腸肝循環ってなに?. 消化器外科 Nursing, 23(3):257-259,2018.
- [症例検討]
- 001 **Komori K, Kinoshita T, Taihei O, Ito S, Abe T, Senda Y, Mis-**

awa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Shimizu Y : Coincident Port-site and Functional End-to-end Anastomotic Recurrences after Laparoscopic Surgery for Colon Cancer: A case report and literature review. Journal of Medical Investigation ,64:177-180,2017.

002 Ouchi A, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Shimizu Y : Solitary distant peritoneal metastasis of cecal cancer after laparoscopic colectomy : a case report. The Journal of Medical Investigation, 64(3-4):288-290,2017.

003 Shigeyoshi I, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Yatabe Y, Shimizu Y : A case of metachronous left ovarian metastasis 8 years after surgery for cecal cancer and right ovarian metastasis: Report of a case. Nagoya J Med Sci, 79(2):259-266,2017.

004 Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Shigeyoshi I, An B, Akazawa T, Hayashi D, Tanaka H, Uchino T, Kunitomo A, Shimizu Y : Combined resection of re-recurrent lateral lymph nodes and external iliac vein: Case Report and Literature . The Journal of Medical Investigation , 65(1.2):136-138,2018.

005 Tanaka H, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, Ouchi A, Shigeyoshi I, An B, Akazawa T, Hayashi O, Uchino T, Kunitomo A, Shimizu Y : A case of local recurrence of T1 rectal cancer 10 years after transanal excision. Nagoya J Med Sci., 80(1):135-140,2018.

006 Shigeyoshi I, Komori K, Kinoshita T, Oshiro T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Higaki E, An B, Ouchi A, Tsutsuyama M, Hosoi T, Hayashi D, Tanaka H, Uchino T, Kunitomo A : Peritoneal cecal cancer metastasis to a mesh-plug prosthesis: A case report. J Med Invest, 65:142-146,2018.

[分担執筆]

001 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生 : 特集 肝胆膵外科診療の最前線: 進行膀胱癌に対する術前化学(放射線)療法とその意義. 消化器外科, 40(6): 933-939,2017.

整形外科部

001 Aiba T, Uehara K, Tsukushi S, Yoshino Y, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T, Sugawara G, Nagino M : Perineal alveolar soft part sarcoma treated by laparoscopy-assisted total pel-

vic exenteration combined with pubic resection. Asian J Endosc Surg, 10(2):198-201,2017.

002 Takanari K, Toriyama K, Kambe M, Nakamura R, Nakamura Y, Sato H, Ebisawa K, Tsukushi S, Nishida Y, Kamei Y : Long-term functional outcome of tibial osteomyelitis reconstruction with free tissue transfer. J Plast Reconstr Aesthet Surg. pii: S1748-6815(17)30487-4. doi: 10.1016/j.jbjs.2017.11.021. [Epub ahead of print] No abstract available.2017.

003 Ikuta K, Nishida Y, Sugiura H, Tsukushi S, Yamada K, Urakawa H, Arai E, Hamada S, Ishiguro N : Predictors of complications in heat-treated autograft reconstruction after intercalary resection for malignant musculoskeletal tumors of the extremity. J Surg Oncol. doi: 10.1002/jso.25028,2018.

004 鈴木周一郎, 筑紫 聡, 吉田雅博, 小澤英史 : 臨床経験 腫瘍用人工関節感染に対して再置換術を行った6例の治療経験. 臨床整形外科, 52:551-556,2017.

泌尿器科部

001 Tomita N, Soga N, Ogura Y, Kageyama T, Kodaira T : Very high-risk prostate cancer: Stratification by outcomes of radiotherapy and long-term androgen deprivation therapy. Asia Pac J Clin Oncol,13:145-151,2017.

002 Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Shimizu H, Adachi S, Tanaka H, Kato D, Koide Y, Makita C, Tachibana H, Kodaira T : Effects of dose-escalated radiotherapy in combination with long-term androgen deprivation on prostate cancer. Br J Radiol,91:1083,2018.

003 Kageyama T, Ogura Y, Kondo S, Soga N : Spontaneous regression of an intramural bladder haematoma in a patient with Osler-Weber-Rendu Syndrome. J clin Urol, 2018.(open journal)

004 Furusawa J, Yamada Y, Soga N, Kuromatsu I : Optimal monitoring of prostate-specific antigen detects prostate cancer at the localized stage after photoselective vaporization for benign prostatic hyperplasia. Curr Urol, (In press)

005 曾我倫久人, 古澤 淳, 小倉友二 : ミニマム創内視鏡補助下腎部分切除術時における, 腫瘍部位認識補助としての近赤外蛍光の有効性. 日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌, 9:91-95,2017.

006 曾我倫久人 : 転移性膀胱癌に対する化学療法, gemcitabine/cisplatin 療法. 日本臨床, 75:285-288,2017.

婦人科部

001 Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Cannioto RA, Szender JB, Eng KH, Modugno F, Ness RB, LaMonte MJ, Friel G, Segal

- BH, Odunsi K, Mayor P, Zsiros E, Schmalfeldt B, Klapdor R, Dörk T, Hillemanns P, Kelemen LE, Köbel M, Steed H, de Fazio A; Australian Ovarian Cancer Study Group, Jordan SJ, Nagle CM, Risch HA, Rossing MA, Doherty JA, Goodman MT, Edwards R, Matsuo K, Mizuno M, Karlan BY, Kjær SK, Høgdall E, Jensen A, Schildkraut JM, Terry KL, Cramer DW, Bandera EV, Paddock LE, Kiemeny LA, Massuger LF, Kupryjanczyk J, Berchuck A, Chang-Claude J, Diergaarde B, Webb PM, Moysich KB* : Ovarian Cancer Association Consortium:History of hypertension, heart disease, and diabetes and ovarian cancer patient survival: evidence from the ovarian cancer association consortium.Cancer Causes Control.2017 May;28(5):469-486.2017.
- 002 *Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Cannioto RA, Eng KH, Szender JB, Mayor P, Etter JL, Cramer DW, Diergaarde B, Doherty JA, Dörk T, Edwards R, deFazio A, Friel G, Goodman MT, Hillemanns P, Høgdall E, Jensen A, Jordan SJ, Karlan BY, Kjær SK, Klapdor R, Matsuo K, Mizuno M, Nagle CM, Odunsi K, Paddock L, Rossing MA, Schildkraut JM, Schmalfeldt B, Segal BH, Starbuck K, Terry KL, Webb PM, Zsiros E, Ness RB, Modugno F, Bandera EV, Chang-Claude J, Moysich KB* : History of thyroid disease and survival of ovarian cancer patients: results from the Ovarian Cancer Association Consortium, a brief report.Br J Cancer.2017 Sep 26;117(7):1063-1069.2017.
- 003 *Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Eng KH, Cannioto RA, Friel G, Szender JB, Segal B, Odunsi K, Mayor P, Diergaarde B, Zsiros E, Kelemen LE, Köbel M, Steed H, deFazio A, Jordan SJ, Fasching PA, Beckmann MW, Risch HA, Rossing MA, Doherty JA, Chang-Claude J, Goodman MT, Dörk T, Edwards R, Modugno F, Ness RB, Matsuo K, Mizuno M, Karlan BY, Goode EL, Kjær SK, Høgdall E, Schildkraut JM, Terry KL, Cramer DW, Bandera EV, Paddock LE, Kiemeny LA, Massuger LFAG, Sutphen R, Anton-Culver H, Ziogas A, Menon U, Gayther SA, Ramus SJ, Gentry-Maharaj A, Pearce CL, Wu AH, Kupryjanczyk J, Jensen A, Webb PM, Moysich KB* : Ovarian Cancer Association Consortium; Australian Ovarian Cancer Study Group : History of Comorbidities and Survival of Ovarian Cancer Patients, Results from the Ovarian Cancer Association Consortium.Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.2017 Sep;26(9):1470-1473.2017.
- 004 *Hasegawa K, Kagabu M, Mizuno M, Oda K, Aoki D, Mabuchi S, Kamiura S, Yamaguchi S, Aoki Y, Saito T, Yunokawa M, Takehara K, Okamoto A, Ochiai K, Kimura T* : Phase II basket trial of perifosine monotherapy for recurrent gynecologic cancer with or without PIK3CA mutations. Invest New Drugs.2017 Dec;35(6):800-812.2017.
- 005 *Inoue S, Hosono S, Ito H, Oze I, Nishino Y, Hattori M, Matsuda T, Miyashiro I, Nakayama T, Mizuno M, Matsuo K, Kato K, Tanaka H, Ito Y* : J-CANSIS Research Group. Improvement in 5-Year Relative Survival in Cancer of the Corpus Uteri From 1993-2000 to 2001-2006 in Japan.J Epidemiol.2018 Feb 5;28(2):75-80.2017 .
- 006 *Ishikawa M, Kasamatsu T, Tsuda H, Fukunaga M, Sakamoto A, Kaku T, Nakanishi T, Hasumi Y, Iwata T, Baba T, Nogawa T, Kudaka W, Kaneda H, Ono S, Saito F, Taniguchi Y, Okada S, Mizuno M, Onda T, Yaegashi N* : Prognostic factors and optimal therapy for stages I-II neuroendocrine carcinomas of the uterine cervix: A multi-center retrospective study.Gynecol Oncol.2018 Jan;148(1):139-146.2017.
- 007 *Tamauchi S, Kajiyama H, Utsumi F, Suzuki S, Niimi K, Sakata J, Mizuno M, Shibata K, Kikkawa F* : Efficacy of medroxyprogesterone acetate treatment and retreatment for atypical endometrial hyperplasia and endometrial cancer.J Obstet Gynaecol Res.2018 Jan;44(1):151-156.2017.
- 008 *Teshigawara T, Mizuno M, Ishii T, Kitajima Y, Utsumi F, Sakata J, Kajiyama H, Shibata K, Ishizuka M, Kikkawa F* : Novel potential photodynamic therapy strategy using 5-Aminolevulinic acid for ovarian clear-cell carcinoma. Photodiagnosis Photodyn Ther, 2018 Mar;21:121-127.2017.
- 009 *Kajiyama H, Suzuki S, Yoshihara M, Nishino K, Yoshikawa N, Utsumi F, Niimi K, Mizuno M, Kawai M, Oguchi H, Mizuno K, Yamamuro O, Nagasaka T, Shibata K, Kikkawa F* : The possible existence of occult metastasis in patients with ovarian clear-cell carcinoma who underwent complete resection without any residual tumours. Oncotarget.4;9(5):6298-6307.2018.
- 010 *Ugai T, Kelemen LE, Mizuno M, Ong JS, Webb PM, Chen-eyix-Trench G; Australian Ovarian Cancer Study Group, Wicklund KG, Doherty JA, Rossing MA, Thompson PJ, Wilkens LR, Carney ME, Goodman MT, Schildkraut JM, Berchuck A, Cramer DW, Terry KL, Cai H, Shu XO, Gao YT, Xiang YB, Van Den Berg D, Pike MC, Wu AH, Pearce CL, Matsuo K* : Ovarian cancer risk, ALDH2 polymorphism and alcohol drinking: Asian data from the Ovarian Cancer Association Consortium.Ovarian Cancer Association Consortium.Cancer Sci.2018 Feb;109(2):435-445.2018.
- 011 *Matoda M, Takeshima N, Michimae H, Iwata T, Yokota H, Torii Y, Yamamoto Y, Takehara K, Nishio S, Takano H, Mizuno M, Takahashi Y, Takei Y, Hasegawa T, Mikami M, Enomoto T, Aoki D, Sugiyama T* : Postoperative chemotherapy for node-positive cervical cancer: Results of a multicenter phase II trial (JGOG1067).Gynecol Oncol.2018 Jun;149(3):513-519.2018.

放射線診断・I V R部

- 001 *Hasegawa T, Sato Y, Inaba Y, Kuroda H, Tomita N, Sakao Y* : The clinical utility and safety of radiofrequency ablation for malignant lung tumors : preliminary results. Interventional Radiology 2(2):25-32.2017.
- 002 *Sato Y, Inaba Y, Ura T, Nishiofuku H, Yamaura H, Kato M,*

- Takahari D, Tanaka T, Muro K** : Outcomes of a phase I / II trial of hepatic arterial infusion of oxaliplatin combined with intravenous 5-fluorouracil and l-leucovorin in patients with unresectable liver metastases from colorectal cancer after systemic chemotherapy failure. *J Gastrointest Canc*.49(2):132-137,2018.
- 003 **Inaba Y, Arai Y, Sone M, Aramaki T, Sone M, Aramaki T, Osuga K, Tanaka H, Kanemasa K** : Experiments for the development of a steerable microcatheter. *Cardiovasc Intervent Radiol* 40(12):1921-1926,2017.
- 004 **Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y** : Pathologic diagnosis and genetic analysis of a lung tumor needle biopsy specimen obtained immediately after radiofrequency ablation. *Cardiovasc Intervent Radiol* 41(4):594-602,2018.
- 005 **Oya Y, Yoshida T, Kuroda H, Shimizu J, Horio Y, Sakao Y, Inaba Y, Hida T, Yatabe Y** : Association between EGFR T790M status and progression patterns during initial EGFR-TKI treatment in patients harboring EGFR mutation. *Clin Lung Cancer* 18(6):698-705,2017.
- 006 **Mitani S, Kadowaki S, Komori A, Sugiyama K, Narita Y, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Sato Y, Yamaura H, Inaba Y, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Muro K** : Acute hyperammonemic encephalopathy after fluoropyrimidine-based chemotherapy : A case series and review of the literature. *Medicine(Baltimore)*. 96(22):e6874,2017.
- 007 **Ikeda M, Okusaka T, Sato Y, Furuse J, Mitsunaga S, Ueno H, Morizane C, Inaba Y, Kobayashi T, Arai Y** : A Phase I / II trial of continuous hepatic intra-arterial infusion of 5-fluorouracil,mitoxantrone and cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*. 47(6):512-519, 2017.
- 008 **Ikeda M, Shimizu S, Sato T, Morimoto M, Kojima Y, Inaba Y, Hagihara A, Kudo M, Nakamori S, Kaneko S, Sugimoto R, Tahara T, Ohmura T, Yasuki K, Sato K, Ishii H, Furuse J, Okusaka T** : Reply to the Letter to the editor 'sorafenib plus hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin versus sorafenib for advanced hepatocellular carcinoma:randomized phase II trial' by Fornaro et al. *Ann Oncol*. 28(4):903-904,2017.
- 009 **Bhanthumkomol P, Hijioka S, Mizuno N, Kuwahara T, Okuno N, Ito A, Tanaka T, Ishihara M, Hirayama Y, Onishi S, Niwa Y, Tajika M, Ito Y, Sasaki E, Inaba Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Hara K** : Uptake of 123I-metaiodobenzylguanidine by gastrointestinal stromal tumor. *Clin J Gastroenterol*. 10(4):364-370,2017.
- 010 **Yamakado K, Inaba Y, Sato Y, Yasumoto T, Hayashi S, Yamamaka T, Nobata K, Takaki H, Nakatsuka A** : Radiofrequency ablation combined with hepatic arterial chemoembolization using degradable starch microsphere mixed with mitomycin C for the treatment of liver metastasis from colorectal cancer : a prospective multicenter study. *Cardiovasc Intervent Radiol* 40(4):560-567,2017.
- 011 **佐藤洋造, 稲葉吉隆, 村田慎一** : Power port MRI isp,chrono flex catheter type の使用経験. *Rad Fan* 15(7):58-60,2017.
- 012 **高木治行, 佐藤洋造, 山門亨一郎** : 肝細胞癌に対する TACE : 最近の話題. *日本消化器病学会雑誌* 114(9):1602-1610,2017.
- 013 **佐藤洋造** : 塞栓療法と分子標的治療薬を併用するのは適切か?. *肝癌 診療ガイドライン 2017 年版*, 金原出版, 日本肝臓学会 :175-177,2017.
- 014 **村田慎一, 稲葉吉隆, 浅井 翼, 米澤祐司, 服部寿史, 松島 秀** :最先端 Angio CT がもたらす IVR の高効率化・低侵襲化. *INNERVISION* 12:59-61,2017.
- 015 **村田慎一, 稲葉吉隆** : 肝癌診療 A to Z TACE (球状塞栓物質). *肝臓クリニカルアップデート* 3(2):149-154,2017.
- 016 **稲葉吉隆, 木村佳奈子, 今井勇伍, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田結, 佐藤洋造, 山浦秀和, 浅井 翼, 岩間功訓, 宮村廣樹, 松島 秀, 脇岡 範** : ソマトスタチン受容体シンチグラフィにおいて髄膜腫に集積した 1 例. *映像情報 MEDICAL* 50(1):92-93,2018.

放射線治療部

- 001 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Kageyama T, Kodaira T** : Very-high-risk prostate cancer: stratification by outcomes of radiotherapy and long-term androgen deprivation therapy. *Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology* in press,47(5):393-400,2017.
- 002 **Suzuki H, Kato K, Nishio M, Tamaki T, Fujimoto Y, Hiramatsu M, Hanai N, Kodaira T, Itoh Y, Naganawa S, Sone M, Hasegawa Y** : FDG-PET/CT predicts survival and lung metastasis of hypopharyngeal cancer in a multi-institutional retrospective study. *Annals of Nuclear Medicine*,31(7):514-520,2017.
- 003 **Nibu KI, Hayashi R, Asakage T, Ojiri H, Kimata Y, Kodaira T, Nagao T, Nakashima T, Fujii T, Fujii H, Homma A, Matsuura K, Monden N, Beppu T, Hanai N, Kirita T, Kamei Y, Otsuki N, Kiyota N, Zenda S, Omura K, Omori K, Akimoto T, Kawabata K, Kishimoto S, Kitano H, Tohno I, Nakatsuka T** : Japanese Clinical Practice Guideline for Head and Neck Cancer. *Auris Nasus Larynx*.,44(4):375-380,2017.
- 004 **Shimizu H, Sasaki K, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Nakashima K, Yokoi K, Kubota T, Yoshimoto M, Iwata T, Kodaira T** : Analysis of modulation factor to shorten the delivery time in helical tomotherapy. *J Appl Clin Med Phys*,18(3):83-87,2017.
- 005 **Nakata Y, Hanai N, Nishikawa D, Suzuki H, Koide Y, Fukuda Y, Nomura M, Kodaira T, Shimizu T, Hasegawa Y** : Comparison between chemoselection and definitive radiotherapy in patients with cervical esophageal squamous cell carcinoma.

- noma. *Int J Clin Oncol*,22(6):1034-41,2017.
- 006 **Koide Y, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Itoh M, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Itoh Y, Naganawa S** : Clinical outcome of definitive radiation therapy for superficial esophageal cancer. *Jpn J Clin Oncol*,47(5):393-400,2017.
- 007 **Yamazaki T, Kodaira T, Ota Y, Akimoto T, Wada H, Hiratsuka J, Nishimura Y, Ishihara S, Nonoshita T, Hayakawa K, Sekii S, Uchida N** : Retrospective analysis of definitive radiotherapy for neck node metastasis from unknown primary tumor: Japanese Radiation Oncology Study Group study. *Jpn J Clin Oncol*,47(9):856-862,2017.
- 008 **Ito M, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Koide Y, Kato D, Abe T, Muro K, Tajika M, Niwa Y, Hasegawa Y** : et al. Clinical results of definitive chemoradiotherapy for cervical esophageal cancer: Comparison of failure pattern and toxicities between intensity-modulated radiation therapy and 3-dimensional conformal radiotherapy. *Head Neck*, 39(12):2406-15,2017.
- 009 **Makita C, Kodaira T, Daimon T, Tachibana H, Tomita N, Koide Y, Koide Y, Fukuda Y, Nishikawa D, Suzuki H, Hanai N, Hasegawa Y** : Comparisons of the clinical outcomes of different postoperative radiation strategies for treatment of head and neck squamous cell carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*,47 (12):1141-50,2017.
- 010 **Kamomae T, Shimizu H, Nakaya T, Okudaira K, Aoyama T, Oguchi H, Komori M, Kawamura M, Ohtakara K, Monzen H, Itoh Y, Naganawa S** : Three-dimensional printer generated patient-specific phantom for artificial in vivo dosimetry in radiotherapy quality assurance. *Physica Medica*,2017.
- 011 **Homma A, Onimaru R, Matsuura K, Shinomiya H, Sakashita T, Shiga K, Tachibana H, Nakamura K, Mizusawa J, Kitahara H, Eba J, Fukuda H, Fujii M, Hayashi R** : Dose-finding and efficacy confirmation trial of the superselective intra-arterial infusion of cisplatin and concomitant radiotherapy for locally advanced maxillary sinus cancer (Japan Clinical Oncology Group 1212) : Dose-finding phase. *Head Neck*,2018 Mar ; 40(3) : 475-484,doi : 10.1002/hed.25001.,Epub Nov 11,2017.
- 012 **T. Kodaira, Y. Kagami, T. Shibata, N. Shikama, Y. Nishimura, S. Ishikura, K. Nakamura, Y. Saito, Y. Matsumoto, T. Teshima, Y. Ito, T. Akimoto, K. Nakata, T. Toshiyasu, K. Nakagawa, Y. Nagata, T. Nishimura, T. Uno, M. Kataoka, A. Yorozu and M. Hiraoka** : for the Radiation Therapy Study Group of the Japan Clinical Oncology Group. Results of a multi-institutional, randomized, non-inferiority, phase 3 trial of accelerated fractionation versus standard fractionation in radiation therapy for T1-2N0M0 glottic cancer. *Japan Clinical Oncology Group study (JCOG0701) Annals of Oncology*. 29(4):992-997,2018.
- 013 **Kato H, Yamamoto K, Kodaira T, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Immunophenotypic analysis of adult patients with T-cell lymphoblastic lymphoma treated with hyper-CVAD. *Hematology*,23(2): 83-88, 2018
- 014 **Shimizu H, Sasaki K, Sugi K, Fukuma H, Nakabayashi T, Isomura T, Tachibana H, Kodaira T** : Variations in tomotherapy beam outputs : a multiple-institutional investigation. *International Journal of Medical Physics.Clinical Engineering and Radiation Oncology*,7:87-99,2018
- 015 **Tomita N, Soga N, Ogura Y, Furusawa J, Shimizu H, Adachi S, Tanaka H, Kato D, Koide Y, Makita C, Tachibana H, Kodaira T** : Effects of dose-escalated radiotherapy in combination with long-term androgen deprivation on prostate cancer. *Br J Radiol* in press.
- 016 **Ito M, Shimizu H, Aoyama T, Tachibana H, Tomita N, Makita C, Koide Y, Kato D, Ishiguchi T, Kodaira T** : Efficacy of virtual block objects in reducing the lung dose in helical tomotherapy planning for cervical oesophageal cancer. a planning study.*Radiat Oncol*,4;13(1):62, Apr 2018.
- 017 **Tomita N, Mizuno M, Kondo S, Mori M, Takeshita S, Sakata J, Tsubouchi H, Kodaira T** : Role of Extensive Lymphadenectomy in Early-Stage Cervical Cancer Patients With Radical Hysterectomy Followed by Adjuvant Radiotherapy. *Int J Gynecol Cancer* in press
- 018 **Shimizu H, Sasaki K, Kubota T, Fukuma H, Aoyama T, Iwata T, Tachibana H, Kodaira T** : Interfacility variation in treatment planning parameters in tomotherapy : field width, pitch, and modulation factor. *J of Radiat Research*, in press.
- 019 古平 毅 : VIII 章 頭頸部癌の治療 2 放射線治療・薬物療法 (4) 口腔・咽頭・喉頭癌 ① (薬物) 同時併用療法. 日本臨床増刊 頭頸部癌学 診断と治療の最終研究動向 林隆一 編, 日本臨床社, p441-445,2017.
- 020 古平 毅 : 6. 頭頸部 C. 上咽頭癌 D. 中咽頭癌 E. 下咽頭癌. 放射線治療学 6 版, 南山堂 :136-152,2017.
- 021 古平 毅, 大西 洋, 唐澤克之, 唐澤久美子 : がん放射線療法 2017. 第二版, 「総論」 658-662, 「下咽頭」 698-708,2017.
- 022 古平 毅 : 17. 頭頸部癌に対する頸部照射 (照射野) について教えてください. *JOHNS*,33(9):1237-1240,2017.
- 023 古平 毅 : 特集 腫瘍に対する放射線治療—高度化・個別化治療—II. 先端放射線治療 2. 癌腫別放射線治療 (2) 頭頸部癌. *日本臨床*, 75(8):1224-8,2017.
- 024 古平 毅 : 特集 どこが変わった頭頸部癌 TNM 分類各論 上咽頭癌. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 89(13):1074-79,2017.
- 025 古平 毅 : 特集 頭頸部がんに対する薬物療法—最新情報— 4) 上咽頭がんに対する化学療法. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科*, 90(3):228-232,2018.
- 026 古平 毅 : 質疑応答 プロからプロへ 放射線科分野 頭頸部癌における強度変調放射線治療の有用性. *日本医事新報*, 4910:p55,2018.
- 027 古平 毅 : 新臨床腫瘍学改訂 5 版 南江堂 日本臨床腫瘍

学会 編集委員会. 9. 放射線治療概論,2018(in press).

- 028 古平 毅：癌治療で起こる副作用・合併症の治療法と薬物開発 技術情報協会 2章 放射線治療で起こる副作用の病態と実臨床での具体的対処法. 7節 唾液腺障害,2018(in press).
- 029 古平 毅：Current Organ Topics III.放射線治療の現状と展望. 癌と化学療法, 45(7),2018(in press).
- 030 古平 毅：どこが変わった頭頸部癌診療ガイドライン 3) 上咽頭癌、耳鼻咽喉科・頭頸部外科,90(10),2018(in press).
- 031 古平 毅：どこが変わった頭頸部癌診療ガイドライン 10)放射線治療 耳鼻咽喉科・頭頸部外科,90(10):2018(in press).

外来部

- 001 *Takahashi M, Tsuchiya M, Horio Y, Funazaki H, Aogi K, Miyauchi K, Arai Y* : ob resignation after cancer diagnosis among working survivors in Japan: timing, reasons and change of information needs over time. Jpn J Clin Oncol. 48:43-51,2018.
- 002 堀尾 芳嗣：非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害剤の臨床開発(総説) がん免疫療法 - What' s now and what' s next? - 遺伝子医学 MOOK 31号 :75-83,2017

緩和ケア部

- 001 *Amano K, Maeda I, Morita T, Baba M, Miura T, Hama T, Mori I, Nakajima N, Nishi T, Sakurai H, Shimoyama S, Shinjo T, Shirayama H, Yamada T, Ono S, Ozawa T, Yamamoto R, Yamamoto N, Shishido H, Kinoshita H* : C-reactive protein, symptoms and activity of daily living in patients with advanced cancer receiving palliative care. J Cachexia Sarcopenia Muscle, 8:457-465, 2017
- 002 *Matsuo N, Morita T, Matsuda Y, Okamoto K, Matsumoto Y, Kaneishi K, Odagiri T, Sakurai H, Katayama H, Mori I, Yamada H, Watanabe H, Yokoyama T, Yamaguchi T, Nishi T, Shirado A, Hiramoto S, Watanabe T, Kohara H, Shimoyama S, Aruga E, Baba M, Sumita K, Iwase S* : Predictors of Delirium in Corticosteroid-Treated Patients with Advanced Cancer:An Exploratory, Multicenter, Prospective, Observational Study. J Palliat Med, 20:352-359, 2017
- 003 伊勢雄也, 片山志郎, 下山理史, 新田都子：緩和ケアでの問題解決力を磨く！ 薬剤師のための5ステップ実践ガイド(第12回) 強オピオイドで改善されない難治性の痛み(解説). 薬局, 68:3836-48, 2017.

精神腫瘍科部

- 001 小森康永：解説 最初のがんサバイバー、フィッツ・ミュラン医師、ミュラン(改田明子訳)がんサバイバー. ちとせプレス,2017所収.
- 002 C. ソンダース(小森康永訳)：シシリー・ソンドース 初期論文集 1958-1966, 北大路書房,2017.
- 003 C. ソンダース(小森康永訳)：ナースのためのシシリー・ソンドース. 北大路房,2017.
- 004 小森康永：FAST FACT (第19回) デイグニティセラピー、緩和ケア 28(1):63,2018.
- 005 小森康永：解説『母のがん』、フィース(高木萌訳)母のがん. ちとせプレス,2018.

看護部

[原稿執筆]

- 001 南谷志野：パート職員の「特性」から考える協働と教育. 外来看護,23(1):2-7,2018.
- 002 南谷志野：看護補助者との協働のために取り組んだ5つの改善策. ナーシングビジネス,11(12):21-25,2017.
- 003 向井未年子：早期だから知っておきたい緩和ケア～つらい治療から生活の中の治療へ～. がん看護,22(4):385-431,2017.
- 004 向井未年子：外来緩和ケア 超実践術 病棟と緩和ケア外来の連携. 緩和ケア,27(5):330-333,2017.
- 005 青山寿昭：まるごと図解摂食嚥下ケア,2017.
- 006 西尾里美：危機状況にある患者・家族の危機分析と看護介入-事例集(第2版):31-36,58-63,2017.
- 007 新田都子：強オピオイドで改善されない難治性の痛み Step5 医師・看護師から求められるものは何か?. 薬局 68(13):141-142,2017.
- 008 中島貴子：中咽頭がん CRT 後嚥下障害における経腸栄養と血糖管理. GV case Report 1:5-6,2017.
- 009 久保 知：放射線療法時のケア. 乳がん患者ケアパーフェクトガイド:185-194,2017.
- 010 高橋亜矢：術式ごとに手術看護を極める・膝頭十二指腸切除術. 手術看護エキスパートナース,11(4):14-21,2017.
- 011 渡邊清永：肺がん胸腔鏡手術における術後回復強化プロトコル(E R A S)の評価. 日本クリニカルパス学会誌,19(3):227-232,2017.
- 012 小沢あゆみ, 福嶋敬子, 稲葉吉隆, 佐藤洋造：経皮経肝的胆道ドレナージ・経皮的胆管ステント留置術の看護・介助. 消化器看護,22(12・1)：81-88,2017.

薬剤部

- 001 *Maeda A, Ando H, Ura T, Muro K, Aoki M, Saito K, Kondo E, Takahashi S, Ito Y, Mizuno Y, Fujimura A* : Differences in urinary renal failure biomarkers in cancer patients

initially treated with cisplatin. Anticancer Research, 37(9):5235-5239,2017.

- 002 前田章光, 下村一景, 栗原幸司, 原かをり, 高畑知帆子, 小原真紀子, 稲熊一英, 水野靖也: エクアシールド (EQUASHIELD[®]) を用いたシクロホスファミド調製における調製者手袋の汚染状況調査. 医療薬学, 43(12):713-8,2017.
- 003 前田章光: 急性腎障害. 月刊薬事, 60(4):673-677,2018

6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 **Nakagawa-Senda H, Yamaguchi M, Matsuda T, Koide K, Kondo Y, Tanaka H, Ito H** : Cancer Prevalence in Aichi, Japan for 2012: Estimates Based on Incidence and Survival Data from Population-Based Cancer Registry. *Asian Pac J Cancer Prev*, 18(8):2151-6,2017.
- 002 **Nakagawa-Senda H, Hachiya T, Shimizu A, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Matsuo K, Ito H, Hara M, Nishida Y, Endoh K, Kuriki K, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Nindita Y, Ibusuki R, Suzuki S, Hosono A, Mikami H, Nakamura Y, Takashima N, Nakamura Y, Kuriyama N, Ozaki E, Furusyo N, Ikezaki H, Nakatochi M, Sasakabe T, Kawai S, Okada R, Hishida A, Naito M, Wakai K, Momozawa Y, Kubo M, Tanaka H** : A Genome-Wide Association Study in the Japanese Population Identifies the 12q24 Locus for Habitual Coffee Consumption: The J-Micc Study. *Sci Rep*, 8(1):1493,2018.
- 003 **Nakagawa H, Ito H, Hosono S, Oze I, Mikami H, Hattori M, Nishino Y, Sugiyama H, Nakata K, Tanaka H** : Changes in Trends in Colorectal Cancer Incidence Rate by Anatomical Site between 1978 and 2004 in Japan. *Eur J Cancer Prev*, 26(4):269-76,2017.
- 004 **Nakagawa-Senda H, Ito H, Hosono S, Oze I, Tanaka H, Matsuo K** : Coffee Consumption and the Risk of Colorectal Cancer by Anatomical Subsite in Japan: Results from the Herpacc Studies. *Int J Cancer*, 141(2):298-308,2017.
- 005 **Shishido Y, Tomoike F, Kimura Y, Kuwata K, Yano T, Fukui K, Fujikawa H, Sekido Y, Murakami-Tonami Y, Kameda T, Shuto S, Abe H** : A Covalent G-site Inhibitor for Glutathione S-Transferase Pi (GSTP1-1). *Chem Commun (Camb)*, 53(81):11138-11141,2017
- 006 **Sato T, Higuchi Y, Shibagaki Y, Hattori S** : Phosphoproteomic Analysis Identifies Signaling Pathways Regulated by Curcumin in Human Colon Cancer Cells. *Anticancer Res*,37(9):4789-4798,2017
- 007 **Shigeeda W, Shibasaki M, Yasuhira S, Kaneko Y, Masuda T, Tanita T, Sato T, Sekido Y, Maesawa C** : Hyaluronic acid enhances cell migration and invasion via the YAP1/TAZ-RHAMM axis in malignant pleural mesothelioma. *Oncotarget*,8(55):93729-93740,2017
- 008 **McCambridge AJ, Napolitano A, Mansfield AS, Fennell DA, Sekido Y, Nowak AK, Reungwetwattana T, Mao W, Pass HI, Carbone M, Yang H, Peikert T** : State of the Art: Advances in Malignant Pleural Mesothelioma in 2017. *J Thorac Oncol*,13(5):606-623,2018
- 009 **Sekido Y** : Targeting the Hippo Pathway Is a New Potential Therapeutic Modality for Malignant Mesothelioma. *Cancers (Basel)*,10(4),2018
- 010 **Sato T, Sekido Y** : NF2/Merlin Inactivation and Potential Therapeutic Targets in Mesothelioma. *Int J Mol Sci*,19(4),2018

遺伝子医療研究部

分子腫瘍学部

- 001 **Kato T, Sato T, Yokoi K, Sekido Y** : E-cadherin expression is correlated with focal adhesion kinase inhibitor resistance in Merlin-negative malignant mesothelioma cells. *Oncogene*,36(39):5522-5531,2017
- 002 **Chew SH, Okazaki Y, Akatsuka S, Wang S, Jiang L, Ohara Y, Ito F, Saya H, Sekido Y, Toyokuni S** : Rheostatic CD44 isoform expression and its association with oxidative stress in human malignant mesothelioma. *Free Radic Biol Med*,106:91-99,2017
- 003 **Kakumu T, Sato M, Goto D, Kato T, Yogo N, Hase T, Morise M, Fukui T, Yokoi K, Sekido Y, Girard L, Minna JD, Byers LA, Heymach JV, Coombes KR, Kondo M, Hasegawa Y** : Identification of Proteasomal Catalytic Subunit PSMA6 as a Therapeutic Target for Lung Cancer. *Cancer Sci*,108(4):732-743,2017
- 004 **Lin KC, Moroishi T, Meng Z, Jeong HS, Plouffe SW, Sekido Y, Han J, Park HW, Guan KL** : Regulation of Hippo pathway transcription factor TEAD by p38 MAPK-induced cytoplasmic translocation. *Nat Cell Biol*,19(8):996-1002,2017
- 001 **Kawaguchi T, Shima T, Mizuno M, Mitsumoto Y, Umemura A, Kanbara Y, Tanaka S, Sumida Y, Yasui K, Takahashi M, Matsuo K, Itoh Y, Tokushige K, Hashimoto E, Kiyosawa K, Kawaguchi M, Itoh H, Uto H, Komorizono Y, Shirabe K, Takami S, Takamura T, Kawanaka M, Yamada R, Matsuda F, Okanoue T** : Risk Estimation Model for Nonalcoholic Fatty Liver Disease in the Japanese Using Multiple Genetic Markers. *PLoS One*, 13(1):e0185490,2018.
- 002 **Fujisawa S, Mizuta S, Akiyama H, Ueda Y, Aoyama Y, Hatta Y, Kakihana K, Dobashi N, Sugiura I, Onishi Y, Maeda T, Imai K, Ohtake S, Miyazaki Y, Ohnishi K, Matsuo K, Naoe T** : Phase II Study of Imatinib-Based Chemotherapy for Newly Diagnosed Bcr-Abl-Positive Acute Lymphoblastic Leukemia. *Am J Hematol*, 92(4):367-74,2017.
- 003 **Hori H, Kudoh T, Nishimura S, Oda M, Yoshida M, Hara J, Tawa A, Usami I, Tanizawa A, Yumura-Yagi K, Kato K, Kobayashi R, Komada Y, Matsuo K, Horibe K** : Acute and Late Toxicities of Pirarubicin in the Treatment of Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia: Results from a Clinical Trial by the Japan Association of Childhood Leukemia

- Study. *Int J Clin Oncol*, 22(2):387-96,2017.
- 004 **Kako S, Akahoshi Y, Harada N, Nakano H, Kameda K, Ugai T, Yamasaki R, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Ashizawa M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Yamazaki R, Kanda J, Kanda Y** : Hla-Mismatched Haploidentical Transplantation Using Low-Dose Anti-Thymocyte Globulin (Atg: Thymoglobulin). *Hematology*, 22(3):129-35,2017.
- 005 **Okumura N, Sonobe M, Okabe K, Nakamura H, Kataoka M, Yamashita M, Nakata M, Kataoka K, Yamashita Y, Soh J, Yoshioka H, Hotta K, Matsuo K, Sakamoto J, Toyooka S, Date H** : Feasibility of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Plus Carboplatin Followed by Single-Agent Maintenance Therapy with S-1 for Completely Resected Non-Small-Cell Lung Cancer: Results of the Setouchi Lung Cancer Group Study 1001. *Int J Clin Oncol*, 22(2):274-82,2017.
- 006 **Sado J, Kitamura T, Kitamura Y, Zha L, Liu R, Sobue T, Nishino Y, Tanaka H, Nakayama T, Tsuji I, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Tominaga S** : Rationale, Design, and Profile of the Three-Prefecture Cohort in Japan: A 15-Year Follow-Up. *J Epidemiol*, 27(4):193-9,2017.
- 007 **Takachi R, Inoue M, Sugawara Y, Tsuji I, Tsugane S, Ito H, Matsuo K, Tanaka K, Tamakoshi A, Mizoue T, Wakai K, Nagata C, Sasazuki S** : Fruit and Vegetable Intake and the Risk of Overall Cancer in Japanese: A Pooled Analysis of Population-Based Cohort Studies. *J Epidemiol*, 27(4):152-62,2017.
- 008 **Masaoka H, Ito H, Gallus S, Watanabe M, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K** : Combination of Aldh2 and Adh1b Polymorphisms Is Associated with Smoking Initiation: A Large-Scale Cross-Sectional Study in a Japanese Population. *Drug Alcohol Depend*, 173:85-91,2017.
- 009 **Yoshizato T, Nannya Y, Atsuta Y, Shiozawa Y, Iijima-Yamashita Y, Yoshida K, Shiraishi Y, Suzuki H, Nagata Y, Sato Y, Kakiuchi N, Matsuo K, Onizuka M, Kataoka K, Chiba K, Tanaka H, Ueno H, Nakagawa MM, Przychodzen B, Haferlach C, Kern W, Aoki K, Itonaga H, Kanda Y, Sekeres MA, Maciejewski JP, Haferlach T, Miyazaki Y, Horibe K, Sanada M, Miyano S, Makishima H, Ogawa S** : Genetic Abnormalities in Myelodysplasia and Secondary Acute Myeloid Leukemia: Impact on Outcome of Stem Cell Transplantation. *Blood*, 129(17):2347-58,2017.
- 010 **Masaoka H, Ito H, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K** : Potential Overtreatment among Men Aged 80 Years and Older with Localized Prostate Cancer in Japan. *Cancer Sci*, 108(8):1673-80,2017.
- 011 **Ugai T, Kanda Y, Morishima Y, Matsuo K** : Role of Genetic Polymorphism of Aldh2 in Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant*, 23(8):1374-80,2017.
- 012 **Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Iwasaki M, Yamaji T, Shimazu T, Sasazuki S, Inoue M, Kanda Y, Tsugane S** : Coffee and Green Tea Consumption and Subsequent Risk of Malignant Lymphoma and Multiple Myeloma in Japan: The Japan Public Health Center-Based Prospective Study. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 26(8):1352-6,2017.
- 013 **Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Okusaka T, Yanagimoto H, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Yane K, Maguchi H, Tsuchiya Y, Komoto I, Tanaka H, Tsuji A, Hashigo S, Kawaguchi Y, Mine T, Kanno A, Murohisa G, Miyabe K, Takagi T, Matayoshi N, Yoshida T, Hara K, Imamura M, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N** : Rb Loss and Kras Mutation Are Predictors of the Response to Platinum-Based Chemotherapy in Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm with Grade 3: A Japanese Multicenter Pancreatic Nen-G3 Study. *Clin Cancer Res*, 23(16):4625-32,2017.
- 014 **Nakagawa-Senda H, Yamaguchi M, Matsuda T, Koide K, Kondo Y, Tanaka H, Ito H** : Cancer Prevalence in Aichi, Japan for 2012: Estimates Based on Incidence and Survival Data from Population-Based Cancer Registry. *Asian Pac J Cancer Prev*, 18(8):2151-6,2017.
- 015 **Abe M, Ito H, Oze I, Nomura M, Ogawa Y, Matsuo K** : The More from East-Asian, the Better: Risk Prediction of Colorectal Cancer Risk by Gwas-Identified Snps among Japanese. *J Cancer Res Clin Oncol*, 143(12):2481-92,2017.
- 016 **Maeda Y, Nishimori H, Yoshida I, Hiramatsu Y, Uno M, Masaki Y, Sunami K, Masunari T, Nawa Y, Yamane H, Gomyo H, Takahashi T, Yano T, Matsuo K, Ohshima K, Nakamura S, Yoshino T, Tanimoto M** : Dose-Adjusted Epoch Chemotherapy for Untreated Peripheral T-Cell Lymphomas: A Multicenter Phase Ii Trial of West-Jhog Ptc10707. *Hematologica*, 102(12):2097-103,2017.
- 017 **Milne RL, Kuchenbaecker KB, Michailidou K, Beesley J, Kar S, Lindstrom S, Hui S, Lemacon A, Soucy P, Dennis J, Jiang X, Rostamianfar A, Finucane H, Bolla MK, McGuffog L, Wang Q, Aalfs CM, Adams M, Adlard J, Agata S, Ahmed S, Ahsan H, Aittomaki K, Al-Ejeh F, Allen J, Ambrosone CB, Amos CI, Andrulis IL, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Arnold N, Aronson KJ, Auber B, Auer PL, Ausems M, Azzollini J, Bacot F, Balmana J, Barile M, Barjhoux L, Barkardottir RB, Barrdahl M, Barnes D, Barrowdale D, Baynes C, Beckmann MW, Benitez J, Bermisheva M, Bernstein L, Bignon YJ, Blazer KR, Blok MJ, Blomqvist C, Blot W, Bobolis K, Boeckx B, Bogdanova NV, Bojesen A, Bojesen SE, Bonanni B, Borresen-Dale AL, Bozsik A, Bradbury AR, Brand JS, Brauch H, Brenner H, Bressac-de Paillerets B, Brewer C, Brinton L, Broberg P, Brooks-Wilson A, Brunet J, Bruning T, Burwinkel B, Buys SS, Byun J, Cai Q, Caldes T, Caligo MA, Campbell I, Canzian F, Caron O, Carracedo A, Carter BD, Castelao JE, Castera L, Caux-Moncoutier V, Chan SB, Chang-Claude J, Chanock SJ, Chen X, Cheng TD, Chiquette J, Christiansen H, Claes KBM, Clarke CL, Conner T, Conroy**

- DM, Cook J, Cordina-Duverger E, Cornelissen S, Coupier I, Cox A, Cox DG, Cross SS, Cuk K, Cunningham JM, Czene K, Daly MB, Daniola F, Darabi H, Davidson R, De Leeneer K, Devilee P, Dicks E, Diez O, Ding YC, Ditsch N, Doheny KF, Domchek SM, Dorfling CM, Dork T, Dos-Santos-Silva I, Dubois S, Dugue PA, Dumont M, Dunning AM, Durcan L, Dwek M, Dworniczak B, Eccles D, Eeles R, Ehrencrona H, Eilber U, Ejlersen B, Ekici AB, Eliassen AH, Engel C, Eriksson M, Fachal L, Faivre L, Fasching PA, Faust U, Figueroa J, Flesch-Janys D, Fletcher O, Flyger H, Foulkes WD, Friedman E, Fritschi L, Frost D, Gabrielson M, Gaddam P, Gammone MD, Ganz PA, Gapstur SM, Garber J, Garcia-Barberan V, Garcia-Saenz JA, Gaudet MM, Gauthier-Villars M, Gehrig A, Georgoulas V, Gerdes AM, Giles GG, Glendon G, Godwin AK, Goldberg MS, Goldgar DE, Gonzalez-Neira A, Goodfellow P, Greene MH, Alnaes GIG, Grip M, Gronwald J, Grundy A, Gschwantler-Kaulich D, Guenel P, Guo Q, Haeberle L, Hahnen E, Haiman CA, Hakansson N, Hallberg E, Hamann U, Hamel N, Hankinson S, Hansen TVO, Harrington P, Hart SN, Hartikainen JM, Healey CS, Hein A, Helbig S, Henderson A, Heyworth J, Hicks B, Hillemanns P, Hodgson S, Hogervorst FB, Hollestelle A, Hooning MJ, Hoover B, Hopper JL, Hu C, Huang G, Hulick PJ, Humphreys K, Hunter DJ, Imyanitov EN, Isaacs C, Iwasaki M, Izatt L, Jakubowska A, James P, Janavicius R, Janni W, Jensen UB, John EM, Johnson N, Jones K, Jones M, Jukkola-Vuorinen A, Kaaks R, Kabisch M, Kaczmarski K, Kang D, Kast K, Keeman R, Kerin MJ, Kets CM, Keupers M, Khan S, Khusnutdinova E, Kiiski JI, Kim SW, Knight JA, Konstantopoulou I, Kosma VM, Kristensen VN, Kruse TA, Kwong A, Laenkholm AV, Laitman Y, Lalloo F, Lambrechts D, Landsman K, Lasset C, Lazaro C, Le Marchand L, Lecarpentier J, Lee A, Lee E, Lee JW, Lee MH, Lejbkovicz F, Lesueur F, Li J, Lilyquist J, Lincoln A, Lindblom A, Lissowska J, Lo WY, Loibl S, Long J, Loud JT, Lubinski J, Luccarini C, Lush M, MacInnis RJ, Maishman T, Makalic E, Kostovska IM, Malone KE, Manoukian S, Manson JE, Margolin S, Martens JWM, Martinez ME, Matsuo K, Mavroudis D, Mazoyer S, McLean C, Meijers-Heijboer H, Menendez P, Meyer J, Miao H, Miller A, Miller N, Mitchell G, Montagna M, Muir K, Mulligan AM, Mulot C, Nadesan S, Nathanson KL, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Nevelsteen I, Niederacher D, Nielsen SF, Nordestgaard BG, Norman A, Nussbaum RL, Olah E, Olopade OI, Olson JE, Olswold C, Ong KR, Oosterwijk JC, Orr N, Osorio A, Pankratz VS, Papi L, Park-Simon TW, Paulsson-Karlsson Y, Lloyd R, Pedersen IS, Peissel B, Peixoto A, Perez JIA, Peterlongo P, Peto J, Pfeiler G, Phelan CM, Pinchev M, Plaseska-Karanfilska D, Poppe B, Porteous ME, Prentice R, Presneau N, Prokofieva D, Pugh E, Pujana MA, Pylkas K, Rack B, Radice P, Rahman N, Rantala J, Rappaport-Fuerhauser C, Rennert G, Rennert HS, Rhenius V, Rhiem K, Richardson A, Rodriguez GC, Romero A, Romm J, Rookus MA, Rudolph A, Ruediger T, Saloustros E, Sanders J, Sandler DP, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt DF, Schoemaker MJ, Schumacher F, Schurmann P, Schwentner L, Scott C, Scott RJ, Seal S, Senter L, Seynaeve C, Shah M, Sharma P, Shen CY, Sheng X, Shimelis H, Shrubsole MJ, Shu XO, Side LE, Singer CF, Sohn C, Southey MC, Spinelli JJ, Spurdle AB, Stegmaier C, Stoppa-Lyonnet D, Sukiennicki G, Surowy H, Sutter C, Swerdlow A, Szabo CI, Tamimi RM, Tan YY, Taylor JA, Tejada MI, Tengstrom M, Teo SH, Terry MB, Tessier DC, Teule A, Thone K, Thull DL, Tibiletti MG, Tihomirova L, Tischkowitz M, Toland AE, Tollenaar R, Tomlinson I, Tong L, Torres D, Tranchant M, Truong T, Tucker K, Tung N, Tyrer J, Ulmer HU, Vachon C, van Asperen CJ, Van Den Berg D, van den Ouweland AMW, van Rensburg EJ, Varesco L, Varon-Mateeva R, Vega A, Viel A, Vijai J, Vincent D, Vollenweider J, Walker L, Wang Z, Wang-Gohrke S, Wappenschmidt B, Weinberg CR, Weitzel JN, Wendt C, Wesseling J, Whittemore AS, Wijnen JT, Willett W, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Xia L, Yang XR, Yannoukakos D, Zaffaroni D, Zheng W, Zhu B, Ziogas A, Ziv E, Zorn KK, Gago-Dominguez M, Mannermaa A, Olsson H, Teixeira MR, Stone J, Offit K, Ottini L, Park SK, Thomassen M, Hall P, Meindl A, Schmutzler RK, Droit A, Bader GD, Pharoah PDP, Couch FJ, Easton DF, Kraft P, Chenevix-Trench G, Garcia-Closas M, Schmidt MK, Antoniou AC, Simard J : Identification of Ten Variants Associated with Risk of Estrogen-Receptor-Negative Breast Cancer. *Nat Genet*, 49(12):1767-78,2017.
- 018 Niibe Y, Onda T, Matsuo K, Inoue Y, Hayakawa K : Phase II Study of Concurrent Chemoradiotherapy Using Nedaplatin for Locally Advanced Uterine Cervical Carcinoma (Kgrog0501): Final Results. *Anticancer Res*, 37(12):6983-8,2017.
- 019 Saito E, Inoue M, Tsugane S, Ito H, Matsuo K, Wakai K, Wada K, Nagata C, Tamakoshi A, Sugawara Y, Tsuji I, Mizoue T, Tanaka K, Sasazuki S : Smoking Cessation and Subsequent Risk of Cancer: A Pooled Analysis of Eight Population-Based Cohort Studies in Japan. *Cancer Epidemiol*, 51:98-108,2017.
- 020 Terao C, Okada Y, Ikari K, Kochi Y, Suzuki A, Ohmura K, Matsuo K, Taniguchi A, Kubo M, Raychaudhuri S, Yamamoto K, Yamanaka H, Kamatani Y, Mimori T, Matsuda F : Genetic Landscape of Interactive Effects of Hla-Drb1 Alleles on Susceptibility to Acpa(+) Rheumatoid Arthritis and Acpa Levels in Japanese Population. *J Med Genet*, 54(12):853-8,2017.
- 021 Koyama T, Kuriyama N, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Takeshita W, Iwai K, Watanabe Y, Nakatochi M, Shimano C, Tanaka K, Oze I, Ito H, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Ibusuki R, Shimoshikiryō I, Takashima N, Kadota A, Kawai S, Sasakabe T, Okada R, Hishida A, Naito M, Kuriki K, Endoh K, Furusyo N, Ikezaki H, Suzuki S, Hosono A, Mikami H, Nakamura Y, Kubo M, Wakai K : Genetic Variants of Ramp2 and Clr Are Associated with Stroke. *J Atheroscler*

- Thromb, 24(12):1267-81,2017.
- 022 **Masaoka H, Matsuo K, Sawada N, Yamaji T, Goto A, Shimazu T, Iwasaki M, Inoue M, Eto M, Tsugane S** : Alcohol Consumption and Bladder Cancer Risk with or without the Flushing Response: The Japan Public Health Center-Based Prospective Study. *Int J Cancer*, 141(12):2480-8,2017.
- 023 **Akahoshi Y, Kimura SI, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Harada N, Kusuda M, Kameda K, Ugai T, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Kanda Y** : Delayed Platelet Recovery after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Association with Chronic Graft-Versus-Host Disease and Survival Outcome. *Hematol Oncol*, 36(1):276-84,2018.
- 024 **Narita Y, Kadowaki S, Oze I, Kito Y, Kawakami T, Machida N, Taniguchi H, Ura T, Ando M, Ito S, Tajika M, Yatabe Y, Yasui H, Muro K** : Establishment and Validation of Prognostic Nomograms in First-Line Metastatic Gastric Cancer Patients. *J Gastrointest Oncol*, 9(1):52-63,2018.
- 025 **Ugai T, Kelemen LE, Mizuno M, Ong JS, Webb PM, Chen-*evix-Trench G, Wicklund KG, Doherty JA, Rossing MA, Thompson PJ, Wilkens LR, Carney ME, Goodman MT, Schildkraut JM, Berchuck A, Cramer DW, Terry KL, Cai H, Shu XO, Gao YT, Xiang YB, Van Den Berg D, Pike MC, Wu AH, Pearce CL, Matsuo K*** : Ovarian Cancer Risk, Aldh2 Polymorphism and Alcohol Drinking: Asian Data from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Cancer Sci*, 109(2):435-45,2018.
- 026 **Ugai T, Matsuo K, Oze I, Ito H, Wakai K, Wada K, Nagata C, Nakayama T, Liu R, Kitamura Y, Tamakoshi A, Tsuji I, Sugawara Y, Sawada N, Sadakane A, Tanaka K, Mizoue T, Inoue M, Tsugane S, Shimazu T** : Smoking and Subsequent Risk of Acute Myeloid Leukaemia: A Pooled Analysis of 9 Cohort Studies in Japan. *Hematol Oncol*, 36(1):262-8,2018.
- 027 **Inoue S, Hosono S, Ito H, Oze I, Nishino Y, Hattori M, Matsuda T, Miyashiro I, Nakayama T, Mizuno M, Matsuo K, Kato K, Tanaka H, Ito Y** : Improvement in 5-Year Relative Survival in Cancer of the Corpus Uteri from 1993-2000 to 2001-2006 in Japan. *J Epidemiol*, 28(2):75-80,2018.
- 028 **Yoshimura A, Ito H, Nishino Y, Hattori M, Matsuda T, Miyashiro I, Nakayama T, Iwata H, Matsuo K, Tanaka H, Ito Y** : Recent Improvement in the Long-Term Survival of Breast Cancer Patients by Age and Stage in Japan. *J Epidemiol*,2018.
- 029 **Kameda K, Kako S, Hayakawa J, Akahoshi Y, Komiya Y, Harada N, Ugai T, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Kanda J, Tanihara A, Wada H, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Kanda Y** : Safety of Avoiding Systemic Corticosteroid Administration for Grade II Acute Graft-Versus-Host Disease Limited to the Skin. *Ann Hematol*, 97(1):169-79,2018.
- 030 **Sawabe M, Ito H, Takahara T, Oze I, Kawakita D, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Matsuo K** : Heterogeneous Impact of Smoking on Major Salivary Gland Cancer According to Histopathological Subtype: A Case-Control Study. *Cancer*, 124(1):118-24,2018.
- 031 **Iso H, Matsuo K, Katanoda K, Fujiwara T** : New Policy of the Journal of Epidemiology Regarding the Relationship with the Tobacco Industry. *J Epidemiol*, 28(1):1-2,2018.
- 032 **Toyoshima O, Tanikawa C, Yamamoto R, Watanabe H, Yamashita H, Sakitani K, Yoshida S, Kubo M, Matsuo K, Ito H, Koike K, Seto Y, Matsuda K** : Decrease in Pcsa Expression Caused by Helicobacter Pylori Infection May Promote Progression to Severe Gastritis. *Oncotarget*, 9(3):3936-45,2018.
- 033 **Aoki K, Nakamura H, Suzuki H, Matsuo K, Kataoka K, Shimamura T, Motomura K, Ohka F, Shiina S, Yamamoto T, Nagata Y, Yoshizato T, Mizoguchi M, Abe T, Momii Y, Muragaki Y, Watanabe R, Ito I, Sanada M, Yajima H, Morita N, Takeuchi I, Miyano S, Wakabayashi T, Ogawa S, Natsume A** : Prognostic Relevance of Genetic Alterations in Diffuse Lower-Grade Gliomas. *Neuro Oncol*, 20(1):66-77,2018.
- 034 **Campa D, Pastore M, Capurso G, Hackert T, Di Leo M, Izbicki JR, Khaw KT, Gioffreda D, Kupcinskas J, Pasquali C, Macinga P, Kaaks R, Stigliano S, Peeters PH, Key TJ, Talar-Wojnarowska R, Vodicka P, Valente R, Vashist YK, Salvia R, Papaconstantinou I, Shimizu Y, Valsuani C, Zambon CF, Gazouli M, Valantiene I, Niesen W, Mohelnikova-Duchonova B, Hara K, Soucek P, Malecka-Panas E, Bueno-de-Mesquita HBA, Johnson T, Brenner H, Tavano F, Fogar P, Ito H, Sperti C, Butterbach K, Latiano A, Andriulli A, Cavestro GM, Busch ORC, Dijk F, Greenhalf W, Matsuo K, Lombardo C, Strobel O, Konig AK, Cuk K, Strothmann H, Katzke V, Cantore M, Mambrini A, Oliverius M, Pezzilli R, Landi S, Canzian F** : Do Pancreatic Cancer and Chronic Pancreatitis Share the Same Genetic Risk Factors? A Pancreatic Disease Research (Pandora) Consortium Investigation. *Int J Cancer*, 142(2):290-6,2018.
- 035 **Sasaki M, Harada S, Kawasaki Y, Watanabe M, Ito H, Tanaka H, Takeuchi A, Tsubota K, Takebayashi T, Nishiwaki Y, Kawasaki R** : Gender-Specific Association of Early Age-Related Macular Degeneration with Systemic and Genetic Factors in a Japanese Population. *Sci Rep*, 8(1):785,2018.
- 036 **Urayama KY, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukawa Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J, Tanaka T, Inazawa J, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A** : Regional Evaluation of Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia Genetic Susceptibility Loci among Japanese. *Sci Rep*, 8(1):789,2018.
- 037 **Nakagawa-Senda H, Hachiya T, Shimizu A, Hosono S, Oze**

- I, Watanabe M, Matsuo K, Ito H, Hara M, Nishida Y, Endoh K, Kuriki K, Katsura-Kamano S, Arisawa K, Nindita Y, Ibusuki R, Suzuki S, Hosono A, Mikami H, Nakamura Y, Takashima N, Nakamura Y, Kuriyama N, Ozaki E, Furusyo N, Ikezaki H, Nakatochi M, Sasakabe T, Kawai S, Okada R, Hishida A, Naito M, Wakai K, Momozawa Y, Kubo M, Tanaka H* : A Genome-Wide Association Study in the Japanese Population Identifies the 12q24 Locus for Habitual Coffee Consumption: The J-Micc Study. *Sci Rep*, 8(1):1493,2018.
- 038 *Akahoshi Y, Kanda J, Ohno A, Komiya Y, Gomyo A, Hayakawa J, Harada N, Kameda K, Ugai T, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Shiraki K, Kanda Y* : Acyclovir-Resistant Herpes Simplex Virus 1 Infection Early after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation with T-Cell Depletion. *J Infect Chemother*, 23(7):485-7,2017.
- 039 *Nakagawa H, Ito H, Hosono S, Oze I, Mikami H, Hattori M, Nishino Y, Sugiyama H, Nakata K, Tanaka H* : Changes in Trends in Colorectal Cancer Incidence Rate by Anatomic Site between 1978 and 2004 in Japan. *Eur J Cancer Prev*, 26(4):269-76,2017.
- 040 *Taniguchi C, Tanaka H, Saka H, Oze I, Tachibana K, Nozaki Y, Suzuki Y, Sakakibara H* : Cognitive, Behavioural and Psychosocial Factors Associated with Successful and Maintained Quit Smoking Status among Patients Who Received Smoking Cessation Intervention with Nurses' Counselling. *J Adv Nurs*, 73(7):1681-95,2017.
- 041 *Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Iwasaki M, Yamaji T, Shimazu T, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S* : Smoking and Subsequent Risk of Leukemia in Japan: The Japan Public Health Center-Based Prospective Study. *J Epidemiol*, 27(7):305-10,2017.
- 042 *Nakagawa-Senda H, Ito H, Hosono S, Oze I, Tanaka H, Matsuo K* : Coffee Consumption and the Risk of Colorectal Cancer by Anatomical Subsite in Japan: Results from the Herpacc Studies. *Int J Cancer*, 141(2):298-308,2017.
- 043 *Chen Y, Wu F, Saito E, Lin Y, Song M, Luu HN, Gupta PC, Sawada N, Tamakoshi A, Shu XO, Koh WP, Xiang YB, Tomata Y, Sugiyama K, Park SK, Matsuo K, Nagata C, Sugawara Y, Qiao YL, You SL, Wang R, Shin MH, Pan WH, Pednekar MS, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Gao YT, Tsuji I, Kanemura S, Ito H, Wada K, Ahn YO, Yoo KY, Ahsan H, Chia KS, Boffetta P, Zheng W, Inoue M, Kang D, Potter JD* : Association between Type 2 Diabetes and Risk of Cancer Mortality: A Pooled Analysis of over 771,000 Individuals in the Asia Cohort Consortium. *Diabetologia*, 60(6):1022-32,2017.
- 044 *Miura K, Hirakawa H, Uemura H, Yoshimoto S, Shiotani A, Sugawara M, Homma A, Yokoyama J, Tsukahara K, Yoshizaki T, Yatabe Y, Matsuo K, Ohkura Y, Kosuda S, Hasegawa Y* : Sentinel Node Biopsy for Oral Cancer: A Prospective Multicenter Phase II Trial. *Auris Nasus Larynx*, 44(3):319-26,2017.
- 045 *Yamasaki R, Kanda J, Akahoshi Y, Nakano H, Ugai T, Wada H, Kawamura K, Ishihara Y, Sakamoto K, Sato M, Ashizawa M, Machishima T, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Nakasone H, Yamazaki R, Kako S, Nishida J, Kanda Y* : Comparison of Levofloxacin and Garenoxacin for Antibacterial Prophylaxis During Neutropenia. *Int J Hematol*, 105(6):835-40,2017.
- 046 *Praestegaard C, Jensen A, Jensen SM, Nielsen TS, Webb PM, Nagle CM, DeFazio A, Hogdall E, Rossing MA, Doherty JA, Wicklund KG, Goodman MT, Modugno F, Moysich K, Ness RB, Edwards R, Matsuo K, Hosono S, Goode EL, Winham SJ, Fridley BL, Cramer DW, Terry KL, Schildkraut JM, Berchuck A, Bandera EV, Paddock LE, Massuger LF, Wentzensen N, Pharoah P, Song H, Whittemore A, McGuire V, Sieh W, Rothstein J, Anton-Culver H, Ziogas A, Menon U, Gayther SA, Ramus SJ, Gentry-Maharaj A, Wu AH, Pearce CL, Pike M, Lee AW, Sutphen R, Chang-Claude J, Risch HA, Kjaer SK* : Cigarette Smoking Is Associated with Adverse Survival among Women with Ovarian Cancer: Results from a Pooled Analysis of 19 Studies. *Int J Cancer*, 140(11):2422-35,2017.
- 047 *Shimelis H, Mesman RLS, Von Nicolai C, Ehlen A, Guidugli L, Martin C, Calleja F, Meeks H, Hallberg E, Hinton J, Lilyquist J, Hu C, Aalfs CM, Aittomaki K, Andrulis I, Anton-Culver H, Arndt V, Beckmann MW, Benitez J, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bolla MK, Borresen-Dale AL, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Broeks A, Brouwers B, Bruning T, Burwinkel B, Chang-Claude J, Chenevix-Trench G, Cheng CY, Choi JY, Collee JM, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Dennis J, Dork T, Dos-Santos-Silva I, Dunning AM, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Garcia-Closas M, Giles GG, Glendon G, Guenel P, Haiman CA, Hall P, Hamann U, Hartman M, Hogervorst FB, Hollestelle A, Hopper JL, Ito H, Jakubowska A, Kang D, Kosma VM, Kristensen V, Lai KN, Lambrechts D, Marchand LL, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Machackova E, Mannermaa A, Margolin S, Marme F, Matsuo K, Miao H, Michailidou K, Milne RL, Muir K, Neuhäuser SL, Nevanlinna H, Olson JE, Olswold C, Oosterwijk JJC, Osorio A, Peterlongo P, Peto J, Pharoah PDP, Pylkas K, Radice P, Rashid MU, Rhenius V, Rudolph A, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schoemaker MJ, Seynaeve C, Shah M, Shen CY, Shrubsole M, Shu XO, Slager S, Southey MC, Stram DO, Swerdlow A, Teo SH, Tomlinson I, Torres D, Truong T, van Asperen CJ, van der Kolk LE, Wang Q, Winqvist R, Wu AH, Yu JC, Zheng W, Zheng Y, Leary J, Walker L, Foretova L, Fostira F, Claes KBM, Varesco L, Moghadasi S, Easton DF, Spurdle A, Devilee P, Vrieling H, Monteiro ANA, Goldgar DE, Carreira A, Vreeswijk MPG, Couch FJ* : Brca2 Hypomorphic Missense Variants Confer Moderate Risks of Breast Cancer. *Cancer Res*, 77(11):2789-99,2017.
- 048 *Soh SX, Siddiqui FJ, Allen JC, Kim GW, Lee JC, Yatabe Y,*

- Soda M, Mano H, Soo RA, Chin TM, Ebi H, Yano S, Matsuo K, Niu X, Lu S, Isobe K, Lee JH, Yang JC, Zhao M, Zhou C, Lee JK, Lee SH, Lee JY, Ahn MJ, Tan TJ, Tan DS, Tan EH, Ong ST, Lim WT* : A Systematic Review and Meta-Analysis of Individual Patient Data on the Impact of the Bim Deletion Polymorphism on Treatment Outcomes in Epidermal Growth Factor Receptor Mutant Lung Cancer. *Oncotarget*, 8(25):41474-86,2017.
- 049 *Hamamoto R, Ito H, Hirohara M, Chang R, Hongo-Hirasaki T, Hayashi T* : Interactions between Protein Molecules and the Virus Removal Membrane Surface: Effects of Immunoglobulin G Adsorption and Conformational Changes on Filter Performance. *Biotechnol Prog*, 34(2):379-86,2018.
- 050 *Lu Y, Sobue T, Kitamura T, Matsuse R, Kitamura Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Sasazuki S, Sawada N, Tsugane S* : Cigarette Smoking, Alcohol Drinking, and Oral Cavity and Pharyngeal Cancer in the Japanese: A Population-Based Cohort Study in Japan. *Eur J Cancer Prev*, 27(2):171-9,2018.
- 051 *Praud D, Rota M, Pelucchi C, Bertuccio P, Rosso T, Galeone C, Zhang ZF, Matsuo K, Ito H, Hu J, Johnson KC, Yu GP, Palli D, Ferraroni M, Muscat J, Lunet N, Peleteiro B, Malekzadeh R, Ye W, Song H, Zaridze D, Maximovitch D, Aragonés N, Castano-Vinyals G, Vioque J, Navarrete-Munoz EM, Pakseresht M, Pourfarzi F, Wolk A, Orsini N, Bellavia A, Hakansson N, Mu L, Pastorino R, Kurtz RC, Derakhshan MH, Lagiou A, Lagiou P, Boffetta P, Boccia S, Negri E, La Vecchia C* : Cigarette Smoking and Gastric Cancer in the Stomach Cancer Pooling (Stop) Project. *Eur J Cancer Prev*, 27(2):124-33,2018.
- 052 *Makimoto G, Kubo T, Oze I, Ohashi K, Hotta K, Tabata M, Soh J, Toyooka S, Katsui K, Takigawa N, Tanimoto M, Kiura K* : Second Primary Cancer in Survivors of Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Concurrent Chemoradiation Followed by Surgery. *Jpn J Clin Oncol*, 48(3):287-90,2018.
- 053 *Abe Y, Ugai T, Fujisawa M, Matsue Y, Narita K, Takeuchi M, Matsue K* : Prognostic Implication of Appendicular Skeleton Bone Marrow Abnormalities Detected Using Low-Dose Multidetector Computed Tomography in Patients with Myelodysplastic Syndrome. *Leukemia*,2018.
- 054 *Adachi Y, Sawaki M, Hattori M, Yoshimura A, Gondo N, Kotani H, Iwase M, Kataoka A, Onishi S, Sugino K, Terada M, Horisawa N, Mori M, Oze I, Iwata H* : Comparison of Sentinel Lymph Node Biopsy between Invasive Lobular Carcinoma and Invasive Ductal Carcinoma. *Breast Cancer*,2018.
- 055 *Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Iwasaki M, Yamaji T, Shimazu T, Goto A, Inoue M, Kanda Y, Tsugane S* : Coffee and Green Tea Consumption and Subsequent Risk of Acute Myeloid Leukemia and Myelodysplastic Syndromes in Japan. *Int J Cancer*, 142(6):1130-8,2018.
- 056 *Taniguchi C, Tanaka H, Saka H, Oze I, Tachibana K, Nozaki Y, Suzuki Y, Sakakibara H* : Changes in Self-Efficacy Associated with Success in Quitting Smoking in Participants in Japanese Smoking Cessation Therapy. *Int J Nurs Pract*,2018.
- 057 *Nagamatsu Y, Oze I, Aoe K, Hotta K, Kato K, Nakagawa J, Hara K, Kishimoto T, Fujimoto N* : Quality of Life of Survivors of Malignant Pleural Mesothelioma in Japan: A Cross Sectional Study. *BMC Cancer*, 18(1):350,2018.
- 058 *Babic A, Cramer DW, Kelemen LE, Kobel M, Steed H, Webb PM, Johnatty SE, deFazio A, Lambrechts D, Goodman MT, Heitz F, Matsuo K, Hosono S, Karlan BY, Jensen A, Kjaer SK, Goode EL, Pejovic T, Moffitt M, Hogdall E, Hogdall C, McNeish I, Terry KL* : Predictors of Pretreatment Ca125 at Ovarian Cancer Diagnosis: A Pooled Analysis in the Ovarian Cancer Association Consortium. *Cancer Causes Control*, 28(5):459-68,2017.
- 059 *Hayakawa J, Kanda J, Akahoshi Y, Harada N, Kameda K, Ugai T, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Ashizawa M, Sato M, Terasako-Saito K, Kimura SI, Kikuchi M, Yamazaki R, Kako S, Kanda Y* : Meta-Analysis of Treatment with Rabbit and Horse Antithymocyte Globulin for Aplastic Anemia. *Int J Hematol*, 105(5):578-86,2017.
- 060 *Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Cannioto RA, Szender JB, Eng KH, Modugno F, Ness RB, LaMonte MJ, Friel G, Segal BH, Odunsi K, Mayor P, Zsiros E, Schmalfeldt B, Klapdor R, Drk T, Hillemanns P, Kelemen LE, Kbel M, Steed H, de Fazio A, Jordan SJ, Nagle CM, Risch HA, Rossing MA, Doherty JA, Goodman MT, Edwards R, Matsuo K, Mizuno M, Karlan BY, Kjaer SK, Hogdall E, Jensen A, Schildkraut JM, Terry KL, Cramer DW, Bandera EV, Paddock LE, Kiemeny LA, Massuger LF, Kupryjanczyk J, Berchuck A, Chang-Claude J, Diergaarde B, Webb PM, Moysich KB* : History of Hypertension, Heart Disease, and Diabetes and Ovarian Cancer Patient Survival: Evidence from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Cancer Causes Control*, 28(5):469-86,2017.
- 061 *Fehringer G, Brenner DR, Zhang ZF, Lee YA, Matsuo K, Ito H, Lan Q, Vineis P, Johansson M, Overvad K, Riboli E, Trichopoulou A, Sacerdote C, Stucker I, Boffetta P, Brennan P, Christiani DC, Hong YC, Landi MT, Morgenstern H, Schwartz AG, Wenzlaff AS, Rennert G, McLaughlin JR, Harris CC, Olivo-Marston S, Orlov I, Park BJ, Zauderer M, Barros Dios JM, Ruano Ravina A, Siemiatycki J, Koushik A, Lazarus P, Fernandez-Somoano A, Tardon A, Le Marchand L, Brenner H, Saum KU, Duell EJ, Andrew AS, Szeszenia-Dabrowska N, Lissowska J, Zaridze D, Rudnai P, Fabianova E, Mates D, Foretova L, Janout V, Bencko V, Holcatova I, Pesatori AC, Consonni D, Olsson A, Straif K, Hung RJ* : Alcohol and Lung Cancer Risk among Never Smokers: A Pooled Analysis from the International Lung Cancer Consor-

tium and the Synergy Study. *Int J Cancer*, 140(9):1976-84,2017.

- 062 **Han MR, Zheng W, Cai Q, Gao YT, Zheng Y, Bolla MK, Michailidou K, Dennis J, Wang Q, Dunning AM, Brennan P, Chen ST, Choi JY, Hartman M, Ito H, Lophatananon A, Matsuo K, Miao H, Muir K, Sangrajrang S, Shen CY, Teo SH, Tseng CC, Wu AH, Yip CH, Kang D, Xiang YB, Easton DF, Shu XO, Long J** : Evaluating Genetic Variants Associated with Breast Cancer Risk in High and Moderate-Penetrance Genes in Asians. *Carcinogenesis*, 38(5):511-8,2017.
- 063 **Kameda K, Nakasone H, Komiyama Y, Kanda J, Gomyo A, Hayakawa J, Akahoshi Y, Tamaki M, Harada N, Kusuda M, Ugai T, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Tanihara A, Wada H, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Kimura SI, Kako S, Kanda Y** : Positive Cytotoxic Crossmatch Predicts Delayed Neutrophil Engraftment in Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation from Hla-Mismatched Related Donors. *Biol Blood Marrow Transplant*, 23(11):1895-902, 2017.
- 064 **Kawakita D, Lee YA, Turati F, Parpinel M, Decarli A, Ser-raino D, Matsuo K, Olshan AF, Zevallos JP, Winn DM, Moys-ich K, Zhang ZF, Morgenstern H, Levi F, Kelsey K, McClean M, Bosetti C, Garavello W, Schantz S, Yu GP, Boffetta P, Chuang SC, Hashibe M, Ferraroni M, La Vecchia C, Edefonti V** : Dietary Fiber Intake and Head and Neck Cancer Risk: A Pooled Analysis in the International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium. *Int J Cancer*, 141(9):1811-21,2017.
- 065 **Michailidou K, Lindstrom S, Dennis J, Beesley J, Hui S, Kar S, Lemacon A, Soucy P, Glubb D, Rostamianfar A, Bolla MK, Wang Q, Tyrer J, Dicks E, Lee A, Wang Z, Allen J, Keeman R, Eilber U, French JD, Qing Chen X, Fachal L, McCue K, McCart Reed AE, Ghoussaini M, Carroll JS, Jiang X, Finucane H, Adams M, Adank MA, Ahsan H, Aittomaki K, Anton-Culver H, Antonenkova NN, Arndt V, Aronson KJ, Arun B, Auer PL, Bacot F, Barrdahl M, Baynes C, Beckmann MW, Behrens S, Benitez J, Bermisheva M, Bernstein L, Blomqvist C, Bogdanova NV, Bojesen SE, Bonanni B, Borresen-Dale AL, Brand JS, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Brinton L, Broberg P, Brock IW, Broeks A, Brooks-Wilson A, Brucker SY, Bruning T, Burwinkel B, Butterbach K, Cai Q, Cai H, Caldes T, Canzian F, Carracedo A, Carter BD, Castela JE, Chan TL, David Cheng TY, Seng Chia K, Choi JY, Christiansen H, Clarke CL, Collee M, Conroy DM, Cordina-Duverger E, Cornelissen S, Cox DG, Cox A, Cross SS, Cunningham JM, Czene K, Daly MB, Devilee P, Doheny KF, Dork T, Dos-Santos-Silva I, Dumont M, Durcan L, Dwek M, Eccles DM, Ekici AB, Eliassen AH, Ellberg C, Elvira M, Engel C, Eriksson M, Fasching PA, Figueroa J, Flesch-Janys D, Fletcher O, Flyger H, Fritschi L, Gaborieau V, Gabrielson M, Gago-Dominguez M, Gao YT, Gapstur SM, Garcia-Saenz JA, Gaudet MM, Georgoulas V, Giles GG, Glendon G, Gold-**

berg MS, Goldgar DE, Gonzalez-Neira A, Grenaker Alnaes GI, Grip M, Gronwald J, Grundy A, Guenel P, Haeberle L, Hahnen E, Haiman CA, Hakansson N, Hamann U, Hamel N, Hankinson S, Harrington P, Hart SN, Hartikainen JM, Hartman M, Hein A, Heyworth J, Hicks B, Hillemanns P, Ho DN, Hollestelle A, Hooning MJ, Hoover RN, Hopper JL, Hou MF, Hsiung CN, Huang G, Humphreys K, Ishiguro J, Ito H, Iwasaki M, Iwata H, Jakubowska A, Janni W, John EM, Johnson N, Jones K, Jones M, Jukkola-Vuorinen A, Kaaks R, Kabisch M, Kaczmarek K, Kang D, Kasuga Y, Kerin MJ, Khan S, Khusnutdinova E, Kiiski JI, Kim SW, Knight JA, Kosma VM, Kristensen VN, Kruger U, Kwong A, Lambrechts D, Le Marchand L, Lee E, Lee MH, Lee JW, Neng Lee C, Lejbkowitz F, Li J, Lilyquist J, Lindblom A, Lissowska J, Lo WY, Loibl S, Long J, Lophatananon A, Lubinski J, Luccarini C, Lux MP, Ma ESK, MacInnis RJ, Maishman T, Makalic E, Malone KE, Kostovska IM, Mannermaa A, Manoukian S, Manson JE, Margolin S, Mariapun S, Martinez ME, Matsuo K, Mavroudis D, McKay J, McLean C, Meijers-Heijboer H, Meindl A, Menendez P, Menon U, Meyer J, Miao H, Miller N, Taib NAM, Muir K, Mulligan AM, Mulot C, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Neven P, Nielsen SF, Noh DY, Nordestgaard BG, Norman A, Olopade OI, Olson JE, Olsson H, Olswold C, Orr N, Pankratz VS, Park SK, Park-Simon TW, Lloyd R, Perez JIA, Peterlongo P, Peto J, Phillips KA, Pinchev M, Plaseska-Karanfilska D, Prentice R, Presneau N, Prokofyeva D, Pugh E, Pylkas K, Rack B, Radice P, Rahman N, Rennert G, Rennert HS, Rhenius V, Romero A, Romm J, Ruddy KJ, Rudiger T, Rudolph A, Ruebner M, Rutgers EJT, Saloustros E, Sandler DP, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt DF, Schmutzler RK, Schneeweiss A, Schoemaker MJ, Schumacher F, Schurmann P, Scott RJ, Scott C, Seal S, Seynaeve C, Shah M, Sharma P, Shen CY, Sheng G, Sherman ME, Shrubsole MJ, Shu XO, Smeets A, Sohn C, Southey MC, Spinelli JJ, Stegmaier C, Stewart-Brown S, Stone J, Stram DO, Surowy H, Swerdlow A, Tamimi R, Taylor JA, Tengstrom M, Teo SH, Beth Terry M, Tessier DC, Thanastithichai S, Thone K, Tollenaar R, Tomlinson I, Tong L, Torres D, Truong T, Tseng CC, Tsugane S, Ulmer HU, Ursin G, Untch M, Vachon C, van Asperen CJ, Van Den Berg D, van den Ouweland AMW, van der Kolk L, van der Luijt RB, Vincent D, Vollenweider J, Waisfisz Q, Wang-Gohrke S, Weinberg CR, Wendt C, Whittemore AS, Wildiers H, Willett W, Winqvist R, Wolk A, Wu AH, Xia L, Yamaji T, Yang XR, Har Yip C, Yoo KY, Yu JC, Zheng W, Zheng Y, Zhu B, Ziogas A, Ziv E, Lakhani SR, Antoniou AC, Droit A, Andrulis IL, Amos CI, Couch FJ, Pharoah PDP, Chang-Claude J, Hall P, Hunter DJ, Milne RL, Garcia-Closas M, Schmidt MK, Chanock SJ, Dunning AM, Edwards SL, Bader GD, Chenevix-Trench G, Simard J, Kraft P, Easton DF : Association Analysis Identifies 65 New Breast Cancer Risk Loci. *Nature*, 551(7678):92-4,2017.

- 066 **Brouckaert O, Rudolph A, Laenen A, Keeman R, Bolla MK,**

- Wang Q, Soubry A, Wildiers H, Andrulis IL, Arndt V, Beckmann MW, Benitez J, Blomqvist C, Bojesen SE, Brauch H, Brennan P, Brenner H, Chenevix-Trench G, Choi JY, Cornelissen S, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Eriksson M, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Giles GG, Gonzalez-Neira A, Guenel P, Hall P, Hollestelle A, Hopper JL, Ito H, Jones M, Kang D, Knight JA, Kosma VM, Li J, Lindblom A, Lilyquist J, Lophatananon A, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Muir K, Nevanlinna H, Peterlongo P, Pylkas K, Saajrang S, Seynaeve C, Shen CY, Shu XO, Southey MC, Swerdlow A, Teo SH, Tollenaar R, Truong T, Tseng CC, van den Broek AJ, van Deurzen CHM, Winqvist R, Wu AH, Yip CH, Yu JC, Zheng W, Milne RL, Pharoah PDP, Easton DF, Schmidt MK, Garcia-Closas M, Chang-Claude J, Lambrechts D, Neven P : Reproductive Profiles and Risk of Breast Cancer Subtypes: A Multi-Center Case-Only Study. *Breast Cancer Res*, 19(1):119,2017.
- 067 Rota M, Pelucchi C, Bertuccio P, Matsuo K, Zhang ZF, Ito H, Hu J, Johnson KC, Palli D, Ferraroni M, Yu GP, Muscat J, Lunet N, Peleteiro B, Ye W, Song H, Zaridze D, Maximovitch D, Guevara M, Fernandez-Villa T, Vioque J, Navarrete-Munoz EM, Wolk A, Orsini N, Bellavia A, Hakansson N, Mu L, Persiani R, Kurtz RC, Lagiou A, Lagiou P, Galeone C, Bonzi R, Boffetta P, Boccia S, Negri E, La Vecchia C : Alcohol Consumption and Gastric Cancer Risk-a Pooled Analysis within the Stop Project Consortium. *Int J Cancer*, 141(10):1950-62,2017.
- 068 Kimura SI, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Akahoshi Y, Harada N, Ugai T, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Ishihara Y, Kawamura K, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Nakasone H, Kako S, Tanihara A, Kanda Y : Clinical Significance of Repeat Blood Cultures During Febrile Neutropenia in Adult Acute Myeloid Leukaemia Patients Undergoing Intensive Chemotherapy. *Infect Dis (Lond)*, 49(10):748-57,2017.
- 069 Sado J, Kitamura T, Kitamura Y, Sobue T, Nishino Y, Tanaka H, Nakayama T, Tsuji I, Ito H, Suzuki T, Katanoda K, Tomiyama S : Association between Coffee Consumption and All-Sites Cancer Incidence and Mortality. *Cancer Sci*, 108(10):2079-87,2017.
- 070 Taniguchi A, Miyahara N, Oda N, Morichika D, Ichihara E, Oze I, Tanimoto Y, Ichikawa H, Fujii U, Tanimoto M, Kanehiro A, Kiura K : Protective Effects of Bisoprolol against Acute Exacerbation in Moderate-to-Severe Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *Acta Med Okayama*, 71(5):453-7,2017.
- 071 Ishihara Y, Tanaka Y, Kobayashi S, Kawamura K, Nakasone H, Gomyo A, Hayakawa J, Tamaki M, Akahoshi Y, Harada N, Kusuda M, Kameda K, Ugai T, Wada H, Sakamoto K, Sato M, Terasako-Saito K, Kikuchi M, Kimura SI, Tanihara A, Kako S, Uchimaru K, Kanda Y : A Unique T-Cell Receptor Amino Acid Sequence Selected by Human T-Cell Lymphotropic Virus Type 1 Tax301-309-Specific Cytotoxic T Cells in Hla-A24:02-Positive Asymptomatic Carriers and Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma Patients. *J Virol*, 91(19),2017.
- 072 Kawakita D, Matsuo K : Alcohol and Head and Neck Cancer. *Cancer Metastasis Rev*, 36(3):425-34,2017.
- 073 Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Eng KH, Cannioto RA, Friel G, Szender JB, Segal B, Odunsi K, Mayor P, Diergaarde B, Zsiros E, Kelemen LE, Kobel M, Steed H, deFazio A, Jordan SJ, Fasching PA, Beckmann MW, Risch HA, Rossing MA, Doherty JA, Chang-Claude J, Goodman MT, Dork T, Edwards R, Modugno F, Ness RB, Matsuo K, Mizuno M, Karlan BY, Goode EL, Kjaer SK, Hogdall E, Schildkraut JM, Terry KL, Cramer DW, Bandera EV, Paddock LE, Kiemeny LA, Massuger L, Sutphen R, Anton-Culver H, Ziogas A, Menon U, Gayther SA, Ramus SJ, Gentry-Maharaj A, Pearce CL, Wu AH, Kupryjanczyk J, Jensen A, Webb PM, Moysich KB : History of Comorbidities and Survival of Ovarian Cancer Patients, Results from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 26(9):1470-3,2017.
- 074 Ugai T, Matsuo K, Sawada N, Iwasaki M, Yamaji T, Shimazu T, Sasazuki S, Inoue M, Kanda Y, Tsugane S : Smoking and Alcohol and Subsequent Risk of Myelodysplastic Syndromes in Japan: The Japan Public Health Centre-Based Prospective Study. *Br J Haematol*, 178(5):747-55,2017.
- 075 Masaoka H, Gallus S, Ito H, Watanabe M, Yokomizo A, Eto M, Matsuo K : Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism Is a Predictor of Smoking Cessation. *Nicotine Tob Res*, 19(9):1087-94,2017.
- 076 Minlikeeva AN, Freudenheim JL, Cannioto RA, Eng KH, Szender JB, Mayor P, Etter JL, Cramer DW, Diergaarde B, Doherty JA, Dork T, Edwards R, deFazio A, Friel G, Goodman MT, Hillemanns P, Hogdall E, Jensen A, Jordan SJ, Karlan BY, Kjaer SK, Klapdor R, Matsuo K, Mizuno M, Nagle CM, Odunsi K, Paddock L, Rossing MA, Schildkraut JM, Schmalefeldt B, Segal BH, Starbuck K, Terry KL, Webb PM, Zsiros E, Ness RB, Modugno F, Bandera EV, Chang-Claude J, Moysich KB : History of Thyroid Disease and Survival of Ovarian Cancer Patients: Results from the Ovarian Cancer Association Consortium, a Brief Report. *Br J Cancer*, 117(7):1063-9,2017.

腫瘍免疫学部

[原著]

- 001 Miyama T, Kawase T, Kitaura K, Chishaki R, Shibata M, Oshima K, Hamana H, Kishi H, Muraguchi A, Kuzushima K, Saji H, Shin-I T, Suzuki R, Ichinohe T : Highly functional T-cell receptor repertoires are abundant in stem memory T cells and highly shared among individuals. *Sci*

Rep,7(1):3663,2017.

- 002 **Tawara I, Kageyama S, Miyahara Y, Fujiwara H, Nishida T, Akatsuka Y, Ikeda H, Tanimoto K, Terakura S, Murata M, Inaguma Y, Masuya M, Inoue N, Kidokoro T, Okamoto S, Tomura D, Chono H, Nukaya I, Mineno J, Naoe T, Emi N, Yasukawa M, Katayama N, Shiku H** : Safety and persistence of WT1-specific T-cell receptor gene-transduced lymphocytes in patients with AML and MDS. *Blood*,130:1985-1994,2017.
- 003 **Espinoza JL, Elbadry MI, Chonabayashi K, Yoshida Y, Katagiri T, Harada K, Nakagawa N, Zaimoku Y, Imi T, Hassanein HA, Khalifa A Noreldin A, Takenaka K, Akashi K, Hamana H, Kishi H, Akatsuka Y, Nakao S** : Hematopoiesis by iP-SC-derived hematopoietic stem cells of aplastic anemia that escape cytotoxic T-cell attack. *Blood Adv*,2:390-400,2018.

感染腫瘍学部

- 001 **Murakami Y, Sonoda K, Abe H, Watari K, Kusakabe D, Azuma K, Kawahara A, Akiba J, Oneyama C, Pachter JA, Sakai K, Nishio K, Kuwano M, Ono M.** : The activation of SRC family kinases and focal adhesion kinase with the loss of the amplified, mutated EGFR gene contributes to the resistance to afatinib, erlotinib and osimertinib in human lung cancer cells. *Oncotarget*,8(41):70736-70751,2017.

分子病態学部

[原著]

- 001 **Maeda A, Ando H, Ura T, Komori A, Hasegawa A, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Tajika M, Kobara M, Matsuzaki M, Hashimoto N, Maeda M, Kojima Y, Aoki M, Kondo E, Mizutani A, Fujimura A** : Association between and polymorphisms and adverse drug reactions to regorafenib: A preliminary study. *Int J Clin Pharmacol Ther.* 55(5):409-415,2017,doi:10.5414/CP202788. (PMID:28157071)
- 002 **Fujishita T, Kojima Y, Kajino-Sakamoto R, Taketo MM, Aoki M** : Tumor microenvironment confers mTOR inhibitor resistance in invasive intestinal adenocarcinoma. *Oncogene.* 36(46):6480-6489,2017 Jul 31,doi:10.1038/onc.2017.242. (PMID:28759045)
- 003 **Satoh K, Yachida S, Sugimoto M, Oshima M, Nakagawa T, Akamoto S, Tabata S, Saitoh K, Kato K, Sato S, Igarashi K, Aizawa Y, Kajino-Sakamoto R, Kojima Y, Fujishita T, Enomoto A, Hirayama A, Ishikawa T, Taketo MM, Kushida Y, Haba R, Okano K, Tomita M, Suzuki Y, Fukuda S, Aoki M, Soga T** : Global metabolic reprogramming of colorectal cancer occurs at adenoma stage and is induced by MYC. *PNAS.* 114(31): 8289-8294, 2017. doi:10.1073/pnas.1620915114.

(PMID:28716939)

- 004 **Maeda A, Ando H, Ura T, Muro K, Aoki M, Saito K, Kondo E, Takahashi S, Ito Y, Mizuno Y, Fujimura A** : Differences in urinary renal failure biomarkers in cancer patients initially treated with cisplatin. *Anticancer Res.* 37(9):5235-5339, 2017. doi: 10.21873/anticancer.11947. (PMID: 28870959)
- 005 **Cao X, Kajino-Sakamoto R, Doss A, Aballay A** : Distinct Roles of Sensory Neurons in Mediating Pathogen Avoidance and Neuropeptide-Dependent Immune Regulation. *Cell Rep*.21(6):1442-1451,2017,doi:10.1016/j.celrep.2017.10.050. (PMID: 29117551)

腫瘍医化学部

- 001 **Akiyama T, Inoko A, Kaji Y, Yonemura S, Kakiguchi K, Segawa H, Ishitsuka K, Yoshida M, Numata O, Leproux P, Couderc V, Oshika T, Kano H** : SHG-specificity of cellular Rootletin filaments enables naïve imaging with universal conservation. *Sci. Rep.*,7:39967,2017.
- 002 **Kano H, Akiyama T, Inoko A, Kobayashi T, Leproux P, Couderc V, Kaji Y, Oshika T** : CARS molecular fingerprinting using a sub-nanosecond supercontinuum light source. *Multiphoton Microscopy in the Biomedical Sciences XVIII*,10498,104981,2018.